

令和6年7月25日

広島市教科用図書採択審議会会長 様

広島市教科用図書採択審議会調査員

教科【国語】種目【国語】

代表者 ハ、谷 玲子

令和7年度使用広島市立中学校用教科用図書の調査・研究について（報告）

このことについて、別紙のとおり調査・研究結果をまとめましたので、報告します。

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教 科 [国 語] 種 目 [国 語]

2 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、古典や伝統文化に触れることができる史跡や、博物館、美術館、音楽堂など、文化芸術に触れることができる施設が充実した地域である。また、各区に図書館があることや、多くの小・中学校で朝読書の取組を実施するとともに、2中学校区に1人学校司書を配置し、学校図書館の環境整備を実施していることなど、読書活動の推進に力を入れている地域でもある。
- 令和5年度の全国学力・学習状況調査によると、本市の生徒の学力の実態として、どの領域も概ね基礎的・基本的な学力は定着しているが、文脈に即して漢字を正しく書くことや読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて文章を整えることに課題が見られる。また、多様な表現に言い換えるなど、語彙の定着にも依然として課題が見られる。
- さらに国立教育政策研究所の令和5年度の調査報告書では、全国的な課題として情報と情報の関係について理解することや、文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付けて、自分の考えを広げたり深めたりすることが挙げられているが、これは本市においても同様であり、広島市中学校教育研究会国語・書写部会が中心となって課題の改善に取り組んでいる。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜知識及び技能の習得＞	① 読書や情報の扱い方等に関する内容の取り扱い方の工夫 ② 伝統と言語文化等に関する内容の取り扱い方の工夫 ③ 漢字や語彙等の取り扱い方の工夫
＜思考力、判断力、表現力等の育成＞	④ 思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫 ⑤ 習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動の工夫
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	⑥ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑦ 単元・題材や資料配布等の配列・分量
＜内容の表現・表記＞	⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

令和 7 年度使用中学校用教科用図書 の 調査 ・ 研究 報告 書

1 教 科 [国 語] 種 目 [国 語]
2 調 査 ・ 研 究 の 観 点 及 び 教 科 書 の 特 徴

観 点	視 点	発 行 者			
		東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
観 点 1 知 識 及 び 技 能 の 習 得	① 読 書 や 情 報 の 扱 い 方 に 関 す る 内 容 の 取 り 扱 い 方 の 工 夫	○ 教材ごとに、「読書案内」として、教材と関連する本を1～3冊紹介している。また、各学年「読書案内 世界を広げる本」が2か所あり、それぞれ10～12冊ずつの本を紹介している。「読書案内 夏休みにおすすめの本」には、9冊の本を紹介している。本編の最後の「読書案内 未来を考える本」では12冊の本を紹介している。資料編の「読書案内 中学生におすすめの本」では、45冊の本を紹介している。	○ 「読むこと」に関する教材ごとに、「私の本棚」として、教材と関連する本を3冊紹介している。また、「読むこと」の教材に近現代の文学作品を1つ掲載しており、その教材の最後には作者紹介が1ページ示されている。その中に、各作家の有名な作品の本を2冊紹介している。さらに、資料編の「読書の広場」に「小さな図書館」として、47冊の本を紹介している。	○ 単元ごとに、「広がる本の世界」として、教材と関連する本が9～10冊掲載されており、第1学年、第2学年は計90冊、第3学年は計80冊の本を紹介している。	○ 教材ごとに、「広がる読書」として、教材と関連する本を1～3冊紹介している。また、各学年、「読書案内 本の世界を広げよう」が2か所あり、それぞれ36～38冊ずつの本を紹介している。また、第3学年の資料編で47都道府県の郷土ゆかりの作家・作品について1作品ずつ紹介している。
		○ 2か所の「読書案内 世界を広げる本」の中に、「私のおすすめ」として、著名人が文章と写真で本を1冊紹介している。	○ 「私の読書体験」として、作家が書き下ろした読書体験に関わる文章を1冊の本の紹介とともに掲載している。また、その作家が書いた本を3冊紹介している。		○ 2か所の「読書案内 本の世界を広げよう」の中に、「私の一冊」として、著名人が文章と写真で本を1冊紹介している。
		○ 読書活動として、以下を掲載している。 第1学年：「図書館の活用」 「お試し読書・本のポップ」 第2学年：「インターネット・新聞の活用」 「ビブリオバトル」 第3学年：「読書会の方法」 「私のベストブック」	○ 読書活動として、以下を掲載している。 第1学年：「私が選ぶこの1文」 第2学年：「ビブリオバトル」 第3学年：「ブックトーク」	○ 読書活動として、以下を掲載している。 第1学年：「本の帯やポップ作り」 第2学年：「レポート作成」 「図書館の活用」 第3学年：「ビブリオバトル」 「読書の記録」	○ 読書活動として、以下を掲載している。 第1学年：「ポップを作ろう」 「読書会を開こう」 「読書記録を続けていこう」 第2学年：「ブックトークをしよう」 「読書ポスターを作ろう」 「読みたい本のリストを作ろう」 第3学年：「『私の一冊』を紹介しよう」 「ブックレビューを書こう」 「三年間の読書を振り返り、これからの読書について考えよう」 「『私の一冊』を探しにいこう」
		○ 各学年の目次において、文字の色を変えて示すことで「情報」に関わる教材であることがわかりやすくなるよう工夫されている。		○ 各学年の目次において、共通の記号を付すことで、「情報」に関わる教材であることがわかりやすくなるよう工夫されている。	○ 各学年の目次において、共通の色のついた記号を付すことで、「情報」に関わる教材であることがわかりやすくなるよう工夫されている。
		○ 本編に「情報」に関する教材「情報と論理の学び」を2～3か所設定しており、その前後に「読むこと」「書くこと」、「読むこと」と「話すこと・聞くこと」の組み合わせで関連のある教材を掲載している。	○ 本編に「情報」に関する単元「情報を関係づける」を設定しており、単元は以下のとおりに構成されている。 マンガ「情報の扱い方」 資料（論説・記録・図表・写真・地図・広告など） 学習活動（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」）に関する教材	○ 本編に「情報」に関する単元を設定しており、各学年、3～4つの教材を掲載している。単元名は次のとおりである。 第1学年：「情報を得る」 第2学年：「情報を捉える」 第3学年：「情報を共有する」	○ 本編に「情報」に関する単元「情報×SDGs」を設定しており、各学年、1～3つの教材を掲載している。また、「情報整理のレッスン」、「思考のレッスン」を他の単元においても取り上げ、「読むこと」や「話すこと・聞くこと」、「書くこと」などと関連付けて学習できるよう工夫されている。

1 教科 [国語] 種 目 [国語]

2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観 点	視 点	発行者			
		東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
観 点 1 知 識 及 び 技 能 の 習 得	② 伝 統 と 言 語 文 化 等 に 関 する 内 容 の 取 り 扱 い 方 の 工 夫	○ 各学年、古典単元を設け、以下の教材を掲載している。 第1学年：「伊曾保物語」、「竹取物語」「故事成語」 第2学年：「枕草子」、「徒然草」、「平家物語」、漢詩「春暁」、「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」、「春望」 第3学年：「万葉集」、「古今和歌集」「新古今和歌集」、「おくのほそ道」、「論語」	○ 各学年、古典単元を設け、以下の教材を掲載している。 第1学年：「竹取物語」、「故事成語」 第2学年：「枕草子」、「徒然草」、「平家物語」、漢詩「春暁」、「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」、「春望」 第3学年：「万葉集」、「古今和歌集」「新古今和歌集」、「おくのほそ道」、「論語」	○ 各学年、古典単元を設け、以下の教材を掲載している。 第1学年：「竹取物語」、「いろは歌」「故事成語」 第2学年：「平家物語」、「枕草子」「徒然草」、「論語」 第3学年：「おくのほそ道」、「万葉集」「古今和歌集」、「新古今和歌集」、漢詩「春暁」、「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」、「春望」	○ 各学年、古典単元を設け、以下の教材を掲載している。 第1学年：「いろは歌」、「竹取物語」「故事成語」 第2学年：「枕草子」、「平家物語」「徒然草」、漢詩「春暁」、「絶句」、「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」 第3学年：「論語」、「万葉集」、「古今和歌集」、「新古今和歌集」、「おくのほそ道」
		○ 第1学年では、古典の導入として、「移り行く浦島太郎の物語」という昔話を基に古文を学ぶ意味について考えさせる文章を掲載している。	○ 第1学年では、古典の導入として、各月の異名に関する文章を掲載している。	○ 第1学年では、古典の導入として、「昔話と古典一箱に入った桃太郎」という昔話を基に、古典を学ぶ意味について考えさせる文章を掲載している。	○ 各学年、古典の導入として、単元の最初に「音読を楽しむ」を設けている。
		○ 第1学年では、中学校3年間で学ぶ古典作品を年表とともに掲載している。			○ 第1学年では、「古典の世界」として、中学校3年間の古典教材を年表、イラスト、作品の解説とともに掲載している。
		○ 各学年、巻末の「資料編」に古典に関する作品や伝統芸能を掲載している。 第1学年：「古事記」、「土佐日記」「伊勢物語」、「源氏物語」「方丈記」 第2学年：「書き手の肖像一清少納言と兼好法師」、「望郷の詩一杜甫と李白」 第3学年：恋歌をよむ、「おくのほそ道」の旅、〔発展〕古典の文法	○ 各学年、巻末の「資料編」に古典に関する作品や伝統芸能を掲載している。 第1学年：「小倉百人一首」 第2学年：「平家物語」、歌舞伎、「小倉百人一首」 第3学年：「土佐日記」、「伊勢物語」「宇治拾遺物語」、狂言、「小倉百人一首」	○ 各学年、巻末の「資料編」に古典に関する作品や伝統芸能を掲載している。 第1学年：「竹取物語」、落語、十二支と月の呼び名 第2学年：「平家物語」、歌舞伎 第3学年：古典文学の名作、〔発展〕古典文法活用表、狂言、十干と千支	○ 各学年、巻末の「資料編」に古典に関する作品や伝統芸能を掲載している。 第1学年：落語、「小倉百人一首」 第2学年：「平家物語」、能・狂言 第3学年：歌舞伎・浄瑠璃、「伊勢物語」「土佐日記」、「源氏物語」「更級日記」、「方丈記」「日本永代蔵」〔発展〕文語の活用
		○ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについては、第3学年で平安時代の言葉と江戸時代の言葉、方言に残る言葉の変化を例に挙げて説明している。	○ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについては、第3学年で「今昔物語集」、「吾輩は猫である」、「一瞬の風になれ」で使用される「微妙」を例に挙げて言葉の変化を挙げて説明している。	○ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについては、第3学年で和語・漢語・外来語と関連づけながら、現代では使われない「野分（のわき）」という言葉为例に挙げて説明している。	○ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについては、第3学年で、意味の変化、よび名の変化、表すものや意味の広がりについて例に挙げて説明し、和語・漢語・外来語との関連を示している。

1 教科 [国語] 種目 [国語]

2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	視点	発行者			
		東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
観点1 知識及び技能の習得	③ 漢字や語彙等の取り扱い方の工夫	○ 新出漢字は、脚注に抜き出し、行数・本文中の読みとともに音訓を示している。 ○ 本文中で使われた言葉について、必要に応じて脚注で解説している。 ○ 読む教材に「広がる言葉」を示し、語彙を広げるための問題を取り上げている。 ○ 巻末に「新出漢字一覧」としてページ数、部首、画数、筆順、各音訓についての用例を示している。	○ 新出漢字は、脚注に抜き出し、行数・本文中の読みを示している。 ○ 本文中で使われた言葉について、必要に応じて脚注で解説している。また、本文中で使われた言葉の類義語や対義語を脚注に示している。 例 第2学年 「走れメロス」210ページ 文章中の掲載語句：悪徳 対義語：美德 文章中の掲載語句：嘲笑 類義語：あざけり ○ 複数の教材に「語彙を豊かに」を示し、理解できる語句と使える語句を増やすための教材に関連した語彙を取り上げている。また、資料編「語彙の広がり」でテーマに分けて語彙の広がりを示し、語句どうしの関係やつながり方について理解が深められるよう工夫している。 ○ 巻末に「〇年生で学ぶ漢字字典」として、ページ数、音訓、中学校で学ばなくてもよい音訓、部首、画数、筆順、用例を示している。	○ 新出漢字は、漢字のみを行数とともに脚注に抜き出している。 ○ 本文中で使われた言葉について、必要に応じて脚注で解説している。 ○ 複数の教材の「みちしるべ」の「言葉・情報」において語彙を豊かにするための問いを立てたり、表現の際の話型を示したりしている。また、「言葉の自習室」で「理解に役立つ言葉」や「表現に役立つ言葉」を紹介している。 ○ 巻末に「〇年生で学習した漢字」として、ページ数、音訓、中学校で学ばない読み、総画数、部首、部首を除いた画数、筆順、用例を示している。	○ 新出漢字は、脚注に抜き出し、行数・本文中の読みとともにすべての音訓を示している。 ○ 本文中で使われた言葉について、必要に応じて脚注で解説している。また、本文中で使われた言葉の関連語句を複数脚注に示している。 例 第2学年 「走れメロス」210ページ 文章中の掲載語句：夢見心地 関連語句：夢心地 夢うつつ 夢物語 ○ 複数の教材の「学びのカギ」に言葉の観点から学びを深め、自分の言葉を増やすための「言の葉ポケット」を示している。また、学びを深める教材として本編の最後に語彙ブックを付録し、教材において語彙ブックとの関連を示すことで語彙の広がりにつなげられるよう工夫している。 ○ 巻末に「〇年生で学習した漢字」としてページ数、音訓、部首、画数、筆順、用例、慣用語、ことわざ、四字熟語などを示している。
観点2 思考力、判断力、表現力の育成	④ 育成思考力・判断力・表現力等を	○ 各教材の「てびき」の中に「言葉の力」を示し、学習のポイントが確認できるよう工夫している。また、巻末には「言葉の力」を一覧にまとめ、二次元バーコードを付してインターネット上で確認できるよう工夫している。 ○ 資料編の「思考のヒント」において、情報を集めたり、整理したり、分析したりするときに活用する図や表を示している。 「発想を広げる」、「分類する」、「比較する」、「順序づける」、「関連づける」、「分類する・比較する」	○ 「読むこと」の教材には思考力・判断力・表現力を伸ばすための方法として「読み方を学ぼう」を示している。また、巻末の折込には「読み方を学ぼう」を一覧にまとめている。さらに「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材には「学び方」を身につけることができるよう学習のポイントを示している。 ○ 巻頭の「思考の方法」において、全学年同じ内容の9種類の「思考の方法」を手助けするチャートとその使い方を示している。 「順序立てる」、「比較する」、「分類する」、「関連づける」、「多角的に見る」、「理由づける」、「具体化する」、「抽象化する」、「仮定する」	○ 「読むこと」の教材には、「学びナビ」を生かして、教材を読んだり活動したりするための「ヒント」を示している。また、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材には活動のポイントの解説を示している。 ○ 「言葉の自習室」において、考え方の工夫を自分の表現に生かすことができるよう「学びナビ」の一覧を示している。	○ 多くの教材に「学びのカギ」を示し、学習のポイントや前後の学習とのつながりを確かめられるようにしている。また、資料編には「学びのカギ」を一覧にまとめ、二次元バーコードを付してインターネット上で確認できるようにし、思考・判断・表現する場面で役立てられるよう工夫している。 ○ 各学年巻頭の「思考の地図」において、学習内容に合わせた場面や目的に応じたさまざまな思考法（考え方）を示している。 「広げる」、「思い出す・ふり返る」、「比較する・分類する」、「順序だてる・関係づける」、「分析する・吟味する」、「仮説を立てて検証する」

観点	視点	発行者			
		東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	⑤ など習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする	○ 教材に、以下の言語活動例を示している。 第1学年：朗読、話し合い、詩の創作、話の聞き方・質問の仕方、インタビュー、レポート、案内文・報告文、要約、意見文、紹介文、ニュースの編集、スピーチ、随筆、グループディスカッション 第2学年：話し合い、暗唱、鑑賞文、短歌の創作、意見と根拠を聞く、依頼状・お礼状、意見文、随筆、プレゼンテーション、物語、リンクマップによる話し合い 第3学年：話し合い、朗読、暗唱、俳句の創作、評価しながら聞く、新聞編集、読書会、引用作文、批評文、鑑賞文、条件スピーチ、手紙を書く、合意形成、意見文、スピーチ	○ 教材に、以下の言語活動例を示している。 第1学年：朗読、感想文、グループディスカッション、レポート、意見文、随筆、話し合い、スピーチ、紹介文、四コマ漫画、行事案内リーフレット、詩の創作、グループ新聞 第2学年：感想文、物語、グループディスカッション、手紙・メール、短歌・俳句の創作、条件付き意見文、紹介文、プレゼンテーション、漢詩を現代語の詩に作りかえる、投稿文、登場人物に手紙を書く、創作文、論説文、キャッチコピー、情報誌 第3学年：感想文、グループディスカッション、意見文、課題作文、批評文、パブリックスピーキング、俳句の創作、漢字一字、紹介文、名言集	○ 教材に、以下の言語活動例を示している。 第1学年：紹介文、話し合い、スピーチ、案内文、意見文、キャッチコピー、音読、比較文、朗読、随筆、予想して聞く、報告文、グループディスカッション、詩の創作 第2学年：対話、話し合い、新聞の投書、プレゼンテーション、手紙・メール、提案書、レポート、相違点を明確にして聞く、小説を脚本に書き換える、説明文、朗読、音読、鑑賞文、短歌の創作、意見文、討論、連作ショートショート 第3学年：話し合い、スピーチ、比較文、記事、批評文、紹介文、引用文、音読、暗唱、俳句の創作、自己PR文、評価しながら聞く、作品集	○ 教材に、以下の言語活動例を示している。 第1学年：メモ、スピーチ、説明文、発表、朗読会、案内文、推敲、対話、レポート、話し合い、音読、意見文、グループディスカッション、随筆、リライト、発表（スライドやフリップを使う） 第2学年：意見文、メモ（表で整理）、プレゼンテーション、話し合い、職業ガイド（紙面作成）、感想文、短歌の創作、手紙・電子メール、推敲、インタビュー、朗読、討論、物語、コピー、交流会 第3学年：感想文、メモ（意見・根拠の適切さ）、スピーチ、意見文、小論文、観賞文、俳句の創作、話し合い、対談、批評文、推敲、意見文、引用文、討論、会議、冊子、発表会
		○ 巻末の「資料編」で、以下の内容を掲載している。 全学年共通：原稿用紙の使い方・推敲の観点、思考のヒント 第1学年：学習の前に、要約の仕方、著作権と引用 第2学年：手紙の書き方、話し合いの方法 第3学年：手紙の書き方	○ 巻末の「資料編」で、以下の内容を掲載している。 全学年共通：著作権と引用、メモを活用する（忘れないためのメモ、何かを生み出すためのメモ）、質問の仕方、話し合いの形式を選ぶ、辞典を活用する、手紙・はがき・メールの書き方、原稿用紙の使い方・推敲の仕方、読書感想文の書き方	○ 巻末の「言葉の資料室」で、以下の内容を掲載している。 全学年共通：理解に役立つ言葉、表現に役立つ言葉、話すこと・書くことテーマ例集、学習に必要な用語（索引） 第1学年：アイデアの出し方、原稿用紙の使い方と推敲 第2学年：レポートの書き方、近代文学史年表、著作権について知ろう 第3学年：模擬面接をしてみよう、原稿用紙の使い方と推敲、アイデアの出し方	○ 巻末の「資料」で、以下の内容を掲載している。 第1学年：読書感想文の書き方、文章の推敲・原稿用紙の使い方、敬語を使う、手紙の書き方 第2学年：インタビューをする、いろいろな通信文 第3学年：話し合いの方法
		○ 「てびき」に示した学習の流れの中で考えを持つ場面を設定し、習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動を工夫している。 【発問の具体例】 第1学年：「少年の日の思い出」 「現在の『客』は、この話で語られている『思い出』をどのように受け止めているだろうか。考えたことを話し合おう。」	○ 「学びの道しるべ」に示した学習の流れの中で自分の考えを深める場面を設定し、習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動を工夫している。 【発問の具体例】 第1学年「少年の日の思い出」 「現在の場面は、この作品においてどのような役割を果たしているだろうか。考えたことを話し合おう。」	○ 「みちしるべ」に示した学習の流れの中で自分の考えを伝えあう場面を設定し、習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動を工夫している。 【発問の具体例】 第1学年「少年の日の思い出」 「『僕』（＝少年時代の『客』）の視点から語られた回想を『私』や『エーミール』の視点から『客』に語り直したら、『客』はどのようなことに気づくだろう。友達の発言と自分の考えを結びつけながら話し合おう。」	○ 「学びへの扉」に示した学習の流れの中で考えを持つ場面を設定し、習得した知識及び技能を活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするなどの学習活動を工夫している。 【発問の具体例】 第1学年「少年の日の思い出」 「この作品では、エーミールや『母』の気持ちは、ほとんど語られていない。読み深めたことを基に、『僕』以外の人物を語り手として作品の一場面を書き換え、気づいたことを発表し合おう。」

観 点	視 点	発行者			
		東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
観 点 3 主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	⑥ 興 味 ・ 関 心 を 持 た せ 、 見 通 し を 立 て た り 、 学 習 を 振 り 返 っ て 次 に つ な げ た り す る た め の 工 夫	○ 各単元の扉に、第1学年は詩、第2学年は短歌、第3学年は俳句を掲載するとともに、それぞれの背景には、作品と関係した写真を掲載し、興味・関心を持たせている。 ○ 巻頭の「領域別 教材一覧」、「教科書の使い方」、「未来への扉」に、教材の構成や記号の意味、学習の進め方等を示し、学習に見通しを持たせている。また、「言葉の学習を始めよう」で、これからの学習に興味・関心を持たせている。 ○ 教材名のそばに、学習を見通すための問いが書かれており、教材の後の「てびき」に、目標、目標に沿った複数の学習活動、教材を読む視点である「言葉の力」、発展的な学習として「広がる言葉」が掲載されている。また、「振り返り」では、教材を通して学んだことを自分の言葉でまとめ、次の学習につなげることができるよう工夫されている。 ○ 興味・関心を持たせるために、コラムを掲載している。 第1学年：詩人と作品（中原中也） 第2学年：詩人と作品（北原白秋） 第3学年：私の好きな季語「雪間」、生まれ変わる作品、詩人と作品（島崎藤村） また、古典作品での折り込みページを使った資料として、第1学年では「竹取物語」、第2学年では「平家物語」、第3学年では「おくのほそ道」の旅程図を扱っている。	○ 各単元の扉に、単元や季節と関係したイラストを掲載し、興味・関心を持たせている。 ○ 巻頭の「領域別教材一覧」でつきたい力を示し、「確かな言葉の力をつけるために」で教材の構成や記号の意味、学習の進め方等を示すことで、学習に見通しを持たせている。 ○ 教材名のそばに目標、教材の後の「学びの道しるべ」に、目標、目標に沿った複数の学習活動、「学びを振り返る」を設け、学習の過程を示している。また、「学びを振り返る」では、「振り返りのキーワード」を示してヒントを与えた上で、自分の言葉で学習を振り返ることができるよう工夫されている。 ○ 興味・関心を持たせるために、コラムを掲載している。 第1学年：芥川龍之介の世界、「このあたり」ってどのあたり？、漢字文化をアレンジする日本の力 第2学年：太宰治の世界、音の数え方と句切れ、あの人の歌、「走れメロス」とシラーの「人質」 第3学年：夏目漱石の世界、ワードハンティング、夏井いつきの赤ペン俳句教室、和歌がつなぐ思い、文語定型詩と口語自由詩 また、各学年に適した「歌詞」も掲載している。 第1学年：228ページ「始まりの歌」 第2学年：236ページ「宿命」 第3学年：224ページ「群青」	○ 各単元の扉に、学校と関係したイラストを掲載するとともに、「四季のたより」を設け、季節に関連した短歌や俳句を掲載し、興味・関心を持たせている。 ○ 巻頭の「言葉の地図」に、教材の構成や記号の意味、学習の進め方等を示し、学習に見通しを持たせている。また、各学年で言葉についてのコラムを掲載している。 第1学年：言葉とは何か 第2学年：言葉の楽しみ 第3学年：日本語の特徴 ○ 各教材のはじめに、「学びナビ」を設け、学習の手がかりとなる見方や考え方を示している。教材名のそばに目標、教材の後の「みちしるべ」に、目標に沿った複数の学習活動、「振り返り」を設け、学習の過程を示している。また、「振り返り」は目標と対になっており、学習を振り返って次につなげることができるよう工夫されている。 ○ 興味・関心を持たせるために、作品解説と作者紹介を掲載している。 第1学年：「蜘蛛の糸」芥川龍之介 第2学年：「坊っちゃん」夏目漱石 第3学年：「最後の一句」森鴎外 また、裏表紙の「ふるさとを巡る」では、全国各地の文学にゆかりのある場所の写真を掲載している。	○ 各単元の扉に、単元や季節と関係した写真を掲載するとともに、ページの下に、第1学年では、「動きを表す言葉」、第2学年では「色の名前」、第3学年では「時を表す言葉」として、写真と関連する言葉を掲載している。また、「季節のしおり」を設け、季節に関連した詩歌や言葉を掲載し、興味・関心を持たせている。 ○ 巻頭の「学習の見通しをもとう」では、1年間の学びや身につけたい力を表で示し、「この教科書で学習するみなさんへ」に、教材の構成や記号の意味を示し、「主体的な学びのために」で、学習の進め方等を示し、見通しを持たせている。また、第1学年では、「言葉に出会うために」でこれからの学習に興味・関心を持たせている。 ○ 教材名のそばに目標、目標に沿った学習活動、教材後の「学びへの扉」に「見通しをもつ」、「捉える」、「読み深める」、「考えをもつ」、「振り返る」を設け、学習の流れを示し、見通しを持たせている。また、「学びへの扉」の隣のページに「学びのカギ」を設け、学習のポイントを確認したり、前後の学習とのつながりを意識した学習にしたりできるよう工夫されている。 ○ 興味・関心を持たせるために、コラムを掲載している。 第1学年：著作権について知ろう、本との出会い、辞書を活用して言葉を広げよう 第2学年：「わからない」は人生の宝物、結びつきに着目して言葉を広げよう 第3学年：ためになるってどんなこと？、言葉と私 また、古典作品での折り込みページを使った資料として、第2学年では「平家物語」、第3学年では「おくのほそ道」を扱っている。

1 教科 [国語] 種目 [国語]

2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	視点	発行者			
		東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
観点4 内容の構成・配列・分量	⑦ 単元・題材や資料配布等の配列・分量	○ 「本編」、「資料編」の2つで構成している。 第1学年:本編244ページ、資料編50ページ 第2学年:本編244ページ、資料編54ページ 第3学年:本編230ページ、資料編80ページ	○ 「本編」、「資料編」の2つで構成している。 第1学年:本編242ページ、資料編117ページ 第2学年:本編254ページ、資料編105ページ 第3学年:本編242ページ、資料編117ページ	○ 「本編」、「言葉と文法」、「言葉の自習室」の3つで構成している。 第1学年:本編264ページ、「言葉と文法」26ページ、「言葉の自習室」62ページ 第2学年:本編276ページ、「言葉と文法」30ページ、「言葉の自習室」62ページ 第3学年:本編270ページ、「言葉と文法」26ページ、「言葉の自習室」56ページ	○ 「本編」、「資料編」の2つで構成している。 第1学年 本編274ページ、資料編64ページ 第2学年 本編274ページ、資料編64ページ 第3学年 本編254ページ、資料編80ページ
		○ 各単元を「言葉を楽しむ(詩)」、「思いを捉える(物語)」など各学年8つのテーマにまとめている。また、教科書全体のテーマとして「未来への扉」を示し、未来を考えるための9つのテーマについて各学年で重点的に関連する教材を扱っている。	○ 各単元を「わかりやすく伝える(説明的文章)」、「古典に学ぶ(解説・古文・漢文)」など第1、2学年9つ、第3学年は8つのテーマにまとめている。	○ 各単元を「学びをひらく」、「論理を知る」など第1、2学年9つ、第3学年は8つのテーマにまとめている。	○ 各単元を「言葉に出会うために(詩)」、「学びをひらく(物語)」など各学年8つのテーマにまとめている。
		○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の教材を、各単元にほぼ均等に配列している。また、「読むこと」の学習内容が、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の学習内容へつながるような教材の配列になっている。	○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の教材を、各単元にほぼ均等に配列している。また、「読むこと」の学習内容が、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の学習内容へつながるような教材の配列になっている。	○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の教材を、各単元にほぼ均等に配列している。また、「読むこと」の学習内容が、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の学習内容へつながるような教材の配列になっている。	○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の教材を、各単元にほぼ均等に配列している。また、「読むこと」の学習内容が、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の学習内容へつながるような教材の配列になっている。
		○ 古典単元は、古文、漢文と知識及び技能教材で構成されている。	○ 古典単元は、古文、漢文と知識及び技能教材で構成されている。	○ 古典単元は、古文、漢文、近代文学、知識及び技能教材で構成されている。	○ 古典単元は、古文、漢文と知識及び技能教材で構成されている。
		○ 「資料編」は、「読む」、「古典」、「読書案内」、「資料」、「漢字」で構成されている。	○ 「資料編」は、「読書の広場」、「社会生活に生かす」、「参考資料(漢字含む)」で構成されている。	○ 「言葉の自習室」は、「読書」、「資料」で構成されている。その後に漢字の資料がある。	○ 「資料編」は、「読む」、「話す・聞く」、「書く」、「漢字」で構成されている。

2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観		
---	--	--

観点	視点	発行者			
		東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
観点5 内容の表現・表記	⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方	○ 他教科との関連がある教材には、鎖のマークを付し、関連する教科名を示している。 ○ 広島に関連する教材として、以下の教材を扱っている。 第1学年：「平和のバトン」（読書への招待） 第2学年：「メディアの垣根を越えて」（読書への招待）内「この世界の片隅に」 第3学年：「生ましめんな」また、第1学年の「世界を広げる本」においては「ぼくは満員電車で原爆を浴びた」、「いしづみ」、「ひろしま」が紹介されている。 ○ SDGsに関連する教材として、以下の教材を扱っている。 第2学年：「共有地の悲劇」「無理なくできる範囲から（読書への招待）」 第3学年：「『広告』の批評文」 ○ 防災に関連する教材として、以下の教材を扱っている。 第3学年：「いつものように新聞が届いたーメディアと東日本大震災」	○ 「話すこと・聞くこと」や「書くこと」教材の後の「生かそう」に国語における他の学習や日常生活との関連を示している。 ○ 広島に関連する教材として、以下の教材を扱っている。 第2学年：「壁に残された伝言」また、第1、3学年「小さな図書館」において広島に関連する本が紹介されている。 第1学年：「絵で読む 広島原爆」 第3学年：「黒い雨」 ○ SDGsに関連する教材として、以下の本を紹介している。 第1学年：「知っていますか？SDGs」（読書の広場） ○ 防災に関連する教材として、以下の教材を扱っている。 第1学年：「『みんなでいるから大丈夫』の怖さ」	○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の教材の前の「学びを生かす」に他教科や日常的な表現活動への活用例を示している。 ○ 広島に関連する教材として、以下の教材を扱っている。 第2学年：「映像作品の表現を考える」内「この世界の片隅に」 第3学年：「薔薇のボタン」また、「広がる本の世界」において広島に関連する本が紹介されている。 第2学年：「平和のバトン 広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶」 ○ SDGsに関連する教材として、以下の教材を扱っている。 各学年：「持続可能な未来を創るために」 第1学年：「森には魔法つかいがいる」 ○ 防災に関連する教材として、以下の教材を扱っている。 第2学年：「紙の建築」	○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の教材の「学習の流れ」の中の「生かす」に日常や将来の活動例を示している。また、巻頭の「学習の見通しをもとう」のページに他教科との関連がある教材やSDGsと関連がある教材を一覧で示している。 ○ 広島に関連する教材として、以下の教材を扱っている。 第3学年：「挨拶ー原爆の写真によせて」また、「広がる読書」や「読書案内」において広島に関連する本が紹介されている。 第1学年：「絵で読む広島原爆」 第2学年：「夕風の街 桜の国」「綾瀬はるか『戦争』を聞く」さらに、第1学年では「ヒロシマ」のカタカナ表記について考える学習活動を扱っている。 ○ SDGsに関連する教材として、以下の教材を扱っている。 第1学年：「情報収集の達人になろうー私のSDGs行動宣言」また、1年読書案内でも書籍を多く扱っている。 ○ 防災に関連する教材として、以下の教材を扱っている。 第2学年：「メディアの特徴を生かして情報を集めよう」
	⑨ 本文の記述・内容と写真・図表・イラスト・図・グラフ・地図など適切な関連付けのしなされ方	○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「古典」、「未来への扉」のイラストデザインを統一し、教材に付している。 ○ 各学年、本文の記述・内容と写真や図表を関連付けて読む教材が掲載されており、使われている図表の種類は、写真、イラスト、図、グラフ、地図などである。 ○ 巻末の「デジタルコンテンツ一覧」においてデジタルコンテンツの一覧を二次元バーコードで示している。また、本編中に示される二次元バーコードの付近に「筆者の言葉（動画）」「活動の具体例」「練習問題」など内容を示している。 ○ 学習に関連する音声や映像などの資料を掲載したデジタルコンテンツを利用できる教材には、二次元バーコードを付している。 また、巻末の「デジタルコンテンツ一覧」から、デジタルコンテンツが一覧となったページを利用できるようになっている。また、家庭学習に利用できるコンテンツには家のマークを付している。	○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」のイラストデザインを統一し、教材に付している。 ○ 各学年、本文の記述・内容と写真や図表を関連付けて読む教材が掲載されており、使われている図表の種類は、写真、イラスト、図、グラフ、地図などである。 ○ 巻末の「二次元コード参照先コンテンツ一覧」においてデジタルコンテンツの一覧を二次元バーコードで示している。また、本編中に示される二次元バーコードの付近に「作文例」「参考資料」「デジタル漢字ドリル」など内容を示している。 ○ 学習に関連する音声や映像などの資料を掲載したデジタルコンテンツを利用できる教材には、二次元バーコードが付している。 また、巻末の「二次元コード参照先コンテンツ一覧」から、デジタルコンテンツが一覧となったページを利用できるようになっている。	○ 「学ぶナビ」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「読書」、「古典」、「情報・メディアと表現」のイラストデザインを統一し、教材に付している。 ○ 各学年、本文の記述・内容と写真や図表を関連付けて読む教材が掲載されており、使われている図表の種類は、写真、イラスト、図、グラフ、地図、新聞(3学年のみ)などである。 ○ 巻頭の「まなびリンクを活用しよう」においてデジタル資料の一覧を二次元バーコードで示している。 ○ 学習に関連する音声や映像などの資料を掲載したデジタルコンテンツを利用できる教材には、二次元バーコードが付している。 また、巻頭の二次元バーコードまたはサイトのアドレスから、デジタルコンテンツが一覧となったページを利用できるようになっている。	○ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「読書」、「情報」のイラストデザインを統一し、教材に付している。 ○ 各学年、本文の記述・内容と写真や図表を関連付けて読む教材が掲載されており、使われている図表の種類は、写真、イラスト、図、グラフ、地図などである。 ○ 巻末の「ICT活用のヒント」においてデジタル資料目次を二次元バーコードで示すとともにICTを効果的に活用した学習場面についても示している。また、本編中に示される二次元バーコードの付近に「作者インタビュー」「動画」「漢字の学習」など内容を示している。 ○ 学習に関連する音声や映像などの資料を掲載したデジタルコンテンツを利用できる教材には、二次元バーコードが付している。 また、巻末の「二次元コード一覧」から、デジタルコンテンツが一覧となったページを利用できるようになっている。 さらに、授業においてICTを活用すると効果的な場面について示している。

令和6年7月25日

広島市教科用図書採択審議会会長 様

広島市教科用図書採択審議会調査員

教科 [国 語] 種 目 [書 写]

代表者 ハ、谷 玲子

令和7年度使用広島市立中学校用教科用図書の調査・研究について（報告）

このことについて、別紙のとおり調査・研究結果をまとめましたので、報告します。

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教 科 [国 語] 種 目 [書 写]

2 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、古典や伝統文化に触れることができる史跡や、博物館、美術館、音楽堂など、文化芸術に触れることができる施設が充実した地域である。また、筆の生産量が全国一である安芸郡熊野町と隣接しており、書写や書道を身近に感じることができる地域でもある。
- 本市の生徒の実態として、授業において硬筆や毛筆を用いて、字体や筆順に注意して丁寧にかこうとする意識や態度は見られるが、近年の ICT 技術の革新と普及や、文字表現の多様化といった社会的な状況を背景として、日常生活において文字を書く機会が減り続ける中で、場や目的に応じて表現の効果を考えながら、書写で学習した内容を自らの生活に生かすことができていない生徒が多いことに課題がある。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 姿勢・執筆法・用具の扱い・運筆の示し方 ② 伝統と言語文化等に関する内容の記述
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 学習や日常生活に生きる言語活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料配布等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ⑧ 文字の大きさ・配色

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

- 1 教科 [国語] 種目 [書写]
- 2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	視点	発行者			
		東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
観点 1 知識及び技能の習得	① 筆の姿勢・ 方・執筆法・ 用具の扱い・ 運	○ 姿勢・執筆法・用具の扱い方については、巻頭に「文字を整えて書くための姿勢（毛筆・硬筆）」、「用具の名前・置き方」、「墨のすり方」、「書きやすい鉛筆の持ち方」、「書きやすい筆の持ち方」、「後片付け」を写真とイラストで示している。 ○ 運筆については、「基本の点画の書き方」に漢字に加えてひらがなの点画の運筆についても示している。また、運筆について擬態語とイラストで説明し、穂先の向きである45度を、折り紙約半分と表現している。	○ 姿勢・執筆法・用具の扱い方については、巻頭に「姿勢と構え方（毛筆）・硬筆」、「大筆の持ち方」、「小筆の持ち方・構え方」、「筆の運び方」、「用具の扱い方（用具の準備、墨のすり方、用具の片づけ方）」、「鉛筆の持ち方」を写真とイラストで示している。また、鉛筆の悪い持ち方のよくある例を写真付きで示している。 ○ 運筆については、「点画の種類と筆使い」に示している。運筆を筆圧と穂先の観点に分けて文章で説明している。	○ 姿勢・執筆法・用具の扱いについては、「基本の姿勢」、「用具の置き方」、「毛筆の持ち方」、「硬筆の持ち方」、「墨のすり方」、「後片づけ」を写真で示している。また、硬筆についてはボールペンの持ち方の説明もある。また、左手で書く人用の用具の配置について、写真も載せて説明している。 ○ 運筆については、「基本点画の種類」に示している。筆圧の強さを数字で表し、その時の筆のしなり具合を写真で示している。また、基本点画の名称を考えさせる問題が掲載されている。さらに、行書の運筆については、手を用いた説明がなされている。	○ 姿勢・執筆法・用具の扱いについては、「書くときの姿勢」、「筆記具の持ち方」、「用具の準備」、「用具の片付け」を写真で示している。また、姿勢については「タブレットを使う姿勢」についても示されている。さらに、左手で書く人用の用具の配置について、写真と二次元コードを載せて説明している。 ○ 運筆については、筆圧の強さを数字で表し、擬態語を用いて説明している。また、基本点画の名称を考えさせる問題が掲載されている。
	② 伝統と言語文化等に関する内容の記述	○ 文字の変遷について、写真で資料を示して説明している。 ○ 文房四宝について、作り方を写真と文章で説明している。 ○ 古典作品は、「いろは歌」、「竹取物語」、「枕草子」、「おくのほそ道」を扱っている。 ○ 書風については、折り込み資料として歴史的な人物を複数紹介し、その違いを写真付きで掲載している。	○ 文字の変遷について、写真で資料を示して説明している。 ○ 文房四宝について、その例と作り方を写真と文章で説明し、発展についても示している。 ○ 古典作品は、「いろは歌」、「枕草子」、「平家物語」、「おくのほそ道」を扱っている。 ○ 書風については、資料編として歴史的な人物を複数紹介し、その違いを写真付きで掲載している。	○ 文字の変遷について、写真で資料を示して説明している。 ○ 文房四宝について、材料と作り方を写真と文章で説明している。 ○ 古典作品は、「竹取物語」、「いろは歌」、「論語」、「枕草子」、「平家物語」、「おくのほそ道」、俳句を扱っている。 ○ 書風については、コラムとして歴史的な人物を複数紹介し、その違いを写真付きで掲載している。	○ 文字の変遷について、資料を基にしたイラストを大きく配置して説明している。 ○ 文房四宝について、写真のみを掲載している。 ○ 古典作品は、書写ブックに「竹取物語」、和歌、「平家物語」、「おくのほそ道」を扱っている。この「平家物語」は、扇の形の書式に記入するようになっている。また、楷書の「いろは歌」、行書の「いろは歌」、俳句、「枕草子」を扱っている。この「枕草子」は、冒頭の段をすべてなぞり書きできるようになっている。 ○ 書風については、王羲之の書を写真付きで掲載し、なぞり書きもできるようになっている。

1 教科 [国語] 種目 [書写]

2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	視点	発行者			
		東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
観点2 思考力、 判断力、 表現力等の 育成	③ 学習や日常生活に生きる言語活動の工夫	○ 「生活に広げよう」にお礼状、年賀状、職場訪問、本のポップ、地域の活動への参加など、言語活動を示し、書写で学習したことを生かすよう工夫している。	○ 「やってみよう」にグループ新聞、情報誌、名言集などの言語活動を示し、書写で学習したことを生かすよう工夫している。	○ 「学校生活に生かして書く」にレポート、本の帯やポップ作り、ポスターなどの言語活動を示し、書写で学習したことを生かすよう工夫している。また、「さまざまな書く場面」に主に学校生活の中で書写の学習を生かす場面を示している。	○ 「国語」にノート、応援旗、めくり、ポップ、学級目標、年賀状、職業ガイド、冊子作りなどの言語活動を示し、書写で学習したことを生かすよう工夫している。
		○ 巻末の「書写活用ブック」に手紙、ポスター、フリップ、新聞、リーフレット、入学願書、原稿用紙、のし袋などの書き方を示している。	○ 資料編「日常の書式」に便箋、封筒、はがき、送り状、のし袋、願書、原稿用紙などの書き方を示している。	○ 巻末の「書式の教室」に手紙、封筒、一筆箋、はがき、年賀状、暑中見舞い、往復はがき、電子メール、包み紙、エアメール、原稿用紙、小包伝票、願書、志望理由書などの書き方を示している。	○ 巻末の「日常に役立つ書式」に手紙（縦書き・横書き）、はがき、送り状、入学願書、原稿用紙、レポートなどの書き方を示している。
		○ 3年生のはじめの教材として「身の回りの文字の目的と工夫」を設け、日常生活の中で使用される手書き文字について示し、その効果について考えられるよう工夫している。	○ 3年生のはじめの教材として「身のまわりの文字」を設け、手書き文字や活字による伝え方の変遷を示すとともに文字に関わる仕事について紹介し、これからの文字文化について考えられるよう工夫している。	○ 3年生の教材として「多様な表現による文字」を設け、身のまわりで見かける文字について示し、文字の表現効果について考えられるよう工夫している。	○ 3年生のはじめの教材として漫画「手書きのよさってなんだろう」を通して手書き文字にのよさについて話合わせた上で、「全国文字マップ」を設け、身の回りにある様々な文字について示し、文字から受ける印象や気づいたことについて話し合えるよう工夫している。 ○ 切り離し可能な「書写ブック」を設け、学習したことを生かして書いたり、学習した内容の確認をしたりする機会を多く設けることで、書写で学んだことを日常生活に生かすことができるよう工夫している。

1 教科 [国語] 種目 [書写]

2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	視点	発行者			
		東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫	○ 巻頭「書写の学習の進め方」で「目標」、「見つけよう」、「確かめよう」、「生かそう」、「振り返ろう」といった学習の流れを示すとともに、書写で学んだことをふだんの生活や他教科の学習に生かすことを促している。また、二次元コードでデジタルコンテンツの一覧を示し、効果的な活用を促している。	○ 巻頭「この教科書の使い方」で「教材の構成」と「学習の流れ」を示し、学習の見通しをもたせるよう工夫している。	○ 巻頭「学習の進め方」で「目標」、「考えよう」、「生かそう」、「振り返ろう」といった学習の流れを示して見通しをもたせるとともに、学習や日常生活に書写を生かすよう意識させる工夫がある。また、話し合い活動とおした学び方を示し、対話的な学習となるよう工夫している。	○ 34ページ「学習の進め方」で「考えよう」、「確かめよう」、「生かそう」の学習の展開を示し、見通しをもたせるよう工夫している。また、「教科書通りに書くことができればいいの？」という問いから学びの深め方について示している。さらに「タブレットを活用しよう」で具体的なタブレットの活用例を示し、効果的な活用を促している。
		○ 巻頭表紙裏で「文字を『書く』ってなんだろう」と問いを投げかけ、イラストと文字で日常生活の中で感じることを示している。	○ 巻頭表紙裏では詩「朝のリレー」を写真とともに示している。	○ 巻頭表紙裏に「目的に合わせて書こう」を設け、写真と文字を交えて手書き文字を使用する場面について示している。	○ 巻頭表紙裏に手書き文字のメッセージをイラストとともに示している。
		○ 「書写の学習の進め方」で示した学習の流れに沿って教材が構成されている。また、各教材に「書写のかぎ」を設定し、書くときのポイントを示している。	○ 「この教科書の使い方」で示した学習の流れに沿って教材が構成されている。また、「書き方を学ぼう」で書き方のポイントをつかみ、他の字ではどこに使われているか考えられるよう工夫されている。	○ 「学習の進め方」で示した学習の流れに沿って教材が構成されている。また、「考えよう」では文字を書くときのポイントを示している。	○ 「学習の進め方」で示した学習の流れに沿って教材が構成されている。また、各教材に「学びのかぎ」を設定し、書くときのポイントを示している。
		○ 行書の導入部では楷書と比較して行書の特徴や利点についてイラストを交えて示している。	○ 行書の導入部では楷書と比較して行書の特徴を示し、それぞれの特徴を学習するページを示している。	○ 行書の導入部では「やさしく柔らかな行書体」という文章で書体の歴史や特徴について触れるとともに、様々な場所で見かける行書体について写真で紹介している。	○ 行書の導入部では行書と楷書を比較する教材を設け、行書と楷書の違いについて考えさせる工夫がある。また、行書の特徴を「行書スイッチ」として4つ示し、スイッチの色を分けて視覚的に捉えやすくしている。
		○ 「文字といっしょに」を設け、「手書き文字と活字」、「文字の移り変わり」、「伝統的な用具・用材」などを紹介し、身の回りにある文字について興味・関心を持たせている。	○ 「活字と手書き文字・筆順」、「文字の変遷」などを紹介し、身の周り興味・関心を持たせている。	○ 「コラム」を設け、「文字の変遷」、「短冊と色紙」、「日本建築と書」など身の回りにある文字について興味・関心を持たせている。	○ 「コラム」を設け、「文字の歴史を探索」、「全国フォント見つけ隊」、「ユニバーサルデザインフォントって何だろう」などを紹介し、身の回りにある文字について興味・関心を持たせている。
		○ コラム「書の古典」において高等学校の学習内容に触れ、「発展」として示している。また、高等学校で書道を学んでいる生徒の活動についても紹介している。	○ 「てん刻について知ろう」資料編「書の古典」は、高等学校の学習内容となっており、高等学校との接続教材であることを明記して、「発展」として示している。	○ 「気持ちのつながりから文字のつながりへ」、コラム「書の古典の鑑賞」、背表紙裏「芸術としての書道」は、高等学校・書道Ⅰとの接続教材であり、「発展」として示している。	○ 背表紙裏「なりきり、書聖・王羲之」において高等学校の学習内容に触れ、「発展」として示している。
		○ 生徒になじみのあるJ-popの歌詞を使用して手書きの文字を示し、手書きの文字への興味・関心を高めるよう工夫している。	○ 各学年の終わりに「やってみよう」を設け、1年間で学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしている。	○ 「あの人が残した文字」では日本の歴史上の人物の直筆の書を紹介し、手書きの文字への興味・関心を高めるよう工夫している。	○ 「自分らしい文字」では、生徒もよく知る著名人の手書き文字を紹介し、手書きの文字への興味・関心を高めるよう工夫している。
		○ 各学年の終わりに「書写テストに挑戦！」を設け、1年間で学習したことを生かして、テスト形式で振り返ることができるようにしている。	○ 各学年に「学習を生かして書く」を設け、学習したことを生かして文字を書くことができるようにしている。	○ 各学年に「言葉を書こう」を設け、学習したことを生かして文字を書くことができるようにしている。	○ 各学年に「言葉を書こう」を設け、学習したことを生かして文字を書くことができるようにしている。

1 教科 [国語] 種目 [書写]

2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	視点	発行者			
		東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
観点4 内容の構成・配列・分量	⑤ 単元・題材や資料配布等の配列・分量	○ 毛筆教材を、3年間で24教材提示している。各学年の内訳は、第1学年10教材、第2学年9教材、第3学年5教材である。 ○ 第1学年の毛筆教材は、「大志」、「五十音表」、「夏山の緑うつりし小窓かな」、「東」「日光」、「大空」、「早春」、「夢の実現」、「温故知新」、「美しい緑」である。 ○ 第2学年の毛筆教材は、「桜色」、「若緑」、「豊かな自然」、「いろは歌」、「草山に馬放ちけり秋の空」、「平和の祈り」、「感謝する心」、「信念を貫く」、「最善を尽くす」である。 ○ 第3学年の毛筆教材は、「梅の花咲里」、「栄光のかけ橋」、「希望に輝く春」、「生命を尊ぶ」、「不屈の精神」である。 ○ 各学年に「書初めをしよう」を設けている。 ○ 学年別の教材から始まり、一年生の初めに「これまで学んできたこと」、「姿勢と筆記具の持ち方」、「点画の書き方」を見開き3ページにわたって扱っている。 ○ サイズ B5判より0.6cm横長 重さ 288g	○ 毛筆教材を、3年間で25教材提示している。各学年の内訳は、第1学年8教材、第2学年8教材、第3学年3教材、補充教材6教材である。 ○ 第1学年の毛筆教材は、「天地」、「いろは歌」、「暑き日を海に入れたり最上川」、「名月」、「元氣」、「探究」、「日進月歩」、「輝く生命」である。 ○ 第2学年の毛筆教材は、「親和」、「紅花」、「豊かな実り」、「いろは歌」、「燃ゆる思い」、「大望を抱く」、「温故知新」、「平和の鐘」である。 ○ 第3学年の毛筆教材は、「未知へと歩む」、「旅立ちの時」、「山光澄我心」である。 ○ 毛筆の補充教材として、「永久」、「若枝」、「所行無常」、「伸びる芽」、「風の音を聞く」、「だからもう迷わずに進めばいい栄光の架橋へと」がある。 ○ 初めに、「姿勢や持ち方について」、「用具の扱い方」を見開き3ページにわたって示し、その後、学年別の教材を扱っている。 ○ サイズ B5判 重さ 233g	○ 毛筆教材を、3年間で32教材提示している。各学年の内訳は、第1学年11教材、第2学年8教材、第3学年3教材、補充教材10教材である。 ○ 第1学年の毛筆教材は、「天地」、「成功」、「いろは歌」、「ありがとうございます」、「よろしく申し上げます」、「和」、「大洋」、「栄光」、「平和」、「新たな決意」、「伝統文化」である。 ○ 第2学年の毛筆教材は、「白雲」、「深緑」、「広がる夢」、「いろは歌」、「尊いものそれは真直ぐにみつめた姿だ」、「学びて時に之を習ふ亦説ばしからずや」、「宇宙への旅」、「生命の尊重」である。 ○ 第3学年の毛筆教材は、「美しい自然」、「環境を守る」、「真理の探究」である。 ○ 毛筆の補充教材として「創造」、「出発」、「名作」、「開花」、「実現」、「雲海」、「有終完美」、「古典に学ぶ」、「理想」、「旅立ちの朝」がある。 ○ 初めに、「姿勢と用具の使い方」、「学習の進め方」を見開き2ページにわたって示し、その後、学年別の教材を扱っている。 ○ サイズ B5判より2.8cm横長 重さ 302g	○ 毛筆教材を、3年間で28教材提示している。各学年の内訳は、第1学年12教材、第2学年9教材、第3学年7教材である。 ○ 第1学年の毛筆教材は、「天地」、「いろは歌」、「緑」、「大木」、「日光」、「文武両道」、「不言実行」、「強い決意」、「挑戦」、「早春」、「探究」、「五月雨をあつめて早し最上川」である。 ○ 第2学年の毛筆教材は、「積雲」、「紅花」、「いろは歌」、「豊かな森」、「将来の夢」、「温故知新」、「花鳥風月」、「無我」、「流れる雲」である。 ○ 第3学年の毛筆教材は、「自然」、「輝ける未来」、「大志を抱く」、「旅立ちの春」、「伝統を守る」、「持続可能」、「新たな目標」である。 ○ 毛筆の「書初めマスターブック」の中に「不言実行」、「文武両道」、「強い決意」、「将来の夢」、「温故知新」、「旅立ちの春」、「伝統を守る」を教材として示し、さらに複数の補充教材がある。 ○ 初めに、「姿勢・筆記具の持ち方」、「用具の準備・片付け」、「学習の進め方」、「字形の整え方」を見開き3ページにわたって示し、その後、学年別の教材を扱っている。 ○ サイズ B5判より0.6cm横長 重さ 335g

1 教科 [国語] 種目 [書写]

2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	視点	発行者			
		東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
観点5 内容の表現・表記	⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方	○ 他教科と関連がある教材には、リンクマークを付し、関連を意識しながら学習することができるようにしている。	○ 国語科と関連する教材については、「国語」と表記し、関連を意識しながら学習することができるようにしている。		○ 他教科等と関連する教材については、「国語」「学校行事」「総合」と表記し、関連を意識しながら学習することができるようにしている。
		○ 日常生活との関連の示し方については、「生活に広げよう」や「書写活用ブック」を設け、学習したことを生かして、文字を書くことができるようにしている。	○ 日常生活との関連の示し方については、「日常の書式」として、見開き3ページにわたって扱っている。	○ 日常生活との関連の示し方については、「学習活動や日常生活に生かして書こう」という単元を設け、学習したことを生かして文字を書くことができるようにしている。	○ 日常生活との関連の示し方については、「日常に役立つ書式」という単元を設け、学習したことを生かして文字を書くことができるようにしている。
		○ SDGsに対応した教材として、「人権・福祉」、「キャリア教育」「環境」「情報活用」「防災・安全」を扱っている。		○ SDGsに関する教材として、「活字の特徴を考えよう！」でプレゼンテーションの資料の書き方を示している。	○ SDGsに関する教材として、「SDGs×書写」が3か所、「レポートの書き方」、「情報収集の達人になろう」を扱っている。
		○ 広島に関する教材として、「熊野筆・川尻筆」、「平和の祈り」、「検定試験の願書」を扱っている。	○ 広島に関する教材として、「四十七都道府県名」、「はがきの書き方」を扱っている。	○ 広島に関する教材として、「熊野筆」、「都道府県名一覧表」、「多様な表現による文字」を扱っている。	○ 広島に関する教材として、「都道府県名一覧表」、「全国文字マップ」、「入学願書の書き方」を扱っている。
		○ 平和に関する教材として、「平和の祈り」を扱っている。	○ 平和に関する教材として、「平和の鐘」を扱っている。	○ 平和に関する教材として、「生活に生かそう」で折り鶴の短冊の書き方を示している。	○ 平和に関する教材として、「折り鶴フォント」を扱っている。
		○ 防災に関する教材として、「地域の活動に参加する一防災訓練」を扱っている。	○ 防災に関する教材として、防災訓練の伝言をメモする学習を扱っている。 ○ 文字を扱う仕事の紹介があり、キャリア学習とも関連のある資料となっている。		○ 防災に関する教材として、「防災かるた」、「防災フェスタを開こう」を扱っている。 ○ 「全国フォント見つけ隊」では、フォントデザイナーの紹介があり、キャリア学習とも関連のある資料となっている。

- 1 教科 [国語] 種目 [書写]
- 2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観 点	視 点	発行者			
		東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
観 点 5 内 容 の 表 現 ・ 表 記	⑦ 本文の記述・イラスト・内容写真と適切なウェブ連携が	○ キャラクターを登場させ、学習する内容で気をつけることを吹き出しで示している。 ○ 巻頭、各单元ごとに二次元コードが示してあり、デジタルコンテンツを利用できるようになっている。 ○ 毛筆教材では、見開きの右ページに「書写のかぎ」を設け、点画等で気を付けることを示している。 ○ 薄墨と朱墨の二色で、筆使いを示している。	○ 「二次元コード一覧表」が設けられ、デジタルコンテンツが一覧で利用できるようになっている。 ○ 巻頭、各单元ごとに二次元コードが示してあり、デジタルコンテンツを利用できるようになっている。 ○ 毛筆教材では、見開きの右ページに「書き方を学ぼう」を設け、点画等で気を付けることを示している。 ○ 薄墨と朱墨の二色で、筆使いを示している。	○ うさぎのキャラクターと生徒を登場させ、学習する内容で気をつけることを吹き出しで示している。 ○ 巻頭、各单元ごとに二次元コードが示してあり、デジタルコンテンツを利用できるようになっている。 ○ 毛筆教材では、見開きの左ページに「考えよう」を設け、点画等で気を付けることを示している。 ○ 薄墨と朱墨の二色で、筆使いを示し、筆の写真とともに掲載されている。	○ 生徒と鉛筆、タブレットのキャラクターを登場させ、学習する内容で気をつけることを吹き出しで示している。 ○ 巻頭、各单元ごとに二次元コードが示してあり、デジタルコンテンツを利用できるようになっている。 ○ 毛筆教材では、見開きの右ページに「学びのかぎ」を設け、点画等で気を付けることを示している。 ○ 薄墨と朱墨の二色で、筆使いを示している。
	⑧ 文字の大きさ・配色	○ 文字の大きさは、実際の半紙やはがきなどと同等のサイズにしている。 ○ フォントは、ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○ 配色は及びデザインは、カラーユニバーサルデザインを意識している。 ○ 単元のまとまりでテーマカラーを設定し、このテーマカラーで見出しの背景の色を統一している。 (単元の1、2：橙、単元の3：緑、単元の4、5：青)	○ 文字の大きさは、実際の半紙やはがきなどと同等のサイズにしている。 ○ フォントは、ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○ 配色及びデザインは、カラーユニバーサルデザインを意識している。 ○ 各学年でテーマカラーを設定し、このテーマカラーで見出しの背景の色を統一している。 (第1学年：橙、第2学年：赤、第3学年：緑)	○ 文字の大きさは、実際の半紙やはがきなどと同等のサイズにしている。 ○ フォントは、ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○ 配色は及びデザインは、カラーユニバーサルデザインを意識している。 ○ 各学年でテーマカラーを設定し、このテーマカラーで見出しの番号の背景の色を統一している。 (第1学年：緑、第2学年：赤、第3学年：青)	○ 文字の大きさは、実際の半紙やはがきなどと同等のサイズにしている。 ○ フォントは、ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○ 配色は及びデザインは、カラーユニバーサルデザインを意識している。 ○ 各学年でテーマカラーを設定し、このテーマカラーで見出しの文字の色を統一している。 (第1学年：青、第2学年：緑、第3学年：水色)

令和6年7月/2日

広島市教科用図書採択審議会会長 様

広島市教科用図書採択審議会調査員

教科【社会】種目【地理的分野】

代表者

寺川 勇一

令和7年度使用広島市立中学校用教科用図書の調査・研究について（報告）

このことについて、別紙のとおり調査・研究結果をまとめましたので、報告します。

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

- 1 教 科 [社会] 種 目 [地理的分野]
- 2 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、官公庁や商業施設が集まる地域、工業・農業・漁業が行われている地域、宅地造成により住宅地が広がる地域、豊かな自然の残る地域など、それぞれに異なる特色をもつ地域が分散している。また、近年では交通網の整備などによる都市再開発や豪雨などの自然災害等により、他地域との結びつきなどの地域的特色や地域の環境条件が変容していることから、こうした地域の実態や課題を調べる学習に適した地域である。
- 本市の生徒は、地理的事象や調査などに関する作業的な学習活動に対して意欲的に取り組み、タブレット端末を活用したり、地図等諸資料から情報を収集したりする技能は身に付いているが、身近ではない国や地域については興味・関心を持ちにくいことや、学習課題の解決への見通しを立て、収集した情報を課題解決に向けてまとめながら、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題がある。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 我が国の国土及び世界の諸地域について理解するための工夫 ② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ⑤ 我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについて自覚するための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
<内容の表現・表記>	⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

令和 7 年度使用中学校用教科用図書 の 調査 ・ 研究 報告 書

- 1 教 科 [社会] 種 目 [地理的分野]
2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観 点	視 点	発 行 者			
		東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版
観 点 1 知 識 及 び 技 能 の 習 得	① 我 が 国 の 国 土 及 び 世 界 の 諸 地 域 に つ い て 理 解 す る た め の 工 夫	○ 小項目「日本の領域の特色」の示し方 ・ 本文2ページにわたる説明 ・ 見出し「日本の領域の特色」 ・ 学習課題「周りを海に囲まれた日本の領域には、どのような特色があるでしょうか。」 ・ 小見出し「海に囲まれた日本」「日本の領域と排他的経済水域」 ・ コラム「もっと知りたい」「変化し続ける国土面積」 ・ コーナー「みんなでチャレンジ」 ○ 領域をめぐる問題の示し方 ・ 本文で説明 ・ 見出し「北方領土・竹島と尖閣諸島」 ・ 学習課題「領土をめぐる問題をかかえる島々は、どのような地理的特色を持っているのでしょうか。」 ・ 小見出し「地理的に見る島々の特色」「水産資源にめぐまれた竹島」「貴重な自然が残る北方領土」「資源が期待される尖閣諸島」 ・ 「竹島の2万5000分の1地形図」、「北海道の根室半島上空から見た歯舞群島」等を掲載。 ○ 中項目「(1)世界各地の人々の生活と環境」において、課題を「世界各地の人々の暮らしは、場所によってどのようなちがひがあるでしょうか」とし、6気候帯(寒帯・冷帯で4ページ)の人々の生活、気候、生活の変化、宗教について説明している。 ○ 中項目「世界の諸地域」の「まとめの活動」で、地域の範囲に色が塗られている白地図を掲載し、各州で学習した基礎的な知識の確認等を行う活動を設定している。また、ワードチェックを設け、用語について自分の言葉で説明する活動を設定している。	○ 小項目「日本の領域の特色」の示し方 ・ 本文2ページにわたる説明 ・ 見出し「日本の国土の広がり」 ・ 学習課題「日本の領域にはどのような特色があるでしょうか。」 ・ 小見出し「島国日本」「日本の領域の移り変わり」 ・ コラム「地理の窓」「日本の最南端をめぐる問題」 ・ コーナー「THINK!」 ○ 領域をめぐる問題の示し方 ・ 本文で説明 ・ 見出し「日本の領土をめぐる」 ・ 学習課題「日本の領土などをめぐる対立について理解し、平和的な解決のために必要なことを考えてみましょう。」 ・ 小見出し「北方領土をめぐる問題」「竹島と尖閣諸島」 ・ 「北方領土に関する主なできごと」、「南東を上にして、日本海を周辺を描いた地図」等を掲載。 ○ 中項目「(1)世界各地の人々の生活と環境」において、課題を「各地の人々の生活・文化と自然との関わりについてみていこう」とし、6気候帯(寒帯・冷帯で2ページ)の人々の生活、気候、民族・言語、宗教について説明している。 ○ 中項目「世界の諸地域」の「学習のまとめと表現」で、関連するSDGsを冒頭で示している。また、白地図を掲載し、各州で学習した基礎的な知識の確認等を行う活動を設定している。また、ワードチェックを設け、言葉を説明する活動を設定している。	○ 小項目「日本の領域の特色」の示し方 ・ 本文2ページにわたる説明 ・ 見出し「日本の領域とその特徴」 ・ 学習課題「海に囲まれた日本の領域には、どのような特徴があるのだろうか。」 ・ 小見出し「日本の領域」「排他的経済水域」 ・ コラム「地理プラス」 ・ コーナー「資料活用」 ○ 領域をめぐる問題の示し方 ・ 本文で説明 ・ 見出し 無し ・ 学習課題 無し ・ 小見出し「国際法に基づく日本の領土」「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」 ・ 「北方領土周辺の国境の移り変わり」、「隠岐の人々が行っていた竹島での漁の様子」等を掲載。 ・ コラム「地理＋」漁業が盛だった昔の竹島 ○ 中項目「(1)世界各地の人々の生活と環境」において、課題を「世界各地の人々の生活は、自然環境や宗教とどのような関わりがあるだろうか」とし、6気候帯(寒帯・冷帯で2ページ)の人々の生活、気候、民族・言語、宗教について説明している。 ○ 中項目「世界の諸地域」の「学習を振り返ろう」で、「節の振り返り1」では、地域の範囲が示された白地図を掲載し、各州で学習した基礎的な知識の確認等を行う活動を設定している。また、節の重要語句を設け、語句の簡単な説明をする活動を設定している。	○ 小項目「日本の領域の特色」の示し方 ・ 本文2ページにわたる説明 ・ 見出し「日本の領域の特色をとらえよう」 ・ 学習課題「日本の領域はどこまで広がっている、どのような特色があるのでしょうか。」 ・ 小見出し「日本の領域をとらえる」「日本の海の面積」 ・ コラム「地理＋α」「沖ノ島島を守るために」 ・ コーナー「トライ」 ○ 領域をめぐる問題の示し方 ・ 本文で説明 ・ 見出し「日本の領域をめぐる問題をとらえよう」 ・ 学習課題「日本の領域をめぐる問題は、なぜ起こっているのでしょうか。」 ・ 小見出し「北方領土」「竹島」「領土問題の解決に向けて」「尖閣諸島をとりまく情勢」 ・ 「北方領土付近の国境の変化」、「羅臼町から見た国後島」等を掲載。 ○ 中項目「(1)世界各地の人々の生活と環境」において、課題を「世界各地の人々の生活は、なぜ場所によって異なるのでしょうか」とし、6気候帯(寒帯・冷帯で2ページ)の人々の生活、気候、生活の変化、宗教について説明している。 ○ 中項目「世界の諸地域」の「まとめと振り返り」で、白地図を掲載し、各州で学習した基礎的な知識の確認等を行う活動を設定している。また、STEP2では、自分の言葉でキーワードを説明する活動を設定している。

観 点	視 点	発行者			
		東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版
観 点 1	② た め 様 の 々 々 な 工 情 報 を 効 果 的 に 調 べ ま と め る 技 能 を 身 に 付 け さ せ る	○ 効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる活動 ・ コラム 「スキル・アップ」 ・ 活動例 「地図帳の統計資料の使い方」 「地図帳を使った国や都市の探し方」 「方位の示し方」 ○ 随所に「えんぴつマーク」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。 ○ 特設ページにおいて、身に付けた技能を活用する活動を設定している。 ・ 特設ページ 「資料から発見！」 ・ 活動例 「資料を比較して考える」 「資料を結び付けて考える」 ○ 中項目「地域調査の手法」の示し方 ・ 学習課題「自分たちが住んでいる身近な地域には、どのような課題があるでしょうか」 ・ 視点「自然環境」、「人口や都市・村落」、「産業」、「交通・通信」、「生活・文化」(計5つ) ・ 学習内容の取り扱いについて 「調査テーマを決める」、「仮説を立てる」、「調査計画を立てる」、「調査を行う」、「調査結果をまとめる」、「発表する」と展開する構成。	○ 効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる活動 ・ コラム 「地理の技」 ・ 活動例 「世界の略地図を描いてみよう①」 「テープを使って地球儀上で方位と距離を確かめよう」 「世界の略地図を描いてみよう②」 ○ 随所に「THINK!」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。 ○ 中項目「地域調査の手法」の示し方 ・ 学習課題「地域を調べることを通して、身近な地域にはどのような特徴があるのか、明らかにしていこう」 ・ 視点「川と地域(自然環境)」「住宅地の開発(人口・都市)」「農業や工業(産業)」「ショッピングモール(商業)」「石碑や記念碑(歴史・文化)」「鉄道や道路(交通)」(計6つ) ・ 学習内容の取り扱いについて 「地域をながめて」「調査の計画を立てる(テーマの決定)」「地形図を使って調べる(1)(2)」「地域の防災について調べる」「調査の結果をまとめる」「他の地域と比べる」と展開する構成。	○ 効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる活動 ・ コラム 「技能をみがく」 ・ 活動例 「地図帳の統計資料の使い方」 「時差の調べ方」 「地形図の使い方①～地図記号と縮尺～」 ○ 随所に「資料活用マーク」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。 ○ 中項目「地域調査の手法」の示し方 ・ 学習課題「学校周辺の地域にはどのような特色があり、それらを調べるには、どのような方法があるのだろうか」 ・ 視点「自然環境」「人口や都市」「産業」「交通や通信」「環境保全」「生活・文化」(計6つ) ・ 学習内容の取り扱いについて 「調査テーマを決める」「調査方法を考える」「野外調査をする」「文献調査をする・まとめる」と展開する構成。	○ 効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる活動 ・ コラム 「スキルUP」 ・ 活動例 「統計資料を活用する」 「地図を活用する」 「写真を活用する」 ○ 随所に「資料活用マーク」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。 ○ 中項目「地域調査の手法」の示し方 ・ 学習課題「身近な地域の特色は、どのように調査を進めていけばとらえられるのでしょうか」 ・ 視点「自然環境」「人口や都市・村落」「産業」「交通・通信」「その他」(計5つ) ・ 学習内容の取り扱いについて 「地形図のしくみと約束を知る」「デジタル地図を活用する」「調査テーマを決める 調査計画を立てる」「調査を進める(1)」「調査を進める(2)」「地域の特色を考察してまとめ、発表する」と展開する構成。

観 点	視 点	発行者			
		東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版
観 点 2	れ 様 を 々 基 に 資 料 を し 有 効 に 活 用 し た こ と を 説 明 し た り、 そ	○ 思考・判断したことを説明する活動 - 本文ページの「トライ」 - 活動例 「次の語句を使って説明しましょう」 「どのような影響をあたえているか説明しましょう」 ○ どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所 「導入の活動」 「まとめの活動」 「えんぴつマーク」 「スキル・アップ」 - 特設ページ「資料から発見！」 - コーナー「みんなでチャレンジ」 ○ 「思考・判断したことを説明する活動」の示し方 【例】中国・四国地方の「まとめの活動」 - 見方・考え方として「結び付き・地域」を付した「見方・考え方を働かせて探究課題に答えよう」を掲載している。 「交通や通信」に注目して、中国・四国地方についてまとめた図(途中のもの)を掲載し、人々の生活や産業などへの影響を考える活動を設定している。 - コーナー「みんなでチャレンジ」を設け、グループで分担して表を完成させる活動や、共通点について話し合う活動を設定している。 ○ 「まとめの活動」での「対話的な学び」の示し方 【例】中国・四国地方 「グループ活動」と「個人活動」を行うコーナー「みんなでチャレンジ」を掲載。 - 活動例 「となりの人と、左ページの『探究のステップ』で取り上げた資料や文章を発表し合ひましょう。」 「(2)で完成した図を基に、交通・通信網の発達によって、人々の生活や産業がどのような影響を受けるものなのか、その共通点について話し合ひましょう。」 「時間があれば、交通・通信の発達が地域にもたらす課題について、話し合ってみましょう。」	○ 思考・判断したことを説明する活動 - 本文ページの「表現」 - 活動例 「原因を説明しよう」 「〇〇と関連付けて説明しよう」 ○ どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所 - 第〇編 - 第〇章 ○ 「思考・判断したことを説明する活動」の示し方 【例】中国・四国地方の「学習のまとめと表現」 「学習したことを振り返ろう」を掲載している。 「中国・四国地方の人口が集中している地域と人口が減少している地域の地形や交通網を比べてまとめる活動を設定している。 - 広島市を例にして、人口が増加することのプラス面とマイナス面について、思考ツールであるバタフライチャートにまとめる活動を設定している。 - キャラクターの吹き出しで、「広島市の人口が増えると、まわりの町はどうなるのかな。」と示している。 ○ 「学習のまとめと表現」での「対話的な学び」の示し方 【例】中国・四国地方 「学習したことを活用してまとめよう」 - 活動例 「あなたは、地域おこし協力隊の隊員として、過疎が進んだ中国・四国地方の山間部のまちに移り住みました。地域おこしのためにどのようなことに取り組みたいと思いますか。実際の事例を調べ、自分なりにまとめて、グループで話し合おう。」 「取り組みたいこと」と「調べた実際の事例」を記入する表を掲載。	○ 思考・判断したことを説明する活動 - 本文ページの「説明しよう」 - 活動例 「〇〇と関連付けて説明しよう」 「〇〇に着目して説明しよう」 ○ どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所 「学習を振り返ろう」 - 各節の問い ○ 「思考・判断したことを説明する活動」の示し方 【例】中国・四国地方の「学習を振り返ろう」 「節の問いについて、図でまとめよう」、「節の問いについて、考えを深めよう」、「節の問いを踏まえて地域の特色をまとめよう」の「節の振り返り2」を掲載している。 「交通網の整備に着目して中国・四国地方をまとめた例」を掲載し、続きを完成させる活動を設定している。 - 対話マークを付し、グループで理由を発表したり、地域の特色を示すタイトルをつける活動を設定している。 ○ 「学習を振り返ろう」での「対話的な学び」の示し方 【例】中国・四国地方 「節の問いについて、考えを深めよう」に「対話マーク」を付している。 - 活動例 「グループになって選んだ写真や資料とその理由を発表し合おう。そして、あなたたちだけの『写真で眺める中国・四国地方』をつくり、地域の特色を示すタイトルをつけよう。」	○ 思考・判断したことを説明する活動 - 本文ページの「表現」 - 活動例 「〇〇に着目して説明しましょう」 「〇〇との関連を説明しましょう」 ○ どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所 - 第〇編 - 第〇章 - 本文ページの学習課題 ○ 「思考・判断したことを説明する活動」の示し方 【例】中国・四国地方の「まとめとふり返り」 「学び合いマーク」を付した「自分の考えをまとめよう」を掲載している。 - 表を活用し、「学習したことを整理して、交通網・通信網の整備によるメリット・デメリット・影響と課題について考察する活動を設定している。 ○ 「まとめとふり返り」での「対話的な学び」の示し方 【例】中国・四国地方 「議論してみよう」に「学び合いマーク」を付している。 - 活動例 「中国・四国地方にみられる地域の課題『過疎化・高齢化した地域の活性化』の取り組みの例として、四国では四国新幹線構想が話題となっています。持続可能な社会の観点から、四国新幹線の整備に賛成か反対か、グループで議論しましょう。」 「事実・根拠」、「理由付け・考察」、「主張・結論」の記入例が示された表を掲載

観 点	視 点	発行者			
		東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版
観 点 3	④ た め 興 味 工 夫 関 心 を 持 た せ 、 見 通 し を 立 て た り 、 学 習 を 振 り 返 っ て 次 に つ な げ た り す る	○ 小項目「アジア州」冒頭ページの資料等の掲載 【例】「観光客も多く訪れるシンガポール」 「高さ200m以上の高層ビルの数」等 ・「アジア州で学んでいくこと」 ・アジア州の主な国の国旗とあいさつ ・「聞かせて！中学生」 ○ 中項目「世界の諸地域」、「日本の諸地域」において、各小項目の冒頭に「聞かせて！中学生」を設け、各州に暮らす人々の生活の様子について掲載している。また、随所に「ソウルで生活するパクさん」等のコーナーを設け、国内外の人の声を掲載している。 ○ 小項目のタイトルの上にサブタイトルを示している。 【例】 アフリカ州 「砂漠や熱帯雨林だけじゃない」 「豊かな資源や農産物、でも…」 「変わりつつあるアフリカ」 ○ 小項目の課題の示し方 【例】 アジア州 「探究課題」として、「アジア州をながめて」を学習した後に、資料から読み取った情報を基にして、「アジア州の経済発展は、地域にどのような影響をあたえているのでしょうか」と課題を掲載し、学習の見通しを立てる活動を設定している。また、冒頭のページの「アジア州で学んでいくこと」では、節を通して学習する課題を1つずつ示している。 ○ 「振り返り」の示し方 【例】 中国・四国地方 ・「まとめの活動」で「探究のステップでふり返ろう」を設け、「探究のステップ」マークを付し、学習の視点を示し、交通網や通信網の発達の様子が分かる資料や文章を探し、学習内容を振り返る活動を設定している。	○ 小項目「アジア州」冒頭ページの資料等の掲載 【例】「スラムと高層ビル」 「女性のための学校」等 ・学習テーマ ・節で学習内容についての説明 ・関連するSDGsマーク ・アジア州で学習する地球的課題 ○ 中項目「世界の諸地域」、「日本の諸地域」において、随所に「サモアの中学生、ティナさん」等のコーナーを設け、国内外の人の声を掲載している。 ○ 小項目のタイトルの下にサブタイトルを示している。 【例】 アフリカ州 「赤道の南北に広がる大陸」 「アフリカの農業からみえる課題」 「アフリカの資源からみえる課題」 ○ 小項目の課題の示し方 【例】 アジア州 「学習テーマ」として、資料から読み取った情報を基にして、節で学習する内容についての説明とともに、「アジアにおける急速な経済発展は、地域にどのような変化をもたらしたのだろうか」と課題を掲載し、学習の見通しを立てる活動を設定している。また、「アジアで学習する地球的課題」として、節で学習する地球的課題との関連を示している。 ○ 「振り返り」の示し方 【例】 中国・四国地方 ・「学習したことを活用してまとめよう」で「地域おこしのためにどのようなことに取り組みたいと思うか」について、実際の事例を調べ、まとめ、学習内容を振り返る活動を設定している。	○ 小項目「アジア州」冒頭ページの資料等の掲載 【例】「キムチを漬け込む行事」 「空中散歩を楽しむ植物園」等 ・アジア州の学習を見通そう ・アジア州の主な国の国旗 ・「地図帳活用マーク」 ○ 中項目「世界の諸地域」、「日本の諸地域」において、随所に「観光客に案内する人の話し」等のコーナーを設け、国内外の人の声を掲載している。 ○ 小項目の課題の示し方 【例】 アジア州 「節の問い」として、資料から読み取った情報を基にして、「アジア州では、急速に経済が成長したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか」と課題を掲載し、学習の見通しを立てる活動を設定している。また、「アジア州の学習を見通そう」で、今後の学習について説明している。 ○ 「振り返り」の示し方 【例】 中国・四国地方 ・「学習を振り返ろう」で「振り返り」を設け、「節の問いの解決に向けて主体的に取り組むことができたか」、「節の学習を終えて、新たな疑問や探究したいこと、深めたいこと」について振り返る活動を設定している。	○ 小項目「アジア州」冒頭ページの資料等の掲載 【例】「多くの帰省客でにぎわうジャンハイの駅」 「ヒマラヤ山脈」等 ・アジア州の基礎データ ○ 中項目「世界の諸地域」、「日本の諸地域」において、随所に「中国で会社を営む澤田さんの話し」等のコーナーを設け、国内外の人の声を掲載している。 ○ 小項目の課題の示し方 【例】 アジア州 「節の問い」として、アジアの自然環境と人々のかかわりを学習した後に「アジアの国々はどうのように経済発展しているでしょうか。」と示し、学習の見通しを立てる活動を設定している。また、「学習の見通しをもとう」では、節を通して学習するキーワードを示している。 ○ 「振り返り」の示し方 【例】 中国・四国地方 ・「まとめとふり返り」で「第2節の学習をふり返ろう」を設け、学習を始める前と比べて、考えが変わったことや新たにわかったこと、考えが深まったこと、これからの学習や生活に生かしていきたいことや、考え続けていきたいことについて振り返る活動を設定している。

観 点	視 点	発行者			
		東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版
観 点 3	夫を尊我重がし国よの国と土にする対この愛情、世界ついで域独自の寛多す様な生活の文工化	⑤ ○ 日本の領域の範囲におけるコーナー等の掲載 ・「みんなでチャレンジ」を設けている。 ・ 学習課題 「日本周辺の島々について考えよう」として、「沖ノ鳥島が生み出す、日本の排他的経済水域の面積を半径370kmの円とみなして計算し、国土の面積と比較しましょう。」、「周辺の島々が領土であることの意味について、グループで話し合いましょう。」 ○ 中項目「世界各地の人々の生活と環境」において、課題を「世界各地の人々の暮らしは、場所によってどのようなちがひがあるでしょうか。」と示している。また、中項目最後の「まとめの活動」において、これまで学習してきたことを振り返りながら、見方・考え方を働かせて、世界旅行を企画する活動を設定している。 ○ 中項目「世界各地の人々の生活」の「人々の生活に根付く宗教」において、生活と宗教との関わりについて「日曜日に教会で礼拝する人々」、「ハラルの認証を受けた納豆」等の資料を掲載している。また、コラム「もっと知りたい」において、日本の生活と宗教とのかかわりについて掲載している。 ○ 世界の主な宗教の分布について、「世界の主な宗教の分布」を掲載している。また、コーナー「スキル・アップ」を設け、分布図の読み取り方を学習する活動を設定している。	○ 日本の領域の範囲におけるコーナー等の掲載 ・「THINK！」を設けている。 ・ 学習課題 「資料1、4を見て、排他的経済水域を含めた面積からみた、島国としての日本の特徴をまとめよう。」、「沖ノ鳥島が属する都道府県はどこか、調べよう。」 ○ 中項目「世界各地の人々の生活と環境」において、課題を「各地の人々の生活・文化と自然との関わりについてみていこう。」と示している。また、中項目最後の「学習のまとめと表現」において、これまで学習してきたことを振り返る活動を設定している。 ○ 中項目「世界各地の人々の生活」の「さまざまな宗教と人々の暮らし」において、生活と宗教との関わりについて「キリスト教、イスラム教、仏教と日常の暮らし」、「フィギュアスケートの国際大会に出場したアラブ首長国連邦のイスラム教徒の選手」等の資料を掲載している。また、コラム「地理の窓」において、宗教をめぐる共存と対立について掲載している。 ○ 世界の主な宗教の分布について、「世界の主な宗教の分布」を掲載している。	○ 日本の領域の範囲におけるコーナー等の掲載 ・「資料活用マーク」を付している。 ・ 学習課題 「排他的経済水域の面積が国土面積よりも広い国の特徴に注目しよう。」 ○ 中項目「世界各地の人々の生活と環境」において、課題を「世界各地の人々の生活は、自然環境や宗教とどのような関わりがあるのだろうか。」と示している。また、中項目最後の「学習を振り返ろう」において、これまで学習してきたことを振り返る活動を設定している。 ○ 中項目「世界各地の人々の生活」の「人々の生活と宗教の関わり」において、生活と宗教との関わりについて「教会で祈りをささげる人々」、「牛が自由に歩いているインドの街」等の資料を掲載している。 ○ 世界の主な宗教の分布について、「世界の主な宗教の分布」を掲載している。	○ 日本の領域の範囲におけるコーナー等の掲載 ・「トライ」を付している。 ・ 学習課題 「6を見て、1～4の島と東京のおよその距離をはかりましょう。」 ○ 中項目「世界各地の人々の生活と環境」において、課題を「世界各地の人々の生活は、なぜ場所によって異なるのでしょうか。」と示している。また、中項目最後の「まとめとふり返し」において、これまで学習してきたことを振り返りながら、写真を見て気候を予想していく活動を設定している。 ○ 中項目「世界各地の人々の生活」の「さまざまな宗教と人々の生活」において、生活と宗教との関わりについて「修行をする仏教の僧侶に寄付をする人々」、「神社への初詣」等の資料を掲載している。 ○ 世界の主な宗教の分布について、「世界の宗教の分布」を掲載している。また、コーナー「スキルUP」を設け、主題図の読み取り方を学習する活動を設定している。

観 点	視 点	発行者			
		東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版
観 点 4 内 容 の 構 成 ・ 配 列 ・ 分 量	⑥ 単 元 ・ 題 材 や 資 料 等 の 配 列 ・ 分 量	○ 地域的特色と地域区分の取り扱い方(教科書掲載順) 九州地方「自然環境」 中国・四国地方「交通・通信」 近畿地方「人口、都市・村落」 中部地方「産業」 関東地方「交通・通信」 東北地方「伝統的な産業、生活・文化」 北海道地方「自然環境」 ○ 世界の諸地域と各州の地球的課題の取り扱い方(教科書掲載順) アジア州「経済発展」 ヨーロッパ州「国家間の統合」 アフリカ州「国際的な支援」 北アメリカ州「移民と経済」 南アメリカ州「開発と環境保全」 オセアニア州「他地域との結び付き」 ○ 総ページ数 294ページ 「世界と日本の地域構成」 26ページ 「世界のさまざまな地域」 110ページ 「日本のさまざまな地域」 136ページ 用語解説 4ページ さくいん 4ページ 巻末資料 3ページ ○ サイズAB版 重さ 約559g	○ 地域的特色と地域区分の取り扱い方(教科書掲載順) 九州地方「自然環境とその保全」 中国・四国地方「人口集中や人口減少」 近畿地方「歴史」 中部地方「産業」 関東地方「交通・通信」 東北地方「地域の伝統文化と産業の変化」 北海道地方「自然環境と関連する産業」 ○ 世界の諸地域と各州の地球的課題の取り扱い方(教科書掲載順) アジア州「人口問題」 ヨーロッパ州「環境問題」 アフリカ州「人口問題、食料問題」 北アメリカ州「多民族の共存の問題」 南アメリカ州「環境問題、都市問題」 オセアニア州「多民族の共存の問題」 ○ 総ページ数 310ページ 「世界と日本の地域構成」 20ページ 「世界のさまざまな地域」 103ページ 「日本のさまざまな地域」 157ページ 用語解説 6ページ さくいん 4ページ 巻末資料 3ページ ○ サイズAB版 重さ 約596g	○ 地域的特色と地域区分の取り扱い方(教科書掲載順) 九州地方「自然環境」 中国・四国地方「交通・通信」 近畿地方「環境保全」 中部地方「産業」 関東地方「人口、都市・村落」 東北地方「生活・文化」 北海道地方「自然環境」 ○ 世界の諸地域と各州の地球的課題の取り扱い方(教科書掲載順) アジア州「都市・居住問題」 ヨーロッパ州「経済格差」 アフリカ州「食料問題」 北アメリカ州「精算と消費の問題」 南アメリカ州「熱帯雨林の破壊」 オセアニア州「多文化の共生」 ○ 総ページ数 310ページ 「世界と日本の地域構成」 24ページ 「世界のさまざまな地域」 102ページ 「日本のさまざまな地域」 166ページ さくいん 4ページ 巻末資料 3ページ ○ サイズAB版 重さ 約594g	○ 地域的特色と地域区分の取り扱い方(教科書掲載順) 九州地方「自然環境」 中国・四国地方「交通・通信」 近畿地方「歴史的背景」 中部地方「産業」 関東地方「人口、都市・村落」 東北地方「持続可能な社会づくり」 北海道地方「自然環境」 ○ 世界の諸地域と各州の地球的課題の取り扱い方(教科書掲載順) アジア州「経済発展の地域格差や都市問題」 ヨーロッパ州「統合のかけで広がる格差と対立」 アフリカ州「モノカルチャー経済からの自立」 北アメリカ州「大量生産・大量消費のスタイル」 南アメリカ州「熱帯雨林の伐採による環境問題」 オセアニア州「多様な民族の共生」 ○ 総ページ数 318ページ 「世界と日本の地域構成」 24ページ 「世界のさまざまな地域」 104ページ 「日本のさまざまな地域」 163ページ 統計資料 4ページ 用語解説 4ページ さくいん 4ページ 巻末資料 4ページ ○ サイズAB版 重さ 約602g
	⑦ 発 展 的 な 学 習 に 関 する 内 容 の 記 述 の 状 況	○ コラムや特設ページの示し方 ・ 「もっと知りたい」 ・ 「未来にアクセス」 ・ 「資料から発見！」 ○ 中項目「世界の諸地域」でのSDGsの示し方 ・ 「導入の活動」で「SDGsから『地球的課題』を考えよう」を設けている。 ・ コラム「未来にアクセス」を設け、「SDGsって何だろう」を掲載している。 ・ 「まとめの活動」において、各州でとらえた地球的課題をSDGsと関連付けるようにしている。 ○ 中項目「地域の在り方」において、持続可能な開発目標を冒頭に示し、「課題を見つける」、「構想テーマを決める」、「情報を集める」、「要因を考察する」、「対策を考える」、「発表する」の順で掲載し、身近な地域の地域の特色や課題について、有効に活用して思考・判断したことを説明する活動を設定している。	○ コラムや特設ページの示し方 ・ 「地理の窓」 ・ 「持続可能な社会に向けて」 ○ 中項目「世界の諸地域」でのSDGsの示し方 ・ 各小項目冒頭において、写真の付近に関連するSDGsを示している。 ・ 「学習のまとめと表現」で「学習したことを確認しよう」の横に関連するSDGsを示している。 ・ 特設ページ「持続可能な社会に向けて」でタイトルの付近に関連するSDGsを示している。 ○ 中項目「地域のあり方」において、農村や都市の課題を例に出し、「地域の課題をとらえよう」、「地域の課題を調べよう」、「地域の特色をまとめよう」、「調査結果を整理しよう」、「調査結果を地域に伝えよう」の順で掲載し、身近な地域を観察し、調査テーマを決定し、集めた情報をもとに、身近な地域の地域の特色や課題について、有効に活用して思考・判断したことを説明する活動を設定している。	○ コラムや特設ページの示し方 ・ 「アクティブ地理」 ・ 「未来に向けて」 ・ 「地理プラス」 ○ 中項目「世界の諸地域」でのSDGsの示し方 ・ 特設ページ「アクティブ地理」で「課題解決に向けた取り組みやSDGsとの関連を示している。 ○ 中項目「地域の在り方」において、持続可能な社会を考え続けるために、地球的課題を冒頭で示し、「テーマを決める」、「実態を調査する」、「課題を考察する」、「解決策を構想する」、「解決策を提案する」の順で掲載し、調査をして、身近な地域の地域の特色や課題について、有効に活用して思考・判断したことを説明する活動を設定している。	○ コラム・特設ページの示し方 ・ 「持続可能な地域を目指して」 ・ 「地理＋α」 ○ 中項目「世界の諸地域」でのSDGsの示し方 ・ 「学習のはじめに」にSDGsと地球的課題を関連付けて示している。 ・ 「まとめとふりかへり」にSDGs関連マークを付している。 ・ 特設ページ「持続可能な地域を目指して」にタイトルの横にSDGs関連マークを付している。 ・ コラム「地理＋α」でSDGs関連マークを付している。 ○ 中項目「地域の在り方」において、より良い地域の将来像を構想するため、「考察・構想する」、「テーマを決める」、「課題の解決策の考察する」、「情報を集めて構想する」、「構想した内容を整理してまとめる」、「構想した内容を発信する」の順で掲載し、身近な地域の地域の特色や課題について、有効に活用して思考・判断したことを説明する活動を設定している。

観 点	視 点	発行者			
		東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版
観 点 5 内 容 の 表 現 ・ 表 記	⑧ ウ ェ ブ 文 の 記 述 と 適 切 な 示 し 方 ・ 写 真 ・	○ 広島に関連する資料の示し方 【例】中項目「中国・四国地方」 「自転車の通行も可能なしまなみ海道」、「原爆ドーム」、「上空から見た自動車工場と積み出し港」 ○ 中項目「地域の在り方」に、広島に関連する資料として、「平和記念公園」、「広島駅にある観光案内所」、「上空から見た広島市」、「広島市と京都市を訪れる外国人観光客数」、「広島市のホームページに掲載されている将来計画の例」、「平和記念公園から宮島に行く観光船の乗り場を観察した様子」、「広島と京都市の観光団体が連携したことを伝える新聞記事」を掲載している。 ○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、各学習課題やタイトルの隣等に二次元コードを掲載している。また、二次元コード付近には「Dマーク」「D-MOVEマーク」等を付している。	○ 広島に関連する資料の示し方 【例】中項目「中国・四国地方」 「太田川の三角州」、「広島市内の商店街」、「1898年ごろの広島市」、「広島市の人口・面積の変化」、「1950年ごろ、2019年ごろの広島市」、「原爆ドーム前を通る被爆した路面電車」、「広島高等裁判所」、「全線開通から40年ほどで廃止されたJR三江線」 ○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、コラム「地理の技」等に二次元コードを掲載している。また、二次元コードには「リンク」、「動画」、「クイズ」マークを付している。	○ 広島に関連する資料の示し方 【例】中項目「中国・四国地方」 「厳島神社」、「世界文化遺産の厳島神社と宮島にある平清盛の像」、「鞆の浦と仙酔島」、「土砂災害の仕組みを学ぶ小学生」 ○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、各章・各節のタイトル の隣等に二次元コードを掲載している。	○ 広島に関連する資料の示し方 【例】中項目「中国・四国地方」 「本州と四国を結ぶ瀬戸内しまなみ海道」、「厳島神社」、「中国山地」、「鞆の浦」、「原爆ドーム」、「ヒロシマ・アーカイブ」 ○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、各学習課題の隣や「学習のはじめに」等に二次元コードを掲載している。また、対応する箇所には「タブレットマーク」を付している。
	⑨ 他 教 科 や 他 分 野 、 日 常 生 活 等 と の 関 連 の 示 し 方	○ 「教科関連マーク」を付し、他教科との関連を示している。また、「分野関連マーク」を付し、社会科の他分野との関連を示している。 ○ 自然災害の示し方 ・ 小項目「日本でみられるさまざまな自然災害」 ・ 本文で地震や津波等の自然災害を説明している。 ・ 「東日本大震災を伝える新聞記事」、「豪雨により浸水した住宅地」等の資料を掲載。 ・ コラム「もっと知りたい」を設け、人間の活動と災害との関係を掲載。 ・ 「もっと解説」で「液状化」についての説明を掲載。 ○ 小項目「防災・減災に向けた取り組みと課題」の示し方 ・ 本文で説明 ・ 学習課題「防災・減災のために、国や市町村などではどのような取り組みを行っているでしょうか。」 ・ 小見出し「災害への対応と支援」 「災害の被害を小さくする工夫」 「自助・共助と防災の課題」 ・ 「えんぴつマーク」 ・ もっと解説「南海トラフ」	○ 「関連コーナーマーク」を付し、社会科の他分野との関連を示している。 ○ 自然災害の示し方 ・ 小項目「自然災害に向き合う」 ・ 本文で地震や津波等の自然災害を説明している。 ・ 「日本周辺で発生した主な地震と活断層の分布図」、「土砂に押し流された住宅」等の資料を掲載。 ・ コラム「地理の窓」で「川の地形と液状化現象」を掲載。 ○ 小項目「災害から身を守るために」の示し方 ・ 本文で説明 ・ 学習課題「災害から身を守るために、国や県、地域社会ではどのような努力がなされているのでしょうか。」 ・ 小見出し「災害予測の大切さ」 「災害への支援と復興」 ・ コーナー「THINK!」 ・ コラム「地理の窓」 「釜石市の津波防災教育」	○ 「小学校・歴史・公民との関連」マークを付し、社会科の他分野との関連を示している。 ○ 自然災害の示し方 ・ 小項目「日本のさまざまな自然災害」 ・ 本文で地震や津波等の自然災害を説明している。 ・ 「熊本地震で被害を受けた熊本城の石垣」、「火山の恵みと火山災害」等の資料を掲載。 ○ 小項目「自然災害に対する備え」の示し方 ・ 本文で説明 ・ 学習課題「自然災害からの被害を防いだり減らしたりするために、どのような取り組みが行われているのだろうか。」 ・ 小見出し「防災・減災の取り組み」 「災害発生時の対応」 ・ 「地図帳活用」マーク ・ コラム「未来に向けて」 「避難所での高齢者への支援」 ・ 解説①「南海トラフ」、解説②「津波と高潮」	○ 「歴史・公民」の学習との関連マークを付し、学習のつながりを示している。 ○ 自然災害の示し方 ・ 小項目「自然災害からみた日本の地域的特色と地域区分」 ・ 本文で地震や津波等の自然災害を説明している。 ・ 「東日本大震災で沿岸部をおそった津波」、「少雨によって干上がったダム」等の資料を掲載。 ○ 小項目「災害にそなえるために」の示し方 ・ 本文で説明 ・ 学習課題「自然災害から地域や人々の生活を守るために、私たちはどのような取り組みをするべきでしょうか。」 ・ 小見出し「防災・減災へのくふう」 「どのように災害と向き合うか」 ・ コーナー「トライ」

令和6年7月/2日

広島市教科用図書採択審議会会長 様

広島市教科用図書採択審議会調査員

教科 [社会] 種 目 [歴史的分野]

代表者

寺川 勇一

令和7年度使用広島市立中学校用教科用図書の調査・研究について（報告）

このことについて、別紙のとおり調査・研究結果をまとめましたので、報告します。

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教 科 [社会] 種 目 [歴史的分野]

2 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、人類が決して忘れてはならない原爆ドームなど、平和の原点となる場所や、古代から現代にいたる歴史的建造物や遺構などが多数存在し、身近な地域の調査や体験活動を通して、歴史を直接感じることができる地域であり、G7 サミットが開催されるなど世界中の多くの人が訪れる地域である。
- 本市の生徒は、耳慣れた歴史上の人物や出来事に対する興味・関心は高く、タブレット端末を活用したり、文献や地図、統計などの歴史学習に関わる諸資料から情報を収集したりする力は身に付いているが、歴史の大きな流れや特色を理解する力、学習課題の解決の見通しを立て、収集した情報を課題解決に向けてまとめながら、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題がある。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜知識及び技能の習得＞	① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するための工夫 ② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫
＜思考力、判断力、表現力等の育成＞	③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ⑤ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする事の大切さについて自覚するための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
＜内容の表現・表記＞	⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教 科 [社会] 種 目 [歴史的分野]

2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観 点	視 点	発 行 者								
		東京書籍	教育出版	帝国書院	山川出版社	日本文教出版	自由社	育鵬社	学び舎	令和書籍
観 点 1	① 我が国の歴史の大きな流れについて、各時代の特色を踏まえて理解するため 知識及び技能の習得	○ 中項目「私たちと歴史」において、「時期や年代の表し方」、「歴史の流れのとらえ方」、「時代の特色のとらえ方」を掲載している。	○ 中項目「私たちと歴史」において、「年代の表し方と時代の分け方」、「歴史ゲームで遊ぼう」、「歴史にアプローチ～歴史の見方・考え方と学習の進め方」を掲載している。	○ 中項目「私たちと歴史」において、「年代の表し方と時代区分」を掲載している。	○ 中項目「私たちと歴史」において、「私たちの歴史」を掲載している。	○ 中項目「私たちと歴史」において、「年代・時代区分のあらわし方」、「『歴史的な見方・考え方』とは？」を掲載している。	○ 中項目「私たちと歴史」において、「歴史と物語と史料」、「年代の表し方と時代区分」を掲載している。	○ 中項目「私たちと歴史」において、「時代や年代区分の表し方」、「歴史的な見方・考え方を働かせる」、「歴史の流れと先人の活躍」を掲載している。	○ 中項目「私たちと歴史」において、「歴史と出会うー6月23日、沖縄で」、「歴史を楽しく学ぼう」、「年代のあらわし方、時代区切り方」を掲載している。	○ 中項目「私たちと歴史」において、「国史を学ぶにあたって」を掲載している。
		○ 小項目の各ページにおいて、歴史の大きな流れを理解するために、右側へ背景とは異なる色の縦向きの年表を掲載している。また、学習している時代に色をつけて示している。	○ 小項目の各ページにおいて、歴史の大きな流れを理解するために、学習課題の上に横向きの年表を掲載している。また、学習している時代に色をつけて示している。	○ 小項目の各ページにおいて、歴史の大きな流れを理解するために、右側に背景が白色の縦向きの年表を掲載している。また、学習している時代に色をつけて示している。		○ 小項目の各ページにおいて、歴史の大きな流れを理解するために、右側に背景が白色の縦向きの年表を掲載している。また、学習している時代に色をつけて示している。	○ 小項目の各ページにおいて、歴史の大きな流れを理解するために、下側へ交互に色を付けた横向きの年表を掲載している。また、学習している時代に色をつけて示している。	○ 小項目の各ページにおいて、歴史の大きな流れを理解するために、下側に背景が白色の横向きの年表を掲載している。また、学習している時代に色をつけて示している。		
		○ 綴じ込みで年表を掲載し、世界の動きと日本の歴史との関連を示すために、朝鮮・中国・欧米の欄を設けている。また、対応している時代区分を同色で示している。	○ 綴じ込みで年表を掲載し、世界の動きと日本の歴史との関連を示すために、朝鮮・中国・西洋の欄を設けている。	○ 綴じ込みで年表を掲載し、世界の動きと日本の歴史との関連を示すために、朝鮮・中国・西洋の欄を設けている。		○ 綴じ込みで年表を掲載し、世界の動きと日本の歴史との関連を示すために、朝鮮・中国・外国とのつながりの欄を設けている。	○ 綴じ込みで年表を掲載し、世界の動きと日本の歴史との関連を示すために、朝鮮・中国・西洋の欄を設けている。	○ 綴じ込みで年表を掲載し、世界の動きと日本の歴史との関連を示すために、朝鮮・中国・西洋の欄を設けている。	○ 年表を掲載し、世界の動きと日本の歴史との関連を示すために、朝鮮・中国の欄を設けている。	

観点	視点	発行者								
		東京書籍	教育出版	帝国書院	山川出版社	日本文教出版	自由社	育鵬社	学び舎	令和書籍
観点1 知識及び技能の習得	② の工様な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるため	○ コラム「スキル・アップ」において、「系図から読み取ろう」、「風刺画を読み解こう」等、社会的事象等について効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる活動を設定している。	○ コラム「歴史の技」において、「系図を読み解こう」、「新聞を読み解こう」等、社会的事象等について効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる活動を設定している。	○ コラム「技能をみがく」において、「系図の見方」、「情報の意図を読み解く」等、社会的事象等について効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる活動を設定している。	○ 特設ページ「歴史を考えよう」において、「地図で何が変わったかくら比べてみよう」、「動物たちを用いて表現したのはなぜだろうか」等、社会的事象等について効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる活動を設定している。	○ コラム「スキルUP」において、「系図の読み取り方」、「図書館での調べ方」等、社会的事象等について効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる活動を設定している。				
		○ 随所に「えんぴつマーク」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。	○ 随所に「TRY!」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。	○ 随所に「資料活用マーク」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。	○ 随所に「Qマーク」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。			○ 随所に「資料活用マーク」、「見方・考え方」マークを付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。		
		○ 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方 ・ 学習課題「身近な地域の歴史について調べるには、どのような方法があるでしょうか」 ・ 学習内容の取り扱いについて 「テーマと問いの設定」、「調査」、「考察」、「まとめと発表」、「ふり返り」と展開する構成	○ 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方 ・ 学習課題「身近な地域の歴史を調べる学習の方法について学びましょう」 ・ 学習内容の取り扱いについて 「情報を集めて問いを立てよう」、「実際の調査を進めよう」、「整理して考察しよう」、「調査の結果をまとめよう」、「発表して振り返ろう」と展開する構成	○ 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方 ・ 学習課題 記載なし ・ 学習内容の取り扱いについて 「テーマを決める」、「資料を調べたり実際に見たりする」、「まとめ」、「発表する」と展開する構成	○ 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方 ・ 学習課題 記載なし ・ 学習内容の取り扱いについて 「テーマを設定しよう」、「さあ調査だ!」、「レポートをつくって発表しよう!」と展開する構成	○ 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方 ・ 学習課題「私たちが住む地域には、どのような歴史があるのでしょいか」 ・ 学習内容の取り扱いについて 「テーマの決定」、「課題の調査」、「考察とまとめ」と展開する構成	○ 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方 ・ 学習課題「堺市の歴史を調べよう」 ・ 学習内容の取り扱いについて 「古墳を調査」、「港を調査」、「千利休の屋敷跡を調査」、「堺事件を調査」と展開する構成	○ 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方 ・ 学習課題 記載なし ・ 学習内容の取り扱いについて 「テーマを決める」、「調査をする」、「分類・分析・整理する」、「発表する(まとめ)」と展開する構成	○ 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方 ・ 学習課題 記載なし ・ 学習内容の取り扱いについて 「地域の博物館で調べる」、「地域の歴史を歩く」と展開する構成	○ 中項目「(2)身近な地域の歴史」の示し方 ・ 学習課題 「グループで歴史を調べよう」 ・ 学習内容の取り扱いについて 「テーマを決める」、「疑問を持つ」、「調べる」、「まとめる」、「発表する」、「振り返る」と展開する構成

観点	視点	発行者								
		東京書籍	教育出版	帝国書院	山川出版社	日本文教出版	自由社	育鵬社	学び舎	令和書籍
観点2 思考力、 判断力、 表現力等の 育成	③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫	○ 思考・判断したことを説明する活動 ・ 本文ページの「トライ」 ・ 活動例「○○に着目して説明しましょう」「○字程度で説明しましょう」 ○ どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所 ・ 「導入の活動」 ・ 「まとめの活動」 ・ 「えんぴつマーク」 ・ 特設ページ「資料から発見！」 ・ 特設ページ「地域の歴史を調べよう」 ・ 特設ページ「もっと知りたい」 ・ コーナー「みんなでチャレンジ」 ○ 各中項目の最後に、「まとめの活動」を設け、くらげチャートやフィッシュボーン図等の思考ツールを用いながら、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。 ○ 各中項目最後の「まとめの活動」において、コーナー「みんなでチャレンジ」を設け、「意見を交換する」、「他の人と見せ合い、加筆・修正しましょう」等の活動を設定している。 ○ 「個人活動」と「グループ活動」を行う、コーナー「みんなでチャレンジ」を設け、「グループ内でそれぞれの考えを発表し、話し合ひましょう」、「グループで意見を交換しましょう」等の活動を設定している。	○ 思考・判断したことを説明する活動 ・ 本文ページの「表現」 ・ 活動例「特色は何か説明しよう」「関連づけながら説明しよう」 ○ どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所 ・ 「学習のまとめと表現」 ○ 各中項目の最後に、「学習のまとめと表現」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。 ○ 各中項目最後の「学習のまとめと表現」において、「STEP！1」で、「説明しよう」等の活動を設定している。 ○ 各中項目最後の「学習のまとめと表現」において、「STEP！1」で、「説明しよう」等の活動を設定している。	○ 思考・判断したことを説明する活動 ・ 本文ページの「説明しよう」 ・ 活動例「どのように変化したか説明しよう」「特徴を説明しよう」 ○ どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所 ・ 「タイムトラベル」 ・ 「学習を振り返ろう」 ・ 特設ページ「アクティブ歴史」 ・ コーナー「やってみよう」 ○ 各中項目の最後に、「学習を振り返ろう」を設け、ウェビングやXチャート等の思考ツールを用いながら、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。 ○ 各中項目最後の「学習を振り返ろう」において、「対話マーク」を付し、「理由を発表し、意見交換をしよう」、「ほかの人と話し合ってみよう」等の活動を設定している。 ○ 「対話マーク」を付して、「周りの人と話し合ってみましょう」、「グループの人に説明しよう」等の活動を設定している。	○ 思考・判断したことを説明する活動 ・ 本文ページの「ステップアップ」 ・ 活動例「対比して整理してみよう」「理由もふくめて考えてみよう」 ○ 各中項目の最後に、「まとめ」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。 ○ 各中項目最後の「まとめ」において、「説明してみよう」、「具体的に説明してみよう」等の活動を設定している。	○ 思考・判断したことを説明する活動 ・ 本文ページの「表現」 ・ 活動例「○○に注目して説明しましょう」「語句を使って説明しましょう」 ○ どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所 ・ 「学習のはじめに」 ・ 本文ページの課題 ○ 各中項目の最後に、「まとめとふり返り」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。 ○ 各中項目最後の「まとめとふり返り」において、「学び合いマーク」を付し、「発表し合ひましょう」、「話し合ひましょう」等の活動を設定している。 ○ 「学び合いマーク」を付して、「読み取って話し合ひましょう」、「意見を出し合ひましょう」等の活動を設定している。	○ 思考・判断したことを説明する活動 ・ 本文ページの「チャレンジ」 ・ 活動例「共通点と違いをあけてみよう」「○○の言葉を使って書いてみよう」 ○ 各中項目の最後に、「復習問題のページ」、「時代の特徴を考えるページ」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。 ○ 各中項目最後の「時代の特徴を考えるページ」において、「同じような例を探して出し合ってみよう」、「調べたり、考えたりしたことを出し合ってみよう」等の活動を設定している。 ○ 「意見交換会」において、「共通点をみんなで出し合ってみよう」、「それぞれの考え方を調べ、それについて意見を出し合ってみよう」等の活動を設定している。	○ 思考・判断したことを説明する活動 ・ 本文ページの「探究」 ・ 活動例「それぞれ説明しましょう」「○○を参考に説明しましょう」 ○ どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所 ・ 活動コーナー ・ 特設ページ「歴史ズームイン」 ○ 各中項目の最後に、「学習のまとめ」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。 ○ 各中項目最後の「学習のまとめ」において、「それぞれの考えをみんなで話し合ってみましょう」、「説明してみよう」等の活動を設定している。 ○ 「TRY！」において、「グループで調べてまとめましょう」、「グループで話し合ひましょう」等の活動を設定している。 ○ 特設ページ「歴史を体験する」において、「疑問に思ったりしたことをメモし、発表しましょう」、「グループやクラスで発表しましょう」等の活動を設定している。	○ 思考・判断したことを説明する活動 ・ 本文ページの「考えよう」 ・ 活動例「○○を比べてみよう」「どんな意味があるのだろうか」 ○ 各中項目の最後に、「まとめの学習」を設け、時代の特色を考察し、思考・判断する活動を設定している。 ○ 各中項目最後の「まとめの学習」において、「グループの中で発表し合ひましょう」、「グループで議論する能力を身に付けましょう」等の活動を設定している。 ○ 特設ページ「歴史について議論しよう」において、「意見ごとにグループで分かれましょう」、「調べたことをもとに議論しましょう」等の活動を設定している。	

観点	視点	発行者								
		東京書籍	教育出版	帝国書院	山川出版社	日本文教出版	自由社	育鵬社	学び舎	令和書籍
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫	○ 中項目の冒頭の示し方 【掲載例】 ・「導入の活動」 ・「探究課題」 ・小項目の課題 ・写真・イラスト等 ・年表 ・コーナー「みんなでチャレンジ」 ○ サブタイトルの掲載例 ・位置 小項目のタイトルの上 ・例(古代の日本)「進化はアフリカで始まった」 「文字で書かれた歴史がスタート」 「漢字が生まれ、孔子は儒学を説いた」 ○ 学習の見通しを立てられるよう、「第〇章で探究する問いは？」で、中項目の課題を「探究課題」として示すとともに、「探究のステップ」で各節で追究する課題を示している。 ○ 中項目の最後に、「まとめの活動」を設け、語句などの確認を行い、中項目の課題を「探究のステップ」にマークあり」とし、段階的に振り返りながら単元課題を解決するような活動を設定している。	○ 中項目の冒頭の示し方 【掲載例】 ・「学習のはじめに」 ・「第〇章の問い」 ・小項目の課題 ・写真・イラスト等 ・年表 ・コーナー「LOOK！」 ○ サブタイトルの掲載例 ・位置 小項目のタイトルの下 ・例(古代の日本)「人類の出現と広がり」 「世界各地におこる古代文明」 「中国文明のおこりと発展」 ○ 学習の見通しを立てられるよう、中項目の課題を「第〇章の問い」として示すとともに、「学習の見通し」で各節の課題を示している。 ○ 中項目の最後に、「学習のまとめと表現」を設け、語句などの確認を行い、中項目の課題を「HOP！」、「STEP！①」、「STEP！②」、「JUMP！」と示し、段階的に振り返りながら単元課題を解決する活動を設定している。	○ 中項目の冒頭の示し方 【掲載例】 ・「タイムトラベル」 ・「第〇章の問い」 ・写真・イラスト等 ・年表 ○ 学習の見通しを立てられるよう、「〇章の問い」で中項目の課題を示すとともに、「この章で学習する節の問い」で各節の課題を示している。また、「学習する時代の見通しをもと」を設け、社会の変化を予想する活動を設定している。 ○ 中項目の最後に、「学習を振り返ろう」を設け、語句などの確認を行い、各節の問いを解決し、段階的に、考えを整理したり、話し合いをしたりしながら、単元課題を解決する活動を設定している。	○ 中項目の冒頭の示し方 【掲載例】 ・「第〇章」 ・単元課題 ・写真・イラスト等 ・年表 ○ 中項目の最後に、「まとめ」を設け、「まとめてみよう」、「説明してみよう」等の学習内容を振り返る活動を設定している。	○ 中項目の冒頭の示し方 【掲載例】 ・「学習のはじめに」 ・単元課題 ・小項目の課題 ・写真・イラスト等 ・年表 ・「学び合いマーク」 ○ サブタイトルの掲載例 ・位置 小項目のタイトルの横 ・例(古代の日本)「こうしてヒトが生まれた」 「大河の流域で生まれた古代文明」 「東アジアの文明の広がり」 ○ 学習の見通しを立てられるよう、「第〇編の問い」で中項目の課題を示すとともに、各節の問いを示している。また、「学習の見通しをもと」を設け、疑問や答えの予想をする活動を設定している。 ○ 中項目の最後に、「まとめと振り返り」を設け、語句などの確認を行い、中項目の課題を「STEP1、STEP2、STEP3」とし、各節の問いを解決し、段階的に振り返りながら単元課題を解決する活動を設定している。	○ 中項目の冒頭の示し方 【掲載例】 ・「第〇章」 ・写真・イラスト等 ○ 中項目の最後に、「復習問題のページ」、「時代の特徴を考えるページ」を設け、「時代比較の問題」、「人物比較の問題」等の学習内容を振り返る活動を設定している。	○ 中項目の冒頭の示し方 【掲載例】 ・「鳥の目で見える〇〇」 ・「虫の目で見える〇〇」 ・単元課題 ・小項目の課題 ・写真・イラスト等 ・年表 ○ 学習の見通しを立てられるよう、中項目の課題を示すとともに、各節の課題を示している。 ○ 中項目の最後に、「学習のまとめ」を設け、語句などの確認を行い、段階的に、考えを整理したり、話し合いをしたりしながら、単元課題を解決する活動を設定している。	○ 中項目の冒頭の示し方 【掲載例】 ・「第〇部」、「第〇章」 ・単元課題 ・写真・イラスト等 ・年表 ○ サブタイトルの掲載例 ・位置 小項目のタイトルの横 ・例(古代の日本)「人類の誕生」 「農耕と牧畜のはじまり」 「エジプト文明」 ○ 学習の見通しを立てられるよう、時代の特徴を踏まえて理解するための「〇部」の課題を「〇〇の学習課題」として掲載している。 ○ 中項目の最後に、「学習のまとめ」を設け、語句などの確認を行い、段階的に、考えを整理したり、話し合いをしたりしながら、単元課題を解決する活動を設定している。	○ 中項目の冒頭の示し方 【掲載例】 ・「第〇章」 ・イラスト ・課題 ・年表 ○ 学習の見通しを立てられるよう、中項目冒頭において、時代の特徴を踏まえて理解するための章の学習課題を「政治」、「外交」、「文化」、「産業」のテーマとして掲載している。 ○ 中項目の最後に、「時代ごとの特色をとらえよう」を設け、「表をまとめろ」、「穴埋め」等の学習内容を振り返る活動を設定している。

観 点	視 点	発行者								
		東京書籍	教育出版	帝国書院	山川出版社	日本文教出版	自由社	育鵬社	学び舎	令和書籍
観 点 3 主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 工 夫	⑤ に 伝 国 わ 家 及 文 化 社 遺 産 並 を び に 重 文 化 の 発 展 と す る こ と の 生 活 の 向 上 に 尽 く 自 覚 た す 歴 史 上 の 人 物 と 現 在	○ 琉球の文化についての示し方 ・ 本文で説明 ・ 特設ページ「東アジア世界の国々の交流と琉球文化」 ・ 「琉球王の王冠」、「琉球のおどりと演奏」等の資料を掲載。	○ 琉球の文化についての示し方 ・ 本文で説明 ・ 特設ページ「沖縄の歴史を調べよう」 ・ 「首里城の正殿」、「沖縄の伝統芸能『組踊』」等の資料を掲載。	○ 琉球の文化についての示し方 ・ 本文で説明 ・ 特設ページ「琉球とアイヌ民族の暮らし」 ・ 「琉球の様子」、「組踊」等の資料を掲載。	○ 琉球の文化についての示し方 ・ 本文で説明 ・ 特設ページ「琉球の歴史と文化」 ・ 「首里城の正殿」、「江戸時代的那覇港の様子」等の資料を掲載。	○ 琉球の文化についての示し方 ・ 本文で説明 ・ 特設ページ「今に伝わる琉球とアイヌ民族の文化の形成」 ・ 「紅型」、「琉球舞踊」等の資料を掲載。	○ 琉球の文化についての示し方 ・ 本文で説明 ・ 特設ページ「琉球処分とは何か」 ・ 「伊波普猷」の資料を掲載。	○ 琉球の文化についての示し方 ・ 本文で説明	○ 琉球の文化についての示し方 ・ 本文で説明	○ 琉球の文化についての示し方 ・ 本文で説明
		○ アイヌの文化についての示し方 ・ 本文で説明 ・ 特設ページ「アイヌ文化とその継承」 「オホーツク文化のラッコの彫刻」、「蝦夷錦」等の資料を掲載。	○ アイヌの文化についての示し方 ・ 本文で説明 ・ 特設ページ「北海道の歴史を調べよう」 「イオマンテの儀式」、「知里幸恵」等の資料を掲載。	○ アイヌの文化についての示し方 ・ 本文で説明 ・ 特設ページ「琉球とアイヌ民族の暮らし」 「イオマンテの様子」、「蝦夷錦」等の資料を掲載。	○ アイヌの文化についての示し方 ・ 本文で説明 ・ 特設ページ「アイヌ民族の歴史と文化」 「志苔館跡」、「イオマンテの様子」等の資料を掲載。	○ アイヌの文化についての示し方 ・ 本文で説明 ・ 特設ページ「今に伝わる琉球とアイヌ民族の文化の形成」 「タマサイ」、「マキリ」等の資料を掲載。	○ アイヌの文化についての示し方 ・ 本文で説明 ・ 特設ページ「日本の近代化とアイヌ」 「クリシナ島のアイヌの人々に種痘を施す江戸幕府の医師」の資料を掲載。	○ アイヌの文化についての示し方 ・ 本文で説明	○ アイヌの文化についての示し方 ・ 本文で説明	○ アイヌの文化についての示し方 ・ 本文で説明
		○ 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらに特設ページ「もっと知りたい」において、「現代に生きる神話」を掲載している。	○ 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらに特設ページ「歴史を探ろう」において、「神話にみる古代の人々の信仰」を掲載している。	○ 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらにコラム「未来に向けて」において、「自然災害と神話」を掲載している。	○ 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらにコラムにおいて、「日本の神話」を掲載している。	○ 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらに特設ページ「歴史を掘り下げる」において、「日本の神話」を掲載している。	○ 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらに「国譲り神話と古代人」を掲載している。	○ 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらに特設ページ「歴史ズームイン」において、「神話に見る日本誕生の物語」を掲載している。	○ 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらにコラムにおいて、『常陸国風土記』に書かれた富士山と筑波山を掲載している。	○ 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」について、本文で説明し、さらに特設ページ『『古事記』の国譲り神話』等を掲載している。
		○ 本文中の文化遺産等の示し方 ・ 「国宝」 ・ 「世界遺産」 ・ 「重要文化財」 ・ 「世界の記憶」 ・ 「無形文化遺産」	○ 本文中の文化遺産等の示し方 ・ 「国宝」 ・ 「世界遺産」 ・ 「重要文化財」	○ 本文中の文化遺産等の示し方 ・ 「国宝」 ・ 「世界遺産」 ・ 「重要文化財」 ・ 「世界の記憶」	○ 本文中の文化遺産等の示し方 ・ 「国宝」 ・ 「世界遺産」	○ 本文中の文化遺産等の示し方 ・ 「国宝」 ・ 「世界遺産」	○ 本文中の文化遺産等の示し方 ・ 「国宝」 ・ 「世界遺産」	○ 本文中の文化遺産等の示し方 ・ 「国宝」 ・ 「世界遺産」 ・ 「重要文化財」	○ 本文中の文化遺産等の示し方 ・ 「国宝」 ・ 「世界遺産」	○ 本文中の文化遺産等の示し方 ・ 「国宝」 ・ 「世界遺産」

観 点	視 点	発行者								
		東京書籍	教育出版	帝国書院	山川出版社	日本文教出版	自由社	育鵬社	学び舎	令和書籍
観 点 4 内 容 の 構 成 ・ 配 列 ・ 分 量	⑥ 単 元 ・ 題 材 や 資 料 等 の 配 列 ・ 分 量	○ 各時代区分のページ数 歴史との対話 14ページ 古代 42ページ 中世 34ページ 近世 46ページ 近代 100ページ 現代 30ページ その他 30ページ	○ 各時代区分のページ数 歴史との対話 17ページ 古代 40ページ 中世 36ページ 近世 48ページ 近代 108ページ 現代 36ページ その他 27ページ	○ 各時代区分のページ数 歴史との対話 12ページ 古代 48ページ 中世 42ページ 近世 56ページ 近代 114ページ 現代 32ページ その他 26ページ	○ 各時代区分のページ数 歴史との対話 9ページ 古代 48ページ 中世 40ページ 近世 52ページ 近代 100ページ 現代 30ページ その他 15ページ	○ 各時代区分のページ数 歴史との対話 12ページ 古代 46ページ 中世 40ページ 近世 50ページ 近代 104ページ 現代 34ページ その他 33ページ	○ 各時代区分のページ数 歴史との対話 12ページ 古代 50ページ 中世 36ページ 近世 44ページ 近代 106ページ 現代 33ページ その他 27ページ	○ 各時代区分のページ数 歴史との対話 14ページ 古代 50ページ 中世 36ページ 近世 44ページ 近代 106ページ 現代 33ページ その他 27ページ	○ 各時代区分のページ数 歴史との対話 8ページ 古代 50ページ 中世 36ページ 近世 44ページ 近代 106ページ 現代 33ページ その他 27ページ	○ 各時代区分のページ数 歴史との対話 13ページ 古代 50ページ 中世 36ページ 近世 44ページ 近代 106ページ 現代 33ページ その他 27ページ
		○ 巻頭ページで、特設ページ「資料から発見」において、「時代を伝える資料をじっくり見てみよう」として、「明治時代の錦絵」、「浮世絵」、「屏風絵」に関連する資料を掲載している。	○ 巻頭ページで、「私たちにつながる歴史」として、「秋さけを迎えるアイヌ民族の伝統行事」、「明治時代の選挙」、「家庭に普及したラジオ」等を掲載している。	○ 巻頭ページで、コラム「未来に向けて」において、「よりよい社会を目指して」として、SDGsに関するテーマや資料を掲載している。また、年表、教科書を活用した学び方、考えを整理する方法等を掲載している。	○ 巻頭ページで、「日本の世界遺産」として、「岩見銀山遺跡とその文化的景観」、「屋久島」、「知床」等を掲載している。	○ 巻頭ページで、「受けつがれてゆく人々のおもい」として、「東大寺の大仏」、「イギリスで世界初の鉄道開業」、「平和祈念像」等を掲載している。	○ 巻頭ページで、「日本の世界文化遺産」、「旧国名と都道府県」として、「厳島神社」、「法隆寺」、「岩見銀山遺跡とその文化的景観」等を掲載している。	○ 巻頭ページで、「日本の美の形」として、「武人埴輪」、「法隆寺金堂壁画」、「金剛力士像」等を掲載している。	○ 巻頭ページで、「歴史地図(世界)」として、「おもな関係地」、「おもな出土地」を掲載している。	
		○ 巻末ページで、「歴史の中の植物」、「旧国名地図」、「デジタルコンテンツを活用しよう」を掲載している。	○ 巻末ページで、「江戸時代の産業と交通」、「昔の国と、都道府県の対照図」、「各地の主な遺跡・史跡」等に関連する資料を掲載している。	○ 巻末ページで、コラム「未来に向けて」において、「歴史から防災を学ぼう」として、神戸市の防災に関連する資料を掲載している。	○ 巻末ページで、「現代の世界」として、世界地図を掲載している。	○ 巻末ページで、「歴史学習の基礎資料」として、「文化財の種類」、「国県対照と五畿七道」、「主なできごと・史跡・関係地」等に関連する資料を掲載している。	○ 巻末ページで、「世界各国・王朝の興亡一覧」、「西暦早見表」等に関連する資料を掲載している。	○ 巻末ページで、「歴史植物図鑑」、「昔の国と現在の都道府県」、「日本列島・歴史の宝庫」に関連する資料を掲載している。	○ 巻末ページで、「歴史地図(昔の国名と国堺)」、「歴史地図(日本)」として、「おもな関係地」、「おもな史跡」、「おもな寺社」を掲載している。	○ 巻末ページで、各時代に関する資料、「日本美術図鑑」、「日本美術図鑑で紹介した作品が見られる場所」等に関連する資料を掲載している。
		○ サイズAB判 重さ 約570g	○ サイズAB判 重さ 約618g	○ サイズAB判 重さ 約642g	○ サイズAB判 重さ 約607g	○ サイズAB判 重さ 約616g	○ サイズAB判 重さ 約608g	○ サイズAB判 重さ 約597g	○ サイズA4判 重さ 約707g	○ サイズA5判 重さ 約585g

観 点	視 点	発行者								
		東京書籍	教育出版	帝国書院	山川出版社	日本文教出版	自由社	育鵬社	学び舎	令和書籍
観 点 4	発 展 的 な 学 習 に 関 する 内 容 の 記 述 の 状 況	○ 特設ページ「もっと知りたい」を設け、「本文や資料からまとめよう」、「背景を考えよう」等、発展的な学習を設定している。	○ 特設ページ「歴史を探ろう」を設け、「〇〇について探ってみよう」等、発展的な学習を設定している。	○ 特設ページ「歴史を探ろう」を設け、「どのような都市だったのか」、「生活環境はどうなっていたのか」等、発展的な学習を設定している。	○ 特設ページ「地域からのアプローチ」を設け、「地図・地名から考えよう」、「名産品から考えよう」等、発展的な学習を設定している。	○ 特設ページ「歴史を掘り下げる」を設け、「その謎を解いていきましょう」、「世の中をさぐっていきましょう」等、発展的な学習を設定している。	○ コラム「人物クローズアップ」、「外の目から見た日本」を設け、発展的な学習を設定している。	○ 特設ページ「歴史ズームイン」を設け、「当時の時代背景をふまえて考えよう」、「似ている点をそれぞれ挙げよう」等、発展的な学習を設定している。	○ 特設ページ「歴史を体験する」を設け、「火おこしに挑戦する」、「対話・討論にチャレンジ」等、発展的な学習を設定している。	○ コラムを随所に設け、「京都御所にはなぜお堀がないのか」、「トルコと日本の意外なつながり」等、発展的な学習を設定している。
		○ 中項目「(2)現代の日本と世界」において、「歴史に学び、未来へと生かそう」を設け、これまでの学習をふり返って、持続可能な社会に向けた自分の考えをまとめる活動を設定している。	○ 中項目「(2)現代の日本と世界」において、「歴史を振り返って、未来を構想しよう」を設け、歴史学習で学んだことを生かし、現代の課題とその解決方法を探る活動を設定している。	○ 中項目「(2)現代の日本と世界」において、「これからの社会を構想しよう」を設け、3年間の歴史の学習を振り返って、歴史と私たちのつながりや、現在と未来の日本や世界のあり方について考える活動を設定している。	○ 中項目「(2)現代の日本と世界」において、「まとめ」を設け、今までの歴史学習を通して、解決すべき課題やその具体的な解決策を考える活動を設定している。	○ 中項目「(2)現代の日本と世界」において、『「歴史との対話」を未来に活かす』を設け、歴史をふり返り、先人たちの知恵に学びながら、よりよい未来をつくる第一歩を考える活動を設定している。	○ 中項目「(2)現代の日本と世界」において、「歴史を学んで」を設け、これまでの学習をふり返って、日本の歴史の特色は何かを考える活動を設定している。	○ 中項目「(2)現代の日本と世界」において、「日本の歴史を大観する」を設け、これまでの学習をふり返って、これまでの勉強で養った歴史を見る目をもとに考える活動を設定している。	○ 中項目「(2)現代の日本と世界」において、歴史のまとめとして「歴史学習を終えて」を設け、疑問に思ったこと、もっと知りたいと思ったことについて考える活動を設定している。	○ 中項目「(2)現代の日本と世界」において、歴史のまとめとして「歴史学習の幅を広げよう」を設け、「歴史小説・歴史漫画を読むときの注意」を設定している。

観 点	視 点	発 行 者								
		東京書籍	教育出版	帝国書院	山川出版社	日本文教出版	自由社	育鵬社	学び舎	令和書籍
観 点 5 内 容 の 表 現 ・ 表 記	⑧ 本 文 の 記 述 と 適 切 な 関 連 付 け が な さ れ た イ ラ ス ト ・ 写 真 ・ ウ ェ ブ コ ン テ ン ツ 等 の 示 し 方	○ 原爆投下についての示し方 ・ 本文で説明(一部)「アメリカは、原子爆弾(原爆)を8月6日に広島、9日に長崎に投下しました。」 ・ 本文ページの資料「廃きよになった広島」「長崎に落とされた原子爆弾」	○ 原爆投下についての示し方 ・ 本文で説明(一部)「アメリカは、8月6日には広島に、8月9日には長崎に、新たに開発した原子爆弾(原爆)を投下しました。」 ・ 本文ページの資料「被爆後の広島の街」「長崎に投下された原子爆弾」	○ 原爆投下についての示し方 ・ 本文で説明(一部)「アメリカは、戦争の早期終結とともにソ連に対して優位に立つため、原子爆弾(原爆)の投下を決定しました。」 ・ 本文ページの資料「原子爆弾によって廃墟となった広島」	○ 原爆投下についての示し方 ・ 本文で説明(一部)「アメリカは、戦争を早期に終結させるため、開発したばかりの原子爆弾(原爆)を日本に投下することを決定した。」 ・ 本文ページの資料「広島と長崎への原子爆弾の投下」(広島の爆心地・原爆投下後の長崎)	○ 原爆投下についての示し方 ・ 本文で説明(一部)「アメリカは、戦後の世界でソ連に対して優位に立つことも意図して、1945(昭和20)年8月6日、世界で最初の原子爆弾を広島に投下し、9日には長崎にも投下しました。」 ・ 本文ページの資料「原子爆弾投下2か月後の広島」「長崎に落とされた原爆のきのこ雲」	○ 原爆投下についての示し方 ・ 本文で説明(一部)「8月6日、アメリカは世界最初の原子爆弾(原爆)を広島に投下しました。」 ・ 本文ページの資料「広島の原爆投下」	○ 原爆投下についての示し方 ・ 本文で説明(一部)「アメリカは、戦後の世界でソ連に対して優位に立つ目的なことから、1945(昭和20)年8月6日午前8時15分、原爆を広島に投下しました。」 ・ 本文ページの資料「原爆投下直後の原爆ドーム」「現在の原爆ドームと平和記念公園」「長崎に投下された原子爆弾」「原爆のきのこ雲」	○ 原爆投下についての示し方 ・ 本文で説明(一部)「1945年8月6日午前8時15分、米軍の爆撃機が、原子爆弾『リトルボーイ』を広島市に投下しました。」 ・ 本文ページの資料「原爆で壊滅した広島市の爆心地付近(1945年10月)／右は原爆ドーム(産業奨励館)」「原爆のきのこ雲(長崎 米軍爆撃機から撮影)」	○ 原爆投下についての示し方 ・ 本文で説明(一部)「八月六日、『リトルボーイ』(おちびちゃん)と命名された一つのウラン型原子爆弾を搭載した爆撃機B29『エノラ・ゲイ』がマリアナ諸島のテニアン島を離陸、日本時間の午前八時十五分、第一投下目標の広島市の市街地中心部に投下しました。」 ・ 本文ページの資料掲載なし
		○ 特設ページ「地域の歴史を調べよう」を設け、「被爆建物の保存と継承」をテーマに、「広島市」を取り上げ、被爆建物を継承することの意義を考える活動を設定している。また、「旧広島陸軍被服支廠の見学」、「原爆ドームの調査」、「広島市長 浜井信三(当時)の言葉」、「広島赤十字原爆病院(モニュメント前)での聞き取り」、「クラスでの発表」の写真を掲載している。			○ 特設ページ「地域からのアプローチ」を設け、「広島」をテーマに取り上げ、原爆の被害や復興等について考える活動を設定している。さらに、「爆心地を中心とした被爆地図」、「相生橋」、「被爆直後の広島県物産陳列館」、「被爆前の広島県物産陳列館」、「オバマ大統領広島訪問の記事」、「厳島神社」、「『平家納経』」、「原水爆禁止世界大会」、「広島平和記念資料館」、「大和ミュージアム」、「海上自衛隊第1術科学校(旧海軍兵学校)」、「この史代『この世界の片隅に』」、「広島東洋カープ」の写真を掲載している。		○ 「調べ学習のページ」を設け、左ページでは「原子爆弾の被害を考えよう」をテーマに、「広島市」を取り上げている。また、被爆後の原爆ドームの写真を掲載している。			○ 特設ページを設け、「オバマ大統領の広島訪問」をテーマに、「広島市」を取り上げ、「原爆死没者慰霊碑前に献花したオバマ大統領と固く握手を交わす安倍首相」、「オバマ大統領から抱擁を受ける森重昭さん」、「オバマ大統領が祈って持参した折り鶴(広島平和記念資料館展示)」の写真を掲載している。

観点	視点	発行者								
		東京書籍	教育出版	帝国書院	山川出版社	日本文教出版	自由社	育鵬社	学び舎	令和書籍
観点5 内容の表現・表記	⑧ 本文等の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ	○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、各学習課題やタイトルの隣等に二次元コードを掲載している。また、二次元コード付近には「Dマーク」「D-MOVEマーク」等を付している。	○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、コラム「歴史の技」等に二次元コードを掲載している。また、二次元コードには「リンク」、「動画」、「クイズ」マークを付している。	○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、各章・各節のタイトルの隣等に二次元コードを掲載している。	○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、「くわしく見てみよう」、「読んでみよう」等に二次元コードを掲載している。	○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、各学習課題の隣や「学習のはじめに」等に二次元コードを掲載している。また、対応する箇所には「タブレットマーク」を付している。		○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、目次に二次元コードを掲載している。		○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、「歴史学習の幅を広げよう」に二次元コードを掲載している。

観 点	視 点	発行者								
		東京書籍	教育出版	帝国書院	山川出版社	日本文教出版	自由社	育鵬社	学び舎	令和書籍
観 点 5 内 容 の 表 現 ・ 表 記	⑨ 他 教 科 や 他 分 野 、 日 常 生 活 等 と の 関 連 の 示 し 方	○ 「教科関連マーク」を付し、他教科との関連を示している。また、「分野関連マーク」を付し、社会科の他分野との関連を示している。	○ 「関連コーナーマーク」を付し、社会科の他分野との関連を示している。	○ 「小学校・歴史・公民との関連」マークを付し、社会科の他分野との関連を示している。		○ 「歴史・公民」の学習との関連マークを付し、学習のつながりを示している。				
		○ 古代における民主主義の来歴についての示し方 ・ 小項目「ギリシャ・ローマの文明」 ・ 本文で説明「最も栄えたアテネでは、市民全員が話し合っ国の方針を決める民会を中心に、民主政が行われた。」	○ 古代における民主主義の来歴についての示し方 ・ 小項目「すべての道はローマに通ず」 ・ 本文で説明「ボリスの政治は、自由で対等な市民が、全員で民会を開いて行う民主政(直接民主政)でした。」	○ 古代における民主主義の来歴についての示し方 ・ 小項目「ギリシャとローマの政治と文明」 ・ 本文で説明「なかでもアテネでは、王に率いられた大帝国ペルシアとの戦争に勝利したあと、紀元前5世紀に、すべての成人男子の市民が出席する民会を中心とした民主政が行われました。」	○ 古代における民主主義の来歴についての示し方 ・ 小項目「地中海文明の発展」 ・ 本文で説明「アテネに代表される民主政治は、市民が民会で議論し、多数決で国家の重要な事柄を決定する直接民主政のかたちをとった。」	○ 古代における民主主義の来歴についての示し方 ・ 小項目「ギリシャ・ローマの文明」 ・ 本文で説明「そのような都市国家のなかで、アテネは、紀元前6世紀の末に民主政を確立し、紀元前5世紀の初めにペルシア軍の侵入をしりぞける戦いで中心的な役割を果たしました。」	○ 古代における民主主義の来歴についての示し方 ・ 小項目「ギリシャ・ローマの文明」 ・ 本文で説明「紀元前480年、サラミスの海戦で大国ペルシアを破ったあと、アテネは全市民に参政権を与え、ここにアテネの民主政は完成しました。」	○ 古代における民主主義の来歴についての示し方 ・ 小項目「ギリシャとローマの文明」 ・ 本文で説明「多くのボリスでは、中心に神殿や広場が造られ、戦時に兵士として戦う成年男性の市民による民会で物事を決める民主政が行われました。」	○ 古代における民主主義の来歴についての示し方 ・ 小項目「円形競技場の熱狂」 ・ 本文で説明「市民とされた成人男子は、広場の民会に参加し、政治の問題を議論し、決定しました。」	○ 古代における民主主義の来歴についての示し方 ・ 小項目「ギリシャ・ローマの文化」 ・ 本文で説明「バルカン半島南部に成立した古代ギリシャでは、紀元前8世紀からボリスという小さな都市国家が作られ、その一つのアテネでは、平民では自ら装備を用意して兵役の義務を負うことで、参政権を得られるようになりました。」
		○ 現代における人権思想の広がりについて、小項目「民主化と日本国憲法」において、「初の男女普通選挙」、「男女共学」等の資料を掲載している。	○ 現代における人権思想の広がりについて、小項目「平和国家を目指して」において、「日本国憲法の前文」、「中学校の学級活動」等の資料を掲載している。	○ 現代における人権思想の広がりについて、小項目「新時代に求められた憲法」において、「男女共学の学級会の時間」、「初めての女性国会議員」等の資料を掲載している。	○ 現代における人権思想の広がりについて、小項目「日本国憲法と民主化」において、「日本国憲法の原本」、「戦後の女性と社会」等の資料を掲載している。	○ 現代における人権思想の広がりについて、小項目「平和で民主的な国家をめざして」において、「共学となった高校に通う生徒たち」、「投票する女性有権者と初めての女性国会議員」等の資料を掲載している。	○ 現代における人権思想の広がりについて、小項目「占領下の日本」において、「日本最初の婦人代議士」、「占領軍の進めた戦後の主な改革」等の資料を掲載している。	○ 現代における人権思想の広がりについて、小項目「民主化と日本国憲法制定」において、「戦後初の衆議院議員選挙で投票する女性有権者」、「男女共学」等の資料を掲載している。	○ 現代における人権思想の広がりについて、小項目「焼け跡からの出発」、「もう戦争はしない」において、「1945年の銀座(東京都)」、「憲法発布記念式典」等の資料を掲載している。	○ 現代における人権思想の広がりについて、小項目「大日本帝国憲法の改正」において、「日本国憲法原本上諭」、「日本国憲法原本 上諭(御名御璽と大臣の副署)」等の資料を掲載している。

令和6年7月/2日

広島市教科用図書採択審議会会長 様

広島市教科用図書採択審議会調査員

教科 [社 会] 種 目 [公民的分野]

代表者

寺川 勇一

令和7年度使用広島市立中学校用教科用図書の調査・研究について（報告）

このことについて、別紙のとおり調査・研究結果をまとめましたので、報告します。

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教 科 [社会] 種 目 [公民的分野]

2 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、国や地方自治体の政治機関、全国規模の企業の支社・支店が集中し、中国地方の中心都市として、政治、経済の中心的機能を果たしている。また、第一次産業から第三次産業まで様々な産業が見られ、現代生活全般を概観できる地域である。
- 本市の生徒は、SNS や報道等から得られる現代の社会的事象に対する興味・関心は高く、タブレット端末を活用したり、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を収集したりする力は身に付いているが、政府の役割や民主政治の仕組みなど、生徒があまり身近に感じにくいような社会的事象については興味・関心を持ちにくいことや、学習課題の解決の見通しを立て、収集した情報を基に、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力や、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力に課題がある。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜知識及び技能の習得＞	① 個人と社会との関わりを中心に理解を深めるための工夫 ② 様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせるための工夫
＜思考力、判断力、表現力等の育成＞	③ 様々な資料を有効に活用して思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりするための学習活動の工夫
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ⑤ 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
＜内容の表現・表記＞	⑧ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ⑨ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教 科 [社会] 種 目 [公民的分野]

2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観 点	視点	発行者					
		東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版	自由社	育鵬社
観 点 1 知 識 及 び 技 能 の 習 得	① 個 人 と 社 会 と の 関 わ り を 中 心 に 理 解 を 深 め る た め の 工 夫	○ 各小項目において、「チェック&トライ」を設け、知識の確認を行う活動を設定している。また、各大項目の「まとめの活動」において、「確かめよう」を掲載している。	○ 各小項目において、「確認・表現」を設け、知識の確認を行う活動を設定している。また、各大項目の「学習のまとめと表現」において、「HOP！」を掲載している。	○ 各小項目において、「確認しよう・説明しよう」を設け、知識の確認を行う活動を設定している。また、各大項目の「学習を振り返ろう」において、「図で知識を整理する」を掲載している。	○ 各小項目において、「確認・表現」を設け、知識の確認を行う活動を設定している。また、各大項目の「まとめとふり返り」において、「語句の意味を確認しよう」を掲載している。	○ 各小項目において、「ここがポイント」を設けている。また、各大項目の「学習のまとめと発展」において、「最重要語句」を掲載している。	○ 各小項目において、「確認・探究」を設け、知識の確認を行う活動を設定している。また、各大項目の「学習のまとめ」において、「重要語句の確認」を掲載している。
		○ 国旗・国歌の示し方 ・ 小項目「国際社会における国家」 ・ 本文で説明 ・ 「国際連合本部の前に並ぶ加盟国の国旗」の写真を掲載。	○ 国旗・国歌の示し方 ・ 小項目「国際社会を構成する国」 ・ 本文で説明 ・ 「南アフリカ共和国の国旗の変化」、「東京2020パラリンピックの表彰式で掲げられた国旗」、「国家を斉唱するサッカー日本代表」の写真 ・ コラム「公民の窓」 「国旗と国歌の歴史」を掲載。	○ 国旗・国歌の示し方 ・ 小項目「国家と国際社会」 ・ 本文で説明	○ 国旗・国歌の示し方 ・ 小項目「国家と国際関係」 ・ 本文で説明 ・ 「2020東京オリンピックの表彰式」の写真を掲載。	○ 国旗・国歌の示し方 ・ 小項目「国家と国際関係」 ・ 本文で説明 「リオデジャネイロオリンピックの開会式」の写真を掲載。 ・ 特設ページ「もっと知りたい」「国旗と国歌を考えてみよう」を掲載。	○ 国旗・国歌の示し方 ・ 小項目「国家と私たち」 ・ 本文で説明 ・ 「オリンピック表彰式での国旗掲揚の様子(ブラジル、2016年)」、「各国の国歌の大意」、「世界の国旗のデザイン」の写真を掲載。 ・ コラム「学習を深めよう」 「国歌『君が代』の意味」を掲載。
		○ 小項目「基本的人権と個人の尊重」での学習課題等の示し方 ・ 「憲法によって基本的人権を保障することが、なぜ重要なんですか。」 ・ 「日本国憲法に定められた個人の尊重と法の下での平等」、「子どもの権利」等を掲載	○ 小項目「基本的人権を尊重すること」での学習課題等の示し方 ・ 学習課題「誰もがかけがえない存在として扱われるためには、どのような権利が必要でしょうか。」 ・ 「基本的人権の全体像」、「人々が関心のある人権の課題」等を掲載	○ 小項目「個人の尊重と憲法上の権利」での学習課題等の示し方 ・ 学習課題「日本国憲法では、基本的人権の尊重をどのように保障しているのだろうか。」 ・ 「基本的人権の尊重に関する憲法規定」、「基本的人権の構成」等を掲載	○ 小項目「人権思想のあゆみと日本国憲法」での学習課題等の示し方 ・ 学習課題「人権の考え方は、どのようにして生まれ、発展してきたのでしょうか。」 ・ 「フランス人権宣言」、「基本的人権」等を掲載	○ 小項目「基本的人権と公共の福祉」での学習課題等の示し方 ・ 学習課題「国民の基本的人権を保障する日本国憲法の根底にある思想とは何だろうか。また『公共の福祉』とは何だろうか。」 ・ 「基本的人権を定める憲法の条項」、「カント」等を掲載。	○ 小項目「基本的人権の尊重」での学習課題等の示し方 ・ 学習課題「日本国憲法で保障されている基本的人権とは、どのようなものでしょうか。」 ・ 「日本国憲法で保障されている基本的人権」、「国民の権利」等を掲載

観 点	視 点	発行者					
		東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版	自由社	育鵬社
観 点 1	② 様 々 な 情 報 を 効 果 的 に 調 べ ま と め る 技 能 を 身 に 付 け さ せ る た め の 工 夫	○ 効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる活動 ・ コラム「スキル・アップ」 ・ 活動例 「法律用語の読み方」 「選挙シミュレーション」 「SNSのメディアリテラシーを身に付けよう」	○ 効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる活動 ・ コラム「公民の技」 ・ 活動例 「考えたルールを評価しよう」 「死刑制度について考えよう」 「ネット社会で人権を守るために」	○ 効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる活動 ・ コラム「技能をみがく」 ・ 活動例 「ロールプレイング(役割演技)をやってみよう」 「ディベートで議論を深めよう」 「引用で主張に説得力をもたせよう」	○ 効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる活動 ・ コラム「情報スキルアップ」 ・ 活動例 「『ネット社会』とつき合う方法」 「新聞の読み方と伝え方を学ぼう」		
		○ 対立と合意、効率と公正についての示し方 ・ 3節「現代社会の見方や考え方」において本文で説明。 ・ 部活動の今後の体育館の使い方を例に、1年前、現在のそれぞれの状況における解決策を考える課題を掲載。 ・ 「まとめの活動」で「T市の新しい公園の使用ルールを考えよう」を掲載。 ○ 随所に「えんぴつマーク」を付して身に付けた技能を活用する活動を設定している。 ○ 中項目「(2)よりよい社会を目指して」の活動例 ・ 「課題の設定(課題把握)」 ・ 「資料の収集と読み取り」 ・ 「意思決定」 ・ 「提案参加」	○ 対立と合意、効率と公正についての示し方 ・ 3節「私たちがつくるこれからの社会」において本文で説明。 ・ 合唱コンクールの練習場所のトラブル、ごみ収集所の新たな設置を例に、解決策を考える課題を掲載。 ・ 「TRY!」で「避難所における課題を考えてみよう」を掲載。 ○ 随所に「THINK!」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。 ○ 中項目「(2)よりよい社会を目指して」の活動例 ・ 「テーマを選ぶ」 ・ 「私の提案『自分を変える、社会を変える』を実際につくる」 ・ 「私の提案について対話や交流を行う」	○ 対立と合意、効率と公正についての示し方 ・ 第3節「現代社会をとらえる枠組み」において本文で説明。 ・ 防災備蓄倉庫の新設を例に、状況を確認し、設置場所と運用規則の解決策を考える課題を掲載。 ・ 特設ページ「アクティブ公民」で「マンションの騒音問題を解決しよう」を掲載。 ○ 随所に「資料活用」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。 ○ 中項目「(2)よりよい社会を目指して」の活動例 ・ 「課題を決めよう」 ・ 「資料を集めよう」 ・ 「考察しよう」 ・ 「レポートを書こう」	○ 対立と合意、効率と公正についての示し方 ・ 第2章「現代社会の見方・考え方」において本文で説明。 ・ 合唱コンクールのスケジュールを例に、解決策を考える課題を掲載。 ・ 特設ページ「チャレンジ公民」で「公園づくりについて話し合おう」を掲載。 ○ 随所に「資料活用」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。 ○ 中項目「(2)よりよい社会を目指して」の活動例 ・ 「テーマの設定」 ・ 「資料の収集と読み取り」 ・ 「考察と構想」 ・ 「まとめと評価」	○ 対立と合意、効率と公正についての示し方 ・ 第3節「社会の中の決まり」において本文で説明。 ・ 部活動の体育館の使い方を例に、解決策を考える課題を掲載。 ・ 特設ページ「アクティブに深めよう」で「魅力あるまちづくりを考えよう」を掲載。 ○ 随所に「資料活用」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。 ○ 中項目「(2)よりよい社会を目指して」の活動例 ・ 「課題を見つけよう」 ・ 「選択した課題について調べよう」 ・ 「解決の方法を考えてみよう」 ・ 「卒業論文にまとめる」	○ 対立と合意、効率と公正についての示し方 ・ 第3節「現代社会をとらえる見方や考え方」において本文で説明。 ・ 部活動の平日のグラウンド割り方を例に、解決策を考え課題を掲載。 ・ 「現代社会のこれから」で「マンションの住民のペットの飼育に関する状況や考え」を掲載。 ○ 随所に「資料活用」を付して、身に付けた技能を活用する活動を設定している。 ○ 中項目「(2)よりよい社会を目指して」の活動例 ・ 「テーマを決めよう」 ・ 「課題探求の計画を立てよう」 ・ 「プレゼンテーションしよう」 ・ 「内容の見直し」 ・ 「レポート作成」

観 点	視 点	発行者					
		東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版	自由社	育鵬社
観 点 2	め の 様 々 な 学 習 活 動 の 工 夫 に 活 用 し て 思 考 ・ 判 断 し た こ と を 説 明 し た り、 そ れ ら を 基 に 議 論 し た り す る た ら し い 思 考 力、 判 断 力、 表 現 力 等 の 育 成	○ 本文ページの「トライ」において、「次の語句を使って説明しよう」、「課題を説明しよう」等、思考・判断したことを説明する活動を設定している。 ○ どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所 ・「導入の活動」 ・「まとめの活動」 ・「えんぴつマーク」 ・「スキル・アップ」 ・特設ページ「もっと知りたい」 ・コーナー「みんなでチャレンジ」 ○ 「まとめの活動」を設け、「探究のステップ」で節の問いを解決する活動を設定している。また、「深めよう」では、ウェビングやYチャート等の思考ツールを用いながら、「導入の活動」で示された課題と関連した発展的な課題について考察する活動を設定している。 ○ 対話や議論する活動の示し方 ・コーナー「みんなでチャレンジ」 ・活動例「グループで話し合った内容について発表しよう」「もっと良い方法はないか、グループで話し合いましょう」 ・示している箇所「導入の活動」、本文ページ、「まとめの活動」 ○ 「まとめの活動」において、「個人活動」と「グループ活動」を行う、コーナー「みんなでチャレンジ」を設け、「グループで自分の考えを発表し合いましょう」、「意見を交換しましょう」等の活動を設定している。	○ 本文ページの「表現」において、「どのような影響があるだろうか、考えてみよう」、「意見を交換し合ってみよう」等、思考・判断したことを説明する活動を設定している。 ○ どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所 ・「第〇章の学習のはじめに」 ・「学習のまとめと表現」 ・本文ページの「表現」 ・コーナー「THINK!」 ○ 「学習のまとめと表現」を設け、フィッシュボーン図やクラゲチャート等の思考ツールを用いながら、章の問いについて、考察する活動を掲載している。また、「JUMP!」では、発展的な課題についてSDGsと関連させて考察する活動を設定している。 ○ 対話や議論する活動の示し方 ・コーナー「TRY!」 ・活動例「どのような感想をもったか、クラスで意見交換し合ってみよう」「同世代の人や世代の異なる人と意見を交換してみよう」 ・示している箇所特設ページ「持続可能な社会に向けて」 ○ 各中項目最後の「学習のまとめと表現」において、「STEP! 2」で、「友だちと意見を交換してみよう」、「グループで提言としてまとめよう」等の活動を設定している。	○ 本文ページの「説明しよう」において、「理由を説明してみよう」、「求められていることを説明しよう」等、思考・判断したことを説明する活動を設定している。 ○ どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所 ・「学習を振り返ろう」 ・コラム「アクティブ公民」 ・資料 ○ 「学習を振り返ろう」を設け、章の冒頭で示したイラストを基に、Yチャートやクラゲチャート等の思考ツールや図を活用し、知識を整理したり、問いを考える活動を設定している。また、「探究学習への準備」として、章の学習を振り返りながら、探究テーマを考える活動を設定している。 ○ 対話や議論する活動の示し方 ・「対話マーク」 ・活動例「周りの人と意見交換をしてみよう。特に重視した点は何だろうか。」「考えを出し合ってみよう。」 ・示している箇所「学習の前に」、資料、特設ページ「アクティブ公民」、「学習を振り返ろう」 ○ 各中項目最後の「学習を振り返ろう」において、「対話マーク」を付し、「作成した表を周りの人と持ち寄って、意見交換をしてみよう」、「整理したことを周りの人と持ち寄って、探究したいテーマを表にまとめよう」等の活動を設定している。	○ 本文ページの「表現」において、「必要な支援をまとめよう」、「必要な理由を説明しよう」等、思考・判断したことを説明する活動を設定している。 ○ どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所 ・「第〇編第〇章」 ・本文ページの課題 ○ 「まとめとふり返し」を設け、マトリックスやクラゲチャート等の思考ツールを用いながら、STEP1、STEP2、STEP3と段階的に章の問いについて考察する活動を設定している。 ○ 対話や議論する活動の示し方 ・「学び合いマーク」 ・活動例「グループで話し合いましょう」「みんなの意見を参考に、新たに気づいたことや足りなかった部分をふまえて、考えをまとめよう」 ・示している箇所「学習のはじめに」、コラム「アクティビティ」、「まとめとふり返し」 ○ 各中項目最後の「まとめとふり返し」において、「学び合いマーク」を付し、「自分の考えがまとまったら、グループになって意見交換をしてみよう」の活動を設定している。	○ 「学習のまとめと発展」を設け、「学習のまとめ」で最重要語句の確認を行い、「学習の発展」で、課題を選択し、内容をまとめる活動を設定している。 ○ 対話や議論する活動の示し方 ・特設ページ「アクティブに深めよう」 ・活動例「各班で話し合ってみよう」「班で共有しましょう」	○ 本文ページの「探究」において、「話し合ってみよう」、「説明し合ってみよう」等、思考・判断したことを説明する活動を設定している。 ○ どのような「見方・考え方」を働かせるかを示している箇所 ・コラム「学習を深めよう」 ・資料 ・写真 ○ 「〇〇〇のこれから」を設け、KJ法やランキング等の思考ツールを用いながら、章で学んだことを生かして課題について考察する活動を設定している。また、「学習のまとめ」において、自分の意見を述べる活動を設定している。 ○ 対話や議論する活動の示し方 ・コーナー「TRY!」 ・活動例「どうしたらいいか、話し合ってみよう」「その原因を話し合ってみよう」 ・示している箇所コラム「学習を深めよう」 ○ 各中項目最後の「〇〇〇のこれから」において、「理由も含めてペア（グループ）で発表してみよう」、「それはなぜなのか、話し合ってみよう」等の活動を設定している。

観 点	視 点	発行者					
		東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版	自由社	育鵬社
観 点 3	④ 興 味 ・ 次 関 心 を 持 た せ 、 見 通 し を 立 て た り 、 学 習 を 振	○ 中項目の冒頭に、現代社会の見方・考え方を付した「導入の活動」を設け、資料やイラスト等と単元課題を示している。また、学習の見通しを立てられるよう、「探究のステップ」で小項目の課題を示している。	○ 中項目の冒頭に、「学習のはじめに」を設け、単元課題を資料やイラスト等と示している。また、学習の見通しを立てられるよう、「学習の見通し」で小項目の課題を示している。	○ 中項目の冒頭に、「学習の前に」を設け、単元課題を資料やイラスト等と示している。	○ 中項目の冒頭に、「学習のはじめに」を設け、資料やイラスト等と単元課題を示している。また、学習の見通しを立てられるよう、小項目の課題を示している。	○ 中項目の冒頭に、タイトルページを設け、イラストとともに単元課題を示している。	○ 中項目の冒頭に、「○○の入り口」を設け、写真や資料等と単元課題を示している。また、学習の見通しを立てられるよう、小項目の課題を示している。
		○ 小項目のタイトルの上にサブタイトルを示している。 【例】 第3章 1節「現代の民主政治」 「私たちの、私たちによる、私たちのための」 「選挙権は、当たり前のものじゃない」 「それぞれの公約を見てみよう」	○ 小項目のタイトルの下にサブタイトルを示している。 【例】 第3章 1節「民主政治と日本の政治」 「民主主義と多数決」 「選挙の意義と選挙制度」 「これからの選挙を考える」	○ 中項目の最後に、「学習を振り返ろう」を設け、語句などの確認を行い、段階的に、考えを整理したり、話し合いをしたりしながら、単元課題を解決するような活動を設定している。	○ 中項目の最後に、「まとめと振り返り」を設け、語句などの確認を行い、中項目の課題を「STEP1、STEP2、STEP3」と示し、段階的に振り返りながら単元課題を解決するような活動を設定している。	○ 中項目の最後に、「学習のまとめと発展」を設け、「学習のまとめ」では重要語句を確認し、「学習の発展」では、課題を選択する等の学習内容を振り返る活動を設定している。	○ 中項目の最後に、「学習のまとめ」を設け、語句などの確認を行い、段階的に、考えを整理したり、話し合いをしたりしながら、単元課題を解決するような活動を設定している。

観 点	視 点	発行者					
		東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版	自由社	育鵬社
観 点 3 主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 工 夫	⑤ 現 代 社 会 に 見 ら れ る 課 題 の 解 決 を 視 野 に 主 体 的 に 社 会 に 関 わ ろ う と す る 態	○ 契約を通した個人と社会との関係についての示し方 ・ 小項目「契約と消費生活」 ・ 「日常生活のさまざまな場面と契約」、「食品表示」等を掲載。 ・ 特設ページ「18歳のステップ」で「契約と支払い方法のあれこれ」をテーマに「スマートフォンを利用した支払い」等を掲載。 ○ 「世界平和の実現」についての示し方 ・ 小項目「平和な世界に向けて」 ・ 学習課題「戦争のない平和な世界にするために、どのような取り組みが必要でしょうか」 ・ 「世界の核保有国と保有数」、「核・軍縮問題関連年表」等の資料を掲載。 ○ 特設ページ「18歳のステップ」を設け、選挙権年齢や成人年齢の引き下げを受けて、18歳に向けて準備するために、「選挙の流れ」、「18歳でできること、20歳でできること」等を掲載している。	○ 契約を通した個人と社会との関係についての示し方 ・ 小項目「消費者を守るもの、支えるもの」 ・ 「暮らしの中のさまざまな『契約』の場面」、「クーリング・オフの記入例」等を掲載。 ・ 特設ページ「持続可能な社会に向けて」で「なぜ、契約について学ぶ必要があるのだろう」をテーマに「クレジットカードによる決済」等を掲載。 ○ 「世界平和の実現」についての示し方 ・ 小項目「核なき世界の実現へ」 ・ 学習課題「国際社会における核兵器廃絶の実現に向けて、日本ができることはなんだろうか。」 ・ 「原子爆弾が投下された後の広島市内」、「被爆して黒く焦げた三輪車」等の資料を掲載。	○ 契約を通した個人と社会との関係についての示し方 ・ 小項目「契約と消費者問題」 ・ 「異なるアイスクリーム類の表示とその規準」、「商品につけられる主な認証ラベル」等を掲載。 ・ 特設ページ「18歳への準備」で「契約について考えよう」をテーマに「宅配ピザの契約における契約自由の原則」等を掲載。 ○ 「世界平和の実現」についての示し方 ・ 小項目「兵器の脅威と軍縮の意義」 ・ 学習課題「核兵器をめぐる状況は、どのように変化してきているだろうか」 ・ 「核兵器の保有状況」、「核兵器廃絶とウクライナの平和を願いともされたキャンドル」等の資料を掲載。 ○ 特設ページ「18歳への準備」を設け、メディアリテラシー、契約、ライフプランや金利など、18歳に向けて習得しておきたい実践的な知識を学ぶために、「メディアリテラシーを身につけよう」、「契約について考えよう」等を掲載している。	○ 契約を通した個人と社会との関係についての示し方 ・ 小項目「消費者の権利と自立を支える政府のはたらき」 ・ 「あなたも契約をしている」、「消費者ホットラインの広報資料」等を掲載。 ・ 特設ページ「明日に向かって」で「契約について考えよう」をテーマに「例外的に取り消しなどが可能な契約」等を掲載。 ○ 「世界平和の実現」についての示し方 ・ 小項目「世界の軍縮と日本の役割」 ・ 学習課題「軍縮のために、日本はどのような役割を果たしていることができるでしょうか。」 ・ 「核開発と軍縮の動き」、「被爆体験を中学生に絵で伝える取り組み」等の資料を掲載。	○ 契約を通した個人と社会との関係についての示し方 ・ 小項目「消費者の保護」「消費生活に関する出来事」、「その他の品質保証マークの例」等を掲載。 ○ 「世界平和の実現」についての示し方 ・ 小項目「核兵器の脅威と向き合う」 ・ 学習課題「国際社会は、核兵器の脅威にどのように向き合っているだろうか」 ・ 「広島市の原爆被害」、「長崎市の原爆被害」等の資料を掲載。	○ 契約を通した個人と社会との関係についての示し方 ・ 小項目「消費者の権利と保護」 ・ 「契約はいつ成立するのか」、「消費生活センターへの相談」等を掲載。 ○ 「世界平和の実現」についての示し方 ・ 小項目「世界平和の実現に向けて」 ・ 学習課題「平和の世界の実現に向けて、国際社会や日本はどのような取り組みをしていく必要があるでしょう」 ・ 「世界の核兵器の保有状況」、「核兵器禁止条約への不参加を報じる新聞」等の資料を掲載。

観 点	視 点	発行者					
		東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版	自由社	育鵬社
観 点 4 内 容 の 構 成 ・ 配 列 ・ 分 量	⑥ 単 元 ・ 題 材 や 資 料 等 の 配 列 ・ 分 量	○ 巻末では、「世界地図・世界の現状」、日本国憲法等の「参考法令集」、「用語解説一覧」、「さくいん」、「現代社会の歩み」を掲載している。 ○ 表見返しページで「持続可能な社会の実現に向けて」、「公民学習の初めに」を掲載している。 ○ 裏見返しページで、「現代社会のあゆみ」、「デジタルコンテンツを活用しよう」を掲載している。また、『『公民』の学習をこれからの学習に生かす』において、高等学校「公共」との関連を示している。 ○ 各大項目のページ数 「私たちと現代社会」 31ページ 「私たちと経済」 52ページ 「私たちと政治」 92ページ 「私たちと国際社会の諸課題」 43ページ その他 28ページ ○ サイズAB版 重さ 約472g	○ 巻末では、日本国憲法等の「学習資料編」、「諸法令集」、「用語解説」、「さくいん」を掲載している。 ○ 表見返しページで「現代を生きる私たち」、「公民の学習を始めるにあたって」を掲載している。 ○ 裏見返しページで、「持続可能な未来を目指す人々」を掲載している。 ○ 各大項目のページ数 「私たちと現代社会」 26ページ 「私たちと経済」 64ページ 「私たちと政治」 90ページ 「私たちと国際社会の諸課題」 44ページ その他 46ページ ○ サイズAB版 重さ 約509g	○ 巻末では、日本国憲法等の「資料」、「さくいん」、「第二次世界大戦後の歩み」を掲載している。 ○ 表見返しページで「よりよい社会を目指して」を掲載している。 ○ 裏見返しページで、「第二次世界大戦後の歩み」、「未来に向けて防災・減災を通じた社会参画（兵庫県神戸市）」を掲載している。 ○ 各大項目のページ数 「私たちと現代社会」 28ページ 「私たちと経済」 66ページ 「私たちと政治」 86ページ 「私たちと国際社会の諸課題」 43ページ その他 39ページ ○ サイズAB版 重さ 約501g	○ 巻末では、日本国憲法等の「法令集」、「現代の世界の様子」、「日本の現代史年表」、「用語解説」、「類似用語集」、「さくいん」を掲載している。 ○ 表見返しページで「これからの社会をどんな社会にしたい?」、「地理・歴史とのつながり」、「公民を学ぶにあたって」を掲載している。 ○ 裏見返しページで、「思考ツールを使ってみよう」、「公民と他教科とのつながり」、「未来の社会はどうなっているのだろうか」を掲載している。また、「高校の公民科『公共』とのつながり」において、高等学校との関連を示している。 ○ 各大項目のページ数 「私たちと現代社会」 32ページ 「私たちと経済」 60ページ 「私たちと政治」 90ページ 「私たちと国際社会の諸課題」 43ページ その他 49ページ ○ サイズAB版 重さ 約525g	○ 巻末では、日本国憲法等の「法令集」、「現代社会の歩み」、「さくいん」を掲載している。 ○ 表見返しページで「すごいぞ日本の技術は」、「公民学習の初めに」を掲載している。 ○ 裏見返しページで、「職人の技が生み出した日本の伝統的工芸品」を掲載している。 ○ 各大項目のページ数 「私たちと現代社会」 42ページ 「私たちと経済」 44ページ 「私たちと政治」 78ページ 「私たちと国際社会の諸課題」 60ページ その他 46ページ ○ サイズAB版 重さ 約525g	○ 巻末では、「日本の伝統文化」、「戦後の日本と世界の主な出来事」、日本国憲法等の「法令集」、「用語解説」、「さくいん」を掲載している。 ○ 表見返しページで「持続可能な開発目標(SDGs)」、「なぜ「公民」を学ぶのか」を掲載している。 ○ 裏見返しページで、「持続可能な社会をめざして」を掲載している。 ○ 各大項目のページ数 「私たちと現代社会」 28ページ 「私たちと経済」 54ページ 「私たちと政治」 80ページ 「私たちと国際社会の諸課題」 36ページ その他 64ページ ○ サイズAB版 重さ 約512g

観 点	視 点	発行者					
		東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版	自由社	育鵬社
観 点 4 内 容 の 構 成 ・ 配 列 ・ 分 量	⑦ 発 展 的 な 学 習 に 関 する 内 容 の 記 述 の 状 況	○ 特設ページ「もっと知りたい！」において、本文ページの学習内容を深めるために、発展的な課題を掲載している。	○ 特設ページ「持続可能な社会に向けて」において、資料を読み深め、表現活動に取り組むための発展的な課題を掲載している。	○ 特設ページ「アクティブ公民」において、学習した内容を深めるために、発展的な課題を掲載している。	○ 特設ページ「チャレンジ公民」において、社会の課題について考察・構想し深めるために、発展的な課題を掲載している。	○ 特設ページ「もっと知りたい」において、重要な事項をより深く理解するために発展的な課題を掲載している。	○ 特設ページ「〇〇のこれから」において、「〇〇の入り口」で示された課題を受けて、その章で学習した内容を生かして取り組むために、発展的な課題を掲載している。
		○ コラム「未来にアクセス」において、本文の学習内容をくわしく説明したり、関連する内容を取り上げたりしているコーナーを掲載している。また、「もっと解説」では、用語の解説を該当ページに掲載してゐる。 ○ SDGsの示し方 第5章「地球社会と私たち」の「導入の活動」を「SDGsから地球規模の課題についてとらえよう」とし、SDGsを掲載している。	○ コラム「公民の窓」において、学習から興味や関心を広げていくためのテーマを掲載している。また、コラム「クリップ」では、人々の姿を中心とした学習をさらに深めていくテーマを掲載している。 ○ SDGsの示し方 「公民の学習を始めるにあたって」において、「SDGsと『本質的な問い』」として掲載している。 - 本文ページ - 特設ページ「持続可能な社会に向けて」 「学習のまとめと表現」の「JUMP！」 - 終章の第1節の冒頭	○ コラム「公民プラス」において、学習内容に関連する実社会の動きや新しい事例を掲載している。また、「解説」では、本文中に掲載されている。分かりにくい用語の解説を該当ページに掲載してゐる。 ○ SDGsの示し方 - 巻頭ページにおいて、「よりよい社会を目指して」で、SDGsを示している。 「学習の振り返ろう」の「探究学習の準備」 - 特設ページ「未来に向けて」 - 終章の第1節の冒頭	○ コラム「公民＋α」、「アクティビティ」において、見開きページに関する事項を掘り下げて、学習内容の理解を深めていくことができるテーマを掲載している。 ○ SDGsの示し方 - 巻頭ページにおいて、「これからの社会をどんな社会にしたい？」で、SDGsを示している。 - 関連する箇所に「SDGsマーク」を付している。 - 特設ページ「明日に向かって」	○ コラム「ミニ知識」において、公民の重要な言葉や事柄を学習するときのヒントになるテーマを掲載している。 ○ SDGsの示し方 コラム「ミニ知識」において、「ミレニアム開発目標と持続可能な開発目標」で、SDGsを示している。	○ コラム「学習を深めよう」において、本文で学習したことをより詳しく説明したり、関連する情報を紹介したりして、学習を深めるテーマを掲載している。 ○ SDGsの示し方 - 巻頭ページにおいて、「持続可能な開発目標 (SDGs)」で、SDGsを示している。 - 第5章「私たちと国際社会の課題」の第1節冒頭ページ - コラム「学習を深めよう」 「国際社会のこれから」

観 点	視 点	発行者					
		東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版	自由社	育鵬社
観 点 5	⑧ の 本 文 の 記 述 と 適 切 な 関 連 付 け が な さ れ た イ ラ ス ト ・ 写 真 ・ ウ ェ ブ コ ン テ ン ツ 等	○ 広島に関する資料 ・「堆積した泥の除去作業をする中学生」 ・「広島市の平和記念式典」 ・「広島市の平和記念公園を訪問した、アメリカのオバマ大統領」 ・「再生する空き家」 ・「福山市神辺町の取り組み」	○ 広島に関する資料 ・「鞆の浦の港」 ・「予定されていた埋め立てと架橋計画」 ・「スピーチを行うオバマ大統領」 ・「原子爆弾が投下された後の広島市内」 ・「被爆して黒く焦げた三輪車」 ・「ヒロシマの願いを未来に」	○ 広島に関する資料 ・「原爆投下直後の原爆ドーム」 ・「広島平和記念式典」 ・「核兵器廃絶とウクライナの平和を願いともされたキャンドル」	○ 広島に関する資料 ・「田植え祭り」 ・「広島平和記念式典」 ・「被爆直後の原爆ドーム」 ・「福山市ばらのまち条例」 ・「平和首長会議」	○ 広島に関する資料 ・「広島市の原爆被害」 ・「2016年アメリカのオバマ大統領、被爆地広島へ（年表）」 ・「熊野筆」	○ 広島に関する資料 ・「高校生の神楽甲子園」 ・「原爆投下直後の原爆ドーム」 ・「広島市の平和記念公園で演説するアメリカのオバマ大統領」 ・「瀬戸内海の景勝地である鞆の浦」 ・「五穀豊穡や無病息災、先祖の冥福を祈る『棕浦の法楽おどり』」 ・「戦後の日本と世界の主な出来事（1945年広島・長崎に原爆投下）（2016年現職米大統領が初の広島訪問）」 ・「瀬戸内海に浮かぶカキイカダ」
		○ 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する資料を、表見返し2ページ、大項目「私たちと国際社会の諸課題」、参考法令集「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を中心に上げている。また、関連する資料やコラム等にマークを付している。 ○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、各学習課題やタイトルの隣等に二次元コードを掲載している。また、二次元コード付近には「Dマーク」、「D-MOVEマーク」等を付している。	○ 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する資料を、特設ページ「公民の学習を始めるにあたって」、大項目「私たちと国際社会の諸課題」、裏見返し2ページを中心に上げている。また、各大項目の最後に、「関連する主なSDGsの項目」を示し、本文ページには「関連するSDGs」のマークを付している。 ○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、コラム「公民の技」等に二次元コードを掲載している。また、二次元コードには「リンク」、「動画」、「ワーク」、「クイズ」マークを付している。	○ 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する資料を、表見返し2ページ、大項目「私たちと国際社会の諸課題」、特設ページ「未来に向けて」を中心に上げている。また、関連する項目にはマークを付し示している。 ○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、各章・各節のタイトルの隣等に二次元コードを掲載している。	○ 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する資料を、表見返し2ページ、大項目「私たちと国際社会の諸課題」を中心に上げている。 ○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、各学習課題の隣や「学習のはじめに」等に二次元コードを掲載している。また、対応する箇所には「タブレットマーク」を付している。	○ 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する資料を、大項目「私たちと国際社会の諸課題」を中心に上げている。 ○ 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する資料を、表見返し2ページ、大項目「私たちと国際社会の諸課題」、中項目冒頭の「国際社会のこれから」、裏見返し2ページを中心に上げている。 ○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、各章の冒頭に二次元コードを掲載している。	

観 点	視 点	発行者				
		東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版	自由社
観 点 5 内 容 の 表 現 ・ 表 記	⑨ 他 教 科 や 他 分 野 、 日 常 生 活 等 と の 関 連 の 示 し 方	○ 「他分野・他教科との関連を図った学習」マークを付し、社会科の他分野や他教科の学習との関連を示している。	○ 「関連コーナー」マークを付し、小学校、社会科の他分野、他教科の学習との関連を示している。	○ 「小学校・地理・歴史・他教科との関連コーナー」マークを付し、小学校、社会科の他分野、他教科の学習との関連を示している。	○ 「関連コーナー」マークを付し、社会科の他分野の学習との関連を示している。また、巻末ページで他教科との関連を示している。	○ 「地理」マーク、「歴史」マークを付し、社会科の他分野の学習との関連を示している。
		○ 中項目の冒頭に「小学校の社会で習ったことば」を設け、小学校で学習した語句を掲載し、小学校の学習との関連を示している。	○ 中項目の冒頭に、「小学校で学習した事項」を設け、小学校で学習した語句を掲載し、小学校の学習との関連を示している。	○ 中項目の冒頭に、「小学校で学習した内容」を設け、小学校で学習した語句を掲載し、小学校の学習との関連を示している。	○ 中項目の冒頭に、「小学校で学習した内容」を設け、小学校で学習した語句を掲載し、小学校の学習との関連を示している。	○ 中項目の冒頭に、小学校で学習した語句を掲載し、小学校との関連を示している。
		○ 日常生活等との関連の示し方 【例】 情報化 ・ 小項目「情報化」 ・ 「すし店のメニューを注文するためのタブレット端末」、「メタバース上の月面に展開する仮想店舗」等を掲載。 ・ 特設ページ「もっと知りたい」で「AIの機能があるスピーカー」、「無人宅配機」等を掲載。	○ 日常生活等との関連の示し方 【例】 情報化 ・ 小項目「急速に進展する情報社会」 ・ 「自動搬送ロボット」、「最寄りの開設避難所への避難ルートの検索などができるシステム」等を掲載。	○ 日常生活等との関連の示し方 【例】 情報化 ・ 小項目「情報化が進む現代」 ・ 「メタバース上の店舗で商品を売り買いできるバーチャルマーケット」、「インターネット利用に伴う被害の経験」等を掲載。	○ 日常生活等との関連の示し方 【例】 情報化 ・ 小項目「情報化で変わる社会と私たち」 ・ 「eスポーツの高校選手権」、「防災情報を伝えるタブレットの貸し出し」等を掲載。	○ 日常生活等との関連の示し方 【例】 情報化 ・ 小項目「情報社会」 ・ 「統合災害情報システム DiMAPS(ディーマップス)」、「クラウドの仕組み」等を掲載。
						○ 日常生活等との関連の示し方 【例】 情報化 ・ 小項目「情報から知る現代と未来」 ・ 「AIを活用した対話型のロボットコンシェルジェ」、「人工知能(AI)の防災分野への活用」等を掲載。

令和6年7月/2日

広島市教科用図書採択審議会会長 様

広島市教科用図書採択審議会調査員

教科【社会】種目【地図】

代表者

寺川 勇一

令和7年度使用広島市立中学校用教科用図書の調査・研究について（報告）

このことについて、別紙のとおり調査・研究結果をまとめましたので、報告します。

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教 科 [社会] 種 目 [地図]

2 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、山や川、豊かな自然環境に恵まれるとともに、古代遺跡等の歴史的資源も豊富であり、第一次産業から第三次産業まで様々な産業が見られる地域である。また、太田川のデルタ地形に位置し、自然災害等の発生しやすい地域でもあるため、地理的分野・歴史的分野における地域調査や体験活動を行うのにも適している。
- 本市の生徒は、地図に対する興味・関心が高く、読図や作図などの技能は身に付いているが、種類や縮尺の違いによる多様な利用の仕方や、主題図、その他統計や写真など、たくさんの地理情報を活用し、例えば、気候図を併用して降水量の分布と土地利用の関係を明らかにするなど、の事象間の関係を読み取る力や、地図から地域的特色を捉え、地域の課題を見だし考察する力に課題がある。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 日本や世界の地域的特色を理解するための工夫 ② 地図の活用方法やその手順の示し方
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 問題解決的な学習をするための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑥ 本文の記述と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ⑦ 他教科や他分野、日常生活等との関連の示し方

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教 科 [社会] 種 目 [地図]

2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観 点	視 点	発 行 者	
		東京書籍	帝国書院
観 点 1 知 識 及 び 技 能 の 習 得	① 工 夫 日 本 や 世 界 の 地 域 的 特 色 を 理 解 す る た め の	○ 巻頭の見開き3ページにわたり、「世界全図」(縮尺:記載なし)を掲載している。併せて、「中心からの距離と方位が正しい地図」、「面積が正しい地図」を掲載し、それぞれ図法名を付している。 ○ 段彩図を用いて、陸地の高さと海の深さを表している。また、世界では、鳥観図を用いて、アジア州、ヨーロッパ州、北アメリカ州の地形などを立体的に表している。 ○ 見開き2ページにわたり、南西諸島全体に加え、喜界島、奄美群島、奄美群島南部、伊平屋島、伊是名島、沖縄島、慶良間諸島、大東諸島、宮古列島、八重山列島、与那国島の地図を掲載している。(縮尺:南西諸島全体:500万分の1、沖縄島:50万分の1、その他:100万分の1) ○ 「日本周辺」では、見開き2ページにわたり、日本の排他的経済水域を示すとともに、日本の東西南北端の各島、竹島及び尖閣諸島の写真・説明を掲載している。	○ 巻頭の見開き3ページにわたり、「世界の国々」(縮尺:世界8800万分の1)を掲載している。併せて、「北半球・南半球」、「ヨーロッパ中心の面積が正しい地図」、「東京からの距離と方位が正しい地図」を掲載し、それぞれ図法名を付している。 ○ 段彩図を用いて、陸地の高さと海の深さを表し、日本の各地域の地図には、山の稜線を加えて立体感を表現している。また、世界では、鳥観図を用いて、アジア州、アフリカ州、ヨーロッパ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の地形などを立体的に表している。 ○ 見開き2ページにわたり、南西諸島全体に加え、奄美群島、奄美群島南部、沖縄諸島、尖閣諸島、宮古列島、八重島列島、大東諸島の地図を掲載している。(縮尺:南西諸島全体:500万分の1、その他:100万分の1)併せて、同じページに、尖閣諸島の写真を掲載している。 ○ 「日本の領土とそのまわりの国々」では、巻末の見開き2ページにわたり、日本の排他的経済水域を示すとともに、日本の東西南北端の各島の写真・地図、「領土・領海・領空の範囲(模式図)」、「おもな国の排他的経済水域の面積」を掲載している。
	② 手 順 地 図 の 活 用 方 法 や そ の	○ 「この地図帳の地図記号」「この地図帳の活用方法」では、巻頭の3ページにわたり、地図記号や地図、資料の見方についてミツバチのキャラクターの吹き出しを使って説明している。 ○ 「地形図の読みとり」では、地形図の記号、縮尺、等高線、方位について説明している。 ○ 世界と日本それぞれの「さくいん」を設け、さくいんの引き方について説明するコーナーを設けている。	○ 「この地図帳の凡例」「地図帳の使い方(1)(2)」では、巻頭の5ページにわたり、地図記号や地図、資料の見方について生徒のキャラクターの吹き出しを使って説明している。 ○ 「国土地理院の地形図」では、地形図の記号、地形図、縮尺について説明している。 ○ 世界と日本それぞれの「さくいん」を設け、さくいんの引き方について説明するコーナーを設けている。また、さくいん中の世界遺産、歴史地名・事項、油田などにマークを付して示している。

観 点	視 点	発行者	
		東京書籍	帝国書院
観 点 2 思 考 力 、 判 断 力 、 表 現 力 等 の 育 成	③ 問 題 解 決 的 な 学 習 を す る た め の 工 夫	○ 「中国・四国地方の資料」では、人口の増減率(1980～2020年)と交通網の変化(1980年・2022年)の2種類の主題図を掲載している。 ○ 「Bee's eye」のコーナーで、地図を深く読み取るためのヒントとなる問いを設けている。また、3種類のミツバチのキャラクターを付すことにより、問いの種類の違いを示している。 《問いの例》「アフリカ州」 ・ アフリカの国々の国境線の特徴を見つけ、そうなった理由を調べてみよう。 ・ アフリカ大陸を赤道から北に向かって移動すると、気候や景観はどのように移り変わるかな。 ・ 図4によると、特定の品目の輸出割合が高い国では、どのような物の輸出が盛んかな。 ・ p.47～48全体を見て、アフリカにはどのような課題があるか考えてみよう。 ○ 主題ごとの特設ページを設け、主題図やグラフ等の資料を見開きでまとめて掲載している。 《資料の例》主題「世界と日本の資源・エネルギー」 ・ 主題図 「世界のエネルギー資源の分布と貿易」、「世界の鉱産資源の分布と貿易」、 「一人あたりのエネルギー消費量」、「一人あたりの発電量」、「日本の主な発電所」 「生成可能エネルギーを利用した発電所」 ・ グラフ 「鉱産資源の産出国」、「日本の鉱産資源の輸入先」、「世界のエネルギー源の変化」、 「世界の発電量の変化」	○ 「中国・四国地方の資料」では、中国・四国地方の交通と人口密度の変化(1970年・2020年)を重ねた主題図を掲載している。 ○ 「地図で発見!」のコーナーで、地図をもとに確認したり深めたりする問いを設けている。また、問いごとにチェック欄を付している。 《問いの例》「アフリカ州」 ・ アフリカ大陸は、北緯何度から南緯何度の範囲に広がっているか答えよう。 ・ 世界でいちばん広い砂漠のサハラ砂漠が広がっている国を七つ以上答えよう。また、ビクトリア湖付近から地中海に流れこむ、世界でいちばん長い川のナイル川が流れている国を四つ以上答えよう。 ・ ④図で人口密度が特に低いアフリカ大陸北部について、次のことを読み取って答えよう。1. どのような植生と土地利用か(②図から) 2. どのくらいの降水量か(③図から) ・ ①図に示されたらくだやゴリラ、ライオンがいるところの植生を、p.46②図で確認して答えよう。 ・ 世界各地で進行している砂漠化は、地球規模の気候の変化と、その地域に暮らす人々の生活の両方に原因があると考えられている。サヘルでは、人々のどのような営みや変化が砂漠化に影響を与えているか、㊦㊧ から考えて答えよう。 ・ 貧困率が高いのは、北アフリカとサハラ以南のアフリカのどちらか答えよう。また、そのことを力のグラフでも確認しよう。 ○ 主題ごとの特設ページを設け、主題図やグラフ等の資料を見開きでまとめて掲載し、ページ全体に関わる問いを「主題学習」の欄を設けて示している。 《資料の例》主題「世界と日本の鉱産資源」 ・ 主題図 「エネルギー資源の分布と移動」、「鉱産資源の分布と移動」、「日本の主な発電所」 ・ グラフ 「エネルギー供給(消費)量」、「日本の輸入資源(エネルギー資源、鉱産資源)」、 「おもな国の発電量の内訳」、「日本の発電の移り変わり」 ・ 写真・画像 「宇宙から見た夜の日本列島付近」、「日本の主な発電所(火力発電所、原子力発電所、水力発電所、洋上風力発電所、地熱発電所)」

観 点	視 点	発行者	
		東京書籍	帝国書院
観 点 3 主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 工 夫	④ げ て た た り 興 味 ・ 学 関 心 を 振 り 上 げ て 見 通 し を な す	○ 「都道府県の区分」として現在の日本の都道府県名の地図と併せて、「旧国名」として明治元年の国名の地図を掲載している。 ○ 「世界の生活・文化」として見開き2ページ、「世界と日本の文化」として見開き2ページの特設ページを設けている。 《内容》 【世界の生活・文化】 「世界の住居の材料」、「世界の食文化」、「世界の宗教」 【世界と日本の文化】 「世界の言語」、「さまざまな言語の『私は学生です』」、「世界の祭り」、「日本の文化」	○ 「都道府県」として現在の日本の都道府県名の地図と併せて、「昔の国名と国境」として明治元年の国名の地図を掲載している。 ○ 「世界の生活・文化(1)(2)」として見開き4ページ、「日本の歴史・生活・文化」として見開き2ページの特設ページを設けている。 《内容》 【世界の生活・文化(1)(2)】 「特色ある住居と衣装」、「特色ある料理と食事」、「主食となる作物」、「さまざまな言語」、「さまざまな宗教」 【日本の歴史・生活・文化】 「日本の世界遺産と史跡」、「時代とともに正確になる日本地図」、「伝統的な町並みの保存」、「地域による方言の違い」、「日本の伝統的な料理」
観 点 4 内 容 の 構 成 ・ 配 列 ・ 分 量	⑤ 列 ・ 単 元 量 ・ 題 材 や 資 料 等 の 配	○ 世界の各地域について地図や資料を掲載しているページ数 アジア州 16ページ ヨーロッパ州 12ページ アフリカ州 4ページ 北アメリカ州 4ページ 南アメリカ州 3ページ オセアニア州 6ページ ○ 日本の各地域について地図や資料を掲載しているページ数 九州地方 8ページ 中国・四国地方 8ページ 近畿地方 12ページ 中部地方 8ページ 関東地方 14ページ 東北地方 5ページ 北海道地方 9ページ ○ 巻末で、5ページにわたり「世界の統計」、「日本の統計」を掲載している。 ○ サイズ A4判 重さ 約562g	○ 世界の各地域について地図や資料を掲載しているページ数 アジア州 22ページ アフリカ州 4ページ ヨーロッパ州 12ページ 北アメリカ州 8ページ 南アメリカ州 5ページ オセアニア州 6ページ ○ 日本の各地域について地図や資料を掲載しているページ数 九州地方 8ページ 中国・四国地方 10ページ 近畿地方 14ページ 中部地方 12ページ 関東地方 12ページ 東北地方 5ページ 北海道地方 9ページ ○ 巻末で、9ページにわたり「自然の統計」、「世界の統計(1)(2)」、「日本の統計(1)(2)」を掲載している。 ○ サイズ A4判 重さ 約537g

観 点	視 点	発行者	
		東京書籍	帝国書院
観 点 5 内 容 の 表 現 ・ 表 記	⑥ こ な ん さ 本 テ レ 文 の ツ イ 記 等 ラ 述 の ス ト と 適 し ・ 切 方 写 真 ・ 関 連 ウ エ ブ が	○ 世界の各州で、その州に位置する国の国旗を掲載している。 ○ 「世界の気候」では、見開き2ページにわたり、「世界の気候区と海流」及び「世界の年降水量と年平均気温」の主題図とともに、「世界各地の気温と降水量」として12都市の雨温図、「植物の景観の変化」及び「標高による動植物の変化」の図を掲載している。 ○ 巻頭の地図帳の使い方を説明するページや見開きページごとに二次元コードを付し、コードを読み取って「Bee's eye」の解答例や関連資料等のデジタルコンテンツを活用できるようにしている。	○ 世界の各州で、その州に位置する国の国旗を掲載している。 ○ 「世界の気候」では、見開き2ページにわたり、「世界さまざまな気候」及び「1年間の降水量」の主題図とともに、「世界各地の気温と降水量」として11都市の雨温図と5つの気候帯の写真を掲載している。 ○ 裏表紙や各地域の冒頭ページ等に二次元コードを付し、コードを読み取って「地図で発見！」の解答例や関連資料等のデジタルコンテンツを活用できるようにしている。
	⑦ 生 活 他 等 と 科 の や 関 他 連 分 の 野 、 示 し 日 方 常	○ 歴史・公民の学習に役立つ資料にそれぞれ「歴」・「公」のマーク、SDGsと関連が深い資料に、SDGsマークを付している。 ○ 「日本の自然環境(自然災害)」では、見開き2ページにわたり、身の回りで起こりうるさまざまな自然災害を取り上げ、ハザードマップや自然災害への備えなどの資料を掲載している。また、「世界の火山・地震」、「東日本大震災の地震と津波」の2カ所の資料を参照できるようページ番号と資料番号を示し、ジャンプマークを付している。	○ 歴史・公民の学習に役立つ資料にそれぞれ「歴」・「公」のマーク、SDGsと関連が深い資料にSDGsマークを付している。 ○ 「防災」、「環境」、「日本との結びつき」のコーナーを設け、それぞれに関連がある資料を掲載している。 ○ 「日本の自然災害・防災(1)(2)」では、見開き4ページにわたり、身の回りで起こりうるさまざまな自然災害を取り上げ、ハザードマップや自然災害に対する備えなどの資料を掲載している。また、「世界の変動帯と地震」、「広島市付近にある水害の碑の分布」など15カ所の資料を参照できるようページ番号と資料番号を示し、リンクマークを付している。

令和6年7月18日

広島市教科用図書採択審議会会長 様

広島市教科用図書採択審議会調査員

教科 [数 学] 種 目 [数 学]

代表者 出 元 千 秋

令和7年度使用広島市立中学校用教科用図書の調査・研究について（報告）

このことについて、別紙のとおり調査・研究結果をまとめましたので、報告します。

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

- 1 教 科 [数 学] 種 目 [数 学]
- 2 本市の実態や生徒の状況

○ 本市は、自然環境に恵まれるとともに、第一次産業から第三次産業まで様々な産業が見られ、現代生活全般を概観できるため、数学の学習において、数学的な見方・考え方を働かせる機会を意図的に設定するための題材が身近に多くある地域である。

○ 令和 5 年度の全国学力・学習状況調査によると、本市の生徒の実態としては、数学を活用して日常生活や社会の事象を論理的に考察すること、数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。さらに、正答率 30%未満の生徒の割合が高く、基礎・基本の定着のための手立てが必要である。

- 3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	② 問題解決的な学習を実施するための工夫 ③ 数学的な表現を用いて自分の考えを表現し伝え合う学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、学習の見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方 ⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教 科 [数学] 種 目 [数学]

2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観 点	視 点	発 行 者					
		東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版	新興出版社啓林館	数研出版
観 点 1	基 礎 的 ・ 基 本 的 な 知 識 ・ 技 能 を 定 着 さ せ る た め の 工 夫	○ 巻末の「補充の問題」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページの問いの番号を示している。また、少し難しい問題にマークを付している。	○ 巻末の「補充問題」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページの例や問いの番号を示している。	○ 巻末の「〇年の復習」で、基本的な内容の補充問題を掲載している。また、「基礎・基本となる問題」にマークを付している。	○ 巻末の「補充問題/実力アップ問題」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページの問いの番号を示している。	○ 巻末の「力をつけよう」で、基本的な内容の補充問題を掲載している。また、「基本的な内容の問題」にマークを付している。	○ 巻末の「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページを示している。また、「難易度の高い問題」にマークを付している。
		○ 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方 ・ 側注の「ちょっと確認」 ・ 巻末の「学びのベース」 ・ 目次の「前の学習」	○ 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方 ・ 側注の「思い出そう」 ・ 巻末の「小学校算数のふり返り」、「〇年の復習」 ・ 目次の「これまでに学んだこと」	○ 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方 ・ 側注の「ふりかえり」 ・ 巻末の「小学校の計算」、「～年の計算」 ・ 目次の「～で学んだこと」 ・ 領域の前の「ふりかえり」	○ 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方 ・ 側注の「もどって確認」 ・ 巻末の「学びのマップ」 ・ 目次の「ふりかえり」 ・ 章の前の「～を学習する前に」	○ 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方 ・ 側注の「ふりかえり」 ・ 巻末の「学びをふりかえろう」	○ 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方 ・ 側注の「ふりかえり」 ・ 巻末の「中学〇年のまとめ」 ・ 章の前の「ふりかえり」
観 点 2	知 識 及 び 技 能 の 習 得	○ 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方 ・ 節末の「基本問題」 ・ 章末の「章の問題A」 ・ 基本的な計算の学習の後の「クイックチェック」のコーナー	○ 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方 ・ 節末の「たしかめよう」 ・ 章末の「〇章をふり返ろう」	○ 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方 ・ 節末の「確かめよう」 ・ 章末の「〇章のまとめの問題」 ・ 基本的な計算の学習の後の「計算力を高めよう」	○ 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方 ・ 節末の「基本の問題」 ・ 章末の「章の問題」	○ 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方 ・ 項末の「練習問題」 ・ 章末の「章末問題」	○ 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方 ・ 節末の「確認問題」 ・ 各章末の「問題A」 ・ 基本的な計算の学習の後の「練習問題」
		○ 多く見られる誤答の取り上げ方については、「まちがいの例」として示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。	○ 多く見られる誤答の取り上げ方については、「正しいかな？」として示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。	○ 多く見られる誤答の取り上げ方については、「正しいかな？」として示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。	○ 多く見られる誤答の取り上げ方については、「まちがいの例」として示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。	○ 多く見られる誤答の取り上げ方については、「誤答例」として示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。	○ 多く見られる誤答の取り上げ方については、登場する生徒の考えとして示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。
							○ 巻末の「補充問題」で、基本的な内容の補充問題を掲載し、関連ページの例や問いの番号を示している。
			○ 関連付けたり振り返ったりするための既習事項の示し方 ・ 側注の「確かめ」 ・ 巻末の「算数の確かめ」 ・ 目次の「算数で学んだこと」、「これまで学んだこと」 ・ 章の前の「次の章を学ぶ前に」				
			○ 基本的な学習内容の定着を確認する評価問題の示し方 ・ 節末の「基本の問題」 ・ 章末の「〇章の問題」				
			○ 多く見られる誤答の取り上げ方については、「まちがいの例」として示し、間違っている理由を説明する活動を設定している。				

観 点	視 点	発行者						
		東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版	新興出版社啓林館	数研出版	日本文教出版
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	② 問題解決的な学習を実施するための工夫	○ 数学的な見方・考え方を働かせる箇所に、虫眼鏡マークを付している。 ○ 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。さらに、「大切にしたい見方・考え方」のコーナーを設けている。 ○ 巻末で数学的な見方・考え方についての特設ページ「数学の目でふり返ろう」を設けている。また、学習内容を数学的な見方・考え方と関連付けて示している。 ○ 巻頭の「大切にしたい数学の学び方」で、問題解決の過程について説明している。	○ 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。 ○ 巻頭の「数学の世界へようこそ」で数学的な見方・考え方についての特設ページを設けている。 ○ 巻頭の「数学の世界へようこそ」で、問題解決の過程について説明している。	○ 数学的な見方・考え方を働かせている箇所に、「見方・考え方」のマークを付している。 ○ 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。 ○ 巻末で数学的な見方・考え方についての特設ページ『「見方・考え方」をまとめよう」を設けている。また、学習内容と数学的な見方・考え方を関連付け、問題解決の図を添えて示している。 ○ 巻頭の「この教科書を使った数学の学び方」で、問題解決の過程について説明している。	○ 数学的な見方・考え方を働かせている箇所に、「！」のマークを付している。 ○ 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。 ○ 巻頭に数学的な見方・考え方についての特設ページ「大切にしたい数学的な見方・考え方」を設けている。 ○ 巻頭の「みんなで数学をはじめよう！」で、問題解決の過程について説明している。	○ 数学的な見方・考え方を働かせている箇所に、「大切な考え方」のマークを付している。 ○ 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。 ○ 巻頭に数学的な見方・考え方についての特設ページ「いろいろな場面で役に立つたいせつな考え方を身につけよう」を設けている。 ○ 巻頭の「問題を発見し解決して、さらに深める力を身につけよう」で、問題解決の過程について説明している。	○ 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。 ○ 巻頭の「学習の進め方」で、数学的な見方・考え方の例を示している。	○ 数学的な見方・考え方を働かせている箇所に、「大切な見方・考え方」のマークを付している。 ○ 側注の問題解決の過程に沿った問いを設けている。また、問題解決の方法について考える問いを設けている。 ○ 巻頭に数学的な見方・考え方についての特設ページ「数学的な見方・考え方を身につけよう！」を設けている。 ○ 巻頭の「数学の学習を始めよう！」で、問題解決の過程について説明している。
	③ し伝数 え学 合的 な学 習活 動を 用い て自 分の 考え を表現	○ 対話や説明する活動を促す箇所に「話し合ってみよう」のマークを付している。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。 ○ 2学年7章「データの比較」にあるデータをまとめたグラフや図 ・ 箱ひげ図 ・ ヒストグラム ○ 巻末の「レポートにまとめよう」で、学年に応じたレポートの書き方のポイントと例を示している。	○ 対話や説明する活動を促す箇所に「伝えよう」のマークを付している。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。 ○ 2学年6章「データの比較と箱ひげ図」にあるデータをまとめたグラフや図 ・ 箱ひげ図 ・ ヒストグラム ・ ドットプロット ○ 題材に関連する章末の「レポートを書こう」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。	○ 対話や説明する活動を促す箇所に「説明する力をつけよう」のマークを付している。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。 ○ 2学年7章「データの分布」にあるデータをまとめたグラフや図 ・ 箱ひげ図 ・ ヒストグラム ・ ドットプロット ・ 度数折れ線 ・ 折れ線グラフ ・ 円グラフ ○ 巻末の「表現する力を身につけよう」で、学年に応じたレポートの書き方のポイントと例を示している。	○ 対話や説明する活動を促す箇所に「話し合ってみよう」のマークを付している。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。 ○ 2学年7章「データの分布」にあるデータをまとめたグラフや図 ・ 箱ひげ図 ・ ヒストグラム ○ 題材に関連する章末の「レポートを書こう」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。	○ 対話や説明する活動を促す箇所に「説明しよう」や「話し合ってみよう」のマークを付している。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。 ○ 2学年7章「箱ひげ図とデータの活用」にあるデータをまとめたグラフや図 ・ 箱ひげ図 ・ ヒストグラム ・ ドットプロット ○ 巻末の「レポート例」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。	○ 対話や説明する活動を促す問題を設けている。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。 ○ 2学年6章「データの活用」にあるデータをまとめたグラフや図 ・ 箱ひげ図 ・ ヒストグラム ・ ドットプロット ○ 題材に関連する章末の「レポートを書こう」で、学年に応じたレポートの書き方のポイントと例を示している。	○ 対話や説明する活動を促す箇所に「話し合おう」のマークを付している。また、問題解決の方法を考える箇所等に生徒の対話の場面を示している。 ○ 2学年7章「データの比較」にあるデータをまとめたグラフや図 ・ 箱ひげ図 ・ ヒストグラム ・ ドットプロット ○ 巻末の「数学レポートをかこう」で、レポートの書き方のポイントと例を示している。

観点	視点	発行者						
		東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版	新興出版社啓林館	数研出版	日本文教出版
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	④ 返って興味・関心を持たせたり、学習の見通しを立てたり、学習を振り返り	○ 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。また、次の学習につながる疑問を示し、マークを付している。 ＜題材例＞ 第1学年 「データの分析と活用」 過去と現在のサッカーチームの選手の体力 第2学年 「データの比較」 牛乳の販売数 第3学年 「標本調査」 都道府県ランキング	○ 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。 ＜題材例＞ 第1学年 「データの分析」 10cmの長さの感覚 第2学年 「データの比較と箱ひげ図」 2002年と2014年の岐阜市の平均気温 第3学年 「標本調査」 インターネット利用、東京都多摩市の市政世論調査	○ 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。また、次の学習につながる疑問を示し、マークを付している。 ＜題材例＞ 第1学年 「データの活用」 ルーラーキャッチの記録 第2学年 「データの分布」 6都市の降水量 第3学年 「標本調査」 テレビの視聴率、体力テスト、川の水質調査、空港の手荷物検査、世論調査	○ 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。また、次の学習につながる疑問を示し、マークを付している。 ＜題材例＞ 第1学年 「データの分析」 紙コプターの滞空時間 第2学年 「データの分布」 京都の冬日の日数 第3学年 「標本調査」 湖の水質調査、学校での歯科検診、空港の手荷物検査、米の品質調査、国勢調査、中学生の「大人になったらやりたいもの」	○ 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。 ＜題材例＞ 第1学年 「データの分布」 紙ふぶきの滞空時間 第2学年 「箱ひげ図とデータの活用」 4社のインターネット通信速度 第3学年 「標本調査」 都道府県別の睡眠時間ランキング	○ 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。 ＜題材例＞ 第1学年 「データの活用」 都市の最高気温、最低気温 第2学年 「データの散らばり」 体力テスト 第3学年 「標本調査」 国勢調査、選挙の出口調査、テレビの視聴率、学校の歯科検診、交通量の調査、渡り鳥の鳥類標識調査、米の品質調査、売り上げ調査	○ 各章の導入で、興味関心を持たせるために日常生活や社会と関連する課題を設定している。 ＜題材例＞ 第1学年 「データの活用」 高知市の3月の平均気温 第2学年 「データの比較」 大阪の猛暑日の日数 第3学年 「標本調査」 国勢調査、中学校の歯科検診、テレビの視聴率、米の品質調査、空港の手荷物検査
		○ 各章の扉に写真やイラスト等を掲載している。また、章の学習につながる疑問をサブタイトルの形で示している。	○ 各章の扉に写真やイラスト等を掲載している。	○ 各章の扉に写真やイラスト等を掲載している。また、章の学習につながる疑問をサブタイトルの形で示している。	○ 各章の扉に写真やイラスト等を掲載している。	○ 各章の扉に写真やイラスト等を掲載している。	○ 各章の扉に写真やイラスト等を掲載している。	○ 各章の扉に写真やイラスト等を掲載している。また、章の学習につながる疑問をサブタイトルの形で示している。
		○ 学習の区切りに「学びをふり返ろう」や各章末に「ふり振り返りレポート」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。また、学習の区切りの「学びをふり返ろう」には、数学的な見方・考え方を示している。	○ 学習の区切りや各章末に「学びのふり振り返り」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。	○ 学習の区切りに「どんなことがわかったかな」や各章末に「○章へ」を学んで」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。また、「どんなことがわかったかな」の横に「次の課題へ」の欄を設け、次の学習につながる疑問と関連箇所のページ数を示している。	○ 章末に「○章 学習のまとめ」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。	○ 章末に「○章のあしあと」コーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。	○ 巻末に各学年までのまとめ、「学びの自己評価」のコーナーを設け、学習を振り返ることができるようにしている。また、学習の区切りに「次の課題」として、次の学習につながる問いかけを記載している。	

観 点	視 点	発 行 者						
		東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版	新興出版社啓林館	数研出版	日本文教出版
観 点 4	⑤ 列・単 元・分 量・題 材や資 料等の 配	○ 第1学年は、0章から7章までの8つの章で構成されている。 ○ 第3学年の「2次方程式」で、平方根の考えを使った解き方、因数分解による解き方の順で扱っている。 ○ サイズ B5判 重さ 第1学年 558g 第2学年 431g 第3学年 484g	○ 第1学年は、1章から7章までの7つの章で構成されている。 ○ 第3学年の「2次方程式」で、因数分解による解き方、平方根の考えを使った解き方の順で扱っている。 ○ サイズ B5判 重さ 第1学年 555g 第2学年 427g 第3学年 513g	○ 第1学年は、1章から7章までの7つの章で構成されている。 ○ 第3学年の「2次方程式」で、因数分解による解き方、平方根の考えを使った解き方の順で扱っている。 ○ サイズ B5判 重さ 第1学年 568g 第2学年 472g 第3学年 574g	○ 第1学年は、1章から8章までの8つの章で構成されている。 ○ 第3学年の「2次方程式」で、因数分解による解き方、平方根の考えを使った解き方の順で扱っている。 ○ n	○ 第1学年は、1章から7章までの7つの章で構成されている。 ○ 第3学年の「2次方程式」で、平方根の考えを使った解き方、因数分解による解き方の順で扱っている。 ○ サイズ B5判 重さ 第1学年 503g 第2学年 449g 第3学年 543g	○ 第1学年は、1章から7章までの7つの章で構成されている。 ○ 第3学年の「2次方程式」で、因数分解による解き方、平方根の考えを使った解き方の順で扱っている。 ○ サイズ B5判 重さ 第1学年 531g 第2学年 449g 第3学年 543g	○ 第1学年は、1章から7章までの7つの章で構成されている。 ○ 第3学年の「2次方程式」で、因数分解による解き方、平方根の考えを使った解き方の順で扱っている。 ○ サイズ B5判 重さ 第1学年 557g 第2学年 449g 第3学年 512g
観 点 5	⑥ 示し他 方教科 や日常 生活と の関連 の	○ 他教科や日常生活と関連がある題材に、教科名等のマークを付している。 ○ 日常生活や社会と関連のある具体例を扱っている。 第3学年 「関数 $y = ax^2$ 」の具体例の数 10	○ 他教科や日常生活と関連がある題材に、教科名等のマークを付している。 ○ 日常生活や社会と関連のある具体例を扱っている。 第3学年 「関数」の具体例の数 12	○ 他教科や日常生活と関連がある題材に、職業名等のマークを付している。 ○ 日常生活や社会と関連のある具体例を扱っている。 第3学年 「関数 $y = ax^2$ 」の具体例の数 11	○ 他教科や日常生活と関連がある題材に、教科名等のマークを付している。 ○ 日常生活や社会と関連のある具体例を扱っている。 第3学年 「関数 $y = ax^2$ 」の具体例の数 11	○ 他教科や日常生活と関連がある題材に、教科名等のマークを付している。 ○ 日常生活や社会と関連のある具体例を扱っている。 第3学年 「関数 $y = ax^2$ 」の具体例の数 9	○ 他教科や日常生活と関連がある題材を扱っている。 ○ 日常生活や社会と関連のある具体例を扱っている。 第3学年 「関数 $y = ax^2$ 」の具体例の数 8	○ 他教科や日常生活と関連がある題材に、教科名等のマークを付している。 ○ 日常生活や社会と関連のある具体例を扱っている。 第3学年 「関数 $y = ax^2$ 」の具体例の数 9

観点	視点	発行者					
		東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版	新興出版社啓林館	数研出版
観点5 内容の表現・表記	⑦ ウェブコンテンツの内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・	○ 広島に関する題材を扱い、写真を掲載している。 ・ 世羅郡のチューリップ畑 ○ 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。 ○ ウェブコンテンツを利用できるよう、巻末にURLと二次元コードを掲載している。また、対応する箇所には「Dマーク」を付している。第1学年の6章「空間図形」で、31個の二次元コードを掲載している。 ○ 巻末に付録として、切り取って使う教材がある。 例 第1学年の空間図形に関するもの ・ 正四面体 ・ 正六面体 ・ 正八面体 ・ 正十二面体 ・ 正二十面体 ・ 6個の正四角錐を組み合わせてできる立方体	○ 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。 ○ ウェブコンテンツを利用できるよう、巻頭にURLと二次元コードを掲載している。また、対応する箇所には「Webマーク」を付している。第1学年の6章「空間図形」で、6個の二次元コードを掲載している。 ○ 巻末に付録として、切り取って使う教材がある。 例 第1学年の空間図形に関するもの ・ 正十二面体 ・ 正二十面体	○ 広島に関する題材を扱い、写真を掲載している。 ・ マイスカイホール85 ・ 広島市の海拔表示 ・ 宮島水族館 ・ 因島大橋 ・ 厳島神社 ・ 北広島町役場 ○ 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。 ○ ウェブコンテンツを利用できるよう、巻頭にURLと二次元コードを掲載している。また、対応する箇所には二次元コードを付している。第1学年の6章「空間図形」で、22個の二次元コードを掲載している。 ○ 巻末に付録として、切り取って使う教材がある。 例 第1学年の空間図形に関するもの ・ 3個の四角錐を組み合わせてできる立方体 ・ 6個の正四角錐を組み合わせてできる立方体	○ 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。 ○ ウェブコンテンツを利用できるよう、巻頭に二次元コードを掲載している。また、対応する箇所には二次元コードを付している。第1学年の7章「空間図形」で、29個の二次元コードを掲載している。 ○ 巻末に付録として、切り取って使う教材がある。 例 第1学年の空間図形に関するもの ・ 正四面体 ・ 正六面体 ・ 正八面体 ・ 正十二面体 ・ 正二十面体 ・ 3個の正四角錐を組み合わせてできる正四角柱	○ 広島に関する題材を扱い、写真を掲載している。 ・ 瀬戸内しまなみ海道サイクリングロード ○ 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。 ○ ウェブコンテンツを利用できるよう、巻頭にURLと二次元コードを掲載している。また、対応する箇所には二次元コードを付している。第1学年の6章「空間図形」で、29個の二次元コードを掲載している。 ○ 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。 ○ ウェブコンテンツを利用できるよう、巻頭にURLと二次元コードを掲載している。また、対応する箇所には「リンクマーク」を付している。第1学年の6章「空間図形」で、25個の二次元コードを掲載している。 ○ 巻末に付録として、切り取って使う教材がある。 例 第1学年の空間図形に関するもの ・ 正四面体 ・ 正六面体 ・ 正八面体 ・ 正十二面体 ・ 正二十面体	○ 生徒やキャラクターのイラストと吹き出しを付して、考えるときのポイントや話し合いの場面等を示している。 ○ ウェブコンテンツを利用できるよう、巻頭にURLと二次元コードを掲載している。また、対応する箇所には二次元コードを付している。第1学年の6章「空間図形」で、38個の二次元コードを掲載している。 ○ 巻末に付録として、切り取って使う教材がある。 例 第1学年の空間図形に関するもの ・ 正四面体 ・ 正六面体 ・ 正八面体 ・ 正十二面体 ・ 正二十面体
	⑧ 工夫文字の大きさや配色等の	○ ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、レイアウトやフォント、色遣いに配慮している。 ○ 重要事項や公式を、囲みの中が水色に塗られた枠で示している。	○ ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、レイアウトやフォント、色遣いに配慮している。 ○ 重要事項や公式を、赤色の枠で囲んでいる。	○ ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、フォントやレイアウト、色遣いに配慮している。 ○ 重要事項や公式を、鍵マークの付した枠で示している。	○ ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、レイアウトや色遣い、フォントに配慮している。 ○ 重要事項や公式を、囲みの中をクリーム色に塗られた枠で示している。	○ ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、レイアウトやフォント、色遣いに配慮している。 ○ 重要事項や公式を、青色の枠で囲んでいる。	○ ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、フォントやレイアウト、色遣いに配慮している。 ○ 重要事項や公式を、囲みの中を水色に塗られた枠で示している。

令和6年7月25日

広島市教科用図書採択審議会会長 様

広島市教科用図書採択審議会調査員

教科【理科】種目【理科】

代表者

原田忠則

令和7年度使用広島市立中学校用教科用図書の調査・研究について（報告）

このことについて、別紙のとおり調査・研究結果をまとめましたので、報告します。

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教 科 [理科] 種 目 [理科]

2 本市の実態や生徒の状況

- 本市には、こども文化科学館、安佐動物公園、植物公園、江波山気象館等の施設があり、様々な分野の事象を観察・調査することができる施設が整っている地域である。周辺部は、山や川など自然に恵まれており、自然の中での体験から理科の学習につながる学びを得ることができる。また、大雨による土砂災害等の自然災害も多く発生しており、自然災害と人間との関わり方についての認識を深めさせることが必要な地域でもある。
- 令和 4 年度の全国学力・学習状況調査によると、本市の生徒の実態として、観察や実験に対する意欲を持ち、進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えることができている。一方、知識及び技能の習得や、それらを活用すること、観察実験の結果を分析・解釈することに課題が見られる。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 知識や概念の定着を図り、知識を深めるための工夫 ② 観察・実験の技能を習得させるための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 科学的な概念を活用して分析・解釈したり、説明したりする学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑥ 単元ごとの章立て
<内容の表現・表記>	⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教 科 [理科] 種 目 [理科]

2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観 点	視 点	発 行 者				
		東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版	新興出版社啓林館
観 点 1 知 識 及 び 技 能 の 習 得	① 知 識 や 概 念 の 定 着 を 図 り、 知 識 を 深 め る た め の 工 夫	○ 各単元の導入や本文の側注に、既習事項を確認できるように「これまで学んだこと」の欄を設けている。	○ 各単元の導入や本文の側注に、既習事項を確認できるように、それぞれ「これまでに学習したこと」、「思いだそう」の欄を設けている。	○ 各単元の導入に、既習事項を確認できるように「ふり返ろう・つなげよう」の欄を設けている。	○ 各章の導入や本文中に既習事項を確認できるように「おさらい これまでの学習」、「思い出そう」の欄を設けている。	○ 各節の導入や本文の側注に、既習事項を確認できるように「つながる学び」の欄を設けている。
		○ 各章末に、学習内容を確認するため、問題演習を行う「章末 学んだことをチェックしよう」を設け、二次元コードから章末問題へアクセスできるようにしている。また、各単元末に、基本事項を確認するための「学習内容の整理」と問題演習を行う「確かめ問題」を設け、二次元コードから問題演習へアクセスできるようにしている。さらに、知識を深める問題演習の「活用問題」を設けている。	○ 各章末に、学習内容を確認するため、問題演習を行う「章末問題」を設けている。また、各単元末に基本事項を確認する「まとめ」と問題演習を行う「単元末問題」、「読解力問題」を設けている。さらに、第3学年の巻末に、問題演習を行う「学習のまとめ」を設けている。	○ 各単元末に、基本事項を確認する「学習のまとめ ステップ1」、問題演習を行う「学習のまとめ ステップ2」を設けている。また、第2、3学年の巻末には「ステップ3 読解力強化問題」も設けている。さらに、学年の巻末に問題演習を行う「思考をさらに深める」を設けている。	○ 各章末に、学習内容を振り返る「要点をチェック」を設けている。また、単元末に、基本事項を確認する「要点と重要語句の整理」と問題演習を行う「基本問題」、「活用問題」を設けている。さらに、各学年の巻末に問題演習を行う「学年末総合問題」も設けている。	○ 各章末に、学習内容を確認するため、問題演習を行う「Review-ふり返ろう」を設け、二次元コードから問題演習、ふり返りシートへアクセスできるようにしている。また、各単元末に基本事項を確認するための「学習のまとめ」と問題演習を行う「力だめし」を設け、二次元コードから問題演習へアクセスできるようにしている。さらに、各学年の巻末に、問題演習を行う「学年末総合問題」を設け、第3学年の巻末には、問題演習を行う「中学校総合問題」も設けている。
		○ つまづきやすい内容には、「例題」、「考え方」、「練習」を設けている。また、二次元コードから「練習問題」にアクセスができるようにしている。	○ つまづきやすい内容には、「例題」、「解答例」、「演習」の欄を設けている。	○ つまづきやすい計算については、巻末に「計算問題 例題」を設けている。	○ つまづきやすい内容には、「例題」、「解き方」、「練習」を設けている。	○ つまづきやすい内容には、「例題」、「考え方」、「練習」を設けている。また、「練習」については、二次元コードから「解説動画」へアクセスができるようにしている。
		○ 本文の側注に「ここがポイント」の欄を設け、知識や技能を習得するための補足をしている。	○ 本文の側注に「ことば」の欄を設け、理科に関することばの理解を深めるため、重要語句の補足をしている。		○ 本文の側注に「ここでのポイント」、「言葉」の欄を設け、解説や補足をしている。	○ 本文の側注に「な・る・ほ・ど」の欄を設け、まちがいやすい内容を正しく理解したり知識を広げたりできるようにしている。

観 点	視 点	発行者				
		東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版	新興出版社啓林館
観 点 1 知 識 及 び 技 能 の 習 得	② 観 察 ・ 実 験 の 技 能 を 習 得 さ せ る た め の 工 夫	○ 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付け、実験を行う際の注意事項にマークを付している。注意事項等は、6種類のマークで示している。	○ 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付け、実験操作のコツや注意事項にマークを付している。	○ 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付け、吹き出しで実験操作のコツの説明や注意事項にマークを付している。	○ 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付け、実験操作の注意事項にマークを付している。注意事項等は、5種類のマークで示している。	○ 観察・実験の説明では、手順のまとまりごとに見出しを付け、実験操作の注意事項にマークを付している。注意事項等は、9種類のマークで示している。
		○ 各学年に「理科室の決まり」として、安全に実験を行うために、実験前、実験中、実験後の説明をチェックリストにしている。また、事故が起きた場合の応急処置の方法と、実験中に地震が起きたときの対処方法を掲載している。さらに第1学年では、1枚のイラストから誤った行動を10個見つける活動を設定している。	○ 各学年に「理科室の決まり」として、安全に実験を行うために、「実験の心構え」を実験前、実験中、実験後と注意事項をチェックリストにしている。また、火を扱うときの注意と、実験中に地震が起きたときの対処方法を掲載している。さらに、1枚のイラストから誤った行動を見つける活動を設定している。	○ 第1学年の巻末の「基本操作」に、「理科室の使い方」として安全に探究を行うために、探究前、探究中、探究後の注意事項が示している。また、事故が起きた場合の応急処置の方法や実験中に地震が起きたときの対処方法、薬品や廃液、ガラスの破片の扱いを掲載している。	○ 各学年の「基礎技能」に、「理科室のきまりと応急処置」として、実験前、実験中、実験後のきまりをチェックリストにしている。また、事故が起きた場合の応急処置の方法の紹介、可燃性の薬品や残った薬品の扱い方、加熱した金属の扱いを掲載している。さらに、地震が起きたときや感染症が広がっているときの対処方法をチェックリストにしている。	○ 各学年の「サイエンス資料」で、安全に実験を行うために、実験前、実験中、実験後の説明をチェックリストにしている。また、廃液や廃棄物の処理、「気をつけたい実験操作」を示し、事故が起きた場合の対処方法、応急処置の方法も掲載している。さらに、実験中に地震が起きたときの対処を「地震発生直後」、「ゆれがおさまったら」に分けてチェックリストにしている。
		○ 第1学年と第2学年の「基本操作」に、グラフのかき方、グラフの利点と誤差を掲載している。また、二次元コードからグラフのかき方へアクセスできるようにしている。	○ 第1学年の「基本操作」にグラフのかき方、グラフの利点と誤差について掲載している。	○ 第1学年の「基本操作」に、グラフのかき方、誤差、グラフ作成時の失敗例を掲載している。	○ 各学年の「基礎技能」に、グラフの表し方、グラフの利点と誤差を掲載している。	○ 第1学年の「実験のスキル」と第2学年の「サイエンス資料」に、グラフのかき方、グラフの利点と誤差、グラフ作成時の失敗例を掲載している。また、二次元コードから「グラフのかき方」、「誤差の説明」へアクセスできるようにしている。
		○ 第2学年と第3学年の「基本操作」に、顕微鏡の操作手順を掲載している。また、第2学年では、倍率と視野の明るさの関係を説明したり、試料が見えづらい事例を写真で4例掲載し、対処の方法を説明している。さらに、二次元コードから顕微鏡の「操作説明」へアクセスできるようにしている。	○ 第2学年の「基礎技能」に、顕微鏡の各部の名称や操作手順を掲載している。また、試料が見えづらい事例を写真で示している。	○ 第1学年と第2学年の「基本操作」に、顕微鏡の各部の名称や操作手順、倍率の求め方を掲載している。また、第2学年では、倍率と視野の明るさの関係を説明したり、試料が見えづらい事例を写真で3例掲載し、対処の方法を説明している。	○ 各学年の「基礎技能」に、顕微鏡の各部の名称や操作手順を掲載している。	○ 第1学年と第2学年の「サイエンス資料」に、顕微鏡の各部の名称と操作手順、プレパラートのつくり方、拡大倍率の求め方を掲載し、二次元コードから「解説動画」へアクセスできるようにしている。また、第2学年では、「顕微鏡Q&A」に資料が見えづらい事例を写真で3例掲載し、対処の方法を説明している。さらに、「ICTでトライ」にICT機器を使用した記録方法を掲載している。

観点	視点	発行者				
		東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版	新興出版社啓林館
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	③ 科学的な概念を活用して分析解釈したり、説明したりする学習活動の工夫	○ 各学年の巻頭に「『探究』の流れを確認しよう」、「教科書の使い方をおさえよう」として、探究の過程を8段階で示し、考察の後に課題に対する結論をまとめたり、ほかの人の書いたものと比べたりすることで自分の考えを広げ、深められるよう設定している。	○ 第1学年の巻末に、「探究の進め方」として、探究の過程を8段階で示し、考察の後に、調べたことをまとめ、発表するように設定している。	○ 各学年の巻頭に「理路整然 どうする、探究の進め方」として探究の進め方を10段階で設定している。	○ 各学年の巻頭に「探究の進め方」として、探究の過程を7段階で示し、観察・実験によって得られた結果を考察するように設定している。	○ 各学年の巻頭に「探究をはじめよう」として、探究の過程を「課題の把握」、「課題の追及」、「課題の解決」の3つの活動を設定し、その活動内容を8段階で示し、考察の後に口頭発表やレポートなどで表現するように掲載している。また、巻末に「探究の流れと探究のふり回り」として、探究の説明をチェックリストにし、つまずきと解決のヒントを掲載している。
		○ 各単元の節のはじめに「問題発見」や「？」として疑問を投げかけるようにしており、各節の終わりに学習内容を活用して説明やまとめを考えさせるようにしている。また、本文の側注に「理科の見方・考え方」やキーワードを掲載している。	○ 各単元のはじめに、「？」として疑問を示している。	○ 各単元のはじめに、単元を貫く問いである『学びのあしあと』を設けている。	○ 各章のはじめに「学習前の私」として学習課題を示しており、各章の終わりに「学習後の私」として同じ学習課題を考えさせるようにしている。	○ 各単元に単元内で学習した内容を活用して説明やまとめを考えさせる「Action」を設けている。
		○ 第1学年に4箇所、第2学年に5箇所、第3学年に4箇所「じっくり探究」として、探究の過程の流れに沿って疑問を解決する活動を設定している。	○ 各単元末に、「探究活動」を設定し、習得した知識・技能を統合し、探究の過程に沿って疑問を解決する活動を設定している。	○ すべての観察・実験を「探究」として位置づけ、探究の過程に沿って疑問を解決する活動を設定している。	○ 第1学年に4箇所、第2学年に6箇所、第3学年に5箇所「疑問から探究してみよう」として、探究の過程に沿って疑問を解決する活動を設定している。	○ 各学年4箇所、各単元にある1つの実験・実習を「探Q実験・実習」として、探究の過程に沿って疑問を解決する活動を設定している。また、巻末に探Q実験・実習に対応した「探Qシート」を設けている。さらに、「みんなで探Qクラブ」として、学習内容から生じた疑問を探究する活動を設定している。
		○ 各学年の巻頭に、「レポートのまとめ方」として、実験の動機、目的、仮説、実験の流れから結果、考察、まとめまでの流れをどのような視点で書くか示している。	○ 第1学年の巻末に、「ノートやレポートの書き方」として、目的、予想、実験の流れから結果、考察、感想までの流れを例をもとに示している。	○ 各学年の巻頭に「どうする、レポート」として、課題、仮説、実験の流れから結果、考察、ふり回りまでの流れをどのような視点で書くか示している。また、第1学年の単元1内の1章にある「理路整然」で、まとめ方を示している。さらに、単元2内の1章に「結果と考察」について分析・解釈するために必要な考え方を示している。	○ 各学年の巻頭に「基礎技能、レポートの書き方」として、目的、仮説、実験の流れから結果、考察、疑問までの流れをどのような視点で書くか示している。	○ 第1学年に「わたしのレポート」として、目的、観察の流れから結果、考察、観察をふり返ってまでの流れをどのような視点で書くか示している。また、第1学年の巻末の「サイエンス資料」に思考ツールの活用を掲載している。

観 点	視 点	発行者				
		東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版	新興出版社啓林館
観 点 3	④ 返 つ 興 味 ・ 次 ・ 関 心 な げ た り せ 、 見 通 し を 立 て た り 、 学 習 を 振 り 組 む 工 夫	○ 各単元のはじめに、「この単元で学ぶこと」として各章の内容を掲載している。また、ページ下部には、生徒がどの段階を学習しているかがわかるフローチャートを設けている。さらに、各章のはじめにある二次元コードから「スタート動画」にアクセスできるようにしている。	○ 各単元のはじめに、章立てと「これから学習すること」として、各章の内容を掲載している。	○ 各単元のはじめに「学びのあしあと」として、単元を学ぶ前と、学んだ後で、自分の考えがどのように変化したか振り返りができるようにしている。また、できるようになりたい目標を示した「Can-Do List」を設置している。	○ 各単元のはじめに「学んでいくこと」として各章の内容をこれまで学習した関連した内容とともに掲載している。	○ 各単元のはじめに、「学びの見通し」として、各章の題名を掲載している。また、この単元で学ぶ内容を、吹き出しの中にて身近な例を出して説明している。さらに、各章のはじめにある二次元コードから章の学習内容に関連する動画を掲載している「はてなスイッチ」にアクセスできるようにしている。
		○ 学習を振り返って、次につなげることができるよう、各章のはじめと終わりに、「Before&After」を設けて、その章を学ぶ前と後で、自分の考えがどのように変わったか振り返りができるようにしている。	○ 学習を振り返って、次につなげることができるよう、「ふり返ろう」の欄を設けている。	○ 学習を振り返って、次につなげることができるよう、各単元のはじめに「ふり返ろう・つなげよう」を設けている。	○ 学習を振り返って、次につなげることができるよう、各章のはじめに二次元コードから「これまでの学習のおさらい」にアクセスできるようにしている。	○ 学習を振り返って、次につなげることができるよう、各単元のはじめと終わりに、「学ぶ前にトライ」、「学んだ後にリトライ」を設けて、その単元を学ぶ前と後で、自分の考えがどのように変わったか振り返りができるようにしている。
		○ 全学年にSDGsに関するコラムを「私たちのSDGs」として掲載している。		○ 全学年の各章のはじめにSDG s マークを付している。また、SDGsに関するコラムを「SDG s を意識して脱炭素化社会」として掲載している。	○ 第3学年で「持続可能な社会をつくるために」として探究する場面を設けている。	○ 全学年の裏表紙裏にSDGsに関するコラムを「地域・環境資料集」として掲載している。また、単元末にもSDGsに関するコラムを「ひろがる世界」として掲載している。さらに、文中のSDGsに関する内容にロゴマークを付している。

観 点	視 点	発 行 者				
		東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版	新興出版社啓林館
観 点 4	⑤ 列・単 元・分 量・題 材や資 料等の 配	○ 目次に各単元と各章の他、「基本操作」、「読み物」を設けている。 ○ 広島県に関連した資料や記述が全学年を通して2箇所ある。うち、本市に関連した資料が2箇所あり、広島市植物公園と市内の公害碑を、写真を付して掲載している。 ○ サイズ AB判 第1学年 262ページ（約500g） 第2学年 310ページ（約596g） 第3学年 326ページ（約610g）	○ 目次に各単元と各章の他、「探究活動」を設けている。 ○ 広島県に関連した資料や記述が全学年を通して1箇所ある。うち、本市に関連した資料が1箇所あり、安佐動物公園を、写真を付して掲載している。 ○ サイズ B5判 第1学年 294ページ（約531g） 第2学年 318ページ（約565g） 第3学年 374ページ（約662g）	○ 目次に各単元と章の他、「補充資料」を設けている。 ○ AB判 第1学年 262ページ（約610g） 第2学年 302ページ（約700g） 第3学年 302ページ（約700g）	○ 目次に各単元と章を設けている。 ○ 広島県に関連した資料や記述が全学年を通して2箇所ある。うち、本市に関連した資料が1箇所あり、三角州を、写真を付して掲載している。 ○ AB判 第1学年 291ページ（約615g） 第2学年 315ページ（約664g） 第3学年 347ページ（約725g）	○ 目次に各単元と各章の他、「観察・実験などの技能」、「科学コラム」、「サイエンス資料」を設けている。 ○ 広島県に関連した資料や記述が全学年を通して7箇所ある。うち、本市に関連した資料が3箇所あり、広島市の露頭、三角州、こども文化科学館を、写真を付して掲載している。 ○ AB判 第1学年 284ページ（約590g） 第2学年 308ページ（約635g） 第3学年 340ページ（約700g）
	⑥ 単 元 ご と の 章 立 て	○ 観察・実験の季節的要因や生徒の科学的概念の形成に配慮した単元の配列で構成している。 ○ 第1学年 生物3章、化学4章 物理3章、地学4章 ○ 第2学年 化学5章、生物4章 地学3章、物理3章 ○ 第3学年 化学3章、生物3章 物理3章、地学3章 自然・科学技術と人間4章 ○ 各単元のタイトルを、それぞれの学年で主に学習する内容から設定している。	○ 観察・実験の季節的要因や生徒の科学的概念の形成に配慮した単元の配列で構成している。 ○ 第1学年 生物3章、化学4章 物理3章、地学4章 ○ 第2学年 化学5章、生物4章 物理3章、地学3章 ○ 第3学年 物理4章、生物3章、自然2章 化学3章、地学3章 科学技術と人間3章 ○ 各単元のタイトルを、それぞれの学年で主に学習する内容から設定している。	○ 観察・実験の季節的要因や生徒の科学的概念の形成に配慮した単元の配列で構成している。 ○ 第1学年 生物3章、化学3章 物理3章、地学3章 ○ 第2学年 化学3章、生物3章 物理3章、地学3章 ○ 第3学年 物理3章、生物3章 化学3章、地学3章 自然・科学技術と人間1章 ○ 各単元のタイトルを、それぞれの学年で主に学習する内容から設定している。	○ 観察・実験の季節的要因や生徒の科学的概念の形成に配慮した単元の配列で構成している。 ○ 第1学年 生物3章、化学4章 地学4章、物理3章 ○ 第2学年 化学3章、生物3章 地学5章、物理4章 ○ 第3学年 化学3章、生物3章 地学4章、物理4章 自然・科学技術と人間6章 ○ 各単元のタイトルを、それぞれの学年で主に学習する内容から設定している。	○ 各校の実状に合わせて学習順序を組み替えられるよう、単元は全学年同じ配列になっている。 ○ 第1学年 生物2章、地学4章 化学4章、物理3章 ○ 第2学年 生物4章、地学4章 化学4章、物理3章 ○ 第3学年 生物3章、地学3章 化学3章、物理5章 自然・科学技術と人間5章 ○ 各単元を、「生命」、「地球」、「物質」、「エネルギー」と設定している。

観 点	視 点	発行者				
		東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版	新興出版社啓林館
観 点 5 内 容 の 表 現 ・ 表 記	⑦ 他 教 科 や 日 常 生 活 と の 関 連 の 示 し 方	○ 他教科との関連を示す「（教科名）で学ぶこと」、「（教科名）で学んだこと」を掲載している。さらに、二次元コードから他教科の内容へアクセスできるようにしている。	○ 他教科との関連を示す「つながる」を本文側注に掲載している。また、各学年の巻末資料に「つながる理科の学習と算数・数学」を掲載している。	○ 他教科との関連を示す「つながり（教科名）」を本文側注に掲載している。	○ 小学校算数との関連を示す「ブリッジ算数」のマークを本文脇に付している。また、巻末資料に「理科で使う算数・数学」を掲載している。	○ 他教科との関連を示す「（教科名）と関連」のマークを付している。また、サイエンス資料に「理科でよく使う算数・数学」を掲載している。
		○ 日常生活との関連を図った読み物として、「まちなか科学」、「なるほどね」、「お仕事図鑑」、「防災特集」、「私たちのSDG s」、「学びを生活や社会に広げよう」を設けている。 ○ 第2学年で「気象現象がもたらすめぐみと災害」の節にて、「災害を起こす気象現象を止めることはできないが、被害を小さくするための備えはできる。」と説明し、雨量等の予想やハザードマップにて災害の被害を減らせることを示している。また、側注に「注意報」、「警報」、「特別警戒」を緊急度別に掲載している。 ○ 第3学年で「自分たちの住む地域で過去に起こった自然災害について調べよう」との課題を設定し、レポート例に「本市の水害碑について」および「『広島市防災ポータル』を活用した調査結果」を掲載している。	○ 日常生活との関連を図った読み物として、「Science Press」、「くらしの中の理科」、「Professional」を設けている。 ○ 第2学年で「自然の恵みと気象災害」の節にて、「大雨が降ると、土砂災害、洪水、浸水などさまざまな被害をもたらす。」と気象災害について説明し、災害から身を守るための対策を掲載している。 ○ 第3学年で「地域の自然災害」の節を設定し、気象災害及び地震や火山などの災害について説明している。	○ 日常生活との関連を図った読み物として「なぜ、理科を学ぶの?」、「理路整然一智に働けば役に立つ」、「SDG sを意識して脱炭素社会へ」を設けている。 ○ 第2学年で「気象に関わる恵み・災害」の節にて、「集中豪雨」、「竜巻」についての説明や写真を記載している。 ○ 第3学年で「自然の恵みと災害」の章を設定し、「身のまわりで自然の資源をどのように利用しているか。自然災害に対してどのような取り組みをしているか。」の調査と議論の活動を設定している。	○ 日常生活との関連を図った読み物として、「ハローサイエンス 生活」、「広がる科学の世界」を設けている。 ○ 第2学年で「雨や雪、風が人間生活を襲うとき」の節にて、「大雨は、河川の氾濫や崖崩れなどをもたらし、建物や田畑の浸水、住居や道路の埋没などを引き起こすことがある。（略）」と説明し、災害から身を守るために気象庁の情報とハザードマップでの備えや対策を掲載している。 ○ 第3学年で「自然災害と私たち」の章を設定し、「身近な地域で起こった過去の自然災害と現在の対策について調べてみよう」の活動を設定している。	○ 日常生活との関連を図った読み物「科学コラム」として「部活ラボ」、「お料理ラボ」、「お仕事ラボ」、「防災減災ラボ」、「深めるラボ」を設けている。 ○ 第2学年で「天気の変化がもたらす恵みと災害」の節にて、「天気の変化は、地域によって特徴がある。住んでいる地域に特徴的な天気の変化や、その結果もたらされる災害についてを知り、備える必要がある。」と説明し、各地域での天候に対する工夫を示している。また、観測結果や予測を参考にすることで防災・減災につながることを示している。 ○ 第3学年で「自然が人間の生活におよぼす影響」の章を設定し、「地域の自然災害の調査」の活動を設定している。また、考えるための視点を補足するために「な・る・ほ・ど」を掲載している。

観 点	視 点	発行者				
		東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版	新興出版社啓林館
観 点 5	⑧ ンなツさ本のたのし イ記述・内 ス・容と真 写・適・切 ウなエ関 ブ連づ ンけ テが	○ 各単元の扉ページおよび各章の扉ページに、学習内容と関連付けられた写真を見開き等で掲載している。	○ 各単元の扉ページに、見開きで内容と関連付けられた写真を掲載している。	○ 各単元の扉ページに、見開きで内容と関連付けられた写真を掲載している。	○ 各単元の扉ページおよび各章の扉ページに、学習内容と関連付けられた写真を見開きで掲載している。	○ 各単元の扉ページおよび各章の扉ページに、学習内容と関連付けられた写真を見開きで掲載している。
		○ 各学年の目次のページの二次元コードまたはサイトのアドレスからデジタルコンテンツを利用できるようにしている。また、各ページに記載された二次元コードおよびサイトのアドレスから、「実験手順」、「資料」、「シミュレーション」等、学習を補足する内容にアクセスすることができ、それらが利用できるようにしている。	○ 各学年の目次のページの二次元コードまたはサイトのアドレスから、ウェブコンテンツが一覧となったページを利用できるようになっている。また、巻末資料の「基本操作」の二次元コードから動画にアクセスできるようにしている。	○ 各ページの上端の二次元コードから学習を広げるウェブコンテンツにアクセスすることができ、それらが利用できるようにしている。	○ 各ページの二次元コードおよびサイトのアドレスから、「実験道具の使い方」、「Webずかん」、「要点チェック」等、学習を補足するコンテンツにアクセスすることができ、それらが利用できるようにしている。	○ 各学年の各ページに掲載された二次元コードおよびサイトのアドレスから、実験器具の「解説動画」、「補足資料」、「Webリンク」等、学習を補足するデジタルコンテンツにアクセスすることができ、それらが利用できるようにしている。
		○ 歴史的な発明や科学者を「歴史にアクセス」として掲載している。	○ 歴史的な発明や科学者を「科学のあしあと」として掲載している。	○ 歴史的な発明や科学者を「理路整然」「資料」として掲載している。	○ 歴史的な発明や科学者を「ハローサイエンス 歴史」「科学者列伝」として掲載している。	○ 歴史的な発明や科学者を「科学史」マークを付して掲載している。また、二次元コードから補足するデジタルコンテンツにアクセスできるようになっている。

令和6年7月18日

広島市教科用図書採択審議会会長 様

広島市教科用図書採択審議会調査員

教科 [音楽] 種目 [一般]

代表者 大片姜保子

令和7年度使用広島市立中学校用教科用図書の調査・研究について（報告）

このことについて、別紙のとおり調査・研究結果をまとめましたので、報告します。

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

- 1 教 科 [音 楽] 種 目 [一 般]
- 2 本市の実態や生徒の状況

○ 本市は、市内中心部に大ホールを併設した文化施設を有するとともに、各区に区民文化センターを設置しており、広島交響楽団による西洋音楽をはじめとし、能や民謡等様々なジャンルの音楽に触れる機会に恵まれた地域である。

○ 本市の生徒の実態として、各学校における文化祭や「文化の祭典」等において表現活動の学習成果を発表する機会があること、また、ネット環境や情報機器の充実により音楽に関する情報を得やすくなったことから、学校生活だけでなく、日常生活の中で音楽に親しんでいる生徒が多い。一方で、生徒によって音楽経験の差が大きく、興味を示す音楽に偏りがあることから、我が国や郷土の伝統的な音楽など多様な音楽に親しみ、よさを味わったり、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化についての関心や理解を深めたりすることについて課題がある。また、音楽を知覚したことや感受したこととの関わりについて考え、音楽表現を創意工夫したり音楽のよさや美しさを味わって聴いたりすることについて課題がある。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜知識及び技能の習得＞	① 表現領域の知識及び技能の習得を図るための工夫 ② 鑑賞領域の知識の習得を図るための工夫
＜思考力、判断力、表現力等の育成＞	③ 音楽表現を創意工夫するための工夫 ④ 音楽のよさや美しさを味わって聴くための工夫
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑥ 題材や資料等の配列・分量
＜内容の表現・表記＞	⑦ 他教科や、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化との関連の示し方 ⑧ 〔共通事項〕の指導を充実させるための工夫 ⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教 科 [音楽] 種 目 [一般]

2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観 点	視 点	発 行 者	
		教育出版	教育芸術社
観 点 1 知 識 及 び 技 能 の 習 得	① め の 表 現 領 域 の 知 識 及 び 技 能 習 得 を 図 る た	○ 第 1 学年に 3 か所、第 2 ・ 3 学年上に 1 か所、「Sing! Sing!」を設け、歌唱の知識及び技能習得に関する事項を示している。 〈第 1 学年〉 ・ 歌うための準備 ・ 言葉の発音について ・ 変声と混声合唱 〈第 2 ・ 3 学年上〉 ・ 歌うための準備 ○ 第 1 学年と第 2 ・ 3 学年下「Let's Try!」で、「指揮をしてみよう」のページを設け、指揮をする際の基本的なポイントを、文と図で示している。また、指揮者の言葉を参考にして考えるよう促している。 ○ 歌詞に込められた思いについて、作詞者からの言葉を掲載している。 ○ 各学年の創作教材について、「音のスケッチ」の中で、活動の進め方を活動 1、活動 2、活動 3・・・と順に示し、短い文で説明している。また、ワークシートや作品例を掲載している。	○ 第 1 学年に 1 か所、第 2 ・ 3 学年上に 2 か所、第 2 ・ 3 学年下に 1 か所、「My Voice!」を設け、歌唱に関する事項を示している。 〈第 1 学年〉 ・ 自分の歌声を見つけよう 〈第 2 ・ 3 学年上〉 ・ 自分の思いを歌声にのせよう ・ 鼻濁音 〈第 2 ・ 3 学年下〉 ・ 豊かな歌声で、気持ちを込めて歌おう ○ 各学年の「指揮をしてみよう」で、式をする際の基本的なポイントを、文と図などで示している。また、指揮者からのメッセージを掲載している。 ○ 歌詞に込められた思いについて、作詩者からの言葉を掲載している。 ○ 各学年で設けている創作教材について、「My Melody」、「Let's Create!」の中で、活動の進め方を①②③・・・と順に示し、短い文で説明している。また、ワークシートや作品例を掲載している。
	② の 鑑 賞 領 域 の 知 識 の 習 得 を 図 る た め	○ 鑑賞教材ごとに、聴くポイントを簡潔に示すとともに、音楽の背景や楽曲・作曲者などについて、解説を掲載している。 ○ 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族・諸外国の音楽を扱った題材では、音楽の多様性を理解するために、それぞれの音楽の特徴を捉え、比較したり関連付けたりする学習を設けている。 ○ 第 2 ・ 3 学年下の音楽史年表「日本と西洋の音楽の歩み」で、日本や西洋の音楽文化の歴史や代表的な作曲家・楽曲等について、写真や説明文を付した年表とともに掲載している。また、「聴いてみよう」のコーナーでは、その時代に関連する音楽を解説文や楽譜とともに掲載している。	○ 鑑賞教材ごとに、聴くポイントを簡潔に示すとともに、音楽の背景や楽曲・作曲者などについて解説を掲載している。 ○ 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族・諸外国の音楽を扱った題材では、音楽の多様性を理解するために、それぞれの音楽の特徴を捉え、比較したり関連付けたりする学習を設けている。 ○ 第 2 ・ 3 学年下の音楽史年表「耳でたどる音楽史」で、日本や西洋の音楽文化の歴史や代表的な作曲家・楽曲等について、写真や説明文を付した年表とともに掲載している。

観 点	視 点	発 行 者	
		教育出版	教育芸術社
観 点 2 思 考 力 、 判 断 力 、 表 現 力 等 の 育 成	③ 音 楽 表 現 を 創 意 工 夫 す る た め の 工 夫	○ 歌唱分野における学習内容の記載 ・ 「Active!」では、聴き取ったことや感じ取ったこと、表現の工夫などについて直接書き込む部分を設けている。また、考えたことを友達と交流したり歌ってみたりする活動を設定している。 【例】第1学年『『サウンド・オブ・ミュージック』から』 ○ 創作分野における学習内容の記載 ・ 「音のスケッチ」では、創意工夫するための活動のポイントを文章で示している。また、生徒や教師の発言を想定した吹き出しで思考を促したり、友達と交流する活動を設けたりしている。 【例】第1学年「全体の構成を考えながら音楽をつくろう」	○ 歌唱分野における学習内容の記載 ・ 「学びのコンパス」では、学習の手順を示し、聴き取ったことや感じ取ったこと、表現の工夫などについて直接書き込む部分を設けている。また、グループで話し合ったり、いろいろな表現を試したりする活動を設定している。 【例】第1学年「主は冷たい土の中に（静かに眠れ）」 ○ 創作分野における学習内容の記載 ・ 「My Melody」、「Let's Create!」では、創意工夫するための活動のポイントを文章で示している。また、生徒や教師の発言を想定した吹き出しを示して思考を促したり、中間発表の場面を設定した対話を例示したりしている。 【例】第1学年「構成を工夫して、3つの場面の音楽をつくろう」
	④ わ っ 音 楽 の よ さ め の 美 し さ を 味	○ 鑑賞領域における学習内容の記載 ・ 活動内容を文章で示すとともに、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさや魅力などについて、書き込む表や枠を設けている。 【例】第2・3学年上「交響曲第5番 ハ短調 作品67」 ・ 生徒や教師の発言を想定した吹き出しで、聴くポイントを示したり学習活動を促したりしている。 【例】第1学年「魔王」	○ 鑑賞領域における学習内容の記載 ・ 活動の手順を文章で示すとともに、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさなどや批評文などを書き込む表や枠を設けている。 【例】第2・3学年上「交響曲第5番 ハ短調」 ・ 生徒や教師の発言を想定した吹き出しで、聴くポイントを示したり学習活動を促したりしている。 【例】第1学年「魔王」

観 点	視 点	発行者	
		教育出版	教育芸術社
観 点 3 主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 工 夫	⑤ を 振 興 味 返 ・ 関 て 心 を に 持 つ た な げ た 見 通 し を を た め の 工 夫 学 習	○ 全学年の巻頭に、音楽家のメッセージや写真を掲載する「With My Heart 音楽はメッセージ」、「作者の思いにふれる」のページを設けている。 ○ 「目次」では、領域を色分けして示すとともに、創作活動、鑑賞教材、共通教材にはアイコンを付している。 ○ 比べて学びを深める教材には、「比べてみよう」のアイコンを、ページ数とともに下側に付している。 ○ 「学習MAP」では、育成を目指す資質・能力とともに領域・分野ごとに色分けをして図示し、各領域・分野の相互の関連を点線で繋ぎ、1年間の学習の流れを示している。 ○ 各題材名は、「学習MAP」と同じ色を付して、題材冒頭の見開き左側に縦書きで示している。また、活動のポイントを、題材冒頭の見開き左上に横書きで示している。	○ 全学年の巻頭に、音楽家のメッセージや写真を掲載するページや、様々な分野で活躍する人物のメッセージを掲載する「音楽ってなんだろう？」のページを設けている。 ○ 「目次」では、領域を色分けして示すとともに、共通教材にはアイコンを付している。 ○ 「学習内容」では、育成を目指す資質・能力とそれに対応する学習内容や教材を図示し、学習内容と各教材の関連度の大小を色の濃さで示している。 ○ 各学習目標は、「学習内容」と同じ色を付して、題材冒頭の見開き左側に縦書きで示している。また、教材冒頭の見開き左上に、「学習内容」と同じ色を付して、活動文を横書きで示すとともに、「考えたいポイント」を問いかけの言葉で活動文の横に掲載している。 ○ 各学年に、これまでの音楽の授業で学んだことを振り返る「音楽の学びを振り返ろう」を設定している。
	⑥ 題 材 や 資 料 等 の 配 列 ・ 分 量	○ 内容の構成は、以下の通りである。 〈領域・分野〉「歌唱」、「鑑賞」、「創作」 〈資料等〉音楽を形づくっている要素、Sing! Sing!（第1学年及び第2・3学年上掲載）、Let's Try!、資料、歌のアルバム、全校合唱、国歌 ○ 各学年の目次に示された領域ごとの教材数については、次のとおりである。 〈第1学年〉 歌唱：2 2 創作：2 鑑賞：7 〈第2・3学年上〉 歌唱：2 0 創作：2 鑑賞：8 〈第2・3学年下〉 歌唱：1 7 創作：2 鑑賞：6 ※ 歌唱の中に「歌のアルバム（国歌含む）」の楽曲を含む。 ○ 3年間で全ての共通教材を掲載している。 ○ 各領域・分野において、我が国の音楽や郷土の伝統音楽など、日本の文化と関連のある教材や活動を掲載している。	○ 内容の構成は、以下の通りである。 〈領域・分野〉「歌唱」、「鑑賞」、「創作」 〈資料等〉発声、リズムで楽しもう（第1学年及び第2学年上）、特集、指揮、資料、歌い継ごう日本の歌、心通う合唱、国歌 ○ 各学年の目次に示された領域ごとの教材数については、次のとおりである。 〈第1学年〉 歌唱：2 0 創作：2 鑑賞：7 〈第2・3学年上〉 歌唱：1 8 創作：2 鑑賞：6 〈第2・3学年下〉 歌唱：1 7 創作：2 鑑賞：7 ※ 歌唱の中に「歌い継ごう日本の歌」、「心通う合唱」の楽曲、国歌を含む。 ○ 3年間で全ての共通教材を掲載している。 ○ 各領域・分野において、我が国の音楽や郷土の伝統音楽など、日本の文化と関連のある教材や活動を掲載している。

観 点	視点	発行者	
		教育出版	教育芸術社
観 点 5 内 容 の 表 現 ・ 表 記	⑦ 他 教 科 や、 生 活 や 社 会 の 中 の 音 や 音 楽、 音 楽 文 化 と の 関 連 の 示 し 方	○ 音楽科と各教科等との関連を意識した教材や資料を示している。 【教材・資料例】 ・外国語歌詞の歌唱教材【外国語科】 ・「〇〇（教材の作曲家名）の時代」、「日本と西洋の音楽のあゆみ」【社会科・歴史】 ・「コンピュータで表現しよう」、「コンピュータと音楽」【技術・家庭科】 ・「音の三要素」【理科】 ○ 第2・3学年上「私たちのくらしと音楽」で、音楽著作権について掲載している。 ○ 第2・3学年下「ポピュラー音楽図鑑」で、4ページにわたり、代表的なポピュラー音楽の起源や特徴について、代表的なアーティストの写真やイラストを付して説明している。 ○ 第1学年「郷土の様々な民謡」、「日本とアジアの声による様々な表現」、第2・3学年上「郷土の音楽や芸能」、第2・3学年下「世界のさまざまな芸能や音楽」の中で、人々のくらしと音楽の結びつきについて示している。 ○ 第2・3学年下「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」で、2ページにわたり、アウトリーチや音楽を通した教育活動について、それぞれの活動場面の写真とともに掲載している。 ○ 各学年のSDGsとの関連がある教材や資料には、関連するアイコンを付している。	○ 音楽科と各教科等との関連を意識した教材や資料を示している。 【教材・資料例】 ・外国語歌詞の歌唱教材【外国語科】 ・「+α この頃、日本では…！？」、「年表で確かめよう」、「耳でたどる音楽史」【社会科・歴史】 ・曲の特徴と風土との関わり【社会科・地理】 ・俳句を用いた旋律創作【国語科】 ○ 第1学年、第2・3学年下「ルールを守って音楽を楽しもう！」で、音楽著作権について取り上げている。 ○ 第2・3学年下「ポピュラー音楽」で、見開き2ページで、ロック、ジャズ、ボサノヴァの起源や特徴について、代表的なアーティストの写真や楽譜を付して掲載し、よさや美しさを味わって聴く学習を設定している。また、次のページ「ポピュラー音楽のジャンル」で、海外編と日本編に分けて、4ページにわたり、様々なジャンルの相関関係について、写真を掲載して説明している。 ○ 第1学年「日本の民謡」、「郷土に伝わる民謡を調べよう」、「アジアの諸民族の音楽」、第2・3学年上「受け継ごう！郷土の祭りや芸能」、「世界の諸民族の音楽」、第2・3学年下「世界の諸民族の音楽」の中で、人々のくらしと音楽の結びつきについて示している。 ○ 全学年に「生活や社会の中の音や音楽」を設定し、音や音楽の果たす役割について、音楽を通した人と人とのつながりについて、音楽に関わる仕事について、それぞれの活動場面の写真とともに紹介している。 ○ 全学年、裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」、第2・3学年下「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや音楽」で、地域に伝わる祭りや芸能に取り組んでいる中学生を紹介している。 ○ 第2・3学年下「生活や社会の中の音や音楽」の中で、音楽教育や楽器とSDGsの関連について掲載している。

観 点	視 点	発行者	
		教育出版	教育芸術社
観 点 5 内 容 の 表 現 ・ 表 記	⑧ た め 「 共 通 事 項 」 の 指 導 を 充 実 さ せ る	○ 全学年の「学習MAP」で、共通事項を軸にした「学習の進め方」を掲載している。 ○ 教材に関連する音符や記号等の名称について、巻末の「楽典」で掲載されているページ数と共に、見開き右側に示している。 ○ 巻末「楽典」に、用語や記号などを掲載している。 ○ 全学年に掲載されている「どんな特徴があるかな？」において、音楽を形づくっている要素を集約し整理したものを図示するとともに、音楽を形づくっている要素の働きについて、演奏したり聴いたりして確認できるような学習活動を掲載している。	○ 全学年の「学習内容」で、音楽を形づくっている要素の一覧を掲載している。 ○ 各教材の学習に関連する音楽を形づくっている要素について、見開き左ページ下に示している。 ○ 教材に関連する音符や記号等の名称について、巻末の「楽典」で掲載されているページ数と共に、見開き右側に示している。 ○ 巻末「音楽の約束」で、用語や記号などを掲載している。 ○ 巻末に「音楽を形づくっている要素」において、学習に活用したり振り返ったりすることができるよう、それぞれの要素について、イラストや楽譜、関連教材のページ等を付して掲載している。また、第1学年では、音楽を形づくっている要素の働きについて、演奏したり聴いたりして確認できるような学習活動を掲載している。
	⑨ ラ ス 本 文 の 記 述 ・ 写 真 ・ ウ ェ ブ と コ ン テ ン ツ の 関 連 性 を 示 し な が ら イ	○ 全学年、活動を促したり考えを深めたりできるよう、生徒や教師を想定したイラストと共に、発言を想定した吹き出しを付して示している。 ○ 共通教材では、教材が表す情景の写真を掲載している。教材によっては、縦書きの歌詞や作詞・作曲者の紹介などと共に見開き2ページにわたり写真を掲載し、次のページに活動のポイントや楽譜などを掲載している。 ○ 我が国や郷土の伝統音楽について、楽器や楽譜、実際の場面の写真を掲載したり、図や文で説明したりしている。 ○ 学習に関連する音源や映像などの資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、「見る」、「聴く」、「記録する」に分類された「まなびリンク」のアイコンを付している。巻頭の二次元コードまたはURLからは、ウェブコンテンツが一覧となったページを利用できるようになっている。	○ 全学年、活動を促したり考えを深めたりできるよう、生徒や教師を想定したイラストと共に、発言を想定した吹き出しを付して示している。 ○ 共通教材では、教材が表す情景を写真で示している。教材によっては、縦書きの歌詞や作詞・作曲者の紹介などと共に見開き2ページにわたり写真を示し、次のページに学習目標や楽譜などを示している。 ○ 我が国や郷土の伝統音楽について、楽器や楽譜、実際の場面の写真を掲載したり、図や文で説明したりしている。 ○ 学習に関連する音源や映像などの資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、「動画」、「音源」、「創作ツール」、「画像」、「文章、ワークシート」に分類されたアイコンと内容を示した二次元コードを付している。巻頭の二次元コードからは、ウェブコンテンツが一覧となったページを利用できるようになっている。

令和6年7月/8日

広島市教科用図書採択審議会会長 様

広島市教科用図書採択審議会調査員

教科 [音楽] 種目 [器楽]

代表者 大片 美保子

令和7年度使用広島市立中学校用教科用図書の調査・研究について（報告）

このことについて、別紙のとおり調査・研究結果をまとめましたので、報告します。

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

- 1 教 科 [音 楽] 種 目 [器楽合奏]
- 2 本市の実態や生徒の状況

○ 本市は、市内中心部に大ホールを併設した文化施設を有するとともに、各区に区民文化センターを設置しており、広島交響楽団による西洋音楽をはじめとし、能や民謡等様々なジャンルの音楽に触れる機会に恵まれた地域である。

○ 本市の生徒の実態として、各学校における文化祭や「文化の祭典」等において表現活動の学習成果を発表する機会があること、また、ネット環境や情報機器の充実により、音楽に関する情報を得やすいことから、学校生活だけでなく、日常生活の中で音楽に親しんでいる生徒が多い。一方で、生徒によって音楽経験の差が大きく、興味を示す音楽に偏りがあることから、我が国や郷土の伝統的な音楽など多様な音楽に親しみ、よさを味わったり、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化についての関心や理解を深めたりすることについて課題がある。また、音楽を知覚したことや感受したこととの関わりについて考え、音楽表現を創意工夫することについて課題がある。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜知識及び技能の習得＞	① 器楽分野の知識及び技能の習得を図るための工夫
＜思考力、判断力、表現力等の育成＞	② 音楽表現を創意工夫するための工夫
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	③ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	④ 題材や資料等の配列・分量
＜内容の表現・表記＞	⑤ 他教科や、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化との関連の示し方 ⑥ 〔共通事項〕の指導を充実させるための工夫 ⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

- 1 教 科 [音 楽] 種 目 [器楽合奏]
- 2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観 点	観 点	発 行 者	
		教育出版	教育芸術社
観 点 1 知 識 及 び 技 能 の 習 得	① め の 器 楽 分 野 の 知 識 及 び 技 能 の 習 得 を 図 る た	○ 楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八）の各部の名称、姿勢と構え方、基礎的な奏法を、写真やイラストを用いて説明している。また、打楽器については、巻末の資料で扱っている。 ○ リコーダーの基礎的な奏法を身に付けるためのポイントを、文や吹き出しで示している。 ○ ギターの奏法として、ストローク奏法、アポヤンド奏法、アル・アイレ奏法を掲載している。 ○ 箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八のページで、口唱歌を示し、唱歌を唱え、楽器を演奏する活動を掲載している。 ○ 巻末に、「リコーダー運指表」と「ギター&キーボード コード表」を掲載している。	○ 楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八、打楽器）の各部分の名称、姿勢と構え方、基礎的な奏法を、写真やイラストを用いて説明している。 ○ リコーダーの基礎的な奏法を身に付けるためのポイントを、文やQ&A方式で示している。 ○ ギターの奏法として、ストローク奏法、アポヤンド奏法、アル アイレ奏法を掲載している。 ○ 箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八のページで、口唱歌を示し、唱歌を唱え、楽器を演奏する活動を掲載している。 ○ 巻末に「リコーダーの運指表」と「ギター／キーボード コード表」が掲載している。
観 点 2 思 考 力 、 判 断 力 、 表 現 力 等 の 育 成	② 夫 音 楽 表 現 を 創 意 工 夫 す る た め の 工	○ 題材の目標や教材ごとに示された活動のポイントの文の中で、曲にふさわしい表現を工夫するよう促している。 【例】 プランブルク協奏曲第 2 番から第 2 楽章 ・ 二つの旋律の関わりを生かして表現を工夫しよう。 ○ 「音のスケッチ」では、器楽を扱った創作教材について、学習の手順を示している。また、楽譜や演奏例などを示している。	○ 活動文や教材ごとに示された学習のポイントを示した文の中で、曲にふさわしい表現を工夫するよう促している。 【例】 「聖者の行進」 ・ アーティキュレーションを参考にしながら、曲にふさわしい表現を工夫して演奏しよう。 ○ 「アンサンブル セミナー」と示された教材全てに「学びのコンパス」を設定し、学習の手順を示している。また、注目するポイントを音楽を形づくっている要素で示したり、生徒や教師を想定したイラストに吹き出しで思考を促したりしている。

観 点	視 点	発行者	
		教育出版	教育芸術社
観 点 3 主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 工 夫	③ 興 味 ・ 学 習 心 を 振 り 返 っ て 見 通 し を 立 げ た り す る た め の 工 夫	○ 「目次」では、各楽器を色分けして示している。 ○ 各楽器のページでは、見開き左上に題材の目標を示すとともに、まとめの曲を掲載している。また、教材ごとに活動のポイントを文で示している。 ○ 「Let's Play!」、「Let's Try!」では、様々な編成やジャンルの曲を掲載している。 ○ 「名曲旋律集」では、有名なクラシック音楽やゲーム音楽など様々なジャンルの曲を掲載している。	○ 「目次」では、各楽器を色分けして示している。 ○ 各楽器のページでは、教材ごとに学びのポイントを示している。リコーダーについては、LESSONごとに活動のポイントを文で示している。 ○ 「アンサンブル」では、様々な編成やジャンルの曲を掲載している。 ○ 「楽器でMelody」では、有名なクラシック音楽やJ-POPなど様々なジャンルの曲を掲載している。 ○ 「学習内容」のページでは三つの資質・能力とそれに対応する学習内容や教材を図示し、学習内容と各教材との関連の大小を色の濃さで示している。
	④ 題 材 や 資 料 等 の 配 列 ・ 分 量	○ 内容の構成は、以下の順である。 ① リコーダー ② 篠笛 ③ 尺八 ④ ギター ⑤ 箏 ⑥ 三味線 ⑦ 太鼓 ⑧ Let's Play! ⑨ Let's Try! ⑩ 名曲旋律集 ⑪ 資料 ○ 楽器別教材数、合奏・アンサンブルの教材数は次のとおりである。 ・ リコーダー 20曲 ・ 太鼓 ※ ・ ギター 6曲 ・ 篠笛 6曲 ・ 箏 6曲 ・ 尺八 1曲 ・ 三味線 1曲 ・ 合奏・アンサンブル 31曲 ※ 太鼓の教材は「アンサンブル」に1曲あり ○ 「表現の仕方を調べよう PART-1・2」のページでは、奏法が似ている3つの楽器を聴き比べ、楽器の特徴を捉える学習を示している。リコーダー、箏、三味線については、各楽器の最後のページで、鑑賞教材を1・2曲掲載している。 ○ 器楽を用いた創作活動「音のスケッチ」を5教材掲載している。	○ 内容の構成は、以下の順である。 ① リコーダー ② ギター ③ 箏 ④ 三味線 ⑤ 太鼓 ⑥ 篠笛 ⑦ 尺八 ⑧ 打楽器 ⑨ アンサンブル ⑩ 楽器でMelody ⑪ 資料 ○ 楽器別教材数、合奏・アンサンブルの教材数は次のとおりである。 ・ リコーダー 14曲 ・ 太鼓 ※ ・ ギター 2曲 ・ 篠笛 3曲 ・ 箏 6曲 ・ 尺八 1曲 ・ 三味線 1曲 ・ 合奏・アンサンブル 25曲 ※ 太鼓の教材は「アンサンブル」に1曲あり ○ 各楽器の最初のページに、「〇〇の演奏を聴こう」というコーナーを設け、各楽器に鑑賞曲を2・3曲掲載している。 ○ 器楽を用いた創作活動「My Melody」を1教材掲載している。

観 点	視点	発行者	
		教育出版	教育芸術社
観 点 5 内 容 の 表 現 ・ 表 記	⑤ 楽 文 他 化 教 と 科 の や 、 関 連 生 活 示 や し 社 会 の 中 の 音 や 音 楽 、 音	○ 巻頭「LET'S PLAY MUSIC」では、各楽器や演奏に関する写真を、関連するページ数とともに掲載している。また、「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」では、公共の場に置かれたストリートピアノについて掲載している。 ○ 和楽器の学習では、篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓のページで、楽器の起源や発展、縦譜、文化譜、唱歌など、日本の音楽文化と関連するものを掲載している。太鼓については、祭りや現代曲の中で使用されている場面の写真を掲載している。 ○ 「吹く楽器の仲間たち」「弾く楽器の仲間たち」では、諸外国の楽器を紹介している。また、それらの背景にある文化や伝統について調べたり、テーマに沿って比較したことなどを記述学習を設定したりしている。 ○ SDGsとの関連がある特集に、アイコンを付して掲載している。	○ 巻頭では、打楽器奏者の言葉や写真を掲載している。また、「音楽ってなんだろう？」では、世界各国の伝統的な楽器や祭りに使われている楽器の写真と共に、音楽・文芸批評家の言葉を掲載している。 ○ 和楽器の学習では、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八のページで、楽器の起源や発展、縦譜、文化譜、唱歌など、日本の音楽文化と関連するものを掲載している。また、各楽器の様々な演奏や、郷土の祭りや芸能で使用されている場面の写真を掲載している。 ○ 打楽器のページにおいて、世界の様々な楽器について、奏法と共に掲載している。また、巻末の「楽器の図鑑」では、世界の様々な楽器を、種類別に整理して掲載している。 ○ 巻末の「楽しもう！ 和楽器の音楽」で、部活動を通して和楽器の合奏に取り組んでいる中学生を紹介するとともに、裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」で、中学生が伝統芸能に関わっている写真を掲載している。
	⑥ 充 実 「 共 さ せ 通 る 事 項 」 の 工 指 導 を	○ 音楽を形づくっている要素について、題材の目標や各教材の活動の中で、関連する学びのポイントを文章で示している。 ○ 巻末「いろいろな用語、記号」に、用語や記号などを掲載している。	○ 「学習内容」において、音楽を形づくっている要素について、説明と共に一覧で掲載している。 ○ 音楽を形づくっている要素について、「アンサンブル セミナー」のページでは、関連する学びのポイントを文章で示したり、学習目標の下にアイコンで示したりしている。 ○ 巻末「音楽の約束」に、用語や記号などを掲載している。

観 点	視 点	発行者	
		教育出版	教育芸術社
観 点 5 内 容 の 表 現 ・ 表 記	⑦ 等 さ の れ 本 示 し イ の 方 ラ 記 述 ・ 内 容 と 写 真 と 適 ウ 切 エ な ブ 関 連 ン 付 テ ン が ツ な	○ 生徒や教師を想定したイラストに、吹き出しを付し、学習のヒントを示している。	○ 生徒や教師を想定したイラストに、吹き出しを付し、学習のヒントを示している。
		○ リコーダー、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓それぞれのページで、演奏の姿や、構え方、奏法別の手元など、本文の記述や内容に応じた写真を掲載している。	○ リコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八、打楽器それぞれのページで、演奏する姿や構え方、奏法別の手元など、本文の記述や内容に応じた写真を掲載している。
		○ 学習に関連する音源や映像などの資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、そばに「見る」「聴く」「記録する」に分類された「まなびリンク」のアイコンを付している。巻頭の二次元コードまたはサイトのアドレスから、ウェブコンテンツが一覧となったページを利用できるようになっている。	○ 学習に関連する音源や映像などの資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、そばに「動画」「音源」「創作ツール」「文章、ワークシート」に分類されたアイコンと内容を示した二次元コードを付している。各教材の二次元コードから、教材ごとに関連するウェブコンテンツを利用できるようになっている。

令和6年7月18日

広島市教科用図書採択審議会会長 様

広島市教科用図書採択審議会調査員

教科 [美術] 種目 [美術]

代表者 橋本 忍

令和7年度使用広島市立中学校用教科用図書の調査・研究について（報告）

このことについて、別紙のとおり調査・研究結果をまとめましたので、報告します。

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

- 1 教科 [美術] 種 目 [美術]
- 2 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、市街地周辺に、広島市現代美術館や広島県立美術館など、美術作品等に直接触れることができる文化的施設が多い。また、山林を主体とした自然豊かな地域や瀬戸内海に面した風光明媚な沿岸部など、変化に富んだ様々な環境が見られる地域もある。

○ 広島市中学校教育研究会美術部会や校内研修で行った研究授業から、本市の生徒の実態として、想像することの楽しさを感じており、美術科の学習に意欲的に取り組んでいることが挙げられる。一方で、感性や想像力を働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に働かせながら育成すること、生活を美しくする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成することには課題がある。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 造形的な視点を豊かにするための工夫 ② 形や色彩、材料や用具の取扱い等の定着に向けた工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 豊かに発想し構想を練るための工夫 ④ 美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めるための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑦ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがされたウェブコンテンツ等の示し方

令和7年度使用中学校用教科用図書調査・研究報告書

- 1 教科 [美術] 種目 [美術]
2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	視点	発行者		
		開隆堂出版	光村図書出版	日本文教出版
観点1 知識及び技能の習得	① ずくろけた形め的な工視夫点を豊かに	○ キャラクターのコメントで示している。 「奥行きや構図などの空間の表し方や、光や色彩の表し方に注目しよう。」 「色彩を工夫すると、色彩そのものだけでなく空間や立体感なども表すことができるんだね。」 ○ 生徒作品の「作者のことば」に表現意図とともに示している。 「天気がよく、道に太陽の光が当たる様子を見て晴れ晴れとした気持ちになったので、木漏れ目を強調して描きました。」 「遠くの雲のすき間から見える夕日と目の前の電線のコントラストがとてもきれいでした。」	○ 「POINT」に示している。 「色づかいや表現方法から、作者の心の中の風景を想像してみよう。」 「作者は自分の思いを表すために、形や色にどんな工夫をしているだろう。」 ○ 生徒作品の「作者の言葉」に表現意図とともに示している。 「家族で行ったタイ旅行の最終日に、デパートの屋上駐車場から見た市場の風景です。まだ帰りたい寂しさを青などの寒色系の色で、旅行中に感じた楽しさを黄色や赤などの暖色系の色で表しました。」 「2本の木で親友と僕自身を表し、その二人を包み込むように、両端に木の枝を描きました。昔、親友と遊んだときの温かい気持ちを表すために、木の周りをオレンジ色で塗りました。」	○ 吹き出しに「造形的な視点」を示している。 「光に着目し、色彩の変化や美しさをとらえ、効果を考えよう。」 ○ 生徒作品の「作者の言葉」に表現意図とともに示している。 「先ほどまでの喧騒がうそのように静かになった放課後の風景を描きました。片付けられた掃除道具と強い西日が差し込む玄関ホールの光と影を表現するため色調や濃淡の違いを工夫しました。」
	② 向けたや色彩、材料や用具の取扱い等の定着に	○ 形や色彩、材料や用具の取扱い及び表現方法に関する内容を巻末資料で掲載している。 【美術1】 「文字のデザイン」 「著作権を知ろう」 「発想・構想のヒント」 「鑑賞ってなんだろう」 「美術館へ行こう」 「色彩と光」 「用具を知って使ってみよう」 【美術2・3】 「展覧会をつくる」 「奥行き表現」 「美術史の扉」 「量感表現」 「余白の美」 「共に学ぶ美術」 「これってどう撮るの」 「世界遺産と美術」 「持続可能な未来へ」 「世界遺産と美術」 「日本の伝統色」 「美術と私と社会」	○ 形や色彩、材料や用具の取扱い及び表現方法に関する内容を巻末資料と別冊資料で掲載している。 【美術1】 「美術館を楽しもう」 「芸術祭へ行こう」 「美術鑑賞を楽しむ手がかり」 【美術2・3】 「学習を支える資料一覧」 「仏像について知ろう」 「美術史年表」 「日本の伝統工芸」 「北と南の民族衣装」 【美術1資料】 「どうやって描く？」 「鉛筆で描く」 「水彩絵の具で描く」 「アクリル絵の具で描く」 「さまざまな描き方」 「版画で表す」 「文字をデザインする」 「端末を活用する」 「どんな材料でつくる？」 「紙でつくる」 「粘土でつくる」 「木でつくる」 「金属でつくる」 「石でつくる」 「写真撮影する」 「映像を制作する」 「自然の中の形・色・光」 「光から生まれる色」 「色の世界に出会う」 「色の特徴」 「色の効果と配色」 「日本と世界の伝統色図鑑」	○ 形や色彩、材料や用具の取扱い及び表現方法に関する内容を巻末資料で掲載している。 【美術1】 「火焰型土器」 「発想・構想の手立て①」 「発想・構想の手立て②」 「どんなふうを描きたい？」 「さまざまな技法で描く」 「木板画」 「水墨画の表現」 「文字の基本」 「金属でつくる」 「粘土でつくる」 「色彩の基本・仕組み」 「美術館へ行こう」 【美術2・3上】 「岡本太郎“芸術はみんなのもの”」 「暮らしに息づくパブリックアート」 「立体を描く」 「遠近感を表す」 「人物をつくる」 「北斎の大波」 「金属でつくる」 「日本美術と世界の美術の歩み」 「日本の伝統色」 「色彩の特徴を深く知る」 「写真で表現する」 【美術2・3下】 「さまざまなアートに触れよう」 「動画で表現する」 「絵巻物の世界」 「仏像の種類」 「美術文化の継承」 「日本の世界文化遺産」 「受け継ぐ伝統と文化」 「世界の工芸品と色彩」
観点2 豊かに発想し構想を練るための工夫 思考力、判断力、表現力等の育成	③ 豊かに発想し構想を練るための工夫	○ 発想・構想のポイントを示す特設ページを設けている。 ○ 「鑑賞」[発想・構想][知識・技能]を標記し、表現と鑑賞の活動が相互に関連した学習の流れを示している。 [鑑賞] 人の目を引き付ける表し方のよさや工夫に注目しながら、作品を鑑賞しよう 「発想・構想」地域の魅力を紹介するポスターの構成を考えよう 「知識・技能」見た人の心にとまるように表現方法を工夫しよう ○ 活動の順序を生徒の活動の写真とともに、番号と文で示している。 ① 紹介したい地域の魅力や、ポスターに掲載する情報などの内容を整理しよう。 ② その場所へ行って、スケッチをしたり写真を撮ったりして取材をしよう。 ③ 伝えたい情報のイメージを大切に、ポスターの全体を見ながら図の大きさとキャッチコピー、文字の書体、配色の検討をしよう。 ④ 完成作品 ⑤ 作品を掲示して、たくさんの人に見てもらおう。	○ 発想・構想のポイントを示す特設ページを設けている。 ○ 「鑑賞」[表現(発想・構想)][鑑賞]を標記し、表現と鑑賞の活動が相互に関連した学習の流れを示している。 [鑑賞] これらの作品は、平和の大切さを伝えるためにつくられたものだ。それぞれ、どのように工夫されているのかを考えよう。 [表現(発想・構想)] メッセージを伝えるポスターをデザインする [鑑賞] メッセージを伝える、さまざまなデザインの例を見てみよう。 ○ 「みんなの工夫」のコーナーを設け、生徒の制作における試行錯誤の過程を掲載している。 [青色の吹き出し] 「近所の海岸に、たくさんのごみが落ちている。この問題をポスターで伝えるには、どうすればよいだろう。」 「CO₂削減を促進するポスターをつくりたい。どんなデザインにしたらいだろう。」 [白抜き吹き出し] 「どんなごみが落ちているか、写真を撮って記録しよう。」 「汚れた海だけを描くより、苦しんでいる魚の姿を描いた方が、伝わりやすいかも。」 「たくさん撮ったごみの写真をカラーシェード、魚の形にしたらうだろう。」 「CO₂削減にも、いろいろな方法があるな。みんなが気軽に取り組めることって、何だろう。」 「地域の人に、自転車の活用を勧めよう。どんなポスターなら伝わるかな。」 「人物の服の色をどんな色にすれば、赤い矢印が引き立つかな。」	○ 発想・構想のポイントを示す特設ページを設けている。 ○ 「鑑賞の入り口」を示し、表現と鑑賞の活動が相互に関連した学習の流れを示している。 [鑑賞の入り口] 印象に残るポスターや装丁には、どんな工夫があるだろうか ○ 「表現のヒント」のコーナーを設け、発想・構想の手立てや技能面の補足を示している。 [表現のヒント] ① テーマを掘り下げよう テーマについてインターネットや書籍で情報を集め、問題点や伝えたいことの構想を深めよう。 □どこに焦点を当てるのか □どんな結果になってほしいのか □何が原因なのか □自分には何ができるのか □だれに伝えたいのか ② 表現方法を工夫しよう テーマをだれにどのように伝えるか考え、構図やコピーを工夫しよう。例えば「紹介する」「推奨する」「警告する」など伝え方にもさまざまな。写真やイラストで印象づけるほか、フォントの工夫によってもイメージを伝えることができる。

観点	視点	発行者																																																																											
		開隆堂出版	光村図書出版	日本文教出版																																																																									
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	④ 方を美術める美術の文化に工夫する見方や感じ	○ 巻末に見開き2ページで、鑑賞活動の流れやポイント等を示している。 [作品と向き合おう] [自分なりの根拠をもって意味づけよう] [様々な視点から見よう] [見方や考え方はたくさんある だから伝え合おう] ○ 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載したり、作品の一部や全体を原寸大で掲載したりしている。	○ 「美術作品はどう見たらいいのだろうか?」のコーナーを設け、鑑賞活動のポイントを1ページで示している。 ○ 巻末に見開き2ページで、鑑賞活動の流れやポイントを示している。 [①じっくり見る] [②自分なりに考える] [③調べる] [④まとめる] [美術鑑賞意を広げる言葉] ○ 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載したり、作品の一部や全体を原寸大で掲載したり、紙質を変えて掲載したりしている。	○ 巻頭に折り込み見開き3ページで、鑑賞活動のポイントを示している。 [美術の見方や考え方でとらえよう] [習作と比べて考えよう] [描き方に着目してみよう] ○ 鑑賞活動の対象を1ページで示している。 [作品から] [美術文化から] [身近な生活から] ○ 作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載したり、作品の一部や全体を原寸大で掲載したりしている。																																																																									
	観点3 主体的に学習に取り組む工夫	○ 巻頭で作家の作品と制作風景、作家から生徒に対するメッセージを掲載している。 ○ 小学校の学びや社会とのつながりについて示す特設ページを設けている。 ○ 表現と鑑賞を関連させた学習の流れや教科書の使い方を、キャラクターの吹き出しで示す特設ページを設けている。 ○ 題材ごとに育成すべき資質・能力の3つの柱に基づいた目標を生徒に分かりやすい言葉で掲載している。	○ 巻頭で作家や生徒が日常の中の美しさを表現した写真作品を掲載している。 ○ 小学校の学びや社会とのつながりについて示す特設ページを設けている。 ○ 表現と鑑賞を関連させた学習の流れや教科書の使い方を吹き出しと矢印で示す特設ページを設けている。 ○ 題材ごとに育成すべき資質・能力の3つの柱に基づいた目標を生徒に分かりやすい言葉で掲載している。	○ 巻頭で作家や生徒が日常の中の美しさを表現した写真作品を掲載している。 ○ 小学校の学びとのつながりと、表現と鑑賞を関連させた学習の流れについて示す特設ページを設けている。 ○ 教科書の使い方を示す特設ページを設けている。 ○ 題材ごとに育成すべき資質・能力の3つの柱に基づいた目標を生徒に分かりやすい言葉で掲載している。																																																																									
観点4 内容の構成・配列・分量	⑥ 題材や資料等の配列・分量	○ ページ数・版型 【美術1】 71ページ・A4ワイド版 【美術2・3】 127ページ・A4ワイド版 ○ 題材数 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th><th colspan="2">絵や彫刻など</th><th colspan="2">デザインや工芸など</th><th rowspan="2">題材数合計</th></tr> <tr> <th>表現及び鑑賞</th><th>鑑賞</th><th>表現及び鑑賞</th><th>鑑賞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【美術1】</td><td>5</td><td>1</td><td>4</td><td>1</td><td>11</td></tr> <tr> <td>【美術2・3】</td><td>8</td><td>5</td><td>7</td><td>2</td><td>22</td></tr> </tbody> </table> ○ 学びの資料 【美術1】 15ページ 【美術2・3】 30ページ		絵や彫刻など		デザインや工芸など		題材数合計	表現及び鑑賞	鑑賞	表現及び鑑賞	鑑賞	【美術1】	5	1	4	1	11	【美術2・3】	8	5	7	2	22	○ ページ数・版型 【美術1】 69ページ・A4ワイド版 【美術1資料】 35ページ・A4版 【美術2・3】 107ページ・A4ワイド版 ○ 題材ごとに育成すべき資質・能力の3つの柱に基づいた目標を生徒に分かりやすい言葉で掲載している <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th><th colspan="2">絵や彫刻など</th><th colspan="2">デザインや工芸など</th><th rowspan="2">題材数合計</th></tr> <tr> <th>表現及び鑑賞</th><th>鑑賞</th><th>表現及び鑑賞</th><th>鑑賞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【美術1】</td><td>8</td><td>3</td><td>5</td><td>3</td><td>19</td></tr> <tr> <td>【美術2・3】</td><td>7</td><td>7</td><td>5</td><td>5</td><td>24</td></tr> </tbody> </table> ○ 学びを支える資料 【美術1】 4ページ 【美術1資料】 35ページ 【美術2・3】 10ページ		絵や彫刻など		デザインや工芸など		題材数合計	表現及び鑑賞	鑑賞	表現及び鑑賞	鑑賞	【美術1】	8	3	5	3	19	【美術2・3】	7	7	5	5	24	○ ページ数・版型 【美術1】 75ページ・A4ワイド版 【美術2・3上】 65ページ・A4ワイド版 【美術2・3下】 61ページ・A4ワイド版 ○ 題材数 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th><th colspan="2">絵や彫刻など</th><th colspan="2">デザインや工芸など</th><th rowspan="2">題材数合計</th></tr> <tr> <th>表現及び鑑賞</th><th>鑑賞</th><th>表現及び鑑賞</th><th>鑑賞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【美術1】</td><td>7</td><td>3</td><td>6</td><td>2</td><td>18</td></tr> <tr> <td>【美術2・3上】</td><td>6</td><td>3</td><td>7</td><td>1</td><td>17</td></tr> <tr> <td>【美術2・3下】</td><td>5</td><td>4</td><td>5</td><td>1</td><td>15</td></tr> </tbody> </table> ○ 学びを支える資料 【美術1】 19ページ 【美術2・3上】 15ページ 【美術2・3下】 12ページ			絵や彫刻など		デザインや工芸など		題材数合計	表現及び鑑賞	鑑賞	表現及び鑑賞	鑑賞	【美術1】	7	3	6	2	18	【美術2・3上】	6	3	7	1	17	【美術2・3下】	5	4	5	1	15
	絵や彫刻など			デザインや工芸など		題材数合計																																																																							
	表現及び鑑賞	鑑賞	表現及び鑑賞	鑑賞																																																																									
【美術1】	5	1	4	1	11																																																																								
【美術2・3】	8	5	7	2	22																																																																								
	絵や彫刻など		デザインや工芸など		題材数合計																																																																								
	表現及び鑑賞	鑑賞	表現及び鑑賞	鑑賞																																																																									
【美術1】	8	3	5	3	19																																																																								
【美術2・3】	7	7	5	5	24																																																																								
	絵や彫刻など		デザインや工芸など		題材数合計																																																																								
	表現及び鑑賞	鑑賞	表現及び鑑賞	鑑賞																																																																									
【美術1】	7	3	6	2	18																																																																								
【美術2・3上】	6	3	7	1	17																																																																								
【美術2・3下】	5	4	5	1	15																																																																								

観点	視点	発行者		
		開隆堂出版	光村図書出版	日本文教出版
観点5	⑦ との他 関教科 連科の や示日 し常方 生活	○ 複数の題材で生活や社会とのつながりや美術の働きについて考えるきっかけとなる写真等を掲載している。 ○ デザインや工芸などのはじめに特設ページを設け、生活と美術の関わりを示している。 ○ 社会と美術の働きのつながりを示す特設ページを設けている。 ○ 複数の題材でSDGsの目標に関連する内容をマークを付したり、コーナーを設けて示している。 ○ SDGsと美術の関わりについて具体的に示す特設ページを設けている。	○ 複数の題材で道徳科やその他教科との関連について示している。 ○ 複数の題材で生活や社会とのつながりや美術の働きについて考えるきっかけとなる写真等を掲載している。 ○ デザインや工芸などのはじめに特設ページを設け、生活と美術の関わりを具体的に示している。 ○ 社会と美術の働きのつながりを示す特設ページを設けている。 ○ 複数の題材でSDGsの目標に関連する内容をマークで示している。 ○ SDGsと美術の関わりについて具体的に示す特設ページを設けている。	○ 複数の題材で道徳科との関連について示している。 ○ 複数の題材で生活や社会とのつながりや美術の働きについて考えるきっかけとなる写真等を掲載している。 ○ デザインや工芸などのはじめに特設ページを設け、生活と美術の関わりを具体的に示している。 ○ 社会と美術の働きのつながりを示す特設ページを設けている。 ○ 複数の題材でSDGsの目標に関連する内容をマークで示している。
	⑧ が本文 の記述 ・内容 と適切 等の関 連し付 方	○ 各題材において、「CONTENTS」に二次元コードを示している。 ○ 特設ページに、二次元コードを示している。	○ 各題材において、題材名の横に二次元コードを示している。 ○ 特設ページに、二次元コードを示している。 ○ 「体感ミュージアム」では、二次元コードからアクセスできる複数のコンテンツを示している。 ・ 音声ナビ「風神雷神図屏風（俵屋宗達）」 ・ 書き込みツール&高精細図画 ・ 解説動画「風神・雷神像」 ・ 鑑賞を広げる言葉集	○ 各題材において、「学びのはじめに」に二次元コードを示している。 ○ 特設ページに、二次元コードを示している。 ○ 複数の題材で情報機器活用のヒントを示したICTマークを付している。

令和6年7月/8日

広島市教科用図書採択審議会会長 様

広島市教科用図書採択審議会調査員

教 科 [保健体育] 種 目 [保健体育]

代表者

藤 本 知 子

令和7年度使用広島市立中学校用教科用図書の調査・研究について（報告）

このことについて、別紙のとおり調査・研究結果をまとめましたので、報告します。

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

- 1 教 科 [保健体育] 種 目 [保健体育]
- 2 本市の実態や生徒の状況

○ 本市は、各区にスポーツセンターが設置されているとともに、全国大会を開催することができる陸上競技場や体育館等の施設が充実しており、プロをはじめ、トップレベルのスポーツチームが数多くあることから、優れたプレーを間近に観戦できる地域である。また、近年は豪雨などの自然災害による深刻な被害も多く発生していることから、災害への知識と備えが必要な地域でもある。
○ 令和 5 年度「全国体力・運動能力、運動習慣調査」によると、本市の生徒の実態は、運動することが好きな生徒や保健体育の授業が楽しいと感じている生徒が多い一方、体力合計点は全国平均値と比較すると、男女ともに下回っており、特に全身持久力に課題がある。また、1 週間の総運動時間の減少といった運動習慣の課題や、スクリーンタイムや朝食欠食の増加といった生活習慣の課題がある。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 運動や健康・安全に関する知識・技能の定着を図るための工夫 ② 他の小単元や分野等と関連付けて、基礎知識を深めるための工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 習得した知識や技能を活用して課題解決につなげるための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ⑤ 生涯にわたる豊かなスポーツライフにつなげるための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
<内容の表現・表記>	⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

- 1 教 科 [保健体育] 種 目 [保健体育]
- 2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	視点	発行者			
		東京書籍	大日本図書	大修館書店	Gakken
観点 1 知識及び技能の習得	① の運動や健康・安全に関する知識・技能の定着を図るため	○ 習得すべき基本用語を「キーワード」として各小単元の左上に示すとともに、本文中に太文字で強調している。また、「章末資料」の「学習のまとめ」に「キーワードの解説」が確認できるよう、二次元コードを掲載している。	○ 習得すべき基本用語を「キーワード」として各小単元の右下に示すとともに太文字で強調している。	○ 習得すべき基本用語を「キーワード」として各小単元の右上に示すとともに、本文中に太文字で強調している。また、巻末で「用語解説」として用語の説明を示している。	○ 習得すべき基本用語を「キーワード」として各小単元の左上に示すとともに、本文中に太文字で強調している。
		○ 説明が必要な本文の用語に、丸番号のルビを振り、各ページ右側にその説明を掲載している。	○ 説明が必要な本文の用語に、星印と数字のルビを振り、本文下にその説明を掲載している。	○ 説明が必要な本文の用語に、丸番号のルビを振り、見開き両端にその説明を掲載している。	○ 説明が必要な本文の用語に、四角番号のルビを振り、各ページ右側にその説明を掲載している。
		○ 各章末の「学習のまとめ」に「章末問題」として知識・技能の習得を確認する問題を設け、二次元コードとともに掲載している。	○ 各章末の「学習のまとめ」に学習内容を整理して示している。また、知識・技能の習得を確認する問題を設け、二次元コードとともに掲載している。	○ 各章末の「章のまとめ」に知識・技能の習得を確認する問題を設けている。	○ 各章末の「章のまとめ」に「確かめよう」として知識・技能の習得を確認する問題を設けている。
		○ 各小単元に学習内容に関連した「資料」を掲載しており、資料を読みとるためのポイントとして「ポイントマーク」を付している。また、「読み物」で学習内容に関連した話題や読み物資料を掲載している。	○ 各小単元に学習内容に関連した「資料」を掲載している。また、「トピックス」、「ミニ知識」で学習内容に関連した話題や読み物資料を掲載している。	○ 各小単元に学習内容に関連した「資料」を掲載しており、資料を読みとるためのポイントとして「吹き出しマーク」を付している。また、「コラム」、「事例」、「ほり下げる」で学習内容に関連した話題や読み物資料を掲載している。	○ 各小単元に学習内容に関連した「資料」を掲載している。また、「コラム」、「情報サブリ」で学習内容に関連した話題や読み物資料を掲載している。
		○ 各小単元の右下に学習内容に関する動画につながる二次元コードを掲載している。		○ 各小単元の右下に学習内容の確認ができる「保体クイズにトライ!」という二次元コードを掲載している。	○ 各小単元の右下にワークシートにつながる「章デジ」という二次元コードを掲載している。

観 点	視 点	発行者			
		東京書籍	大日本図書	大修館書店	Gakken
観 点 1	② 基 他 知 識 の 小 単 元 を 深 め る た め 等 と 関 連 付 け て、 知 識 及 び 技 能 の 習 得	○ 他の小単元や分野等と関連がある学習内容について、「リンクマーク」、「他教科マーク」を付している。	○ 他の小単元や分野等と関連がある学習内容について、「リンクマーク」、「他教科マーク」、「家マーク」、「地域マーク」を付している。	○ 他の小単元や分野等と関連がある学習内容について、「関連マーク」、「他教科マーク」を付している。また、保健と体育を関連させて考えることができるよう、体育の学習に「保健の窓」、保健の学習に「体育の窓」を掲載している。	○ 他の小単元や分野等と関連がある学習内容について、「関連マーク」を付している。また、巻末で「キーワードで見る保健体育の学習内容」として、他の小単元や分野等との関連を整理して掲載している。

観 点	視 点	発行者			
		東京書籍	大日本図書	大修館書店	Gakken
観 点 2 思 考 力 、 判 断 力 、 表 現 力 等 の 育 成	③ 習 得 し た 知 識 や 技 能 を 活 用 し て 課 題 解 決 に つ な げ る た め の 工 夫	○ 各小単元の「活用する」、「広げる」で、学習した内容を深め、日常生活につなげたり、さらに調べたりする活動を設定している。 ○ 各章末の「日常に生かそう」で、調べてみたいことや日常生活に生かしていきたいことを記述するためのワークシートを二次元コードで示している。また、巻末に「巻末スキルブック」を設け、健康・安全に関する20の技能を「スキル」としてまとめて掲載している。 ○ 「心肺蘇生法」等、日常生活に生かすことができる実習の具体例を6箇所掲載している。 ○ 小単元「自然災害による危険」、「自然災害による傷害の防止」、発展「共に生きる」、「巻末スキルブック」で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報やハザードマップ、警戒レベル、防災の自助・共助・公助などを取り上げている。 【学習活動の例】 防災タイムラインを作成してみよう	○ 各小単元の「活用して深めよう」で、学習したことを深め、日常生活につなげていく活動を設定している。 ○ 各章末の「学びを活かそう」で、学習したことを日常生活で活用するための問いと記述欄を設けている。 ○ 「心肺蘇生法」等、日常生活に生かすことができる実習の具体例を4箇所掲載している。 ○ 小単元「自然災害による傷害の防止」、資料、章末資料「学びを活かそう」で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報、ハザードマップ、災害伝言ダイヤル、避難所でできることを考えようなどを取り上げている。 【学習活動の例】 日頃から備えておくことをチェックしてみよう	○ 各小単元の「学習のまとめ」で、学習したことをもとに考えを伝えたり、日常生活に生かしたりすることができるような活動を設定するとともに、ワークシートにつながる二次元コードを掲載している。 ○ 各章末で習得した知識・技能を活用して考える「思考・判断・表現」の問題を設けている。 ○ 「心肺蘇生法」等、日常生活に生かすことができる実習の具体例を10箇所掲載している。 ○ 小単元「自然災害によるけがの防止」、特集資料「気象災害から命を守る行動」、「地震災害から命を守る行動」で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報、ハザードマップ、警戒レベル、命を守る行動などを取り上げている。 【学習活動の例】 インターネットを使って地域のハザードマップを実際に調べてみよう ○ 小単元「災害と環境」で、災害による衛生環境の悪化や災害に関する情報の活用法などを掲載している。	○ 各小単元の「エクササイズ」、「学びを生かす」で、学習した知識や情報をもとに考えたり、まとめたり、話し合ったりする活動を設定している。 ○ 各章末で習得した知識を活用して考える「生かそう」を示すとともに、日常生活に生かしたいことを記述するための「生活への活用」を設けている。また、興味や関心などに応じて学習するための「もっと広げる深める」を4箇所設けている。 ○ 「心肺蘇生法」等、日常生活に生かすことができる実習の具体例を7箇所掲載している。 ○ 小単元「自然災害に備えて」、特設ページ「もっと広げる深める」、特設ページ「探究しようよ!」で、自然災害による傷害の防止について示すとともに、二次災害、緊急地震速報、ハザードマップ、災害伝言ダイヤル、災害に関する情報の活用法、警戒レベル、タイムラインなどを取り上げている。 【学習活動の例】 災害に備える「タイムライン」を作ってみよう

観点	視点	発行者			
		東京書籍	大日本図書	大修館書店	Gakken
観点3	主観的に学習に取り組む工夫	④ ため興味の工夫・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりする ○ 口絵に、今日的な話題に関わる写真や資料を6ページにわたり掲載している。 ○ 各章扉の「この章で学習すること」で、学習内容、目次、小学校及び高等学校の関連する学習内容を示している。また、各章の学習内容に関する発問を設定している。さらに、「保健体育の職業」として、その章に関係する仕事をしている方の紹介を二次元コードとともに掲載している。 ○ 学習の流れを「見つける」、「学習課題」、「課題の解決」、「?による導入発問」、本文、「活用する」「広げる」として、見通しを持たせるよう設定している。 ○ 各章末の「学習のまとめ」に、学習を振り返って、SDGsの目標を達成するために自分ができごとを考えるための「SDGsについて考えよう」の問題を設け、二次元コードとともに掲載している。 ○ 小単元「食生活と健康」で、食事の健康への影響について示すとともに、小単元「調和のとれた生活」で、朝食の習慣と睡眠の関係について示している。また、章末資料「運動やスポーツと食事」で、運動やスポーツと食事の関係について示している。 ○ 小単元「休養・睡眠と健康」の「資料」で、ICT機器の使用と疲労について示すとともに、章末資料「インターネットと依存症」で、中学生のインターネット利用状況と依存する危険性について示している。	○ 口絵に、今日的な話題に関わる写真や資料を12ページにわたり掲載している。 ○ 各章扉の「この章で学習すること」で、学習内容、小学校及び高等学校の関連する学習内容を示している。 ○ 学習の流れを「学習のねらい」、「つかもう」、本文、「やってみよう・話し合ってみよう・調べてみよう」、「活用して深めよう」として、見通しを持たせるよう設定している。 ○ 小単元「食生活と健康」で、食事の健康への影響について示すとともに、章末「学びを活かそう」で、食生活の事例をもとに改善点を話し合う学習活動を設定している。 ○ 小単元「休養・睡眠と健康」、章末資料「睡眠と情報機器との関係」で、コンピュータやスマートフォンの使用による健康や睡眠への影響について示している。	○ 口絵に、今日的な話題に関わる写真や資料を8ページにわたり掲載している。 ○ 各章扉の「この章で学習すること」で、学習内容、目次、小学校および高等学校の関連する学習内容を示している。また、各章の学習内容に関する発問を設定している。 ○ 学習の流れを「きょうの学習」、「課題をつかむ」、本文、「学習のまとめ」として、見通しを持たせるよう設定している。 ○ 各章末の「章のまとめ」に、学習を振り返って自己評価するための「主体的に学習に取り組む態度」の問題を設けている。 ○ 小単元「食事と健康」で、食事の健康への影響や朝食の重要性について示すとともに、特集資料「調和のとれた生活」で、自分の生活をチェックし、レーダーチャートを作成したうえで、良い点や改善点を整理し、それをもとにグループで話し合う学習活動を設定している。 ○ 小単元「休養・睡眠と健康」の「コラム」で、スマホと疲労について示すとともに、特集資料「見直そうスマホの習慣」で、自分のインターネットへの依存度をチェックする学習活動を設定している。また、インターネット依存について相談できるところを掲載している。	○ 口絵に、今日的な話題に関わる写真や資料を8ページにわたり掲載している。 ○ 各章扉で、学習内容、小学校及び高等学校の関連する学習内容を示している。 ○ 学習の流れを「ウォームアップ」、「学習の課題」、本文、「エクササイズ」、「学びを生かす」として、見通しを持たせるよう設定している。 ○ 各章末の「章のまとめ」に、学習した内容を振り返り、自己評価するための「振り返ろう」を設けている。 ○ 小単元「食生活と健康」で、食事の健康への影響や朝食の重要性について示すとともに、小単元「調和のとれた生活」で、自分の生活をチェックし、良い点や改善点を整理する学習活動を設定している。 ○ 小単元「休養・睡眠と健康」の「コラム」で、スマートフォンと健康について示している。

観 点	視 点	発行者			
		東京書籍	大日本図書	大修館書店	Gakken
観 点 3 主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 工 夫	⑤ イ フ 生 に 涯 つ に な わ げ た る た め か な 工 夫 ー ッ ラ	○ 「運動やスポーツの多様性」の章末資料で、「私とスポーツ」としてスポーツと多様な関わりをしている方々の紹介や用具や技術の変化について掲載している。 ○ 「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」の章末資料「体力の要素」で、各体力要素を高める運動例を行う目安とともに掲載している。 ○ 巻末スキルブック「野外スポーツを安全に行う」で、野外スポーツを安全に行うための知識や対策の具体例をまとめて掲載している。	○ 「運動やスポーツの多様性」の章末資料で、運動やスポーツの移り変わりを紹介したり、オリンピック・パラリンピックへの関わり方について記述したりする欄を設けている。 ○ 「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」の章末資料で、体力の要素を中学校で学ぶ運動との関係で示すとともに、マイトレニングをつくる学習活動を設定している。 ○ 小単元「安全な運動やスポーツの行い方」、章末「学びを活かそう」で、野外活動の危険性や安全な行い方について考える活動を設定している。	○ 「運動やスポーツの多様性」の特集資料で、用具の進化についての紹介や、共生の視点からつくられた新しいスポーツの紹介を掲載している。 ○ 小単元「運動やスポーツの体と心への効果」の特集資料「体力を高めよう」で、体力の要素を体づくり運動との関係で示すとともに、体力向上のための計画を立てる学習活動を設定している。 ○ 「運動やスポーツの効果・学び方・安全」の特集資料「野外スポーツの危険と対策」で、野外スポーツにおける安全に関する知識と対策の具体例を掲載している。	○ 「スポーツの多様性」の章末「探究しようよ！」で、スポーツの多様な関わり方の紹介や、共生の視点からつくられた新しいスポーツの紹介を掲載している。 ○ 巻末資料で体力の測定とその活用例を掲載している。 ○ 小単元「スポーツの安全な行い方」のコラム「野外スポーツの安全な行い方」で、野外スポーツのための自然に関する知識を掲載している。
	観 点 4 内 容 の 構 成 ・ 配 列 ・ 分 量 ⑥ 分 量 単 元 ・ 題 材 や 資 料 等 の 配 列 ・	○ 小単元を、2ページまたは4ページで構成し、保健編、体育編の順で配列している。 ○ サイズ AB判 重さ 約388g	○ 小単元を、2ページまたは4ページで構成し、体育編、保健編の順で配列している。 ○ サイズ AB変形判 重さ 約434g	○ 小単元を、2ページまたは4ページで構成し、体育編、保健編の順で配列している。 ○ サイズ AB判 重さ 約428g ○ 広島に関する写真として、「体育授業の様子」、「バリアフリーの例」、「集中豪雨による土砂災害」を掲載している。	○ 小単元を、2ページまたは4ページで構成し、体育編、保健編の順で配列している。 ○ サイズ AB判 重さ 約416g ○ 広島に関する写真として、「広島市健康づくりセンター健康科学館」、「土砂災害ハザードマップ」、「ごみ処理施設」を掲載している。

観 点	視 点	発行者			
		東京書籍	大日本図書	大修館書店	Gakken
観 点 4 内 容 の 構 成 ・ 配 列 ・ 分 量	⑦ 内 容 の 展 開 的 な 学 習 に 関 する	○ 「章末資料」や「読み物」等で、「性の多様性」、「さまざまな自然災害の危険や防災」、「熱中症の予防と手当」など、発展的な内容を示している。	○ 「トピックス」や「章末資料」等で、「気候変動への対策」、「熱中症の予防と応急手当」など、発展的な内容を示している。	○ 「特集資料」や「コラム」等で、「性についての固定的な考えに気づこう」、「気象災害から命を守る行動」、「地震災害から命を守る行動」、「熱中症の予防と応急手当」など、発展的な内容を示している。	○ 「探究しようよ!」や「コラム」等で、「性の多様性」、「災害に備えるタイムライン」、「気象災害への対処」、「熱中症を疑ったときの対応」など、発展的な内容を示している。
	⑧ ト・本文の記述・写真・図表・内容と適切な関連付けがなされたイラスト	○ 各小単元で、本文の記述・内容との関連付けがなされた、「見つける」、「学習課題」、「課題の解決」、「?」、「活用する」、「広げる」のマークを付している。 ○ 「この教科書の使い方」でマークの活用方法を示しており、「キーワード」、「ポイント」、「Dマーク」等、20種類のマークを付している。 ○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、二次元コードを掲載している。	○ 各小単元で、本文の記述・内容との関連付けがなされた、「つかもう」、「やってみよう・話し合ってみよう・調べてみよう」、「活用して深めよう」のマークを付している。 ○ 「この教科書の使い方」でマークの活用方法を示しており、「資料」、「トピックス」、「WEBマーク」等、17種類のマークを付している。 ○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、二次元コードを掲載している。	○ 各小単元で、本文の記述・内容との関連付けがなされた、「きょうの学習」、「課題をつかむ」、「学習のまとめ」のマークを付している。 ○ 「この教科書の使い方」でマークの活用方法を示しており、「キーワード」、「ポイント」、「Dマーク」等、22種類のマークを付している。 ○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、二次元コードを掲載している。	○ 各小単元で、本文の記述・内容との関連付けがなされた、「ウォームアップ」、「エクササイズ」、「学びを生かす」のマークを付している。 ○ 「この教科書の使い方」でマークの活用方法を示しており、「キーワード」、「ポイント」、「Dマーク」等、16種類のマークを付している。 ○ ウェブコンテンツにアクセスできるよう、二次元コードを掲載している。

令和6年7月12日

広島市教科用図書採択審議会会長 様

広島市教科用図書採択審議会調査員

教科【技術・家庭科】種目【技術分野】

代表者

宮野 高広

令和7年度使用広島市立中学校用教科用図書の調査・研究について（報告）

このことについて、別紙のとおり調査・研究結果をまとめましたので、報告します。

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教 科 [技術・家庭] 種 目 [技術分野]

2 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、鉄道や都市高速道路などの交通網が発達し、大型商業施設が誘致され、自動車産業や重工業に関連した工場とオフィスが多く立地する中国地方の経済・産業の拠点となっている地域である。
- 生徒は、都市型の生活環境にあって、センシング技術や高速通信技術など世の中の最新技術に触れる機会が多いため、技術分野の学習への関心が高い。その一方で、生活をしていて困ることや不便だと感じる事が少なく、自らの手で加工する経験なども不足している。それにより、生活の中にある問題を見いだして課題を設定することやその課題を自分の手で解決する経験が乏しいため、課題を設定した上で解決策を構想し、具体化した実践を評価・改善するなどの問題解決学習を行う力にも課題がある。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	② 生活や社会の中から問題を見だし、課題を設定して解決していく学習過程の工夫 ③ 言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 学習目標や振り返りの示し方の工夫 ⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って自らの学びにつなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 実践的・体験的な学習に関する内容 ⑦ 題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑧ 他教科や日常生活、社会との関連の示し方 ⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

令和7年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

- 1 教科 [技術・家庭] 種 目 [技術分野]
2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	視点	発行者		
		東京書籍	教育図書	開隆堂出版
観点1 知識及び技能の習得	① の基礎を 図る基本 的な知識 及び技能	○ 基本的な用語のうち、重要語句はゴシック体で表記している。	○ 基本的な用語のうち、重要語句はゴシック体で表記している。	○ 基本的な用語のうち、重要語句はゴシック体で表記している。
		○ 基礎的・基本的な技能について、工程ごとに示すとともに、内容A「材料と加工の技術」においては、工具や機械を適切に取扱う技能について、12ページにわたって掲載している。	○ 基礎的・基本的な技能について、工程ごとに示すとともに、内容A「材料と加工の技術」においては、工具や機械を適切に取扱う技能について、別冊「スキルアシスト」に12ページにわたって掲載している。	○ 基礎的・基本的な技能について、工程ごとに示すとともに、内容A「材料と加工の技術」においては、工具や機械を適切に取扱う技能について、22ページにわたって掲載している。
観点2 思考	② の基礎を 図る基本 的な知識 及び技能	○ 基礎的・基本的な技能のポイントとして、「ポイント」の囲みを37箇所掲載している。	○ 基礎的・基本的な技能のポイントとして、「ポイント」マークを64箇所（うち、別冊スキルアシスト23箇所）付して掲載している。	○ 基礎的・基本的な技能のポイントとして、「作業のポイント」の囲みを18箇所掲載している。
		○ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況を確認するために、各学習内容の最後に「学習のまとめ」を設けている。	○ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況を確認するために、各学習内容の最後に「編のまとめ」を設けている。	○ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況を確認するために、各学習内容の最後に「学習のまとめ」を設けている。
観点3 感情・態度	③ の基礎を 図る基本 的な知識 及び技能	○ 学習の参考となる資料や解説を、「資料」マークを付して掲載している。 ◆ 掲載例 ・ 密度の比較 ・ キンギョの育成 ・ バイオマス発電とは ・ アナログ情報とデジタル情報	○ 学習の参考となる資料や解説を、「もっと知ろう」マークを付して掲載している。 ◆ 掲載例 ・ 材料ができるまで ・ トランジスタの動作原理 ・ 原産地と環境との関わり ・ 生体認証の技術	○ 学習の参考となる資料や解説を、「参考」マークを付して掲載している。 ◆ 掲載例 ・ 木材が曲がる性質を利用した製品 ・ 農業の使用と安全 ・ エネルギーの有効利用 ・ 16進数
		○ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況を確認するために、各学習内容の最後に「学習のまとめ」を設けている。	○ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況を確認するために、各学習内容の最後に「編のまとめ」を設けている。	○ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況を確認するために、各学習内容の最後に「学習のまとめ」を設けている。

観点	視点	発行者																																																				
		東京書籍	教育図書	開隆堂出版																																																		
観点2	② 題を生活や社会の解決の中から問い課題を見い出したし、工夫課題	○ 技術分野の学習過程の要素である「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の3つ全てを巻頭「技術分野の学習方法」において示し、説明している。 ○ 巻頭に「SDGs と Technology」を掲載し、持続可能な社会の構築と技術の関係について確認できるようにしている。 ○ 各学習内容とも「未来のTechnology」、「学習のまとめ」の項目で学習を振り返り、学習した課題解決と生活や社会とのつながりについて考える内容を設定している。 ○ 第3学年で扱う統合的な問題解決については、学習内容AからDとは別に「統合的な問題解決をしよう!」を設け、統合的な問題解決の学習について例示している。	○ 社会や生活での問題解決の流れの例を、巻頭「技術の問題解決ってなに?」において示し、説明している。 ○ 第3学年で扱う統合的な問題解決については、学習内容AからDとは別に「E編『夢をかなえる技術』」を設けている。	○ 技術分野の学習過程の要素である「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の3つ全てを巻頭「技術分野の学習の流れ」において示し、各要素について4コマ漫画を使って説明するとともに、学習の流れのイメージ図を掲載している。 ○ 巻頭に「SDGsの目標実現のために、技術ができることはなんだろう?」を掲載し、持続可能な社会の構築と技術の関係について確認できるようにしている。 ○ 各学習内容とも「学習のまとめ」の項目で学習した課題解決と生活や社会とのつながりについて考える内容を設定している。 ○ 第3学年で扱う統合的な問題解決については、学習内容AからDとは別に「技術分野の出口」を設け、統合的な問題解決の学習について例示している。また、「技術分野での問題解決をふり返ろう」を掲載し、3年間で学習した内容を踏まえて統合的な問題解決に取り組むことができるようにしている。																																																		
	③ を言葉や図表を用いたり生活や社会をよりよくするための方法	○ 「考えてみよう」、「調べてみよう」、「やってみよう」、「話し合ってみよう」のマークを付し、言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動を設定している。 ◆ マークの具体例 <table><tr><th>内容等</th><th>具体例</th><th>マーク</th></tr><tr><td>A材料と加工</td><td>身の回りの製品を1つ選び、どのような材料を、どのように加工して作られているかを調べましょう。</td><td>調べてみよう</td></tr><tr><td>B生物育成</td><td>育成環境を調節して、スプラウトを育てましょう。</td><td>やってみよう</td></tr><tr><td>Cエネルギー変換</td><td>Aの手回し発電機のハンドルを10回回すとBの手回し発電機のハンドルは何回回るか調べましょう。</td><td>やってみよう</td></tr><tr><td>D情報</td><td>家や学校ではどのようなセキュリティ対策をしているか調べましょう。何から、何を守っているのかを考え、話し合いましょう。</td><td>話し合ってみよう</td></tr><tr><td>ガイダンス・その他</td><td>技術分野の学習を生かして、3年後にできるようになっていたいことを考えてまとめましょう。</td><td>考えてみよう</td></tr></table> ○ 巻頭で思考ツールについて説明し、生徒が意見やアイデアを出したりまとめたりするときに取り入れることができるようにしている。	内容等	具体例	マーク	A材料と加工	身の回りの製品を1つ選び、どのような材料を、どのように加工して作られているかを調べましょう。	調べてみよう	B生物育成	育成環境を調節して、スプラウトを育てましょう。	やってみよう	Cエネルギー変換	Aの手回し発電機のハンドルを10回回すとBの手回し発電機のハンドルは何回回るか調べましょう。	やってみよう	D情報	家や学校ではどのようなセキュリティ対策をしているか調べましょう。何から、何を守っているのかを考え、話し合いましょう。	話し合ってみよう	ガイダンス・その他	技術分野の学習を生かして、3年後にできるようになっていたいことを考えてまとめましょう。	考えてみよう	○ 「考えてみよう」、「やってみよう」のマークを付して、言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動を設定している。 ◆ マークの具体例 <table><tr><th>内容等</th><th>具体例</th><th>マーク</th></tr><tr><td>A材料と加工</td><td>厚紙をさまざまな形に折って橋を作り、その上におもりをのせて、丈夫さを比べてみよう。</td><td>やってみよう</td></tr><tr><td>B生物育成</td><td>実際に栽培してみて、うまくいったこと、いかなかったことがあると思います。そこから、次に栽培するときに取り入れたいアイデアを考えてみましょう。</td><td>考えてみよう</td></tr><tr><td>Cエネルギー変換</td><td>自転車の保守点検をしてみよう。</td><td>やってみよう</td></tr><tr><td>D情報</td><td>デジタル化された情報は2進数で表すことがある。私たちが使っている10進数を2進数で表すと、8と15はどう表されるだろうか。</td><td>やってみよう</td></tr></table>	内容等	具体例	マーク	A材料と加工	厚紙をさまざまな形に折って橋を作り、その上におもりをのせて、丈夫さを比べてみよう。	やってみよう	B生物育成	実際に栽培してみて、うまくいったこと、いかなかったことがあると思います。そこから、次に栽培するときに取り入れたいアイデアを考えてみましょう。	考えてみよう	Cエネルギー変換	自転車の保守点検をしてみよう。	やってみよう	D情報	デジタル化された情報は2進数で表すことがある。私たちが使っている10進数を2進数で表すと、8と15はどう表されるだろうか。	やってみよう	○ 「調べてみよう」、「やってみよう」のマークを付して、言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動を設定している。 ◆ マークの具体例 <table><tr><th>内容等</th><th>具体例</th><th>マーク</th></tr><tr><td>A材料と加工</td><td>写真の立体を、1ブロック1マスとして、等角図や第三角法による正投影図でかき表してみよう。</td><td>やってみよう</td></tr><tr><td>B生物育成</td><td>作物を栽培する場所は限られていて、収量やおいしさを向上させるには工夫が必要である。 作物を学校で栽培する場合、どのような環境調節の技術を活用すればよいか、考えてみよう。</td><td>やってみよう</td></tr><tr><td>Cエネルギー変換</td><td>模型や紙などを使って、さまざまな動きをする機構を考えてみよう。</td><td>やってみよう</td></tr><tr><td>D情報</td><td>横稿と縦稿の画像で、ファイルサイズが異なるのはなぜだろう。</td><td>やってみよう</td></tr><tr><td>ガイダンス・その他</td><td>生活の中だけでなく、社会のさまざまな場面でも使いやすしたり、安全にしたりするために、技術が使われています。 社会では、どのような技術が用いられているか調べてみましょう。</td><td>調べてみよう</td></tr></table> ○ 巻頭で「マインドマッピング」、「ブレーンストーミング」、「KJ法」について説明し、生徒が意見やアイデアを出したりまとめたりするときに取り入れることができるようにしている。	内容等	具体例	マーク	A材料と加工	写真の立体を、1ブロック1マスとして、等角図や第三角法による正投影図でかき表してみよう。	やってみよう	B生物育成	作物を栽培する場所は限られていて、収量やおいしさを向上させるには工夫が必要である。 作物を学校で栽培する場合、どのような環境調節の技術を活用すればよいか、考えてみよう。	やってみよう	Cエネルギー変換	模型や紙などを使って、さまざまな動きをする機構を考えてみよう。	やってみよう	D情報	横稿と縦稿の画像で、ファイルサイズが異なるのはなぜだろう。	やってみよう	ガイダンス・その他	生活の中だけでなく、社会のさまざまな場面でも使いやすしたり、安全にしたりするために、技術が使われています。 社会では、どのような技術が用いられているか調べてみましょう。
内容等	具体例	マーク																																																				
A材料と加工	身の回りの製品を1つ選び、どのような材料を、どのように加工して作られているかを調べましょう。	調べてみよう																																																				
B生物育成	育成環境を調節して、スプラウトを育てましょう。	やってみよう																																																				
Cエネルギー変換	Aの手回し発電機のハンドルを10回回すとBの手回し発電機のハンドルは何回回るか調べましょう。	やってみよう																																																				
D情報	家や学校ではどのようなセキュリティ対策をしているか調べましょう。何から、何を守っているのかを考え、話し合いましょう。	話し合ってみよう																																																				
ガイダンス・その他	技術分野の学習を生かして、3年後にできるようになっていたいことを考えてまとめましょう。	考えてみよう																																																				
内容等	具体例	マーク																																																				
A材料と加工	厚紙をさまざまな形に折って橋を作り、その上におもりをのせて、丈夫さを比べてみよう。	やってみよう																																																				
B生物育成	実際に栽培してみて、うまくいったこと、いかなかったことがあると思います。そこから、次に栽培するときに取り入れたいアイデアを考えてみましょう。	考えてみよう																																																				
Cエネルギー変換	自転車の保守点検をしてみよう。	やってみよう																																																				
D情報	デジタル化された情報は2進数で表すことがある。私たちが使っている10進数を2進数で表すと、8と15はどう表されるだろうか。	やってみよう																																																				
内容等	具体例	マーク																																																				
A材料と加工	写真の立体を、1ブロック1マスとして、等角図や第三角法による正投影図でかき表してみよう。	やってみよう																																																				
B生物育成	作物を栽培する場所は限られていて、収量やおいしさを向上させるには工夫が必要である。 作物を学校で栽培する場合、どのような環境調節の技術を活用すればよいか、考えてみよう。	やってみよう																																																				
Cエネルギー変換	模型や紙などを使って、さまざまな動きをする機構を考えてみよう。	やってみよう																																																				
D情報	横稿と縦稿の画像で、ファイルサイズが異なるのはなぜだろう。	やってみよう																																																				
ガイダンス・その他	生活の中だけでなく、社会のさまざまな場面でも使いやすしたり、安全にしたりするために、技術が使われています。 社会では、どのような技術が用いられているか調べてみましょう。	調べてみよう																																																				

観 点	視 点	発行者		
		東京書籍	教育図書	開隆堂出版
観 点 3 主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 工 夫	④ 示し学 方目標 の工夫 や振り 返りの	○ 学習の目標を「目標」で示すとともに、「まとめよう」、「振り返ろう」、「深めよう」で学習の振り返りを行えるようにしている。 ◆ 掲載例 「材料と加工の技術の問題解決の工夫」 ＜目標＞ ・ 材料と加工の技術の問題解決の工夫を読み取り、技術の見方・考え方に気づくことができる。 ＜まとめよう＞ ・ 材料と加工の技術の問題解決において、どのような工夫がされているかをまとめましょう。 ○ 各学習内容とも「学習のまとめ」の項目で学習を振り返る内容を設定している。	○ 学習の目標を「めあて」で示すとともに、「ふり返る」で学習を振り返るチェック欄を設けている。 ◆ 掲載例 「材料と加工の技術の工夫を調べ考えよう」 ＜めあて＞ ・ 材料と加工の技術に込められた工夫を調べ、考える。 ＜ふり返る＞ ・ 材料と加工の技術に込められた工夫を調べ、考えることができましたか。 ○ 各学習内容とも「編のまとめ」の項目で学習を振り返る内容を設定している。	○ 学習の目標を「学習の目標」で示すとともに、「CHECK」で学習を振り返るチェック欄を設けている。 ◆ 掲載例 「身の回りにある材料と加工の技術」 ＜学習の目標＞ ・ 材料と加工の技術に関する製品に込められた技術のしくみに気づく。 ＜CHECK＞ ・ 製品における材料の使い分けについて知り、それぞれの特徴を考えることができた。 ・ 製品の工夫や活用されている材料と加工の技術のしくみに気づくことができた。 ○ 各学習内容とも「学習のまとめ」の項目で学習を振り返る内容を設定している。
	⑤ て興味・関 心の学 びにつ なげ たり見 通しを 立て たり、 学 習を 振り 返 す	○ 技術の見方・考え方に気付いたり、働かせたりしながら学習を進めることができるように、「技術の天秤」マークを付して、技術の最適化について具体的な事例を示している。 ○ 生徒が見通しを立てて学習に取り組めるようにするために、巻頭に「技術の見方・考え方」という章を設けている。 ○ 学習内容と関わりのある話題を、「技術の匠」のコーナーに掲載している。 ○ 具体例を用いて、「問題の発見」、「課題の設定」、「設計・計画」、「製作・制作・育成」、「評価、改善・修正」など問題解決の一連の流れを示し、自らの問題解決に主体的に取り組むことができるように工夫している。 ◆ 「マルチラック」の例 ＜問題の発見＞ ・ 机の上の必要な物を整理して、作業できる場所を確保したい。 ＜課題の設定＞ ・ いつも使う教科書やノート、文房具などを机の上にまとめて収納できる棚を作る。	○ 技術の見方・考え方に気付いたり、働かせたりしながら学習を進めることができるように、技術の最適化について具体的な事例を示している。 ○ 学習内容と関わりのある話題を、「スゴ技」や「技ビト」のコーナーに掲載している。 ○ 具体例を用いて、「問題の発見」、「課題の設定」、「設計・計画」、「製作・制作・育成」、「評価、改善・修正」など問題解決の一連の流れを示し、自らの問題解決に主体的に取り組むことができるように工夫している。 ◆ 「不思議な本立て」の例 ＜問題の発見＞ ・ 単行本をコンパクトに整理したいなあ	○ 技術の見方・考え方に気付いたり、働かせたりしながら学習を進めることができるように、「トレードオフ」マークを付して、技術の最適化について具体的な事例を示している。 ○ 生徒が見通しを立てて学習に取り組めるようにするために、巻頭に「技術の見方・考え方」という章を設けている。 ○ 学習を振り返って自らの学びにつなげることができるように、「問題解決のふり返りシート」をAからDの各学習内容に計4箇所掲載している。 ◆ 問題解決のふり返りシートの例 ・ エネルギー変換の技術による問題解決の活動についての振り返り ○ 学習内容と関わりのある話題を、「Interview」のコーナーに掲載している。 ○ 具体例を用いて、「問題の発見」、「課題の設定」、「設計・計画」、「製作・制作・育成」、「評価、改善・修正」など問題解決の一連の流れを示し、自らの問題解決に主体的に取り組むことができるように工夫している。 ◆ 「マルチラック」の例 ＜問題の発見＞ ・ いろいろなものが散乱していて、使いたいものが見つかりにくい。 ・ 本が倒れたり、山積みになったりしている。 ・ 複数のケーブルが絡まっている。 ・ USBメモリやSDカードが散乱している。 ＜課題の設定＞ ・ 教科書など、よく使う本を整理・整頓したい。 ・ 小物が整理されて机の上をスッキリさせたい。

観 点	視 点	発行者		
		東京書籍	教育図書	開隆堂出版
観 点 4	実践的・体験的な学習に関する内容	⑥ ○ 実践的・体験的な学習について、問題解決例を掲載している (17) ◆ 内容「A材料と加工の技術」の問題解決例の数 (3) ・ 「あったらいいな」を形にしよう ・ 誰かのために「あったらいいな」を形にしよう ・ サステナブルなものづくりに挑戦しよう ◆ 内容「B生物育成の技術」の問題解決例の数 (3) ・ 持続可能な食料生産のためにできることは何だろう ・ 地域の特産物を未来につなげよう ・ 学校行事を華やかにしよう ◆ 内容「Cエネルギー変換の技術」の問題解決例の数 (3) ・ 持続可能な社会のための製品開発 ・ well-beingを高めるための問題解決 ・ 生活や社会のために役立つ機構モデルを開発しよう ◆ 内容「D情報の技術」の問題解決例の数 (6) - ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決 (3) ・ 「できたらいいな」を形にしよう ・ 誰かのために「できたらいいな」を形にしよう ・ 双方向性のあるコンテンツで地域の安全・安心を守ろう - 計測・制御のプログラミングによる問題の解決 (3) ・ 「できたらいいな」を形にしよう ・ 誰かのために「できたらいいな」を形にしよう ・ 計測・制御システムで地域の安全・安心を守ろう ◆ 統合的な問題解決例の数 (2) ・ 露地栽培と植物工場 日本の農業を救うのは？ ・ 未知の場所への調査ロボットを開発しよう	○ 実践的・体験的な学習について、題材例を掲載している。(21) ◆ 内容「A材料と加工の技術」の題材例の数 (4) ・ 調味料ホルダー ・ 便利なプランターラック ・ 2段小物ラック ・ パンチングメタルスタンド ◆ 内容「B生物育成の技術」の題材例の数 (6) ・ ミニダイコン ・ ミニトマト ・ コマツナの鉢栽培 ・ 低温処理によるチューリップとパンジーの寄せ植え ・ 乳牛の飼育実習 ・ アワビを育てる技術 ◆ 内容「Cエネルギー変換の技術」の題材例の数 (6) ・ 閉め忘れ防止オルゴール ・ 人型二足歩行ロボット ・ ハンディ扇風機 ・ 手回し発電ライト ・ 電動ロボットハンド ・ ハンカチ折りたたみマシン ◆ 内容「D情報の技術」の題材例の数 (5) - ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決 (3) ・ PTAバザーの案内マップ ・ 私の町の天気予報 ・ 簡単チャット - 計測・制御のプログラミングによる問題の解決 (2) ・ 自動点灯・消灯ライト ・ 自動かん水機	○ 実践的・体験的な学習について、題材例を掲載している。(35) ◆ 内容「A材料と加工の技術」の題材例の数 (7) ・ 小さなスペースで机の上を整理・整頓できるマルチラック ・ 家族で使える充電しやすいタブレットスタンド ・ 小さい子でも使いやすいふみ台 ・ 調理スペースが広がる調味料ラック ・ 見ばえよく植物を飾れる鉢入れ ・ 必要なものがまとめられるカレンダーつきメモホルダー ・ 分類して収納できる文房具の整理箱 ◆ 内容「B生物育成の技術」の題材例の数 (8) ・ ミニトマトの栽培 ・ リーフレタスの養液栽培 ・ ラディッシュの容器栽培 ・ キュウリの容器栽培 ・ チューリップの栽培 ・ イネの容器栽培 ・ 乳牛の飼育 ・ 水産生物の栽培 ◆ 内容「Cエネルギー変換の技術」の題材例の数 (4) ・ 非常時に光る防災用ライト ・ フォークリフトつき自動車モデル ・ 必要なときに動作させるLEDライト ・ お手軽電動クリーナー ◆ 内容「D情報の技術」の題材例の数 (13) - ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決 (7) ・ 安心して使えるメッセージ交換アプリ ・ ネット対戦型タイピング練習 ・ 防災地図アプリ ・ ルート検索アプリ ・ 無人レジシステム ・ 図書検索システム ・ 高齢者に使いやすい避難所案内アプリ - 計測・制御のプログラミングによる問題の解決 (6) ・ お掃除ロボットモデル ・ ドアの開閉を検知するセキュリティ対策 ・ 自分の動きを計測するトレーニング補助装置 ・ 電子料金自動収受システム (ETC) のモデル ・ AIを使ったごみの分別判定システム ・ カギを使わない安全なドアの開閉システム ◆ 統合的な題材例の数 (3) ・ 目の不自由な人が安全に外出を楽しめるデジタル白杖 ・ ミニ植物工場—コマツナの苗の育成 ・ 自動運搬ロボットモデルの構想

観 点	視 点	発 行 者		
		東京書籍	教育図書	開隆堂出版
観 点 4 内 容 の 構 成 ・ 配 列 ・ 分 量	⑦ 題 材 や 資 料 等 の 配 列 ・ 分 量	○ 総ページ数 298ページ ◆ 「生活や社会を支える技術」に関する分量 96ページ ◆ 「技術による問題解決」に関する分量 96ページ ◆ 「社会の発展と技術」に関する分量 24ページ ○ サイズ AB判 重さ約 569g	○ 総ページ数 304ページ（うち別冊42ページ） ワークシート（AからD編各1枚、D編2章・3章各1枚） ◆ 「生活や社会を支える技術」に関する分量 70ページ ◆ 「技術による問題解決」に関する分量 176ページ（うち、別冊スキルアシスト 38ページ） ◆ 「社会の発展と技術」に関する分量 12ページ ○ 本紙 サイズ A4変型（約204×264mm） 重さ約 665g 別冊 サイズ A4変型（約193×264mm） 重さ約 95g	○ 総ページ数 314ページ ◆ 「生活や社会を支える技術」に関する分量 104ページ ◆ 「技術による問題解決」に関する分量 116ページ ◆ 「社会の発展と技術」に関する分量 16ページ ○ 広島に関連する資料を1点扱っている。 ◆ 資料 ・ 広島県豊田郡の塩田あとの養殖池 ○ サイズ AB判 重さ約 566g

観 点	視 点	発行者		
		東京書籍	教育図書	開隆堂出版
観 点 5 内 容 の 表 現 ・ 表 記	⑧ 他 教 科 や 日 常 生 活、 社 会 と の 関 連 の 示 し 方	○ 小学校で学習した内容や、中学校の他教科で学習する内容との関連については、その記載があるページに、「リンク」マークを付すとともに、教科、内容等を示している。 ◆ 関連が示されている教科等の数と具体例 ＜小学校＞ 5 箇所 ・ 社会 5 年 我が国の農業や水産業における食料生産 ＜中学校＞ 28箇所 ・ 理科 2 年 光合成の仕組み ・ 理科 2 年 我が国の農業や水産業における食料生産 ○ 技術分野のガイダンスに、日常生活における身近な物を写真で示している。 ◆ 掲載例 ・ カッターナイフ ・ 付箋 ・ スマートフォン ・ 缶 ・ 消えるボールペン ・ フリーサイズ落し蓋	○ 小学校で学習した内容や、中学校の他教科で学習する内容との関連については、その記載があるページに、「関連」マークを付すとともに、教科を示している。 ◆ 関連が示されている教科等の数 ＜小学校＞ 8 箇所 ・ 理科 ・ 社会 ・ 生活 ＜中学校＞ 11箇所 ・ 理科 ・ 社会 ○ 技術分野のガイダンスに、日常生活における身近な物を写真で示している。 ◆ 掲載例 ・ 3 Dプリンタ ・ セラミックスの包丁 ・ 全自動洗濯機 ・ シリコンを使った調理器具 ・ 自動車 ・ 太陽光発電	○ 小学校で学習した内容や、中学校の他教科で学習する内容との関連については、その記載があるページに、「小学校」マークや「他教科」マークを付すとともに、教科、内容等を示している。 ◆ 関連が示されている教科等の数 ＜小学校＞ 4 箇所 ・ 5 年理科 植物の発芽、成長、結実 ＜中学校＞ 4 箇所 ・ 中学 2 年社会 栽培漁業と養殖漁業の違い ○ 各学習内容の最初のページに、「小学校との関連」、「中学校他教科との関連」として、小学校や中学校他教科の学習内容との関連を示している。 ◆ 掲載例 ・ スプーン ・ はさみ ・ ボールペン ・ ペーパーナイフ（持ち手が短い、持ち手が長い、片側に刃、両側に刃、厚紙を切るためのペーパーナイフ、持ち手に段差がついているペーパーナイフ）
	⑨ イ ラ 本 文 の 記 述 真・内 容 と 適 切 な 関 連 ツ 付 等 け の が 示 し さ れ た	○ キャラクターや吹き出しを使い、学習を進める際のポイントやヒントを示している。 ○ 作業等で安全や衛生に気を付ける箇所について、「安全」マークを18箇所、「衛生」マークを 9 箇所に付している。 ○ 環境に配慮することに関連する学習内容について、「環境」マークを付している。 ○ 伝統的な文化に関連する学習内容について、「伝統文化」マークを付している。 ○ それぞれのページの右上に掲載している二次元コードを読み取ることで、「Dマーク」を示した各項目の学習内容と関連する動画や資料などが掲載されたウェブコンテンツの目次ページにアクセスできる。 ○ 工具や作業の説明において、生徒の視線に近い視点で撮影された写真を掲載している。	○ キャラクターや吹き出しを使い、学習を進める際のポイントやヒントを示している。 ○ 作業等で安全や衛生に気を付ける箇所について、「安全」マークを48箇所（うち、スキルアシスト 23箇所）、「衛生」マークを 8 箇所（うち、スキルアシスト 1 箇所）に付している。 ○ 環境に配慮することに関連する学習内容について、「環境」マークを付している。 ○ 伝統的な文化に関連する学習内容について、「伝統文化」マークを付している。 ○ 各学習内容の題材例や、技術ハンドブックの基礎技能のページの右上に掲載している二次元コードを読み取ることで、その各内容と関連する動画や画像などがまとめられたウェブコンテンツにアクセスできる。 ○ 工具や作業の説明において、生徒の視線に近い視点で撮影された写真を掲載している。	○ キャラクターや吹き出しを使い、学習を進める際のポイントやヒントを示している。 ○ 作業等で安全に気を付ける箇所について、「安全」マークを25箇所に付している。 ○ 環境に配慮することに関連する学習内容について、「環境」マークを付している。 ○ 伝統的な文化に関連する学習内容について、「伝統文化」マークを付している。 ○ それぞれのページの右上に掲載している二次元コードを読み取ることで、各項目の学習内容と関連する動画や資料などが掲載されたウェブコンテンツに直接アクセスできる。 ○ 工具や作業の説明において、生徒の視線に近い視点で撮影された写真を掲載している。

令和6年7月18日

広島市教科用図書採択審議会会長 様

広島市教科用図書採択審議会調査員

教科 [技術・家庭] 種 目 [家庭分野]

代表者

溝下 明美

令和7年度使用広島市立中学校用教科用図書の調査・研究について（報告）

このことについて、別紙のとおり調査・研究結果をまとめましたので、報告します。

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

- 1 教 科 [技術・家庭] 種 目 [家庭分野]
- 2 本市の実態や生徒の状況

○ 本市は、市街地などの地域では大型商業施設やコンビニエンスストアが多くある一方、中山間地などの郊外ではスーパーマーケットも近くにないなど、保護者や生徒の生活様式が地域により大きく異なっている。また、自然災害が多く発生していることから、災害への知識と備えが必要な地域であるが、過去の災害の経験の有無等によって生徒の意識には差がある。

○ 広島市中学校教育研究会技術・家庭科部会が実施したアンケートによると、本市の生徒の約 8 割は、家庭科の授業内容は実際の生活や社会と関連していると感じているが、家庭や地域社会に家庭科で習ったことをいかして解決したり、改善したりすることができる問題があると感じている生徒は 6 割程度である。また、それらの問題を解決するために計画を立てて実践することがある生徒は 3 割程度となっている。このことから、生活の中から問題を見いだして解決する力や、生活を工夫し創造しようとする態度の育成が必要である。

- 3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 生活の自立に必要な知識及び技能の定着を図る工夫
<思考力、判断力、表現力等の育成>	② 生活の中から問題を見だし、課題を設定して解決していく学習過程の工夫 ③ 言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 「生活の営みに係る見方・考え方」を意識させるための示し方 ⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 実践的・体験的な学習に関する内容 ⑦ 題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑧ 技術分野や他教科、小学校の学習内容との関連の示し方 ⑨ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

- 1 教 科 [技術・家庭] 種 目 [家庭分野]
- 2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観 点	視 点	発 行 者		
		東京書籍	教育図書	開隆堂出版
観 点 1 知 識 及 び 技 能 の 習 得	① 技 能 の 定 着 を 図 る に 必 要 な 知 識 及 び	○ 基礎的な用語のうち、重要語句を黒太文字で示している。 ○ 編末の「学習のまとめ」では、重要語句の一覧と知識・技能に関わる問いを設けている。 ○ 学習内容と関連のある内容については、「リンクマーク」、ページ番号、タイトルを示している。 ○ 「いつも確かめよう」として、食生活および衣生活の基礎技能をまとめて掲載している。 ○ ページの下部に、「せいかつメモ」として学習内容に関する様々な情報を掲載している。	○ 基礎的な用語のうち、重要語句を青太文字で示している。 ○ 章末または編末の「学習のふり返し」では、知識・技能に関わる問いを設けている。 ○ 学習内容と関連のある内容については、「関連」マーク、ページ番号、タイトルを示している。	○ 基礎的な用語のうち、重要語句を黒太文字で示している。 ○ 編末の「学習のまとめ」では、知識・技能に関わる問いを設けている。 ○ 学習内容と関連のある内容については、矢印のマーク、ページ番号、タイトルを示している。 ○ 「調理の基礎」、「製作の基礎・基本を知ろう」として、食生活および衣生活の基礎技能をまとめて掲載している。 ○ ページの下部に、「豆知識」として学習内容に関連する様々な情報を掲載している。

観 点	視 点	発行者		
		東京書籍	教育図書	開隆堂出版
観 点 2	② く 学 生 活 過 程 中 の か ら 工 夫 問 題 を 見 い だ し、 課 題 を 設 定 し て 解 決 し て い	○ 巻頭のWarm upの「家庭分野の学習の進め方」で、2ページにわたり、「よりよい生活をつくる-問題を解決する道筋-」として、問題解決的な学習の流れを掲載している。 ○ 巻末の「選択 生活の課題と実践」で、11ページにわたり、学習の進め方および実践例とそのまとめ方の例を掲載している。 【「生活の課題と実践」の例：6例】 ・ A家族・家庭生活 2例 ・ B衣食住の生活 3例 ・ C消費生活・環境 1例 ○ 各編のはじめに「私の知りたいこと、できるようになりたいこと」として課題設定をする記述欄を設けている。 ○ 編末の「学習のまとめ」では、思考・判断・表現に関わる問いを設けている。	○ 巻頭のガイダンスで、2ページにわたり、「自分の課題をもって学習に取り組もう！～家庭分野の課題解決の進め方～」として、問題解決的な学習の流れと取り組み方の例を紹介したページの一覧を掲載している。 ○ 巻末の「選択 生活の課題と実践」で、10ページにわたり、学習の流れ、ポイントおよび実践例を掲載している。 【「生活の課題と実践」の例：8例】 ・ A家族・家庭生活 2例 ・ B衣食住の生活 4例 ・ C消費生活・環境 2例 ○ 章末または編末の「学習のふり返り」では、思考・判断・表現に関わる問いを設けている。 ○ 章末に「学びを生かそう」を設け、課題設定のヒントや課題例、取り組み方の流れ、まとめ方の例を掲載している。	○ 巻頭のガイダンスで、2ページにわたり、「生活課題に取り組む」として、課題の見つけ方や取り組み方および目標達成シートの例を掲載している。 ○ 巻末の「生活の課題と実践」で、12ページにわたり、課題設定の記述欄、学習の進め方、取り組み方の例、実践例とまとめ方の例を掲載している。 【「生活の課題と実践」の例：10例】 ・ A家族・家庭生活 3例 ・ B衣食住の生活 6例 ・ C消費生活・環境 1例 ○ 編末の「学習のまとめ」では、思考・判断・表現に関わる問いを設けている。また、生活の課題と実践につながる問いを設け、イラストや写真、ふきだしの文言を用いて課題設定につながる問いかけをしている。

観点	視点	発行者		
		東京書籍	教育図書	開隆堂出版
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	③ の言葉や図表を用いて生活や社会をよりよくするための工夫	○ 各節のはじめに導入課題を示し、生活を振り返るきっかけを設定している。 【導入課題の例】 次のような場面を経験したことはありませんか。家族の生活の営みを支えるために、家族が家事をどのように分担しているかを振り返りましょう。	○ 各節のはじめに導入課題を示し、生活を振り返るきっかけを設定している。 【導入課題の例】 1日の生活を振り返り、あなたが家庭で行っていることをあげてみよう。	○ 各節のはじめに導入課題を示し、生活を振り返るきっかけを設定している。 【導入課題の例】 家庭の中で行われているのはどのようなことでしょうか。
		○ 巻頭のWarm upの「家庭分野の学習の進め方」で、物事を考えたり、意見を整理したりするときに活用する手順や図式である思考ツールを7つ掲載している。	○ 「考えてみよう」、「発表してみよう」、「話し合ってみよう」のマークを付し、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を42例設定している。 【「考えてみよう」例】 ①台風への備えを、具体的に考えてみよう。 ②グループや家族で「防災〇か条」を考え、クラスで発表してみよう。	○ 「考えてみよう」、「工夫してみよう」、「発表してみよう」、「話し合ってみよう」のマークを付し、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を34例設定している。 【「考えてみよう」例】 あなたの家庭や地域では災害に備えた取り組みをしていますか。家庭科で学んだ学習内容をいかして、日頃からできることを考えてみましょう。
		○ 「考えてみよう」や「話し合ってみよう」のマークを付し、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を23例設定している。 【「考えてみよう」例】 安全計画を立てよう あなたが日ごろ生活をしている家庭や学校、地域の住環境を安全に整えるために、グループで計画を立てて危険な箇所を調査し、解決策を考えましょう。		

観点	視点	発行者		
		東京書籍	教育図書	開隆堂出版
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	④ 「めー生活の営みに係る見方・考え方」を意識させるた	○ 1編のガイダンスにおいて、2ページにわたり、生活の営みに係る見方・考え方を「家庭分野の見方・考え方」として説明し、具体例、対応するマークを写真・イラストと共に示している。 ・「協力・協働」 ・「健康・快適・安全」 ・「生活文化の継承・創造」 ・「持続可能な社会の構築」 ○ 各編の最初に、学習の中で使う生活の営みに係る見方・考え方の視点とそれに対応するマークを示している。 ○ 各編の最後に、それぞれの学習内容と持続可能な社会の構築を関連付けた章を設けている。 ○ 巻末に「家庭分野とSDGs」を設け、SDGsのマークと関連ある内容に「リンクマーク」を付し、ページ番号を示している。	○ 巻頭のガイダンスにおいて、2ページにわたり、生活の営みに係る見方・考え方を「つなぐ、つながる」をキーワードに写真・イラストと共に整理して示している。 ・「協力・協働」 ・「健康・快適・安全」 ・「生活文化の継承・創造」 ・「持続可能な社会の構築」 ○ 巻頭のガイダンスにSDGsのマークを掲載し、各ページで関連する項目があればマークをつけて示している。また、C編消費生活・環境の最初の見開きで「私たちとSDGsはどのようにつながっているかな？」として、マークとともにつながりの例を示している。	○ 巻頭のガイダンスにおいて、生活の営みに係る見方・考え方を「生活の見方・考え方の視点」として示している。 ・「協力・協働」 ・「安全・快適・健康」 ・「生活文化」 ・「持続可能な社会の構築」 ○ 各編の最後に、それぞれの学習内容と持続可能な社会の構築を関連付けた章を設けている。また、関わりの深いSDGsの目標をマークと共に示している。 ○ 巻頭ガイダンスにおいて、「持続可能な社会の構築へ」としてSDGsのマークを写真と共に示している。
	⑤ 「学習興味・関心を振り返って持たせ、見通しを立てるための工夫」	○ キーワード、タイトル、学習の目標、導入課題、学習課題、本文の順に展開し、節ごとに「まとめよう」「生活に生かそう」を設け、学習内容をまとめたり実践したりする活動を設定している。 ○ 編末の「学習のまとめ」では、主体的に学習に取り組む態度に関連した問いとして、学習を振り返ってまとめ、興味・関心をもったことを記述する問いを設けている。 ○ 各編の最初の見開きには、キャラクターのふきだしで、「あなたが知りたいこと、できるようになりたいことは何かな。」として、知りたい項目のチェック欄を設けている。 ○ 巻末の「家庭分野の学習を終えて」に、2ページにわたり、今後の生活や学習につなげるためのふり返りを掲載している。また、「やってみよう」で未来の自分へ手紙を記述する欄を設けている。	○ タイトル、学習の目標、キーワード、導入課題、本文の順に展開し、節ごとに「ふり返る」で、自己評価とまとめをの記述欄を設けている。 ○ 章末または編末の「学習のふり返り」では、主体的に学習に取り組む態度に関連した問いとして、学習を振り返ってまとめ、興味・関心をもったことを記述する問いを設けている。 ○ 各編の最初の見開きには、自分の普段の家庭生活について振り返る「自立度チェック」を設けている。 ○ 巻末の「これまでの家庭分野の学習をふり返ろう」に、各編についての振り返りと、それを受けてこれまでの学びをどのように生活に役立てていくか記述する欄を設けている。	○ タイトル、学習の目標、導入課題、本文の順に展開している。 ○ 編末の「学習のまとめ」では、主体的に学習に取り組む態度に関連した問いとして、イラストや写真、図から具体的な場面を想定して考える問いを設けている。 ○ 各編の最初の見開きには、「自分の興味・関心を大切に」を掲載している。

観 点	視 点	発行者		
		東京書籍	教育図書	開隆堂出版
観 点 4	実践的・体験的な学習に関する内容	○ 巻頭の「Warm up」に、実習時の安全に関する資料を掲載している。 ○ 幼児と触れ合う活動に関する実習例を3例、まとめ方の例を2例掲載している。また、2ページにわたり、幼児の起床から就寝までの生活の様子について、家庭と施設での生活に分けて写真を掲載している。 ○ 幼児の生活と家族および食生活の学習において、調理実習例を51例掲載している。 ○ 調理手順の中に、1人分の材料と分量、2人分の材料の写真と材料の働き、完成写真を示している。また、アレルギー物質を含む食材にはマークを付している。 ○ 調理手順の中に「ポイント」として、調理のポイントを解説している。 ○ 調理例とともに、組み合わせ例とその調理手順、組み合わせた場合の手順例および配膳例を示している。 ○ 布を用いた製作について、実習例を14例掲載している。	○ 巻頭のガイダンスに、実習時の安全に関する資料を掲載している。 ○ 幼児と触れ合う活動に関する実践例を3例、まとめ方の例を2例掲載している。 ○ 幼児の生活と家族および食生活の学習において、調理実習例を53例掲載している。 ○ 調理手順の中に、1人分の材料と分量および完成写真、調理用具を示している。また、アレルギー物質を含む食材には赤の下線を付している。 ○ 調理手順の中に「Q」と「A」として、調理のポイントを解説し、「どうしてこうなったのかな？」として失敗した調理例の写真をもとにポイントを確認する場面を設けている。 ○ 調理例とともに、アレンジ例、組み合わせの例を示している。 ○ 災害時の食生活について、ポリ袋を使用したご飯の炊き方を掲載している。 ○ 布を用いた製作について、実習例を9例掲載している。	○ 巻頭のガイダンスに、実習時の安全に関する資料を掲載している。 ○ 幼児と触れ合う活動に関する実践例を5例、まとめ方の例を2例掲載している。また、2ページにわたり、幼稚園の鳥瞰図（イラスト）を幼稚園での幼児の生活の様子がわかる写真と共に掲載している。 ○ 食生活の学習において、調理実習例を51例掲載している。 ○ 調理手順の中に、1人分の材料と分量および完成写真、調理用具を示している。また、アレルギー物質を含む食材は黄色の網掛けで示している。 ○ 調理手順中に複数の「Q」を示し、調理手順の下部に「調理方法Q&A」としてまとめ、「なぜ～？」と考えさせる示し方で調理のポイントを解説している。 ○ 調理例とともに、組み合わせ例とその調理手順、組み合わせた場合の手順例および配膳例を示している。 ○ 災害時の食生活について、ポリ袋を使用したカレーうどんの作り方を掲載している。 ○ 視覚的、科学的に捉えて実感を伴って学習できるように、「発展」として栄養素を調べる実験例を掲載している。 ○ 布を用いた製作について、実習例を11例掲載している。

観 点	視 点	発行者		
		東京書籍	教育図書	開隆堂出版
観 点 4	⑦ 題 材 や 資 料 等 の 配 列 ・ 分 量	○ ガイダンス（A家族・家庭生活）→ B食生活・衣生活・住生活 → C消費生活・環境 → A家族・家庭生活 → 生活の課題と実践 の順で配列している。	○ ガイダンス → A家族・家庭生活 → B食生活・衣生活・住生活 → C消費生活・環境 → 生活の課題と実践 の順で配列している。	○ ガイダンス → A家族・家庭生活 → B食生活・衣生活・住生活 → C消費生活・環境 → 生活の課題と実践 の順で配列している。
		○ 災害に備えることを目的とする内容には「防災」マークを付し、A家族・家庭生活、B衣生活・住生活、巻末において合計12ページで掲載している。	○ 災害に備えることを目的とする内容には「防災」マークを付し、B食生活・衣生活・住生活において合計9ページで掲載している。	○ 災害に備えることを目的とする内容には「防災」マークを付し、B食生活・衣生活・住生活、巻末において合計14ページで掲載している。
		○ 「災害に備える」として、2ページにわたり、防災に関する特集を掲載している。		○ 「わたしたちの防災～防災があたりまえの生活に～」として、8ページにわたり、防災に関する特集を掲載している。
		○ 「プロに聞く！」で、学習内容に関連する職業に就いているプロからのメッセージを17個掲載している。	○ 「センパイに聞こう！」および「メッセージ」で、学習内容に関連する人のインタビューとメッセージを合計11個掲載している。	○ 「先輩からのエール」で、学習内容に関連する職業に就いている人からのメッセージを17個掲載している。
		○ 発展的内容については、「発展」マークを付し、関連する内容ごとに掲載している。	○ 発展的内容については、「発展」マークを付し、関連する内容ごとに掲載している。	○ 発展的な学習については、「発展」マークを付し、関連する内容の最後にまとめて掲載している。
		○ 参考となる内容や資料・解説は「資料」マークを付して掲載している。	○ 参考となる内容や資料・解説は「資料」「参考」マークを付して掲載している。	○ 参考となる内容や資料・解説は「参考マーク」を付して掲載している。
		○ 参考となる内容や資料・解説は「資料」マークを付して掲載している。		○ 実際の中学生の取り組みや地域の特色的な取り組みの紹介には「取り組み」のマークを付し、全内容において掲載している。
		○ 広島に関する記載が4カ所ある。 ・ 「広島県 広島市産の野菜」文字と写真 ・ 「広島かき（広島県）」文字と写真 ・ 「カキの土手鍋〔広島県〕」文字と写真 ・ 「備後緋（広島県）」文字と写真	○ 広島に関する記載が4カ所ある。 ・ 「かき（広島県、宮城県など）」文字 ・ 「広島県 かき料理」文字と写真 ・ 「広島県 竹原格子」説明と写真 ・ 「土砂災害の被害（広島県）」説明と写真	○ 広島に関する記載が1カ所ある。 ・ 「牡蠣の土手鍋 広島県」文字と写真

観 点	視 点	発行者		
		東京書籍	教育図書	開隆堂出版
観 点 5 内 容 の 表 現 ・ 表 記	⑧ 学 習 技 術 分 野 の 関 連 教 科 、 示 し 小 学 校 の	○ 1編のガイダンスにおいて、学習内容ごとに小学校と中学校での関連を示している。 ○ 各編の最初のページには、学習内容とともに小学校での学びを示している。 ○ 小学校で学んだ内容と関連する内容のものには「リンクマーク」を付している。 ○ 中学校の各教科等の学習や技術分野と関連については「リンクマーク」を付し、教科名、題材概要を示している。	○ 巻頭のガイダンスにおいて、学習内容ごとに小学校と中学校での関連を示している。 ○ 各編の最初のページには、学習内容とともに「関連」マークで小学校での学びを示している。 ○ 小学校で学んだ内容と関連する内容のものには「関連」マークを付している。 ○ 中学校の各教科等の学習や技術分野との関連については「関連」マークを付し、教科名、題材概要を示している。	○ 巻頭のガイダンスにおいて、中学校の学習内容を空間軸からとらえ、小学校と同様に3つの分野であると示している。 ○ 各編の最初のページには、学習する内容とともに小学校での学びを示している。 ○ 小学校で学んだ内容と関連する内容のものには「小学校」マークを付している。 ○ 中学校の各教科の学習や技術分野との関連については「他教科・他分野」マークを右ページ上部に示し、教科名、題材概要を示している。
	⑨ 真 ・ 本 文 の 記 述 ・ 内 容 と 適 切 な 関 連 方 法 付 け が な さ れ た イ ラ ス ト ・ 写	○ 6つの基礎食品群の食品例を写真と食品名で示している。1群25例、2群13例、3群23例、4群35例、5群17例、6群10例、合計123例掲載している。 ○ 食品群別摂取量のめやすの例を実物大の写真とともに38例示している。また、それらを使用した1日分の食事の例と配膳図を写真で示している。 ○ 野菜の切り方を写真とともに9種類示している。また、大根の輪切りから更に他の切り方をする方法を写真とともに掲載している。 ○ 間取りを用いた空間の使い方の工夫では、戸建住宅と集合住宅の2例を掲載している。 ○ 学習に関連する動画やシュミレーションなどのウェブコンテンツが「Dマーク」で示され、二次元コードが右ページ上部に示されている。それを読みとることで、学習内容と関連する動画や資料などがまとめられたウェブコンテンツにアクセスすることができる。	○ 6つの基礎食品群の食品例を写真と食品名および食品の概量で示している。1群33例、2群11例、3群20例、4群37例、5群20例、6群10例、合計131例掲載している。 ○ 食品群別摂取量のめやすの例を実物大の写真とともに36例示している。また、それらを使用した1日分の食事の例と配膳図を写真で示している。 ○ 野菜の切り方を写真とともに13種類示している。また、切った後の野菜の実物大写真を掲載している。 ○ 間取りを用いた空間の使い方の工夫では、集合住宅の1例を掲載している。 ○ 学習に関連する動画やホームページを参照できる二次元コードが、ページ下部に示されている。それを読み取ることで、学習内容と関連する動画や資料などがまとめられたウェブコンテンツにアクセスすることができる。	○ 「子どもの成長」として、見開きで、0歳、6歳、15歳の手形と足形を掲載している。 ○ 「体に入った栄養素のゆくえ」では、見開き2ページを使い、消化吸収される仕組みを、大きなイラストで示している。 ○ 6つの基礎食品群の食品例を写真で示している。1群12例、2群10例、3群11例、4群13例、5群8例、6群11例、合計65例掲載している。 ○ 食品群別摂取量のめやすの例を実物大の写真とともに45例示している。また、それらを使用した1日分の食事の例と配膳図を写真で示している。 ○ 野菜の切り方を写真とともに13種類示している。また、1本のきゅうりから7種類とにんじんを使用して4種類の切り方を示している。 ○ 間取りを用いた空間の使い方の工夫では、住宅の1例を掲載している。 ○ 学習内容を補足する資料や動画が参照できる内容には「QR」マークが付しており、二次元コードが右ページ上部に示されており、それを読みとることで、「QR」マークに対応した内容に関する動画や資料などが掲載されたウェブコンテンツに直接アクセスすることができる。

令和6年7月25日

広島市教科用図書採択審議会会長 様

広島市教科用図書採択審議会調査員

教科 [外国語科] 種 目 [英 語]

代表者

檜 山 枝 美

令和7年度使用広島市立中学校用教科用図書の調査・研究について（報告）

このことについて、別紙のとおり調査・研究結果をまとめましたので、報告します。

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

- 1 教 科 [外国語] 種 目 [英語]
- 2 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、国際平和文化都市であり、外国から多くの人々が平和記念公園や原爆ドーム等を訪れる地域である。令和 3 年度に改定した広島市教育大綱に示す「自分の言葉で世界に平和を語れるなど、グローバル化に対応した人材の育成」を目指し、英語授業の充実、英語を使う場の多様化、学習支援の 3 つの柱において実践研究を進めるとともに、全中学校区に設置している小・中連携教育研究会の「英語研究チーム」において、円滑な接続ができるよう協議等を行いながら、小・中 7 年間を通して児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成を図っている。
- 令和 5 年度全国学力・学習状況調査の結果から、本市の生徒の実態として、「読むこと」については、短い文章の中で、情報を正確に読み取ることが定着している一方、「聞くこと」については、文における基本的なイントネーションや区切りなどの音声の特徴を踏まえて、情報を正確に聞き取ること課題がある。また、「話すこと」及び「書くこと」については、自分の考えとその理由などを適切に表現している生徒の割合が低く、語順の誤りなど、正確に表現することにも課題がある。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜知識及び技能の習得＞	① 英語の特徴やきまりに関することを理解できるようにするための工夫 ② 英語の特徴やきまりを実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにするための工夫
＜思考力、判断力、表現力等の育成＞	③ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた複数の技能を統合した言語活動の工夫 ④ 情報を整理しながら考えなどを形成し、論理的に表現させるための工夫
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	⑤ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ⑥ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑦ 単元・題材や資料等の配列・分量
＜内容の表現・表記＞	⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑨ 本文の記述や内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方や巻末資料の工夫

令和7年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教科 [外国語科] 種 目 [英語]
2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	視点	発行者					
		東京書籍	開隆堂出版	三省堂	教育出版	光村図書出版	新興出版社啓林館
観点1 知識及び技能の習得	① 英語の特徴やきまりに関することを理解できるようにするための工夫	○ 新出単語は、第1学年ではアクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。 ○ 基本文は、各学年、各単元の各Partの本文の後に、「Key Sentences」として示している。 ○ 英語の語順について、「Grammar for Communication」に、文の構成要素を色と形で分けて示している。また、巻末付録として「語順カード」を収録している。 ○ 基本文のまとめは、各学年の資料編の「Key Sentences」に英語と日本語で示している。また、第3学年は、第1・2学年の基本文も英語で示している。 ○ 音声に関わる事項は、第1学年の「Sounds and Letters」で読み書きのコツとともに示している。また、第1・2学年の資料編の「英語の音と文字」に掲載している。	○ 新出単語は、全学年ともアクセントとともに示している。 ○ 基本文は、各学年、各単元の「Scenes for Basic Dialogs」に2コマ漫画の会話文内に示すとともに、各Partの本文の後に、「Today's Expression」として示している。 ○ 英語の語順について、「Get Ready」に、文の構成要素を色で分けて示している。 ○ 音声に関わる事項は、該当ページ下部の「発音」に発音記号とともに示している。また、各学年の巻末資料の「英語の音声」や「英語のつづり字と発音」に掲載している。	○ 新出単語は、第1学年ではアクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。 ○ 基本文は、各学年、各単元の各PartのScene1に「Check」として示している。 ○ 英語の語順について、「Language Focus 1」に示している。 ○ 基本文のまとめは、各学年の資料の「基本文のまとめ」に英語と日本語で示している。また、第3学年は、第1・2学年の基本文も英語で示している。 ○ 音声に関わる事項は、該当ページ下部に「音符」を付して示している。また、第1・2学年の巻末資料の「Sounds」に掲載している。	○ 新出単語は、第1学年では、アクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。 ○ 基本文は、各学年、各単元の各Partの本文の後に、「Key Sentences」として、示している。 ○ 英語の語順について、「Grammar」に、文の構成要素を色で分けて示している。 ○ 基本文のまとめは、各学年の巻末付録の「重要構文復習リスト」に、英語と日本語で示している。また、第2・3学年は、それぞれ前学年までの基本文も英語と日本語で示している。 ○ 音声に関わる事項は、該当ページ下部の「音のつながり」、「イントネーション」、「発音」等に、「オーディオ」マークを付して示している。また、各学年の巻末資料の「つづりと発音」に掲載している。	○ 新出単語は、第1学年では、アクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。 ○ 基本文は、第1学年のLesson 3までは、漫画の会話文の後に、以降は、各学年、各単元の各Partの本文の後に、「基本文」として、示している。 ○ 英語の語順について、巻末付録の「英語のしくみ」に、文の構成要素を色と形で分けて示している。 ○ 基本文のまとめは、各学年の巻末付録の「基本文のまとめ」に、英語で示している。 ○ 音声に関わる事項は、該当ページ下部の「発音」に、「オーディオ」マークを付して示している。また、第2・3学年の巻末付録の「音声のまとめ」に掲載している。	○ 新出単語は、第1学年では、アクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。 ○ 基本文は、各学年、各単元の各Partの本文の後に、「Target」として、示している。 ○ 基本文のまとめは、各学年の巻末付録の「基本文のまとめ」に、英語と日本語で示している。また、第3学年は、第1・2学年の基本文を英語で示している。 ○ 音声に関わる事項は、該当ページ下部に「オーディオ」や「耳」マークを付して示している。また、第1学年の巻末付録の「発音とつづり」に掲載している。
	② おい 英語の特徴やきまりを実際のためのコミュニケーションに	○ 文、文構造及び文法事項のまとめのページである「Grammar for Communication」において、学習した知識を活用するための練習として、「Let's Try」に「使ってみよう」という日本語の指示をして、各学年4～9回設定している。 ○ 各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、各学年、「Real Life English」や「Let's Read」等で、「聞く」、「読む」、「話す(やり取り)」、「書く」の4領域を扱っている。 ○ 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Real Life English」で、各学年1～3回設定するとともに、第1学年では、「Sounds and Letters」を5回設定している。	○ 文、文構造及び文法事項のまとめのページである「英語早わかり」において、「発音クリニック」を3～5回設定している。 ○ 各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、各学年、「Step」や「Reading」等で、「聞く」、「読む」、「話す(やり取り・発表)」、「書く」の5領域を扱っている。 ○ 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Power-Up」で、各学年2～4回設定している。	○ 文、文構造及び文法事項のまとめのページである「Language Focus」において、学習した知識を活用するための練習として、「Try」に「～しよう」という日本語の指示をして、各学年5～8回設定している。 ○ 各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、各学年、「Take Action!」や「Reading Lesson」等で、「聞く」、「読む」、「話す(やり取り)」の3領域を扱っている。 ○ 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Take Action!」で、各学年5回設定している。	○ 文、文構造及び文法事項のまとめのページである「Grammar」において、学習した知識を活用するための練習として、「Let's Use」を各学年5～9回設定している。 ○ 各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、各学年、「Tips for Speaking / Listening / Reading / Writing」や「Reading」等で、「聞く」、「読む」、「話す(やり取り・発表)」、「書く」の5領域を扱っており、コツとともに示している。 ○ 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Tips for Listening」で、各学年2～3回設定している。	○ 文、文構造及び文法事項のまとめのページである「Active Grammar」において、学習した知識を活用するための練習として、「About You」に「～しよう」という日本語の指示をして、各学年3～8回設定している。 ○ 各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、各学年、「World Tour」や「Let's Read (More)」等で、「聞く」、「読む」、「話す(やり取り・発表)」の4領域を扱っている。 ○ 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、第1学年では「Sounds and Letters」で、第2・3学年では「Daily Life」で、各学年2～3回設定している。	○ 文、文構造及び文法事項のまとめのページである「Focus on Form」において、学習した知識を活用するための練習として、「Your Turn」に「～しよう」という指示をして、各学年6～12回設定している。 ○ 各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、各学年、「Let's Talk/ Listen / Write / Read」等で、「聞く」、「読む」、「話す(やり取り)」、「書く」の4領域を扱っている。 ○ 「聞く」技能に焦点を当てた活動は、「Let's Listen」で、各学年3～4回設定している。

令和7年度使用中学校用教科用図書調査・研究報告書

1 教科 [外国語科] 種 目 [英語]
2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	視点	発行者					
		東京書籍	開隆堂出版	三省堂	教育出版	光村図書出版	新興出版社啓林館
観点2 思考力、 判断力、 表現力等の育成	③ 言語コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた複数の技能を統合した	○ 既習の知識や技能を統合的に扱って発信に結びつける活動は、「Stage Activity」(年3回)で設定しており、活動の過程に「聞く・書く・話す(発表)」や「聞く・話す(やり取り)・書く・話す(発表)」等、3～5領域を統合した言語活動になっている。 ○ 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「カナダのバンクーバーの生徒に日本の郷土や文化になどについて説明する」や「日本にホームステイに来る留学生に日本の習慣やマナーの紹介しよう」等、様々なテーマを設定している。 【目的や場面、状況の示し方例】 ・「目的・場面・状況」:国際交流の授業で、カナダのバンクーバーの生徒から、ビデオレターが届きました。相手が知りたい情報を確認しましょう。 ・また、デジタルコンテンツの「ビデオレター」にアクセスできる二次元バーコードを付している。 ○ 複数の領域を統合した活動は、第1学年Unit 5以降の「Unit Activity」で、「読む・話す(発表)・書く」等、2～3領域を扱った言語活動にを設定している。	○ 既習の知識や技能を統合的に扱って発信に結びつける活動は、「Our Project」等(年3回)で設定しており、活動の過程に「聞く・話す(やり取り・発表)・書く」や「聞く・読む・話す(やり取り)・書く・話す(発表)」等、4～5領域を統合した言語活動になっている。 ○ 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「パスポートについて知ろう」や「飛行機のアナウンスを聞こう」等、様々なテーマを設定している。 【目的や場面、状況の示し方例】 ・扉:パスポートについて知ろう ○ 複数の領域を統合した活動は、各学年、各単元末の「Action」で、「読む・書く・話す(発表)」等、2～3領域を扱った言語活動を設定している。	○ 既習の知識や技能を統合的に扱って発信に結びつける活動は、「Project」(年3回)で設定しており、活動の過程に「聞く・書く」や「聞く・読む・書く・話す(発表)」等、2～4領域を統合した言語活動になっている。 ○ 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「アメリカに住んでいるマークの友達に おすすめの旅行プランを提案しよう」や「海外からあなたの町へ来る旅行者向けに、町や地域の魅力を伝える動画を作ろう」等、様々なテーマを設定している。 【目的や場面、状況の示し方例】 ・「Setting」:アメリカに住んでいるマークの友だちが、初めて日本に来ることになりました。マークの友だちのプロフィールを読み、おすすめの旅行プランを考えて、それぞれに提案しよう。 ○ 複数の領域を統合した活動は、各学年、各単元末の「Goal Activity」で、「読む・書く・話す(発表)」等、2～3領域を扱った言語活動を設定している。	○ 既習の知識や技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動は、「Project」(年3回)で設定しており、活動の過程に「聞く・書く・話す(発表)」や「聞く・読む・書く・話す(発表・やり取り)」等、3～5領域を統合した言語活動になっている。 ○ 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「魅力的な商品やサービスを考え、表現する」や「オリジナルの標識を考えて、その特徴や意味を表現する」等、様々なテーマを設定している。 【目的や場面、状況の示し方例】 ・「Scene」:生活を便利するために、どんな商品やサービスがあったら良いかを考え、コマーシャルの形で発表することになりました。 ○ 複数の領域を統合した活動は、第1学年Unit 3以降に、各単元末の「Task」で、「読む・書く」等、2～5領域を扱った言語活動を設定している。	○ 既習の知識や技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動は、「You Can Do It!」(年3回)で設定しており、活動の過程に、「聞く・話す(発表)」や「読む・書く」等、2領域を統合した言語活動になっている。 ○ 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「学校生活について意見をまとめよう」や「誰もが楽しめるイベントを提案しよう」等、様々なテーマを設定している。 【目的や場面、状況の示し方例】 ・「目的・場面・状況」:あなたは、海外の中学生たちと「学校生活」をテーマに意見交換をすることになりました。意見交換会に向けて、各国の中学生がウェブサイトで様々な意見を発表しています。グループで取り上げる問題を決めて話し合い、クラスの意見をまとめましょう。 ○ 複数の領域を統合した活動は、各学年、各単元末の「Goal」で、「聞く・話す(やり取り)」等、2領域を扱った言語活動を設定している。	○ 既習の知識や技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動は「Project」(年2～3回)で設定しており、活動の過程に「読む・書く」や「聞く・読む・話す(やり取り・発表)・書く」等、2～5領域を統合した言語活動になっている。 ○ 各活動のテーマは、目的や場面、状況が分かるように、「ALTの先生にインタビューをして、記事にまとめる」や「日本の習慣やマナーを伝えよう」等、様々なテーマを設定している。 【目的や場面、状況の示し方例】 ・「Scene」:ALTのWhite先生にインタビューをして記事にまとめることになりました。 ○ 複数の領域を統合した活動は、第1学年、各単元末の「Tnink & Speak/ Write」で、2学年以降は、「Tnink & Speak/ Write」に加えて「Read/Listen & Think」で、「聞く・書く・話す(発表)」等、2～3領域を扱った言語活動を設定している。
	④ し、情報を整理し表現させる考えなどの工夫形成	○ 各学年に設定されている「Stage Activity」で、情報を整理し考えを形成するための「マッピング」やキーワードをまとめる表を示している。また、デジタルコンテンツの「思考ツール」にアクセスできる二次元コードを付している。 ○ 論理的に表現するための工夫として、各学年の「Real Life English」や「Stage Activity」で「導入/内容/まとめ」などの文構成を内容別に色を分けて示している。また、巻頭の「学び方コーナー」で、「ほとまりのある文章を書きたい」等を掲載している。	○ 各学年で設定されている「Our Project」で、情報を整理し考えを形成するための「マッピング」やキーワードをまとめる表や図を示している。 ○ 論理的に表現するための工夫として、各学年の「Our Project」や単元末の「Action」、「Step」で、「導入/展開/まとめ」などの文構成を示している。	○ 各学年で設定されている「Project」で、情報を整理し考えを形成するためのキーワードをまとめる表や図などを示している。 ○ 論理的に表現するための工夫として、第2・3学年の資料「For Self-study」に「主題/説明・理由」などを掲載している。	○ 各学年で設定されている「Project」で、情報を整理し考えを形成するための「Xチャート」やキーワードをまとめる表など、様々な思考ツールを示している。 ○ 論理的に表現するための工夫として、各学年の「Tips for Writing / Speaking」で、全体の構成を考えて原稿を書くコツとして、「Opening(導入)/Body(展開)/Closing(まとめ)」などの文構成を示している。	○ 各学年で設定されている「You Can Do It!」で、情報を整理し考えを形成するためのキーワードをまとめる表などを示している。また、各学年の裏見返しに「思考の地図」を掲載し、様々な思考ツールを掲載している。 ○ 論理的に表現するための工夫として、各学年の「You Can Do It!」や単元末の「Goal」で、「Topic/ My Opinion/ Reason」などの文構成を示している。また、巻末の「学び方ガイド」で、「スピーキング・ライティングの学び方」等を掲載している。	○ 各学年で設定されている「Project」で、「Xチャート」や「マッピング」、キーワードをまとめる表などを示している。 ○ 論理的に表現するための工夫として、各学年の「Let's Write」や「Project」等で、「Introduction / Body, Reason / Conclusion」などの文構成を内容別に色を分けて示している。また、巻末の「英語の学び方」で、「英文を書くコツ」等を掲載している。

令和7年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教科 [外国語科] 種 目 [英語]
2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	視点	発行者					
		東京書籍	開隆堂出版	三省堂	教育出版	光村図書出版	新興出版社啓林館
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	⑤ 次に興味・関心を持ち、見通しを立てたり、学習を振り返って	○ 「学習をふり返ろう・CAN・DOリスト」を裏見返しに掲載しており、小学校から高等学校含め、前学年、当該学年、次学年の目標を示している。また、Stageを3つに分け、領域別に4段階で到達度を自己評価できるようになっている。 ○ 単元の目標を「GOAL」に「～することができる」の形で、単元の最後の活動である「Unit Activity」を「～しよう」の形で各単元の扉にそれぞれ日本語で並べて示している。また、単元の終末に、目標に対応した「CHECK」を設定し、4段階で達成度を確認できるようになっている。 【単元目標等の示し方例】 ・「GOAL」:過去の出来事について説明したり、たずねたりすることができる。 ・「Unit Activity」:「冬休みの出来事を伝え合おう」	○ 「CAN・DOリスト」を巻末資料に掲載しており、単元毎に分け、領域別に3段階で到達度を自己評価できるようになっている。 ○ 単元の目標を「Goals」に、単元の最後の活動である「Action」に、「～する」の形で、各単元の扉に日本語で示している。また、単元の終末に、「Action」に対応した「できたかな? GOAL」を設定し、3段階で達成度を確認できるようになっている。 【単元目標等の示し方例】 ・「Scenes」:過去にしたことを伝える。 ・「Part 1,2,3」、「Review & Retell」:美樹のフィンランド旅行の様子を理解し、伝える。 ・「Action」:自分がしたことを伝える。	○ 「What Can I Do?」を資料に掲載しており、中学校3年間での到達目標を領域別に示している。また、該当学年の目標毎に分け、領域別に4段階で到達度を自己評価できるようになっている。 ○ 単元の最後の活動を「Goal Activity」に「～しよう」の形で、各単元の扉に日本語で示している。また、単元の終末に、「ふり返り」を設定している。 【単元目標等の示し方例】 ・「Goal Activity」:写真を描写し、詳しい説明を付け加えて、日本の学校生活や行事を紹介するメールを書く。	○ 「CAN・DO 自己チェックリスト」を裏見返しに掲載しており、前学年、当該学年、次学年の到達目標を示している。また、該当学年の目標毎に分け、領域別に4段階で到達度を自己評価できるようになっている。 ○ 単元の目標を「内容理解」と「活動」に分けて示している。「内容理解」は「～を理解する」の形で、「活動」は「～することができる」の形で、各単元の扉に日本語で示している。また、単元の終末に、各目標に対応した「ふり返り」を設定し、4段階で達成度を自己評価できるようになっている。 【単元目標等の示し方例】 ・「内容理解」:生徒たちが週末にしたことを理解する。 ・「活動」:過去を表す形を使って表現することができる。	○ 「CAN・DO List」を巻末付録に掲載しており、到達目標を各学年においてレベルが上がるように示している。また、領域別に4段階で到達度を自己評価できるようになっている。 ○ 単元の目標とそれに関わる技能を「～することができる」の形で、各単元の扉に日本語で示している。また、単元の終末に、目標に対応した「ふり返り」を設定している。 【単元目標等の示し方例】 ・「Read」:出来事を伝えるはがきを読み、おおまかな内容を捉えることができる。 ・「Write」:出来事や気持ちが伝わるように、はがきを書くことができる。	○ 「CAN・DO List」を裏見返しに掲載しており、各学年での到達目標を示している。また、領域別に4段階で到達度を自己評価できるようになっている。 ○ 単元の目標を「INPUT」と「OUTPUT」に分けて、「～することができる」の形で、各単元の扉に日本語で示している。また、単元の終末に、各目標に対応した「CHECK」を設定し、4段階で達成度を確認できるようになっている。 【単元目標等の示し方例】 ・「Input」:冬休みの思い出を聞いて、話の大まかな内容を捉えることができる。 ・「Output」:冬休みの思い出について、まとまりのある内容を話すことができる。
	⑥ 「うけ」主体のエンタメを外国語を用いて態度を二	○ 各学年6～7回の「Real Life English」に、「旅行先の病院で症状を伝える」、「修学旅行の班行動について話し合う」などの場面を設定し、自己表現活動を設けている。 ○ 第1学年の資料編に、授業中の指示などのクラスルームイングリッシュを12例示している。 ○ 第3学年のLet's read 1「A mother's lullaby」で、原爆やオバマ大統領の広島訪問について扱っている。	○ 各学年4～6回の「Power Up」に、「レストランで食事の注文をする」、「ウェブサイトで学校を紹介する」などの場面を設定し、自己表現活動を設けている。 ○ 第2学年のPROGRAM 8「A Hope for Lasting Peace」で、原爆の子の像や佐々木禎子さんについて扱っている。	○ 各学年11～12回の「Take Action!」に、「買い物をする」、「電話で友達をコンサートに誘う」などの場面を設定し、自己表現活動を設けている。 ○ 第1学年の資料に、授業中の指示などのクラスルームイングリッシュを35例示している。 ○ 第3学年のLesson 3「Cranes for Peace」で、原爆ドーム、原爆の子の像や佐々木禎子さんについて扱っている。	○ 各学年2～3回の「Useful Expressions」に、「飲食店で注文する」、「手伝いを申し出る」などの場面を設定し、自己表現活動を設けている。 ○ 第1学年の巻頭に、授業中の指示や生徒が使える表現として、クラスルームイングリッシュを20例示している。 ○ 第3学年のReading 2「My Prayer for Peace」で、広島に住んでいる中学生のスピーチとして、平和について扱っている。	○ 各学年4～7回の「Daily Life」に、「飲食店で注文する」、「計画を立てる」などの場面を設定し、自己表現活動を設けている。 ○ 第3学年のUnit3「Lessons From Hiroshima」で、ピースボランティアについて扱っている。	○ 各学年5～8回の「Let's Talk / Write」に、「レストランで注文する」、「中学校生活で打ち込んできたことを書く」などの場面を設定し、自己表現活動を設けている。 ○ 第1学年のUnit1の後に、授業中の指示として、クラスルームイングリッシュを、12例示している。 ○ 第3学年のUnit2「Passing Down Memories」で、被爆体験の語り部とその伝承者について扱っている。

令和7年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

- 1 教科 [外国語科] 種 目 [英語]
- 2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	視点	発行者					
		東京書籍	開隆堂出版	三省堂	教育出版	光村図書出版	新興出版社啓林館
観点4 内容の構成・配列・分量	⑦ 単元・題材や資料等の配列・分量	○ 第1学年の「Unit 0～4」に、小学校で習った表現について、「聞く・読む・話す(やり取り)・書く」活動を扱っている。 ○ 各単元は、主に以下のような構成になっている。 扉、Preview - Part - Read and Think - Unit Activity ○ 過去形は、第1学年 Unit 9(全10)で初出である。 ○ 受け身は、第2学年 Unit 7(全7)で初出である。 ○ 現在完了形は、第3学年 Unit 1(全6)で初出であり、現在完了進行形は、第3学年 Unit 2(全6)で初出である。 ○ 仮定法は、第3学年 Unit 6(全6)で初出である。 ○ 第2・3学年の巻頭「Unit 0」に、前学年の復習ページを設定している。また、「NEW HORIZON用例辞典」にアクセスできる二次元コードを付している。 ○ 第1学年 サイズ A4判 重さ 約425g 160ページ 第2学年 サイズ A4判 重さ 約390g 151ページ 第3学年 サイズ A4判 重さ 約390g 151ページ	○ 第1学年の巻頭「Get Ready」に、小学校で習った表現について「聞く・読む・話す(やり取り)・書く」活動を扱っている。 ○ 各単元は、主に以下のような構成になっている。 - 扉 - Scenes - Tuning in - Part - Review & Retell - Action ○ 過去形は、第1学年 PROGRAM 9(全10)で初出である。 ○ 受け身は、第2学年 PROGRAM 8(全8)で初出である。 ○ 現在完了形及び現在完了進行形は、第3学年 PROGRAM 2(全7)で初出である。 ○ 仮定法は、第3学年 PROGRAM 7(全7)で初出である。 ○ 第1学年 サイズ A4判 重さ 約415g 172ページ 第2学年 サイズ A4判 重さ 約370g 164ページ 第3学年 サイズ A4判 重さ 約370g 164ページ	○ 第1学年の巻頭「Starter」に、小学校で習った表現について「聞く・話す(やり取り)・書く」活動を扱っている。 ○ 各単元は、主に以下のような構成になっている。 - 扉 - Part - Small Talk Plus+ - Part - Goal Activity ○ 過去形は、第1学年 Lesson 8(全9)で初出である。 ○ 受け身は、第3学年 Lesson 3(全8)で初出である。 ○ 現在完了形は、第2学年 Lesson 8(全8)で初出であり、現在完了進行形は、第3学年 Lesson 2(全8)で初出である。 ○ 仮定法は、第3学年 Lesson 7(全8)で初出である。 ○ 第2・3学年の巻頭「Lesson 1」に、前学年の復習ページを設定している。 ○ 第1学年 サイズ A4判 重さ 約425g 183ページ 第2学年 サイズ A4判 重さ 約395g 167ページ 第3学年 サイズ A4判 重さ 約395g 167ページ	○ 第1学年の巻頭「Spring Board」に、小学校で習った表現について「聞く・書く」活動を扱っている。 ○ 各単元は、主に以下のような構成となっている。 - 扉 - Part - Task ○ 過去形は、第1学年 Lesson 3(全9)で初出である。 ○ 受け身は、第2学年 Lesson 7(全9)で初出である。 ○ 現在完了形は、第3学年 Lesson 1(全7)で初出であり、現在完了進行形は、第3学年 Lesson 2(全7)で初出である。 ○ 仮定法は、第3学年 Lesson 5(全7)で初出である。 ○ 第2・3学年の「Review Lesson Part」に、前学年の復習ページを設定している。 ○ 第1学年 サイズ AB判 重さ 約365g 176ページ 第2学年 サイズ AB判 重さ 約365g 176ページ 第3学年 サイズ AB判 重さ 約370g 176ページ	○ 第1学年の巻頭「Let's Be Friends」に、小学校で習った表現について「聞く・話す(やり取り)・話す(発表)・書く」活動を扱っている。 ○ 各単元は、主に以下のような構成となっている。 - 扉 - Part - Goal ○ 過去形は、第1学年 Unit 7(全8)で初出である。 ○ 受け身は、第2学年 Unit 8(全8)で初出である。 ○ 現在完了形は、第3学年 Unit 2(全8)で初出であり、現在完了進行形は、第3学年 Unit 3(全8)で初出である。 ○ 仮定法は、第3学年 Unit 7(全8)で初出である。 ○ 第2・3学年の「Play Back the Story」に、前学年の復習ページを設定している。 ○ 第1学年 サイズ AB判 重さ 約400g 175ページ 第2学年 サイズ AB判 重さ 約395g 175ページ 第3学年 サイズ AB判 重さ 約395g 175ページ	○ 第1学年の巻頭「Let's Start」に、小学校で習った表現について「聞く・書く」活動を扱っている。 ○ 各単元は、主に以下のような構成となっている。 - 扉 - Part - Think & Speak/ Write - Read/Listen & Think (2学年以降) ○ 過去形は、第1学年 Unit 9(全10)で初出である。 ○ 受け身は、第2学年 Unit 8(全8)で初出である。 ○ 現在完了形は、第3学年 Unit 1(全6)で初出であり、現在完了進行形は、第3学年 Unit 2(全6)で初出である。 ○ 仮定法は、第3学年 Unit 6(全6)で初出である。 ○ 第1学年 サイズ A4判 重さ 約390g 159ページ 第2学年 サイズ A4判 重さ 約400g 163ページ 第3学年 サイズ A4判 重さ 約365g 147ページ

令和7年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

- 1 教科 [外国語科] 種 目 [英語]
- 2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	視点	発行者					
		東京書籍	開隆堂出版	三省堂	教育出版	光村図書出版	新興出版社啓林館
観点5 内容の表現・表記	⑧ 他教科や日常生活との関連の示し方	○ 他教科との関連において、本文に、「世界遺産の価値」等を題材として扱うとともに、特設ページの「Learning ... in English」に、「世界に広がる日本語」や「食物連鎖」等を関連する教科名を付して題材として扱っている。また、第3学年の資料編の「Unit Activity Plus」に「エシカルな商品をPRしよう」等を掲載している。 ○ 題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「国際支援・水問題」や「SDGsの目標について」などを扱うとともに、第3学年の表見返しに、SDGsのロゴマークを付している。 ○ 各学年の特設ページ「Real Life English」に、「電車の乗りかえ」や「町中での手助け」など、日常生活の場面を扱っている。	○ 他教科との関連において、本文に、「ユニークな動物」等を題材として扱うとともに、特設ページの「Coffee Break」に、「色を使った英語表現」や「世界自然遺産」等を題材として扱っている。 ○ 題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「レストランにSDGsの取り組みを提案しよう」や「Malala's Voice for the Future」などを扱うとともに、目次や各単元の扉に、SDGsのロゴマークを付している。 ○ 各学年の特設ページ「Power-Up」に、「飛行機のアナウンス」や「ウェブサイトで学校紹介」など、日常生活の場面を扱っている。	○ 他教科との関連において、本文に、「デザイン之力」等を題材として扱っている。 ○ 題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「安全できれいな水」や「平等ってなに？」などを扱っている。 ○ 各学年の「Take Action!」に、「オンラインショッピング」や「電車の運行情報」など、日常生活の場面を扱っている。	○ 他教科との関連において、本文に、「太陽光エネルギー等の再生可能エネルギー」や「宇宙旅行」等を題材として扱っている。 ○ 題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「SDGsやリサイクルについて」や「ユニバーサルデザイン」などを扱うとともに、各学年の目次に、SDGsのロゴマークを付している。 ○ 各学年の特設ページ「Useful Expressions」に、「買い物」や「交通機関の乗り換え案内」など、日常生活の場面を扱っている。	○ 他教科との関連において、本文に、「バーチャル・サファリ・ツアー」等を題材として扱うとともに、特設ページの「World Tour」に、「世界の中学生」や「世界のワンダーについて知ろう」等を題材として扱っている。 ○ 題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「盲導犬」や「持続可能な社会に向けリポートしよう」などを扱っている。 ○ 各学年の特設ページ「Daily Life」に、「電車の乗り換え」や「オンラインツアー」など、日常生活の場面を扱っている。	○ 他教科との関連において、本文に、「世界遺産」や「気候変動への対策」を題材として扱っている。 ○ 題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「海洋プラスチックごみ」や「動物との共存」などを扱っている。 ○ 各学年の特設ページ「Let's talk」に、「ショッピングモールで」や「買い物のトラブル」など、日常生活の場面を扱っている。
	⑨ 本文の記述方法や内容と写真・イラストとの関連づけ	○ 各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめるようなイラストや写真が掲載されている。 ○ 各学年、各単元の扉やパートごとに、「語句クイズ」、各単元の「Previewアニメ」、学び方コーナー（解説動画）等のデジタルコンテンツへアクセスできる二次元コードを付している。 ○ 「資料編」として、「Word List」等、各学年7～10の資料を掲載している。また、「付録」として、表現活動の参考となる「語順カード」や「Small Talk 即興で伝え合おう」を収録している。	○ 各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめるようなイラストや写真が掲載されている。 ○ 各学年、各単元の扉やパートごとに、音声などへアクセスできる二次元コードを付している。 ○ 「巻末資料」として、「単語と熟語」等、各学年6～12の資料を掲載している。その中で、表現活動の参考となる「Word Web」や「Small Talk 表現集」を収録している。	○ 各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめるようなイラストや写真が掲載されている。 ○ 各学年、各単元のパートごとに、「発音チェックをしよう」や「文法解説動画で確認しよう」等の音声や動画へアクセスできる二次元コードを付している。 ○ 「資料」として、「単語の意味」等、各学年13～14の資料を掲載している。その中で、表現活動の参考となる「いろいろな単語」や「Tips for Small Talk」を収録している。	○ 各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめるようなイラストや写真が掲載されている。 ○ 各学年、各単元の扉やパートごとに、「学びリンク(ウェブサイト)」として、学習の参考となる音声や動画などの資料へアクセスできる二次元コードを付している。 ○ 「巻末資料」として、「Word List」等、各学年8～9の資料が掲載されている。その中で、表現活動の参考となる「Think & Try活動例」や「分野別用語集」を収録している。	○ 各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめるようなイラストや写真が掲載されている。 ○ 各学年、各単元の扉やパートごとに、学習に役立つ資料へアクセスできる二次元コードを付している。 ○ 「巻末付録」として、「Word List」等、各学年8～9の資料が収録している。その中で、表現活動の参考となる「Active Words」や「Let's Talk」を収録している。	○ 各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめるようなイラストや写真が掲載されている。 ○ 各学年、各単元の扉やパートごとに、学習の参考になる音声や情報、資料へアクセスできる二次元コードを付している。 ○ 「巻末付録」として、「Word List」等、各学年7～9の資料が収録している。その中で、表現活動の参考となる「Word Box」を収録している。

令和6年7月25日

広島市教科用図書採択審議会会長 様

広島市教科用図書採択審議会調査員

教科 [道 徳] 種 目 [道 徳]

代表者 松岡 令子

令和7年度使用広島市立中学校用教科用図書の調査・研究について（報告）

このことについて、別紙のとおり調査・研究結果をまとめましたので、報告します。

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教 科 [道 徳] 種 目 [道 徳]

2 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、「国際平和文化都市」を都市像とし、被爆者の願いや世界恒久平和を願う市民の心を基底として、人間の尊厳や生命の尊さを自覚し、自他共に大切にし、正義感や公正さを重んじ、人と自然の共生する平和な社会を築いていく心を育て、自立して行動する力を養うことを教育の原点とし、広島の子どもたちが、「心身ともにたくましく思いやりのある人」として、その可能性を最大限に発揮する教育を推進している。道徳教育においては、道徳科に関する授業改善指定校を中心として、指導方法の工夫・改善を推進している。また、道徳教育推進事業として「みんなで語ろう！心の参観日」や、「広島グッドチャレンジ賞」を行うなど、学校教育全体を通じた道徳教育のより一層の充実を図る取組を進めてきた。
- 本市の生徒は、全国学力・学習状況調査の質問紙調査や、学習意識等調査から、自尊意識・規範意識等が全国平均よりも高く、自分を大切にする気持ちや、規則を守ろうとする態度が身に付いていることがうかがえる。一方で、地域や社会のために何かしたいと考えることや、社会の出来事や事件などに関心を持つことについては、平均を下回り、過去数年間では減少傾向が見られる。また、平成30年12月に、「広島市いじめ防止対策推進審議会」の答申が出されたことを踏まえ、各学校において、「いじめ見逃し0（ゼロ）」を目指し取組を進める中で、いじめの認知件数は、増加後に横ばいで推移している。引き続き、いじめの未然防止に向けた取組を推進するとともに、生徒の命の大切さや思いやりなどの豊かな心をはぐくみ、当事者として道徳的な課題に主体的に対処することのできる、実効性ある力の育成に取り組むことが必要である。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<知識及び技能の習得>	① 道徳科の学び方の示し方 ② 主題名等の示し方
<思考力、判断力、表現力等の育成>	③ 考え、議論するための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫 ⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫 ⑥ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑦ 取り扱う内容項目の重点化の傾向 ⑧ いじめの問題や、今日的、現代的な課題等を踏まえた内容の示し方
<内容の表現・表記>	⑨ 他教科との関連の示し方 ⑩ 教材の内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

令和 7 年度使用中学校用教科用図書の調査・研究報告書

- 1 教 科 [道 徳] 種 目 [道 徳]
- 2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観 点	観 点	発 行 者						
		東京書籍	教育出版	光村図書出版	日本文教出版	G a k k e n	あかつき教育図書	日本教科書
観 点 1	道徳科の学び方の示し方	○ 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年巻頭に、1年間で学ぶことを4つの視点及び内容項目ごとに一覧で示している。また、「道徳科とは」で道徳科の目的を、「道徳科の授業はこんな時間」で授業の流れを3段階に分けて説明し、教科書の使い方を記載している。	○ 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年巻頭に「さあ、道徳を始めよう！」という題で道徳の目標を示している。また、「どうやって学ぶの？」で、道徳の授業の流れを5段階に分けて説明し、話し合いのポイントをイラストとともに掲載している。	○ 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年の巻頭「本書で学ぶ皆さんへ」で、教材を通して考えを深めるためのてびきを示している。また、「道徳の学習を始めよう」で、留意すべきポイントや1年間に学ぶ内容について、イラストを交えて示している。	○ 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年巻頭の「道徳科での学びを始めよう！」で目的と学び方が漫画形式で説明されている。また、学習の流れを3つのステップで示すとともに、「みんなで話し合うときに大切なこと」のポイントを示している。さらに、「ミニ教材で考えてみよう」で、道徳の時間の進め方を漫画で示している。 ○ 別冊「道徳ノート」の巻頭に、「ノートの使い方」を説明するコーナーを設けている。	○ 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年の巻頭の、「道徳科で学ぶこと・考えること」で、道徳科で考える方法を説明している。また、「考えを深める4つのステップ」では、道徳の授業の流れを4段階に分けて示している。	○ 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年巻頭の「道徳の時間は『自分を見つめ、考え、生きる』時間」で、道徳の授業で考える方法について、大きく3つに分けて示している。	○ 道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年巻頭の「さまざまなテーマから考えを深めよう」では、8つのテーマで教材を示している。また、「クラスのみんなと『道徳授業』を創り出そう」において、道徳の授業について、授業の進め方を示している。
	主題名等の示し方	○ 各学年の目次で、4つの視点をマークや色分けで示している。また、各学年の巻頭「一年間で学ぶこと」で、色とマークを分けて、4つの視点・22の内容項目とともに教材名を示している。 ○ 各学年、各教材の冒頭の教材名の右上に、文字とマークで学習のテーマを示している。 ○ 各学年の巻末「教材一覧表」で、内容項目と教材名、学習のテーマを示している。また「テーマで振り返ろう」で、6つのテーマに分けた教材名を示している。	○ 各学年の巻頭「この教科書で学べるテーマ」で、7つのテーマに分けて示している。また、各学年とも目次で、4つの視点をマークや色分けで示している。 ○ 各学年巻末にある「内容項目別教材一覧表」で、視点・内容項目・教材名を、一覧にして示している。また、「一年間の道徳科で学んだこと」で、4つの視点毎に教材名と項目名を示している。	○ 各学年の目次で、4つの視点を表すマークの説明がある。また、各学年の巻頭で、22の内容項目を4つの視点に分類して、すべてイラストで示している。 ○ 各学年教材名の右側に、内容項目と4つの視点を、マークや色で示している。 ○ 各学年巻末の付録にある「教材別テーマ一覧」で教材名・4つの視点を示すマークと内容項目を、一覧にして示している。	○ 各学年の目次で、生徒に考え合わせたい内容として5つのテーマを設定し、それぞれのテーマをマークを付してマークで示すとともに、多様な視点から学べるように、テーマを基に複数のユニットを設定して示している。 ○ 各学年教材名の右側に、4つの視点を示すマーク及び学びのキーワードを示している。 ○ 各学年の裏見返し及び別冊「道徳ノート」の裏見返し「内容項目別教材一覧」で、内容項目と教材名を及び、学びのキーワード等を示している。	○ 各学年の巻頭「さまざまなテーマで学ぼう」で、それぞれのテーマをマークを付して示している。また、「よりよく生きるための22の鍵」という項目で、それぞれの単元の内容項目や主題を示している。 ○ 各学年、各教材の冒頭で、4つの視点及び、そのテーマに当てはまるマークを示している。 ○ 各学年の裏見返し「教材と主題名、デジタルコンテンツ」で、内容項目と教材名と主題を示している。	○ 各学年巻頭の、『「道徳科の時間」』は、22のキーワードで学ぶ」という項目で、これから学習する内容項目を示している。また、「いろいろなテーマから学ぶ」で、10のテーマを示している。 ○ 各学年、各教材の冒頭に4つの視点をマークで示している。 ○ 各学年の巻末「内容項目一覧」で、内容項目と教材名を示している。	○ 各学年の目次で、色を分けて、4つの視点とともに教材名を示している。 ○ 各学年、各教材の冒頭の教材名の上には内容項目を、マークで示している。

観点	視点	発行者					
		東京書籍	教育出版	光村図書出版	日本文教出版	G a k k e n	あかつき教育図書
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	③ 考え、議論するための工夫	○ 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直し、考えを深めることができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材を各学年に掲載し、「考えよう」、「見つめよう」、「ぐっと深める」等、話し合いを深める発問を示している。また、「Plus」のコーナーを各学年に設け、直前の教材に関する話し合いの具体的な流れを示すとともに、自分の考えを記入する欄を設けている。 ○ 各学年に巻末付録として、葛藤教材等で自分の気持ちを表現する際に使用することができる「心情円」を掲載している。	○ 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直すことができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材を各学年に掲載し、「ひろば」のコーナーにおいて、考え話し合うことを促す発問を示すとともに、自分の考えを記入する欄を複数設けている。	○ 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直すことができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材の「考えよう」のコーナーにおいて、話し合いを促す発問を示すとともに、自分の考えを記入する欄等を設けている。また、「まなびをプラス」では、教材を読んで考えたことを、次時で活動とおして深めることができるように設定している。	○ 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直すことができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材を各学年に掲載し、考え話し合うことを促す発問を示している。また、1教材1ページで構成した別冊「道徳ノート」では、考えることや考えたことを記入する欄、他者の考えや話し合いをメモすることができる自由欄を設けている。さらに、様々な教材に対応できるよう、教材名や内容項目、主題名等を空白にした自由に使えるページを設けている。 ○ 各学年、「学びを深めよう」の「学びを深めるヒント」のコーナーに、図や表、付箋や思考ツール等を活用し、話し合いを深める方法を掲載している。	○ 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直すことができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材の終わりの「深めよう」のページに、話し合いを促す発問を示すとともに、自分の考えを記入する欄を設けている。	○ 多面的・多角的な視点で、自分の価値観を見つめ直すことができるように、問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材を各学年に掲載している。また、各視点に関わる四コマ漫画の扉を配置した、課題について話し合うためのページを設けている。 ○ 各学年、巻末付録として、授業のテーマに合わせて選択できる26枚のウェルビーイングカードを掲載している。
	観点3 主体的に学習に取り組む工夫	○ 問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材の終わりに「考えよう」、「見つめよう」のコーナーを設け、発問を示している。また、自分の考えを記入する欄を複数設けている。 ○ 「ぐっと深める」のコーナーでは、「考えよう」を深める設問か、「見つめよう」を深める設問を設けている。	○ 問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材の終わりの「学びの道しるべ」のコーナーに、3つの発問（「教材をもとに道徳的価値について問題意識をもつ問い」、「自分ごととして、多面的・多角的に考える問い」、「自己を振り返り考えを深める問い」）を示している。	○ 問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、教材の終わりに「考えよう」のコーナーを設け、発問を示している。また、「考えよう」に示す発問とは別の立場や視点から、考えることができるような発問を「見方を変えて」のコーナーに設けている。 ○ 各学年に1つある「問いを立てよう」や「やってみよう今日の『哲学』」の教材では、答えのない問いや、自ら立てた問いに対して、考えを深められるページを設けている。	○ 問題解決的な学習に適した教材を各学年に複数掲載し、各教材の終わりに「考えてみよう」のコーナーを設け、発問を示すとともに、自分の考えを記入するページを別冊「道徳ノート」に設けている。また、学習を深めることができるように、教材の終わりに「学びを深めよう」のページを設けている。 ○ 「学びを深めよう」のページでは、教材名の下に、話し合いを通して何について考えるのかを示している。また、教材に関連した資料や話し合いを深める方法を「学びを深めるヒント」のコーナーに掲載している。	○ 問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材の終わりに「考えよう」のコーナーがあり、発問を示している。	○ 問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、教材の終わりに「自分を見つめて考える」、「考えを深める」コーナーを設け、発問を示している。

観点	視点	発行者						
		東京書籍	教育出版	光村図書出版	日本文教出版	G a k k e n	あかつき教育図書	日本教科書
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫	○ 体験的な学習を促す教材を、各学年に掲載し、直前の教材に関連した学習「Plus」のコーナーに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を複数、自分の考えを記入する欄とともに設定している。	○ 体験的な学習を促す教材を各学年に掲載し、教材に続く「やってみよう」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、自分の考えを記入する欄とともに設定している。	○ 体験的な学習を促す教材を、各学年に掲載し、教材に続く「チャレンジ」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、イラストや吹き出しとともに示し、自分の考えを記入する欄を設定している。	○ 体験的な学習を促す教材を、各学年に掲載し、教材に続く「学びを深めよう」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、写真やイラスト等とともに示しており、別冊「道徳ノート」に自分の考えを記入するページを設けている。 ○ 各学年、「学びを深めよう」のページでは、教材名の下に、どのような体験を通して何を考えるのか示している。また、教材に関連した資料や演技を見るときと意見発表のときのポイント等を示した、「学びを深めるヒント」のコーナーを設けている。	○ 体験的な学習を促す教材を、各学年に掲載し、教材の終わりに続く「深めよう」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、自分の考えを記入する欄とともに設定している。	○ 体験的な学習を促す教材を、各学年、複数掲載し、教材の終わりに続く「MY PLUS」のコーナーに、発問や教材の一場面について、複数の立場から考えを深める活動を設定している。	○ 体験的な学習を促す教材を、各学年、複数掲載し、教材の終わりの「考えよう」、「深めよう」のコーナー等に、発問を示している。
		【体験的な学習の例】 「一冊のノート」 (第2学年) C 家族愛、家庭生活の充実 ① 役を決めましょう。 ② 物忘れをする場面でおばあちゃんが途方にくれている場面を、「ぼく」、「弟」が責める場面を演じましょう。 ③ どのような気持ちになったか書きましょう。 ④ 続きを読み、おばあちゃんのどのような気持ちが伝わってきたか、書きましょう。 ⑤ 草取りしている「おばあちゃん」、「ぼく」、見ている「弟」を演じましょう。 ⑥ 役を交替しながら、全ての役を演じましょう。「ぼく」はどのような言葉をかけたか、それを聞いて、「おばあちゃん」はどのような気持ちになったか書きましょう。 ⑦ 今日の授業をふり返って、気づいたこと、感じたことを書きましょう。	【体験的な学習の例】 「地下鉄で」 (第2学年) B 思いやり、感謝 ① 「地下鉄で」を参考にしながら、次の場面を演じてみましょう。 ＜乗り物の中で＞ ・ 大きな荷物を持っている人に席を譲るとき、どのように声をかけますか。 ・ お年寄りに席を譲るとき、どのように声をかけますか。 ＜朝、会う人に＞ ・ 道の掃き掃除をしている隣のおじいさんに、どのように挨拶しますか。 ・ 一緒に登校するために玄関先で待っている友達に、どのように挨拶しますか。 ② 演じてみて、どう感じましたか。思いや感謝を形にするには、何が必要でしょう。	【体験的な学習の例】 「ジコチュウ」 (第2学年) B 相互理解、寛容 ① 「私」と佐々木君になって、翌日、「私」が佐々木君に声をかけている場面を演じてみよう。 ② 演じているのを見ていた人は、どんなことを感じたか発表しよう。 ③ 演じた人は、演じていたときに、どんな気持ちになったかを発表しよう。	【体験的な学習の例】 「他人の靴を履いてみる」 (第2学年) B 相互理解、寛容 ① ここでいう「靴」とは、なんのことだろう。 ② <体験してみよう> ・ スバルとダンは自分の意見を言った後、どんなふうに言えばよかったのだろう。 ・ スバルとダンになって考えてみよう。 ③ <考えてみよう> ・ 「他人の靴を履く」ことは難しいにもかかわらず、それが大切なのはどうしてだろう。 ・ 体験したことを基に話し合おう。 ④ <自分に+1(プラスワン)> ・ ほかの人の立場に立つときに、大切なのはどんなことだろう。	【体験的な学習の例】 「キャッチボール」 (第2学年) C 遵法精神、公德心 ・ 駐車場でキャッチボールをする明夫について、どう思いますか。 <やってみよう> ・ 明夫の父がワゴン車の運転手に文句を言った場面を再現し、お互いの考えをもっと膨らませましょう。 ① 役を決める。 ② 明夫の父とワゴン車の運転手のやりとりをその場で自由に表現する。それを聞いて明夫がどうつぶやくか考えて言ってみよう。 ③ 役を演じたり見たりしながら、考えたことを話し合おう。 <振り返ろう> ・ 駐車場でのお出来事から気付いたことを書こう。	【体験的な学習の例】 「いつでも・どこでも・SNS」 (第2学年) B 礼儀 ① 「私」と遥、それぞれの立場に立って、気づいたことを話し合おう。 ・ 「私」は、どんなことを感じながらスマートフォンを操作していたのだろう。 ・ 「私」のふるまいを見ていた遥は、どのようなことを感じていたのだろう。 ② SNSに投稿したい「私」は、どのようにふるまえば二人でおいしい料理を楽しむことができたのだろう。 ③ お互いが気持ちよく過ごすためには、どのようなことが大切なのだろう。	【体験的な学習の例】 「『用具係』、動くか」 (第2学年) C 社会参画、公共の精神 ① 考えよう 「あのさ」、の後に続く言葉を考えましょう。 ② 深めよう 一つのことをみんなで成功させるためには、どのようなことが大切でしょう。

観点	視点	発行者						
		東京書籍	教育出版	光村図書出版	日本文教出版	G a k k e n	あかつき教育図書	日本教科書
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	⑥ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫	○ 一つのテーマについて、多面的・多角的に考えることができるよう、各学年、3つの教材で構成した、2つのユニットを設けている。	○ 一つのテーマについて、多面的・多角的に考えることができるよう、各学年、2つの教材で構成した、3つのユニットを設けている。	○ 一つのテーマについて、多面的・多角的に考えることができるよう、各学年、複数の教材で構成した、9つのユニットを設けている。	○ 一つのテーマについて、多面的・多角的に考えることができるよう、各学年、複数の教材やコラムで構成した、2つのユニットを設けている。	○ 一つのテーマについて、多面的・多角的に考えることができるよう、各学年、複数の教材やコラム「クローズアップ」で構成した、3つのユニットを設けている。	○ 一つのテーマについて、多面的・多角的に考えることができるよう、各学年、複数の教材やコラム「Thinking」で構成した、3～4つのユニットを設けている。	○ 一つのテーマについて、多面的・多角的に考えることができるよう、各学年、複数の教材で構成した、8つのユニットを設けている。
		○ 学習の過程で思ったことや考えたことを記入できるよう、各学年、各教材に「つぶやき」という欄を設けている。			○ 学習の過程で思ったことや考えたこと、話し合いでの友達の意見を記入できるよう、各学年、各教材の別冊「道徳ノート」に自由欄を設けている。	○ 学習した過程で思ったことや考えたことを記入できるよう、各学年、各教材に「メモ」という欄を設けている。		○ 学習した過程で思ったことや考えたことを記入できるよう、各学年、複数の教材に「memo」という欄を設けている。
		○ 学習したことを自己の生き方につなげられるよう、各学年、各教材の終わりに「考えよう」や、「見つめよう」の発問を示している。	○ 学習したことを自己の生き方につなげられるよう、各学年、各教材の終わりに「学びの道しるべ」に発問を示している。	○ 学習したことを自己の生き方につなげられるよう、各学年、各教材の終わりに「考えよう」に発問を示している。	○ 学習したことを自己の生き方につなげられるよう、各学年、各教材の終わりの「考えよう」や「自分に+1(プラスワン)」に発問を示している。	○ 学習したことを自己の生き方につなげられるよう、各学年、各教材の終わりに「考えよう」に発問を示している。	○ 学習したことを自己の生き方につなげられるよう、各学年、各教材の終わりに「自分を見つめて考える」、「考えを深める」に発問を示している。	○ 学習したことを自己の生き方につなげられるよう、各学年、各教材の終わりの「考えよう」や「深めよう」に、発問を示している。
		【発問の具体例】 「二通の手紙」 (第3学年) C 遵法精神、公德心 ＜考えよう＞ ・元さんは二通の手紙を机の上に並べて、どのようなことを考えていたのだろう。 ＜見つめよう＞ ・社会の中で規則や決まりを守ることが大切なのは、どうしてだろう。	【発問の具体例】 「二通の手紙」 (第3学年) C 遵法精神、公德心 ＜学びの道しるべ＞ ・元さんが晴れ晴れとした顔で身のまわりを片づけ、職場を去っていったのはなぜだろう。 ・姉弟を入園させた元さんの判断を、あなたは思うだろうか。 ・きまりや法は、なんのためにあるのだろう。	【発問の具体例】 「二通の手紙」(付録) (第3学年) C 遵法精神、公德心 ＜考えよう＞ ・元さんが、規則を知っているながら姉弟を動物園の中に入れたのは、どんな思いかだろう。 ・元さんが、「この年になって初めて考えさせられ」たのは、どんなことだったのだろう。	【発問の具体例】 「二通の手紙」 (第3学年) C 遵法精神、公德心 ＜考えよう＞ ・二通の手紙を見比べた元さんが、この年になって初めて考えさせられたことは何だろう。 ・このことから、どのようなことを自分に+1＞ ・法やきまりの意義とは何か、考えたことをまとめてみよう。	【発問の具体例】 「二通の手紙」 (第3学年) C 遵法精神、公德心 ＜考えよう＞ ・二通の手紙に、元さんが考えさせられたことは何だろうか。 ・この話から、どのようなことを自分に生かせるだろうか。	【発問の具体例】 「二通の手紙」 (第3学年) C 遵法精神、公德心 ＜自分を見つめて考える＞ ・元さんが「この年になって初めて考えさせられること」とは、どのようなことだろう。 ＜考えを深める＞ ・動物園の規則はなんのために定められているのだろう。できるだけたくさんの考えをあげてみよう。	【発問の具体例】 「二通の手紙」 (第2学年) C 遵法精神、公德心 ＜考えよう＞ ・なぜ元さんは潔く職場を去ったのだろうか。 ＜深めよう＞ ・きまりを守ることについて、お互いに考えを出し合ってみましょう。
		○ 学習した内容を広げることができるよう、各学年、「plus」というコラムを設けている。	○ 学習した内容を広げることができるよう、各学年、特集ページ「ひろば」を設けている。	○ 学習した内容を広げることができるよう、各学年、2～3つのテーマ(環境・防災・人権)の「コラム」を設けている。	○ 学習した内容を広げることができるよう、各学年、2種類のコラム「あすへのメッセージ」、「視野を広げて」を設けている。	○ 学習した内容を広げることができるよう、各学年、生き方の選択肢を増やすためのコラム「クローズアップ」を設け、関連情報を掲載している。	○ 学習した内容を広げることができるよう、各学年、「Thinking」という特集ページを設け、関連した資料を掲載している。	
		○ 自分の成長を感じることができるよう、各学年、年度始めの自分の気持ちと、学年の終わりの心に残っている教材や、自分の気持ちを記入する欄を設けている。	○ 自分の成長を感じることができるよう、各学年、「この教科書で学べるテーマ」を示し、「道徳科の学びをもとに考えよう」や「学びを振り返ろう」に、学期・学年終わりの自分の気持ちを記入する欄を設けている。	○ 自分の成長を感じることができるよう、各学年「まなびの記録」に、年度始めや学年終わりの自分の気持ちや、心に残ったことやその理由を記入する欄を設け、一覧できるようにしている。	○ 自分の成長を感じることができるよう、各学年、別冊「道徳ノート」の巻末「道徳科で学んだことを振り返ってみよう」に、学期ごとに心に残っている授業や、その理由、「これまで道徳科で学んだことを振り返って考えたこと」を記入する欄を設けている。	○ 自分の成長を感じることができるよう、各学年、「学びのメモ」に日々の授業の気づきを、「学びの記録」に学期ごとの自分の気持ちを、「未来への扉」に学年終わりの自分の気持ちを記入する欄を設けている。	○ 自分の成長を感じることができるよう、各学年、「学習の記録」に学期ごとの自分の気持ちを、「1年間の学習の記録」に学年終わりの自分の気持ちやこれからの自分に生かしていきたいこと等を記入する欄を設けている。	

観点	視点	発行者																																																																																																																																																																												
		東京書籍	教育出版	光村図書出版	日本文教出版	Gakken	あかつき教育図書	日本教科書																																																																																																																																																																						
観点4 内容の構成・配列・分量	⑦ 取り扱う内容項目の重点化の傾向	○ 総ページ数 第1学年:202ページ 第2学年:210ページ 第3学年:210ページ	○ 総ページ数 第1学年:210ページ 第2学年:202ページ 第3学年:202ページ	○ 総ページ数 第1学年:192ページ 第2学年:200ページ 第3学年:200ページ	○ 総ページ数 第1学年:178(42)ページ 第2学年:186(42)ページ 第3学年:194(42)ページ	○ 総ページ数 第1学年:190ページ 第2学年:194ページ 第3学年:198ページ	○ 総ページ数 第1学年:194ページ 第2学年:194ページ 第3学年:194ページ	○ 総ページ数 第1学年:164ページ 第2学年:168ページ 第3学年:172ページ																																																																																																																																																																						
		○ 重量 第1学年:約378g 第2学年:約391g 第3学年:約390g	○ 重量 第1学年:約376g 第2学年:約362g 第3学年:約361g	○ 重量 第1学年:約345g 第2学年:約357g 第3学年:約358g	○ 重量 第1学年:約296g(約86g) 第2学年:約311g(約85g) 第3学年:約320g(約86g) ※別冊は()に示している。	○ 重量 第1学年:約361g 第2学年:約369g 第3学年:約375g	○ 重量 第1学年:約325g 第2学年:約323g 第3学年:約322g	○ 重量 第1学年:約323g 第2学年:約330g 第3学年:約336g																																																																																																																																																																						
		○ 判型 AB判	○ 判型 B5判	○ 判型 B5判	○ 判型 B5判	○ 判型 AB判	○ 判型 B5判	○ 判型 AB判																																																																																																																																																																						
		○ 各内容項目の数	○ 各内容項目の数	○ 各内容項目の数	○ 各内容項目の数	○ 各内容項目の数	○ 各内容項目の数	○ 各内容項目の数																																																																																																																																																																						
		<table><tr><th>学年</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>計</th></tr><tr><td>1</td><td>7</td><td>7</td><td>14</td><td>7</td><td>35</td></tr><tr><td>2</td><td>7</td><td>7</td><td>14</td><td>7</td><td>35</td></tr><tr><td>3</td><td>7</td><td>7</td><td>14</td><td>7</td><td>35</td></tr></table>	学年	A	B	C	D	計	1	7	7	14	7	35	2	7	7	14	7	35	3	7	7	14	7	35	<table><tr><th>学年</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>計</th></tr><tr><td>1</td><td>8</td><td>8</td><td>12</td><td>7</td><td>35</td></tr><tr><td>2</td><td>8</td><td>7</td><td>14</td><td>6</td><td>35</td></tr><tr><td>3</td><td>7</td><td>6</td><td>13</td><td>9</td><td>35</td></tr></table>	学年	A	B	C	D	計	1	8	8	12	7	35	2	8	7	14	6	35	3	7	6	13	9	35	<table><tr><th>学年</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>計</th></tr><tr><td>1</td><td>7</td><td>7</td><td>13</td><td>8</td><td>35</td></tr><tr><td>2</td><td>7</td><td>8</td><td>13</td><td>7</td><td>35</td></tr><tr><td>3</td><td>10</td><td>6</td><td>12</td><td>7</td><td>35</td></tr></table>	学年	A	B	C	D	計	1	7	7	13	8	35	2	7	8	13	7	35	3	10	6	12	7	35	<table><tr><th>学年</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>計</th></tr><tr><td>1</td><td>7</td><td>7</td><td>14</td><td>7</td><td>35</td></tr><tr><td>2</td><td>6</td><td>7</td><td>14</td><td>8</td><td>35</td></tr><tr><td>3</td><td>7</td><td>6</td><td>15</td><td>7</td><td>35</td></tr></table>	学年	A	B	C	D	計	1	7	7	14	7	35	2	6	7	14	8	35	3	7	6	15	7	35	<table><tr><th>学年</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>計</th></tr><tr><td>1</td><td>8</td><td>7</td><td>13</td><td>7</td><td>35</td></tr><tr><td>2</td><td>8</td><td>7</td><td>12</td><td>8</td><td>35</td></tr><tr><td>3</td><td>8</td><td>7</td><td>13</td><td>7</td><td>35</td></tr></table>	学年	A	B	C	D	計	1	8	7	13	7	35	2	8	7	12	8	35	3	8	7	13	7	35	<table><tr><th>学年</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>計</th></tr><tr><td>1</td><td>8</td><td>7</td><td>12</td><td>8</td><td>35</td></tr><tr><td>2</td><td>8</td><td>7</td><td>12</td><td>8</td><td>35</td></tr><tr><td>3</td><td>8</td><td>7</td><td>12</td><td>8</td><td>35</td></tr></table>	学年	A	B	C	D	計	1	8	7	12	8	35	2	8	7	12	8	35	3	8	7	12	8	35	<table><tr><th>学年</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>計</th></tr><tr><td>1</td><td>8</td><td>7</td><td>13</td><td>6</td><td>34</td></tr><tr><td>2</td><td>7</td><td>6</td><td>15</td><td>6</td><td>34</td></tr><tr><td>3</td><td>9</td><td>7</td><td>14</td><td>4</td><td>34</td></tr></table>	学年	A	B	C	D	計	1	8	7	13	6	34	2	7	6	15	6	34	3	9	7	14
学年	A	B	C	D	計																																																																																																																																																																									
1	7	7	14	7	35																																																																																																																																																																									
2	7	7	14	7	35																																																																																																																																																																									
3	7	7	14	7	35																																																																																																																																																																									
学年	A	B	C	D	計																																																																																																																																																																									
1	8	8	12	7	35																																																																																																																																																																									
2	8	7	14	6	35																																																																																																																																																																									
3	7	6	13	9	35																																																																																																																																																																									
学年	A	B	C	D	計																																																																																																																																																																									
1	7	7	13	8	35																																																																																																																																																																									
2	7	8	13	7	35																																																																																																																																																																									
3	10	6	12	7	35																																																																																																																																																																									
学年	A	B	C	D	計																																																																																																																																																																									
1	7	7	14	7	35																																																																																																																																																																									
2	6	7	14	8	35																																																																																																																																																																									
3	7	6	15	7	35																																																																																																																																																																									
学年	A	B	C	D	計																																																																																																																																																																									
1	8	7	13	7	35																																																																																																																																																																									
2	8	7	12	8	35																																																																																																																																																																									
3	8	7	13	7	35																																																																																																																																																																									
学年	A	B	C	D	計																																																																																																																																																																									
1	8	7	12	8	35																																																																																																																																																																									
2	8	7	12	8	35																																																																																																																																																																									
3	8	7	12	8	35																																																																																																																																																																									
学年	A	B	C	D	計																																																																																																																																																																									
1	8	7	13	6	34																																																																																																																																																																									
2	7	6	15	6	34																																																																																																																																																																									
3	9	7	14	4	34																																																																																																																																																																									
A：主として自分自身に関すること/B：主として人との関わりに関すること/C：主として集団や社会との関わりに関すること/D:主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること（4）																																																																																																																																																																														

観点	視点	発行者						
		東京書籍	教育出版	光村図書出版	日本文教出版	G a k k e n	あかつき教育図書	日本教科書
観点4 内容の構成・配列・分量	⑧ いじめの問題や、今日的、現代的な課題等を踏まえた内容の示し方	○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、「絵」、「物語・文章」、「漫画」を掲載している。また、いじめの構造の説明を取り扱うコラムを設けている。	○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、「会話文」形式の教材を掲載している。	○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、「物語」や「漫画」等の教材を掲載している。	○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、各学年とも、いじめ問題を直接的に扱った教材や、いじめ問題を間接的に扱った教材等、多様な教材を複数掲載している。	○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、「いのちの教育」を土台とし、「多様性」と「いじめ防止」の教材を連携させる教材を複数掲載している。	○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、「物語」を掲載している。また、コラムとしていじめの説明やいじめの構造をイラストを用いて解説するページを設けている。	○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、「意見文」、「物語」、「4コマ漫画」等を掲載している。特に「いじめ問題と向き合う」では、質問形式でなぜいじめはなくなるのかを考えさせるページを設けている。
		○ 各学年とも、「いじめのない世界へ」というユニットを設け、いじめ問題を直接的に考える教材をユニット化して設定している。	○ 2つの教材とコラムで構成されたユニット「いじめをなくそう」を設定し、目次及び該当ページの上に紫色の枠で示している。	○ 各学年3つの教材やコラムで構成したユニット「いじめを許さない心について考える」を設定し、目次に緑色の線で示している。	○ 各学年とも「いじめと向き合う」というテーマで、各教材と「視野を広げて」というコラムをユニット化し、扉ページを設け、いじめに対するメッセージを投げかけたのち、次のページから教材が始まる。また、年間で複数学習できるよう、各学年2つ以上のユニットを設定している。	○ 内容項目「生命の尊さ」を各学年とも複数掲載し、多様性とともにいじめを生まない社会づくりについて考えるように、それぞれ教材名の右下に「いじめ防止」のマークを付して示している。	○ 各学年とも、「いじめ」のカテゴリの扉ページを設け、「どうしていじめが起きるのでしょうか」と、いじめ問題にスポットを当てて意識したいことをメッセージで示している。	○ 巻頭に「いじめ・人権」というテーマとともに、いじめ問題について示している。また、「いじめ」のみにスポットを当てず、人権とともに考えるよう示している。
		○ 今日的、現代的な課題として「防災・安全」、「多様性(ダイバーシティ)」、「伝統・文化」、「情報モラル」を題材にした教材を目次や、巻末の教材一覧表で示している。また、付録ではSDGsについて関連して考えられる教材を掲載している。	○ 全学年に、いじめと向き合うためのコラムや特集ページが設けられている。コラムには伝え方について考えるものや、いじめの構造を示して誰がいじめを止めるのかといったことに触れている。	○ 「まなびをプラス」で、前の時間に教材を読んで考えたことを、話し合い活動とおおして深めたり、違う角度から迫ったりすることで、実感を持った学びにつながるよう示している。	○ 全学年にいじめと向き合うためのコラムや、特集ページが設けられており、より内容を深められるように、「お互いを大切にするコミュニケーション」、「いじめのない社会へ」といった、いじめについて考え合うための資料を掲載している。	○ 第1学年では、いじめ問題と向き合い、話し合うためのコラムや、いろいろな視点から考えを深めるための資料を掲載している、「MY PLUS」や「Thinking」というページを設けている。		
		○ 今日的、現代的な課題として「防災教育」、「情報モラル」を題材にした教材を、巻末の「この教科書が目指した姿」で示している。「人権」を扱う教材については、「持続可能な開発目標との関わり」をマークを付して示している。	○ 今日的、現代的な課題として「防災」、「情報モラル」を題材にした教材を、巻末の「この教科書が目指した姿」で示している。「人権」を扱う教材については、「持続可能な開発目標との関わり」をマークを付して示している。	○ 今日的、現代的な課題として「情報社会」、「自立と共生」、「環境と未来」、「安全な生活」を題材にした教材を、巻末の教材一覧で示している。個々や社会の幸せを目指すウェルビーイングを念頭にユニット化している。また、巻末でSDGsについて掲載している。	○ 各学年とも、巻頭の目次に「情報モラル」に関わる教材にマークを示している。また、SDGs・多様性・キャリアといったユニット教材を掲載することで、現代的な課題を多面的に考えることができるよう示している。	○ 今日的、現代的な課題として「情報モラル」、「キャリア」のユニットを構成し、目次に色枠で示している。また、巻末付録にSDGsに関する教材を掲載している。	○ 今日的、現代的な課題として「情報」、「国際」、「キャリア形成」、「環境」、「SDGs」等をテーマとしてまとめて示している。	

観点	視点	発行者						
		東京書籍	教育出版	光村図書出版	日本文教出版	G a k k e n	あかつき教育図書	日本教科書
観点5 内容の表現・表記	⑨ 関連他の教科しと方の	○ 各学年、巻末の「教材一覧表」の「他教科等との関連」に、関連する教科名を示している。	○ 各学年、巻末の「内容項目別教材一覧表」の「他教科等との関連」に関連する教科名を示している。	○ 各学年、巻末の「この教科書が目指した1(2、3)年生の姿」の「他教科・領域との関わり」に、関連する教科名を示している。	○ 各学年、巻末の「1(2、3)年内容項目別教材一覧」の「教科等との関連」に、関連する教科名を示している。		○ 各学年、巻末の「内容一覧1(2、3)年」の「現代的な課題等との関わり 他教科・領域との関わり」に、関連する教科名を示している。	
	⑩ イラストの内容と適切なウェブコンテンツがな等さのれしたし方	○ 挿絵のある教材 第1学年イラストや写真:261 (内漫画:3) 第2学年イラストや写真:254 (内漫画:4) 第3学年イラストや写真:216 (内漫画:2) ○ 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。 第1学年:35/35+10、第2学年:35/35+10、第3学年:35/35+12 ※ 35教材中(+はコラム等) ○ デジタルコンテンツには、朗読音声・ワークシート・デジタル心楕円・VR映像・ウェブサイトのリンク等がまとめられている。	○ 挿絵のある教材 第1学年イラストや写真:183 (内漫画:2) 第2学年イラストや写真:132 (内漫画:2) 第3学年イラストや写真:152 (内漫画:5) ○ 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。 第1学年:35/35+3、第2学年:35/35+4、第3学年:35/35+2 ※ 35教材中(+はコラム等) ○ 「まなびリンク」は、教材解説・補足資料(動画・ウェブサイトのリンク等)がまとめられている。	○ 挿絵のある教材 第1学年イラストや写真:256 (内漫画:7) 第2学年イラストや写真:261 (内漫画:5) 第3学年イラストや写真:230 (内漫画:3) ○ 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。 第1学年:25/35+3、第2学年:21/35+3、第3学年:20/35+4 ※ 35教材中(+はコラム等) ○ デジタルコンテンツには、朗読音声・資料・写真・動画等がまとめられている。	○ 挿絵のある教材 第1学年イラストや写真:256 (内漫画:5) 第2学年イラストや写真:262 (内漫画:2) 第3学年イラストや写真:274 (内漫画:1) ○ 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。 第1学年:35/35+10、第2学年:35/35+10、第3学年:35/35+10 ※ 35教材中(+はコラム等) ○ デジタルコンテンツには、朗読音声・ワークシート・動画・参考資料・心情メーター・シンキングツール等がまとめられている。	○ 挿絵のある教材 第1学年イラストや写真:241 (内漫画:4) 第2学年イラストや写真:260 (内漫画:4) 第3学年イラストや写真:236 (内漫画:6) ○ 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。 第1学年:12/35+1、第2学年:9/35、第3学年:10/35 ※ 35教材中(+はコラム等) ○ デジタルコンテンツには、動画・写真・音声・関連サイト・ワークシート・年表等がまとめられている。	○ 挿絵のある教材 第1学年イラストや写真:184 (内漫画:4) 第2学年イラストや写真:146 (内漫画:1) 第3学年イラストや写真:168 (内漫画:2) ○ 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。 第1学年:6/35、第2学年:13/35、第3学年:15/35 ※ 35教材中(+はコラム等) ○ デジタルコンテンツには、動画・外部サイト等がまとめられている。	○ 挿絵のある教材 第1学年イラストや写真:106 (内漫画:5) 第2学年イラストや写真:93 (内漫画:8) 第3学年イラストや写真:108 (内漫画:6) ○ 各学年、ウェブコンテンツを設けている教材に二次元コードを付している。 第1学年:18/35、第2学年:20/35、第3学年:12/35 ※ 35教材中(+はコラム等) ○ デジタルコンテンツには、動画・画像・音声・外部リンク等がまとめられている。